

# 博士論文

計量文献学による『源氏物語』の成立に関する研究

文化情報学研究科 文化情報学専攻 博士課程後期課程

48121002

土山 玄

# 目次

第 1 部 序論.....	1
1. はじめに.....	1
2. データ.....	3
3. 分析方法.....	3
4. 計量文献学について.....	4
5. 計量文献学の嚆矢と展開.....	5
5.1 語の長さ.....	5
5.2 語の頻度.....	7
6. 日本語を対象とした研究事例.....	9
7. 『源氏物語』における研究事例.....	10
第 2 部 古典文に対する計量分析の有効性の検討.....	11
1. 問題の所在.....	10
2. 分析.....	12
2.1 品詞構成比率.....	12
2.2 語の頻度.....	15
2.3 語の長さ.....	19
3. 第 2 部の考察.....	26
第 3 部 擬作についての分析.....	28
1. 問題の所在.....	28
2. 分析.....	28
2.1 品詞構成比率.....	28
2.2 語の頻度.....	37
2.3 語の長さ.....	50
3. 第 3 部の考察.....	66
第 4 部 『源氏物語』における複数作者説の検討.....	68
1. 問題の所在.....	68
2. 『源氏物語』全 54 巻についての分析.....	68
2.1 品詞構成比率.....	68
2.2 語の頻度.....	70
2.3 語の長さ.....	74
3. 第 4 部の考察.....	79
第 5 部 『源氏物語』第三部についての分析.....	80
1. 問題の所在.....	80
2. 品詞構成比率.....	81
3. 語の頻度.....	85
4. 語の長さ.....	108
5. 第 5 部の考察.....	133
第 6 部 結論.....	135

参考文献.....	139
謝辞.....	142
付録.....	143
1. 延べ語数一覧.....	143
2. 異なり語数一覧.....	144
3. 『源氏物語』の語の頻度の分布.....	145
4. 『源氏物語』および『宇津保物語』の各品詞の比率.....	159
5. 『源氏物語』および『宇津保物語』における語の頻度についての主成分分析の結果..	165
6. 『源氏物語』と『宇津保物語』の語の長さの集計結果.....	183
7. 『源氏物語』と『山路の露』の各品詞の比率.....	188
8. 『源氏物語』と『雲隠六帖』の各品詞の比率.....	194
9. 『源氏物語』と『手枕』の各品詞の比率.....	200
10. 『源氏物語』と『山路の露』の語の頻度に対する主成分分析の因子負荷量.....	206
11. 『源氏物語』と『雲隠六帖』の語の頻度についての主成分分析の因子負荷量.....	214
12. 『源氏物語』と『手枕』の語の頻度についての主成分分析の因子負荷量.....	222
13. 『源氏物語』に対する主成分分析を用いた『山路の露』の主成分得点の予測.....	230
14. 『源氏物語』に対する主成分分析を用いた『雲隠六帖』の主成分得点の予測.....	231
15. 『源氏物語』に対する主成分分析を用いた『手枕』の主成分得点の予測.....	232
16. 『源氏物語』と『山路の露』の語の長さの集計結果.....	233
17. 『源氏物語』と『雲隠六帖』の語の長さの集計結果.....	238
18. 『源氏物語』と『手枕』の語の長さの集計結果.....	243
19. 『源氏物語』の語の長さの集計結果.....	248
20. 『源氏物語』と『宇津保物語』における特徴語.....	253
21. 『源氏物語』と『山路の露』における特徴語.....	262
22. 『源氏物語』と『雲隠六帖』における特徴語.....	270
23. 『源氏物語』と『手枕』における特徴語.....	278

# 第1部 序論

## 1. はじめに

本研究は計量文献学の方法を用いた『源氏物語』の成立過程に関する計量的な研究である。本研究では、統計的な手法を用いることで『源氏物語』本文の量的特徴および量的傾向を明らかにし、計量的な議論に耐えうる透明性の高い分析結果を示す。このような分析結果に基づき、まず『源氏物語』において論じられる複数作者説について、計量的な検討を加え、次いで『源氏物語』において論じられる成立過程に関して検討を加えることを目的とする。

『源氏物語』とは、平安時代に著され、各時代を通じてひろく読み継がれてきた古典作品であり、平安時代の著名な女流作家である紫式部が表した『紫式部日記』の記述から、紫式部の手により執筆されたと考えられる現存最古の長編物語の1つである。また、『源氏物語』の自筆原稿は散逸しており、現在においては写本によって受け継がれるのみである。

『源氏物語』は、光源氏を主人公とする全54巻からなる長編物語であるが、第42巻「匂宮」以降の13巻は光源氏没後の物語である。一般に、これら13巻は第三部と称されており[1]、他の41巻とは作者が異なるという他作者説、すなわち『源氏物語』における複数作者説が古くから提起されている。第三部のうち「匂宮」、第43巻「紅梅」、第44巻「竹河」の3巻は匂宮三帖、第45巻「橋姫」以降の10巻は宇治十帖と称され、匂宮三帖および宇治十帖のどちらにおいても、それぞれ複数作者説が提起されている。

まず、匂宮三帖については、「竹河」巻末の官位昇進に記述が宇治十帖と矛盾することや、これら3巻の文章の質が他の巻の文章の質と相違するとされる。このようなことから「匂宮」、「紅梅」、「竹河」の3巻は紫式部と親しい同時代の別人の作であるという説が論じられている[2]。

一方、宇治十帖については、古くは一条兼良(1402-1481)によって著された『花鳥余情』に、宇治十帖を除く諸巻が紫式部の作であり、宇治十帖は紫式部の娘である大弐三位の作であると記述されている。近代以降になると、宇治十帖の文の調子が他の諸巻と相違すること、宇治十帖の趣向が第41巻「幻」以前と重複することから、「幻」までを紫式部の作とし、『花鳥余情』と同様に、それ以降を大弐三位の作であると論じられている[3]。また、大野晋が著した『源氏物語』[4]によれば、宇治十帖の作者も紫式部であると想定した上で、それでもなお、宇治十帖の文体は語法などの点で他の巻と比べて相違すると論じている。

また、『源氏物語』の成立過程を考察する成立論においては、考察の対象が第一部の33巻に集中しており、『源氏物語』の成立過程に関する研究の著名な見解として、登場人物の出現状況の調査に基づく客観的なデータから、第一部には「紫上系」と称される17巻と「玉鬘系」と称

される 16 巻の 2 系統が内在しているという説が論じられている[5]。これは、初出が「紫上系」となる登場人物は「玉鬘系」においても登場するが、初出が「玉鬘系」である人物は「紫上系」に登場しないという指摘に基づいている。

また、第二部においても、「玉鬘系」の人物が登場するのは第 34 巻「若菜上」、第 35 巻「若菜下」、第 36 巻「柏木」の 3 巻のみであるという指摘[6]や、内容の考証に基づき第 38 巻「鈴虫」の後記説[7]および第 39 巻「夕霧」の後記説[8]が報告されている。

しかし、第三部においては、第 45 巻「橋姫」、第 49 巻「宿木」、第 53 巻「手習」の 3 巻の冒頭は共通して「そのころ」という発語によって開始されることから、第三部は構造上 4 つのブロックに分類されるという可能性が指摘[9]されているものの、第一部や第二部に比べ、成立過程に関する研究が十分に展開されているとは言えない。

このような現状を踏まえ、本研究では品詞構成比率・語の頻度・語の長さという文章の表現形式に関わる計数可能な要素を採り上げ、計量的な観点から統計手法を用い、第三部の 13 巻の成立過程について検討を加えることを目的とする。

また、詳細は後述するが、文章を分析する計量文献学では、主に現代文が研究対象となることから、計量文献学の手法が古典文に対して有効であることを検討する必要があると思われる。そこで本研究では、研究を進めるにあたり、以下に示す段階を踏み、分析を行った。

- (1) 作者が『源氏物語』と相違することが明らかである『宇津保物語』を比較対象として採り上げ、作者の識別に有効である分析項目を明らかにする。
- (2) 後世に成立した『山路の露』、『雲隠六帖』、『手枕』を分析対象に採り上げ、作者は異なるが『源氏物語』の擬作であると考えられる作品を対象とし、(1)と同様にストーリーに親近性が想定される場合においても、作者の識別に有効である分析項目を明らかにする。
- (3) 『源氏物語』において複数作者説が論じられている匂宮三帖および宇治十帖を採り上げ、これら 13 巻以外の諸巻と作者が同一である蓋然性が高いのか、あるいは作者が相違する蓋然性が高いのか検討を加える。
- (4) (3)において作者が相違すると考えられない場合、『源氏物語』における第三部の成立過程について、計量的な考察を行う。

これらの分析は、(1)が本論文における第 2 部、(2)が第 3 部、(3)が第 4 部、(4)が第 5 部に該当する。また、本研究における結論を簡単に述べると、『源氏物語』の匂宮三帖および宇治十帖において論じられる複数作者説については、これを支持する積極的な根拠は得られなかった。次に、『源氏物語』第 3 部に対する計量分析から、第 3 部の 13 巻は匂宮三帖・宇治十帖前半 5 巻・宇治十帖後半 5 巻という 3 つのグループに分類されると考えられる。すなわち、宇治十帖

には量的傾向が相違する2つのグループが存在すると言える。

## 2. データ

『源氏物語』の写本系統は青表紙本系、河内本系、別本と3系統に大別される。本研究では、青表紙本系の大島本を主な底本とする『源氏物語語彙用例総索引 自立語編』[10]および『源氏物語語彙用例総索引 付属語編』[11]を電子化したデータベースを分析に利用した。『源氏物語語彙用例総索引』は『源氏物語』の本文すべてについて、形態素解析を行ったものである。なお、形態素解析については、『源氏物語大成 索引篇』[12]の単語認定基準に準拠している。

次に、本研究において使用した『宇津保物語』のデータベースは尊経閣蔵前田家十三行本を底本とする『宇津保物語 全 改訂版』[13]の本文を『源氏物語大成 索引篇』[12]の単語認定基準に準拠し、単語分割されたものである。すなわち、本章において分析に使用する『源氏物語』および『宇津保物語』のデータベースは同一の基準によって単語認定がなされている。

最後に、擬作の資料は次の通りである。分析に使用した『山路の露』の本文は『日本古典全書源氏物語7』[14]に付されたものである。これは玖山九條植通(1507-1594)の自筆本を池田亀鑑が校定したものである。『日本古典全書 源氏物語7』によれば、植通自筆本の本文は「湖月抄」附録の『山路の露』の本文と比べ相違する箇所が多いとされる。しかし、その一方で、池田亀鑑によれば、『山路の露』の原形を伝えるかと思われる部分も多くあり、当時としては貴重な新資料であるとされる。次に、『雲隠六帖』は『源氏物語の研究』[15]に付されたものを底本とした。『源氏物語の研究』によれば、これは某家に所蔵される近世中期に書写された写本の本文を翻刻したものとされる。最後に、『手枕』のデータベースの底本とした文献は『本居宣長全集第15巻鈴屋文集下』[16]である。

分析において用いるテキストは、これら文献における各作品の本文を『宇津保物語』に対する分析と同様に、『源氏物語大成 索引篇』[12]の単語認定基準に準拠し、単語分割されたものである。すなわち、本研究において分析に使用する『源氏物語』および『宇津保物語』、擬作となる3作品のデータベースは同一の基準によって単語認定がなされている。

## 3. 分析方法

分析においては、相関係数行列に基づいた主成分分析を主に用いた。主成分分析とは、多次元データに対する次元縮約の手法であり、もとのデータの変数より新たに合成変数を求めることで、情報の縮約を行う。分析結果は、主成分分析によって求められた分析対象の第1主成分と第2主成分の主成分得点の散布図によって表現される。散布図においては第1主成分を横軸、

第 2 主成分を縦軸とし散布図を描いた。また、各主成分に含まれている情報量は寄与率によって評価され、本研究においては第 1 主成分および第 2 主成分の寄与率は散布図に併記した。

次に、本研究において採り上げた分析項目は先にふれたように品詞構成比率・語の頻度・語の長さである。品詞構成比率とは、分析対象となる文献における各品詞の占める割合である。次に、語の頻度とは各語の対象における出現頻度であり、語の長さは対象において出現する語の文字数を計数し、文字数毎に出現する語の頻度を集計したものである。

#### 4. 計量文献学について

文章を研究対象とする学問の 1 つに計量文献学があり、本研究も計量文献学の手法に基づく研究である。計量文献学とは、著者や成立時期が不詳である文献を研究対象とし、当該文献の著者や成立時期に計量的に検討を加える学問領域である。対象となる文献の文体的特徴を分析項目として採り上げ、統計的手法を用いるという点で、文献を対象とする他の分野と一線画している。

古典文学作品や歴史的な哲学書などには、著者や成立時期が不詳、あるいは議論の余地が残る作品が多い。このような文献の著者や成立時期を研究するとき、筆跡鑑定や紙やインク・墨汁に対して放射性炭素年代測定などの化学的な手法が用いられることもあるが、自筆原稿が散逸し写本によってのみ継承されている場合、必ずしも有効な手段になるとは限らない。オリジナル原稿が散逸している場合、記述内容の内部考証によって著者や成立時期についての考察が一般的であるが、計量文献学のように文章を構成する計量的な要素に注目し、これを統計的に分析することで、検討を加える立場もある。

計量文献学では、(1)文献の著者推定、(2)文献の真贋分析、(3)文献の成立年の推定、(4)文献の成立順序の推定を目的としている[17]。(1)および(2)は著者間、あるいは著作間における文章を構成する計量的な要素、すなわち文体的特徴の相違について、(3)および(4)は文体的特徴の経時的な変化について検討を加えることとなる。本研究は(1)と(4)に類する研究であると言える。

また、文体という語の定義は非常に広範であり、学問領域によって文体の定義は同一ではない。計量文献学においては、文体とは表現形式のみを意味し、記述内容は含意されることはない。したがって、上述の文体的特徴とは特徴的な表現形式、あるいは表現形式の特徴的な組み合わせを意味し、この頻度の多寡について統計手法を用いて分析することで著者や成立時期を考察することとなる。

計量文献学において文体を取り扱うこと背景には、文体に著者の個性が現れるという前提があり、これは経験的に首肯しうるものと考えられる。「文は人なり(Le style c'est l'homme)」という有名なフランスの箴言もまた、このことを指摘している。これは「ビュフォンの針」で

有名な 18 世紀フランスの自然学者 Georges Louis Leclerc, conde de Buffon(1707-1788)のアカデミー入会演説の「Le style c'est l'homme même」という一節に由来するという[18]。P.Guiraud(1912-1983)の『文体論』[19]によれば、この箴言は「文体が人間の本性そのものを表現している」と解釈され、読者は文体から著者に関する何かしらの情報、あるいは印象を受容すると理解される。

本研究における文体的特徴とは、文字や語の頻度、語や文(sentence)の長さの平均値などが該当する。これらは文献の記述内容ではなく表現形式に関わる要素であり、統計手法を用いることで、書き手の間に存在する文体の習慣的特徴の相違、あるいは書き手の文体的特徴の経時的な変化を指摘することが可能となる。

## 5. 計量文献学の嚆矢と展開

文体に対し、統計学の手法を用いてアプローチをするという点で、計量文献学は最近の学問のようにも思われるが、実のところ、計量文献学に関連した研究の歴史は長く、19 世紀にまでさかのぼる。以下において、本研究に関連する計量文献学の学史を概観する。

### 5.1 語の長さ

イギリスの数学者 Augustus De Morgan(1806-1871)は『新約聖書』の一書であり、伝統的にパウロ書簡とされる『ヘブライ人への手紙(Epistle to the Hebrews)』の著者が聖パウロであることを検討するために、語の長さの平均値を調査する方法を提案している[20]。それに加えて、De Morgan は"I should expect to find that one man writing on two different subjects agrees more nearly with himself than two different men writing on the same subject."(pp.216)と論じており、これに着想を得た地球物理学者の T.C.Mendehall が 1887 年に 19 世紀イギリスの著名な著述家である Charles Dickens(1812-1870)、William Makepeace Thackeray(1811-1863)、John Stuart Mill(1806-1873)の 3 人の著作を対象とし、語の長さの度数分布(word-length distribution)が著者ごとに相違することを明らかにした[21]。

分析において用いられた語の長さの分布は、金属工学において無機物質の組成を明らかにするスペクトル写真になぞらえてワードスペクトル(word spectrum)と称され、これにより作家の習慣的な文体的特徴をとらえうることを示した。この点において、Mendenhall(1887)[21]は文章を対象とし計量的な手法を用いた初期の研究として知られている。

次いで、1901 年に T.C.Mendehall は上述のワードスペクトルを用いてイギリスの劇作家である William Shakespeare(1564-1616)の詩劇について検討を加えた[22]。Shakespeare は非常

に有名な劇作家であるが、Shakespeare の著作について古くから多くの疑問が提起されており、その1つに Shakespeare は実在せず、哲学者である Francis Bacon(1561-1626)が圧政抗議の社会風刺のために、Shakespeare という架空の人物の名を借りて数々の詩劇を書いたとする説がある。これを検証するために、Shakespeare と Bacon の著作を対象に、語の長さの分布について分析を行った。分析の結果、Shakespeare は4文字の単語を最も多く使用し、Bacon は3文字の単語を最も多く使用しているという、文体的特徴の違いを明らかにし、Shakespeare と Bacon の同一人物説を否定した。

語の長さのみが文体を規定する要素ではないが、Dickens、Thackeray、Mill という当時を代表する文章家の文体的特徴の相違を、語の長さに注目して明確に区別し得たことは収穫であり、同様の手法を用いて Shakespeare と Bacon は同一人物ではないと結論づけたことは評価される<sup>1</sup>。T.C.Mendehall の Shakespeare の著作を対象とした計量的な研究は、国内において刊行された文献にも引用され、その影響の大きさがうかがえる。

また、単語の長さの度数分布に類似したものとして、1語に含まれる音節の度数分布(distribution of syllable numbers)を用いた文体分析(style analysis)があり、Fucks(1952)は音節の分布のエントロピーを用いることで、特定の作家の数量的な文体的特徴を示すことが可能であると論じられている[24]。

1861年に、Quintus Curtius Snodgrass と名乗る人物の投書によるアメリカの南北戦争を批判する10通の手紙(QCS Letters)がニューオリンズデイリークレセント誌に掲載された。このQCS Lettersの著者は『トム・ソーヤの冒険(The Adventures of Tom Sawyer)』の作者として知られる Mark Twain(1835-1910)であるという見解があり、1963年に、C.S.Brinegar が、文字数に基づく語の長さに対して、カイ二乗検定およびt検定を行い、この見解を否定した[25]。

O'Donnell(1966)は、『The O'Rudy』(1903)を対象としている。『The O'Rudy』は執筆中に作者である Stephen Crane (1871-1900) が死亡しており Robert Barr (1849-1912) によって書き継がれたとされるが、作者が交代した Chapter が不詳であった。そこで、語の長さの分布などの18項目について、2群判別分析を行っている[26]。分析の結果、Chapter 24までが Crane による執筆であり、Chapter 25で作者が交代し、Chapter 26から Chapter 33までが Barr による執筆であると結論づけている。『The O'Rudy』が有している問題は、本研究で検討する『源

---

<sup>1</sup> なお、Mendenhall(1901)[22]については、その分析方法に問題があることが Williams(1975)[23]において報告されている。その問題点とは分析対象となった文章のジャンルの相違である。これはすなわち、Shakespeare の文章は詩劇、つまり韻文(verse)であるの対し、Bacon の文章は散文(prose)である。そこで、Williams(1975)[23]では、16世紀のイギリスの詩人・政治家・軍人であり、散文および韻文のどちらも書き残している Philip Sidney(1554-1586)の著作を分析している。分析の結果、Sidney の散文は Bacon の散文と類似した分布を示し、反対に Sidney の韻文は Shakespeare の韻文と類似した分布を示したことが報告されている。したがって、Mendenhall(1901)[22]において示された単語の長さの分布の相違は、執筆者の相違ではなく、ジャンルの相違である可能性が指摘されている。

氏物語』の宇治十帖において論じられている複数作者説と類似していると言える。

Fucks(1952)[24]において、用いられた音節を単位とする語の長さの分布に基づいた研究としては Radday(1970)および Forsyth et al.(1999)が有名である。Radday(1970)では、旧約聖書の一書である『イザヤ書(Book of Isaiah)』について検討を加えている。『イザヤ書』は 66 章によって構成されるが、イザヤの真筆が確実にされるのは最初の 12 章までであり、その他は 2~4 人の予言者によって執筆されたと考えられている。そこで、音節および音素を単位とした語の長さの平均値、エントロピーなどについてカイ二乗検定を行うことで、イザヤが執筆するとみられる 12 章と類似した特徴を有する章と、別人の執筆である可能性が高い章を指摘している [27]。なお、Radday(1970)では校定された現行版の旧約聖書を分析に使用しており、写本間の相違については意図的に考慮していない。Forsyth et al.(1999)では、1583 年にベネチアにおいて Carlo Sigonio(1520-1584)の手によって発見された、古代ローマの哲学者である Marcus Tullius Cicero(マルクス・トゥッリウス・キケロ、106 B.C.-43 B.C.)の長期間にわたって散逸していた著書である『慰め(Consolatio)』が、Cicero のオリジナルであるのか、あるいは偽書であるのか検討するために判別分析を行った。分析の結果、Carlo Sigonio の偽作であることを明らかにした [28]。

このように、Morgan によって考案され、T.C.Mendenhall によって使用された語のが長さの分布は現在にいたるまで、著者の識別に有効な分析項目として、用いられている。

## 5.2 語の頻度

1867 年に L.Campbell は Plato(プラトン)の 30 余りある対話篇(Dialogue)の執筆年代を推定するために、語の出現頻度を用いて計量的な分析を行っている。

Plato の執筆時期は 50 年あるいは 60 年におよぶと考えられているが、『法律(Laws)』が Plato の最後の著作であることを Aristoteles(アリストテレス)が言及していることを除き、対話篇の執筆順序は不明であった。また、Plato は執筆期間に自らの見解に変化が認められる点が多々あり、Plato の哲学大系を理解するためには、著作の執筆順序を明らかにする必要があった。Campbell(1867)では、『Lexicon Platonicum』 [29]を用いて、Plato の後期の対話篇であると認められている『ティマイオス(Timaeus)』『クリティアス(Critias)』『法律』において共通に用いられているが、他の対話篇においてはおよそ用いられていない語彙を調査し、これらの語彙の生起状況の観察することで、『ティマイオス(Timaeus)』『クリティアス(Critias)』『法律』に加え、『ソピステス(Sophistes)』『政治家(Politicus)』『ピレボス(Philebus)』が後期の対話篇であると結論づけられている [30]。このような研究業績により、L.Campbell は文章の計量分析 (Stylometry)の先駆者と目されている。

また、Plato の対話篇の執筆年代の推定は、L.Campbell の他に、L.Campbell と完全に独立して W.Dittenberger によって研究されており、同義語の対の出現率を用いて、対話篇の執筆順序が推定され、Campbell(1867)と同様の結果が得られている[31]。

日本国内では上述の Mendenhall(1887)が計量文献学に類する初期の研究として著名であるが、Campbell (1867) [29]および Dittenberger (1881) [31]は Mendenhall (1887) [21]より早く、多変量解析などの本格的な統計手法が用いられた研究ではないが、計量的な観点による文体研究としては、草創期の研究であり、それゆえ意義深いものである。また、Plato の対話篇の執筆年代の推定に関する研究は W.Lutoslawski によって網羅的にまとめられており[32]、これは統計学者の G.U.Yule にも多大な影響を与えた書として知られる。

Ellegård(1962)は文中において語彙的意味ではなく文法的機能をあらかず機能語(function words)を分析に用いて 1769 年から 1772 年にかけてイギリスの新聞に掲載された Junius Letters と呼ばれる投稿記事を対象とし、自らが考案した distinctiveness ratio という指標を用いて執筆者の推定を行っている[33]。

Mosteller and Wallace(1964)は『ザ・フェデラリスト(The Federalist Papers)』と称される 1787 年 10 月から 1788 年 8 月までの間にニューヨークの新聞紙に連載されたアメリカ合衆国憲法の批准を推進するために書かれた 85 編の連作論文の著者不明の論文について分析を行っている。これら 85 編の論文はすべて James Madison(1751-1836)、John Jay(1745-1829)、Alexander Hamilton(1755-1804)の 3 人によって執筆されたことが判明しているが、上記の 3 人のうち誰が著したのか不明な論文が 12 編あり、これらの著者不明の論文について著者が明確である文章から選出した"on"、"upon"、"while"、"whilst"などの 30 語について判別分析やベイズの定理を用いて検討を加えている。分析の結果、Hamilton に While、Madison に Whilst が頻出していることを示し、機能語が書き手の識別に特に有効ことを論じた[34]。

Morton(1965)は、Herodotus(ヘロドトス)・Thucydides(トゥキディデス)・Plato、Lysias(リシアス)、Isocrates(イソクラテス)、Demosthenes(デモステネス)らの古代ギリシャ散文を対象に、語の頻度についてカイ二乗検定などを用い実証的な研究を行い、著者それぞれの長期にわたって変わらない習慣的特徴が認められることを示した[35]。

Burrows(1987)は、Jane Austen(ジェーン・オースティン、1775-1817)の著作を対象に、機能語や人称代名詞の出現頻度上位 30 語について固有値・固有ベクトルを用い分析を加えている[36]。

また、Holmes and Forsyth(1995)は Mosteller and Wallace(1964)と同様に、『ザ・フェデラリスト』を対象とし、高頻度機能語 49 語について主成分分析を行い著者について議論の余地がある論説についての検証している[37]。

近年の研究としては、Binongo(2003)において、アメリカのファンタジー小説の Oz の最終巻

である第 15 巻の著者の識別がある。Oz の作者は Lyman Frank Baum(1856-1919)であるが、第 15 巻が発刊されたのは 1921 年であり、Baum の遺稿であるか、あるいは児童書作家である Ruth Plumly Thompson(1891-1976)によるものか不明であった。そこで Binongo(2003)では、機能語を採り上げ、主成分分析を行い第 15 巻の作者は Thompson であると結論づけている[38]。

語の頻度は語の長さと同様に、文章の計量分析においては一般的な分析項目である。欧米諸語を対象とした分析において、前置詞・接続詞・助動詞・冠詞などを指す機能語は著者の識別に有効であることが実証的に明らかにされている。

## 6. 日本語を対象とした研究事例

日本文を対象とした研究は日本語の有する独自の理由によって研究が海外に比べ遅れた。これは、日本語の文章は欧米文と異なり単語が分かち書きされておらず、単語の認定が欧米文に比べて困難であったことに起因する。しかし、近年、形態素解析 (morphological analysis) の技術が飛躍的に発展したため、容易に分析が行える環境は整ってきている。

日本における文章の計量分析における初期の研究は 1935 年に波多野完治によって著された『文章心理学』である[39]。波多野(1935)は日本語で記述された文学作品においても、文体的特徴が著者によって相違することを明らかにした。

次いで、日本語の品詞の構成比率の研究として大野 (1956) は著名である。『万葉集』『枕草子』『徒然草』『方丈記』『紫式部日記』『土佐日記』『讃岐典侍日記』『竹取物語』『源氏物語』を対象とし、名詞の出現率が減少するにつれて、動詞、形容詞、形容動詞の出現率が増加することを明らかにした。なお、これは「大野の法則」と称される[40]。また、「大野の法則」は水谷(1965)において定式化されている[41]。

日本文における単語の頻度を対象とした文章の計量分析の早期の研究としては安本 (1957) があげられる。欧米に研究においても古典文学である Shakespeare の詩劇が採り上げられたことと同様に安本 (1957) においては平安時代に紫式部 (973-1014) の手によって著されたときれる『源氏物語』が分析対象となっている。安本 (1957) については後述する[42]。

また、現代文を対象とした代表的な研究として、金(1994) や金(2002) があげられる。金 (1994) では井上靖、三島由紀夫、中島敦の著作を対象とし、読点の前の文字に関する情報に執筆者の特徴があらわれることを明らかにした[43]。また、金 (2002) では職業作家の文章ではなく、一般人の日記文と作文を対象に判別分析を用いて書き手の識別を行っている。分析の結果、日記文の場合は助詞の bigram に、作文の場合は trigram に書き手の特徴があらわれていることを明らかにした[44]。

## 7. 『源氏物語』における研究事例

計量文献学において、『源氏物語』の宇治十帖を対象とした研究として、前掲の安本(1957)は重要である。『源氏物語』を宇治十帖とその他の44巻に二分し、統計的検定を行った。検定に用いた項目は12あり、本研究と直接関わると思われる項目は、名詞の使用度、用言の使用度、助詞の使用度、助動詞の使用度の4項目である。これらの使用度は、各巻からランダムに1000字抽出し、その1000字における各項目の頻度によって求められる。したがって『源氏物語』の全文が分析に使用されているわけではない[42]。

検定の結果、宇治十帖の文体は作り物語的、用言的、緊密かつ連続的な構想による詳細な描写を特徴とし、一方、他の44巻の文体は歌物語的、体言的、飛躍的、断続的な構成による直感的描写を特徴とすると指摘されている。それゆえ、宇治十帖の作者は他44巻の作者と同一人物であるとは言い難い、と結論づけている。

次いで、安本(1977)において、安本(1957)と同様の標本抽出によって得られた変数を用いて因子分析を行い、宇治十帖の複数作者説に検討を加えている。分析の結果、これまでと同様に宇治十帖の文体が他の44帖の文体と相違すると指摘するが、ここでは作者が相違するとは結論づけていない[45]。

最後に、新井(1997)は、各巻の中央部から各巻の長さに応じて標本を抽出し、五十音図の頭子音行別頻度や母音列別頻度に対して統計的検定を行っている。検定の結果、宇治十帖の作者が他の諸巻の作者と別人であるとは考えられないと述べている[46]。

『源氏物語』を対象とし、多変量解析の手法を用いた本格的な研究は村上・今西(1999)であり、日本語における機能語の1つである助動詞の出現率を用い、数量化Ⅲ類により『源氏物語』の執筆巻序の推定を行っている[47]。

## 第2部 古典文に対する計量分析の有効性の検討

### 1. 問題の所在

序論において指摘したように、欧米諸語で記述された文章や日本語で記述された現代文を対象とした、書き手の識別を目的とする計量的な研究は広く行われ、その研究成果は報告されている。その一方で、日本語の古典文に関する計量的な研究は十分に展開されているとは言いがたい。これは現代文に比べ、古典文の形態素解析が困難であったこと、およびそれに起因する計量分析に適したデータベースが少なかったことに拠ると考えられる。

本研究は『源氏物語』の作者問題および成立過程に関する計量的な検討を加えることを目的とするが、上述のような背景を踏まえ、はじめに現代文と同様に古典文を対象とした計量分析が作者を識別に有効であるのかを検討する。このような検討のために、『源氏物語』および『宇津保物語』を分析対象とし、計量分析が作者の識別に有効であることを示す。

本章の分析においては、先行研究において作者の識別に有効とされる分析項目を採り上げ、分析を行った。具体的には、品詞構成比率・語の頻度・語の長さである。品詞構成比率についての分析においては、名詞・代名詞・動詞・補助動詞・形容詞・形容動詞・副詞・接続詞・感動詞・連体詞・助詞・助動詞の12品詞を用いた。次いで、語の頻度についての分析では機能語、すなわち助詞・助動詞の語の頻度について計量分析を行った。語の長さについての分析では、現代文を対象とし作者の識別を目的とした計量的な研究において有効であるとされる動詞の語の長さ[48]について、主に検討を加えた。ただし、詳細は後述するが、形容詞および形容動詞における語の長さについても、『源氏物語』と『宇津保物語』との間において、量的傾向に相違が認められたことから、この2品詞についても分析結果を併せて報告する。

古典文に対する計量分析の有効性を検討するために、上述のように『源氏物語』に加え『宇津保物語』を用いた。『宇津保物語』は全20巻によって構成される現存最古に類する長編物語であり、成立時期は『源氏物語』よりも早く、平安時代中期である。また、源順が作者であるとされるが、作者は不詳である。『宇津保物語』を分析対象として用いる背景として、『源氏物語』とおよそ同時期に成立していること、物語であること、和文体で記述されていること、という3点の共通性に基づく。

### 2. 分析

分析で取り扱う分析項目は品詞構成比率・語の頻度・語の長さであり、語の頻度および語の

長さについては品詞別に分析を行った。分析は項目別に行い、それぞれについて考察を加える。また分析においては、両作品の各巻を1つの対象とする。したがって、『源氏物語』における対象数は54、『宇津保物語』における対象数は20となることより、対象の総数は74となる。なお、名詞や動詞と言った品詞の語の頻度の分布はジップの法則に従う。詳細は付録を参照されたい。

## 2.1 品詞構成比率

まず、『源氏物語』および『宇津保物語』における作品別の品詞構成比率を概観する。分析に用いた品詞は上述の12品詞であり、これらの品詞の比率は表2.1および図2.1に示す通りである。両作品の品詞構成比率は、『源氏物語』において形容詞・形容動詞・副詞の割合が高く、一方で『宇津保物語』において名詞や動詞の割合が高いと言える。

次いで、各巻における各品詞の比率を求め、これについて主成分分析を行った。分析結果は図2.2に示す通りであり、第1主成分の正の領域に『源氏物語』は付置され、『宇津保物語』は概ね負の領域に付置されていることから、両作品間の品詞構成比率の相違は第1主成分にあらわれていると考えられる。

表 2.1 『源氏物語』と『宇津保物語』の延べ語数および品詞構成比率

	源氏物語		宇津保物語	
	延べ語数	比率	延べ語数	比率
名詞	65697	0.175	55543	0.224
代名詞	2254	0.006	2984	0.012
動詞	62897	0.167	42497	0.172
補助動詞	19414	0.052	11054	0.045
形容詞	22263	0.059	9208	0.037
形容動詞	9063	0.024	2831	0.011
副詞	15616	0.042	8142	0.033
接続詞	290	0.001	480	0.002
感動詞	260	0.001	343	0.001
連体詞	3106	0.008	2289	0.009
助詞	119694	0.318	78889	0.319
助動詞	43624	0.116	25547	0.103

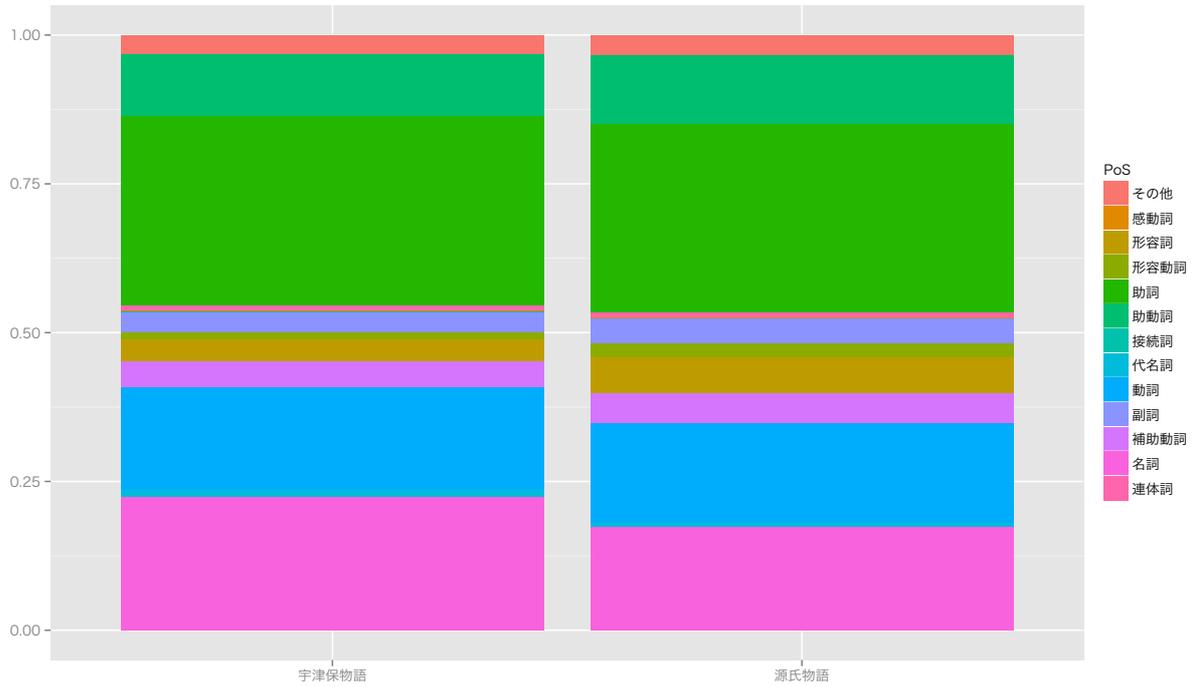


図 2.1 『源氏物語』と『宇津保物語』の品詞構成比率

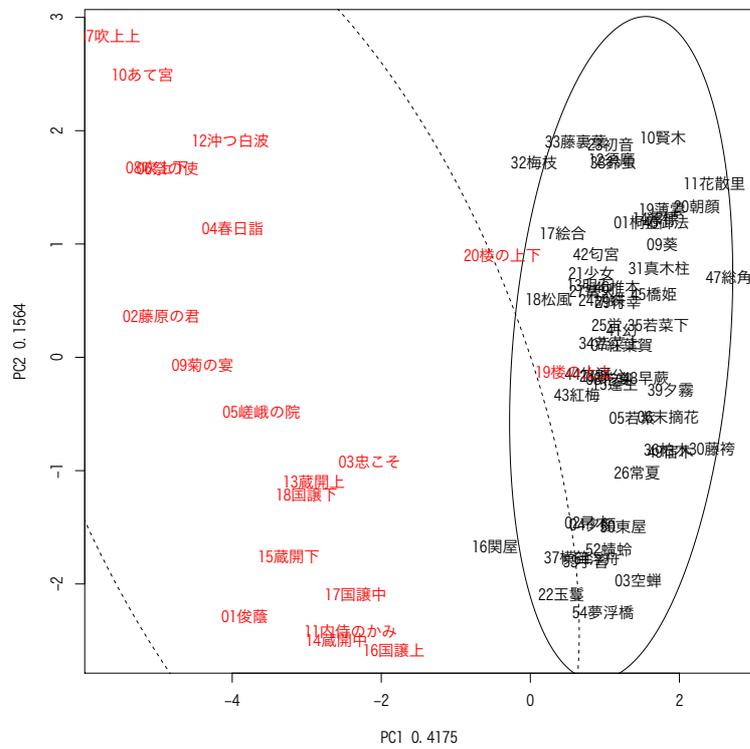


図 2.2 12 品詞の主成分分析の結果

また、図 2.2 における実線の楕円と破線の楕円はそれぞれ『源氏物語』と『宇津保物語』の第 1 主成分と第 2 主成分の主成分得点から推定される 95%信頼楕円である。両作品の信頼楕円は重複するが、これは『宇津保物語』の信頼楕円の外に付置される第 19 巻「楼の上上」と第 20 巻「楼の上下」が『源氏物語』の信頼楕円に接近して位置することによると考えられる。このような「楼の上上」および「楼の上下」が『源氏物語』の付置された領域の近くに位置するという分析結果は、後述の語の頻度・語の長さについての分析においても認められ、これら 2 巻が『宇津保物語』の他 18 巻から外れて付置することは、品詞構成比率に対する分析に問題があるのではなく、むしろ『宇津保物語』の内部の問題であると考えられる。このように、主成分分析の結果から、品詞構成比率は作者の識別に有効であると考えられる。

表 2.2 12 品詞の主成分分析における因子負荷量

	PC1	PC2
助詞	0.0315	-0.3831
名詞	-0.3880	0.3122
動詞	-0.1836	-0.1715
助動詞	0.2806	-0.3681
形容詞	0.4084	0.1006
補助動詞	0.2455	0.0921
副詞	0.3537	-0.2682
形容動詞	0.3991	0.1087
連体詞	-0.0750	-0.4675
代名詞	-0.2975	-0.3694
接続詞	-0.3354	0.0034
感動詞	-0.1339	-0.3653

表 2.2 は第 1 主成分および第 2 主成分の因子負荷量であり、表 2.2 より第 1 主成分の負荷量は形容詞と形容動詞が大きく、これは第 1 主成分の負荷量では最大である。形容詞に続き、形容動詞の負荷量が大きく、図 2.2 において正の領域に『源氏物語』の諸巻が位置することから、これらの諸巻は形容詞および形容動詞の比率の高さによって特徴づけられていると考えられる。一方で、第 1 主成分において名詞・代名詞・接続詞の負荷量が小さいことから、これら 3 品詞の比率の高さによって、『宇津保物語』の多くの巻が特徴づけられると考えられる。ただし、上述したように「楼の上上」と「楼の上下」の 2 巻は『宇津保物語』の他 18 巻から外れて付置さ

れることから、他 18 巻に比べて、形容詞と形容動詞の比率が高く、名詞、代名詞、接続詞の 3 品詞の比率が低いと言える。

## 2.2 語の頻度

品詞構成比率の分析に続き、語の頻度について分析を加える。品性構成比率は、品詞レベルの計量分析であるが、語の頻度についての計量分析は語彙レベルの計量分析である。

表 2.3 品詞別の延べ語数および異なり語数

	源氏物語		宇津保物語		合計	
	異なり語数	延べ語数	異なり語数	延べ語数	異なり語数	延べ語数
名詞	5922	65697	6394	55543	9617	121240
代名詞	46	2254	53	2984	65	5238
動詞	5286	62897	3353	42497	6759	105394
補助動詞	7	19414	26	11054	26	30468
形容詞	840	22263	504	9208	970	31471
形容動詞	687	9063	309	2831	772	11894
副詞	273	15616	253	8142	360	23758
接続詞	6	290	13	480	13	770
感動詞	15	260	27	343	33	603
連体詞	11	3106	22	2289	23	5395
助詞	56	119694	87	78889	87	198583
助動詞	26	43624	37	25547	38	69171

語の頻度の分析では、全語彙を一括して分析するのではなく、品詞別に語の頻度を集計し、分析した。各品詞の延べ語数(tokens)および異なり語数(types)は表 2.3 に示す通りである。主成分分析に用いた品詞は助詞・助動詞の 2 品詞である。助詞や助動詞は、文中において文法的機能を担う語彙であることから、機能語と称される。このような機能語は文中で語彙の意味を担わないため、機能語の出現傾向については物語の内容の影響を受けにくく、むしろ書き手の個性が反映すると考えられる。先にふれたように、書き手の識別を目的とした欧米諸語や日本語の現代文の計量分析においては、機能語の頻度や出現率がよく用いられており、代表的な分析

項目の1つである。

また、分析においては、分析対象となる『源氏物語』および『宇津保物語』の各巻は、延べ語数が20000語を超える巻がある一方で、延べ語数が1000語を割る巻もあり、延べ語数のばらつきは大きい、すなわち物語の長さに大きな隔たりがあると言える。よって、この隔たりを解消するために、各巻における語の総度数に対する各語の頻度の割合、つまり語の出現率を求めることで、データの基準化を行い、これを分析に用いた。なお、各巻における語の総度数とは延べ語数と一致する。

### 2.2.1 助詞

助詞の延べ語数および異なり語数は表2.3に示した通り、『源氏物語』の延べ語数は119694、異なり語数は56である。一方、『宇津保物語』の延べ語数は78889、異なり語数は87である。両作品を合計した延べ語数は198583、異なり語数は87である。延べ語数は名詞や動詞よりも多いが、その一方で異なり語数は少なく、他の品詞とは異なる傾向を有する品詞である。

そこで、出現頻度が100以上になる語を採り上げて、これについて主成分分析を行った。このような語には出現頻度が118以上となる出現頻度上位42語が該当し、累積頻度198046、総度数に対する割合は99.730%である。主成分分析によって求められた第1主成分と第2主成分の散布図は図2.3に示す通りである。第1主成分の正負によって、両作品の95%信頼楕円はおよそ重複せず、分析対象は作品別に分離する。表2.4は出現品上位42語について行った主成分分析によって得られた第1主成分および第2主成分の因子負荷量である。第1主成分の因子負荷量は最小となる「なむ」「とも」「して」「ども」「が」といった語は『宇津保物語』において相対的に頻出すると言える。一方、『源氏物語』には第1主成分の因子負荷量が最大となる「も」「ど」「さへ」「など」「よ」といった語が相対的に頻出していると言える。また、主成分分析に用いる変数、すなわち語数を増減しても分析結果は大きく変わらず、両作品は分離して配置される。

このように、『源氏物語』と『宇津保物語』との間に助詞の語彙の出現傾向に相違があることが認められる。したがって、助詞の語彙に関する計量分析においては、現代文や欧米諸語における分析と同様に作者による相違が出現傾向に顕著に表れるものであると考えられる。

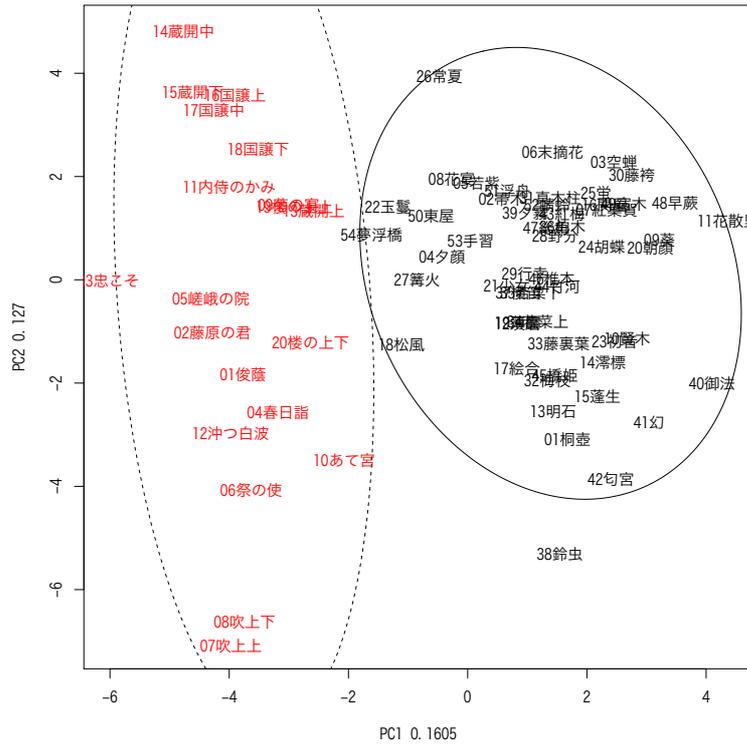


図 2.3 助詞における出現頻度上位 42 語の主成分分析の結果

表 2.4 出現頻度上位 42 語の第 1 主成分の因子負荷量上位 10 語および下位 10 語

下位 10 語	PC1	PC2	上位 10 語	PC1	PC2
ナム	-0.2437	0.0081	モ	0.3295	0.0725
トモ	-0.2366	0.0875	ド	0.2419	0.1247
シテ	-0.2290	-0.1510	サヘ	0.2149	0.0170
ドモ	-0.2289	-0.1267	ナド	0.2144	-0.0051
ガ	-0.1987	0.1780	ヨ	0.1821	0.1452
ヘ	-0.1946	0.0538	シ	0.1796	0.0242
ニ	-0.1827	-0.2283	ツツ	0.1645	-0.0294
テ	-0.1738	-0.0190	モノカラ	0.1514	0.0433
カ	-0.1738	0.1174	ノミ	0.1315	0.0116
ヨリ	-0.1614	-0.1650	ナガラ	0.1291	-0.0618

## 2.2.2 助動詞

上述のように、助動詞は助詞とともに機能語とされる品詞である。助動詞の延べ語数および異なり語数は表 2.3 に示した通り、『源氏物語』の延べ語数は 43624、異なり語数は 26 である。一方、『宇津保物語』の延べ語数は 25547、異なり語数は 37 である。両作品を合計した延べ語数は 69171、異なり語数は 38 である。

助詞の分析と同様に、出現頻度が 100 以上になる語彙を分析に採り上げ、出現頻度上位 22 語について分析を加えた。出現頻度上位 22 語は累積頻度が 69066 となり、総度数に対する割合は 99.8% である。主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 2.4 に示す通りである。助詞の出現頻度上位 42 語に対する分析結果と同様に、第 1 主成分において、両作品は分離して配置する。また、両作品の 95% 信頼楕円は一部重複するが、どちらの信頼楕円にも他作品の対象が包含されることはない。したがって、助動詞の語彙に関する計量分析においては、現代文や欧米諸語における分析と同様に作者による相違が出現傾向に顕著に表れるものであると考えられる。

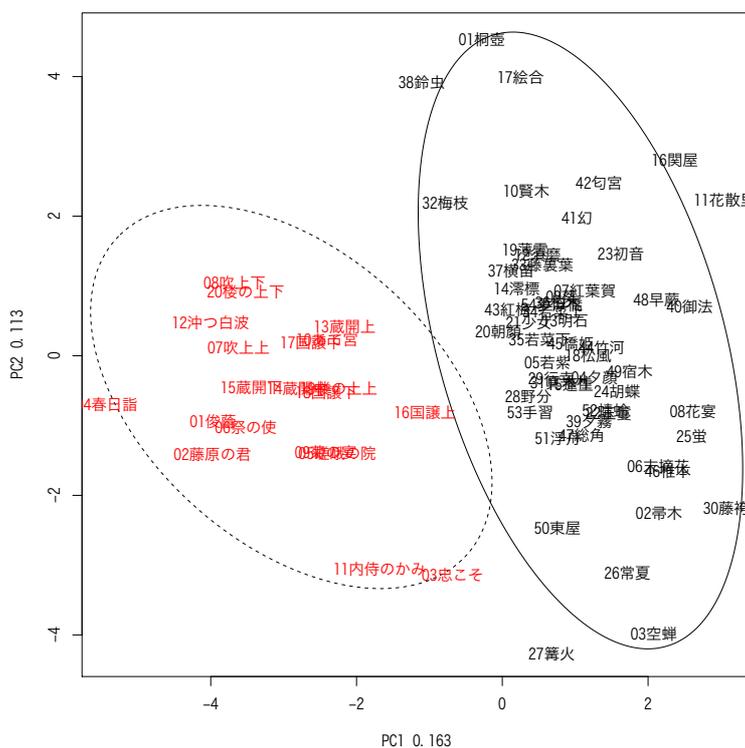


図 2.4 助動詞における出現頻度上位 22 語の主成分分析の結果

### 2.2.3 考察

語の出現頻度の分析において、現代文や欧米諸語についての計量分析で作者の識別に有効であるとされる機能語の助詞および助動詞の 2 品詞を採り上げ、主成分分析を行った。これら 2 品詞の語の頻度についての分析では、『源氏物語』と『宇津保物語』との間において、語の出現傾向の相違が認められたと言える。特に、本研究における分析においては、第 1 主成分に作者別あるいは作品別の語の出現傾向の相違が認められた。また、先にふれたように変数の数を増減させても、両作品の間における語の出現傾向は認められる。分析に用いる語数を増減して行った主成分分析の分析結果は付録を参照されたい。

### 2.3 語の長さ

文章を計量的に分析する際に、名詞や動詞などの文中で語彙的意味を担う語彙、すなわち実質語は作者の相違よりも、ストーリーの相違の影響をより強く受けると考えられる。つまり、実質語はストーリーとの関連性が高く、作者の識別を目的とした分析に採り上げるには適切とは言えない分析項目であると考えられる。このような背景から、作者の識別を目的とする現代文や欧米諸語を対象とした計量分析では、語彙的意味を担わない機能語や句読点の頻度が分析項目として採り上げられ、本研究もこれに倣った。しかし、語彙的意味を担う実質語の語の長さを求め、これを集計することで、実質語の持つ具体性は抽象化され、ストーリーの影響を受けない分析項目として扱うことが可能となると考えられる。

本研究において分析の対象となる『源氏物語』および『宇津保物語』は、写本によって継承されてきたことから、オリジナル原稿の作者の意図に関わらず、単語の表記に漢字表記と仮名表記という表記のゆれが認められる。よって、本研究ではすべての単語を仮名表記に変換し、仮名の文字数を語の長さとした。語の長さの分析においては、動詞・形容詞・形容動詞の 3 品詞について分析を加えた。作品や巻において、延べ語数が異なることから語の頻度の分析と同様に、延べ語数によって基準化し各文字数における出現率を求めた。

主成分分析においては、語の頻度の分析に比べ、変数が多くならないため、出現率が高い変数から降順に選択し分析を加えた。よって、変数選択においては総度数に対する 90%以上を目安にした。

また、語の長さの分布は対数正規分布への近似度が良く、一例を示すと『源氏物語』における動詞の語の長さの分布は図 2.5 に示す通りである。図 2.5 における曲線は平均 1.18、標準偏差 0.462 の対数正規分布である。

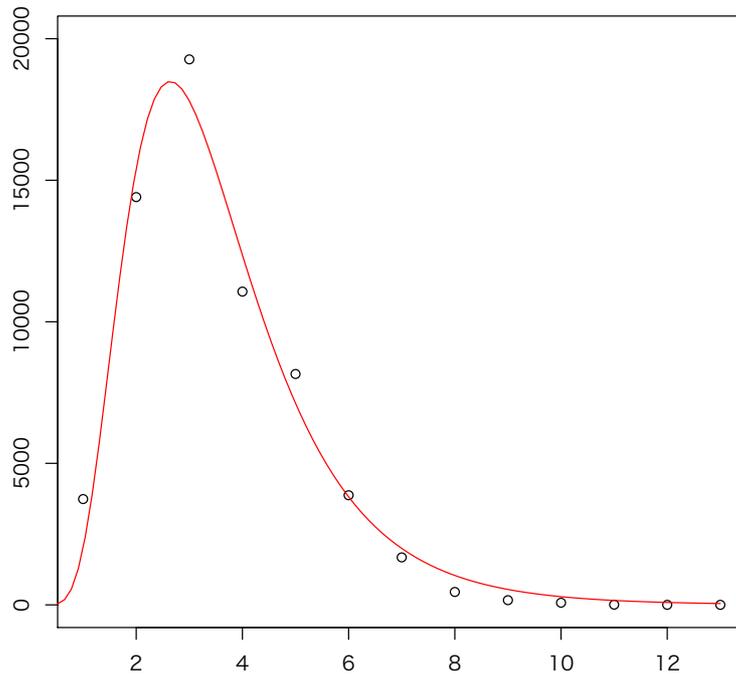


図 2.5 動詞の語の長さの分布と対数正規分布

### 2.3.1 動詞

まず、『源氏物語』と『宇津保物語』の両作品にあらわれる動詞の語の長さを集計した。集計結果は図 2.6 に示す通りである。両作品ともに長さ 3 に出現率のピークがあるが、長さ 1 から長さ 3 までは『宇津保物語』の出現率が高く、長さ 4 から『源氏物語』の出現率が高くなるという両作品の間に異なる傾向が認められた。

次に、巻ごとに動詞の語の長さを集計し、これについて主成分分析を行った。長さ 1 から長さ 5 までにおいて総度数の 92.2%を占める。この 5 変数を用いた主成分分析において、図 2.7 に示すように第 1 主成分と第 2 主成分の散布図において、第 1 主成分の正負に両作品の諸巻は作品別に分離して付置され、巻を分析の単位とした場合においても、両作品の間に出現傾向の相違が認められる。両作品の 95%信頼楕円もおおよそ重複せず、変数の数を増減させても分析結果はおおよそ同様である。また、図 2.8 は図 2.7 において示した主成分得点の散布図に第 1 主成分および第 2 主成分の主成分ベクトルを重ね合わせたバイプロットである。図 2.8 から、『源氏物語』の諸巻は相対的に長さ 4 および長さ 5 の動詞が頻出しており、長さ 3 が以下の動詞は相対的に『宇津保物語』の諸巻に頻出していると考えられる。

このように、名詞および代名詞の分析においては両作品の間に語の長さにおける出現傾向に顕著な相違は認められなかったが、動詞の語の長さについては両作品間に出現傾向の相違が認められた。『源氏物語』は 1 単語当たりの文字数が多い動詞を相対的に多用され、『宇津保物語』

には1文字から3文字の単語が多くあらわれるという作品別の特徴が見出せる。

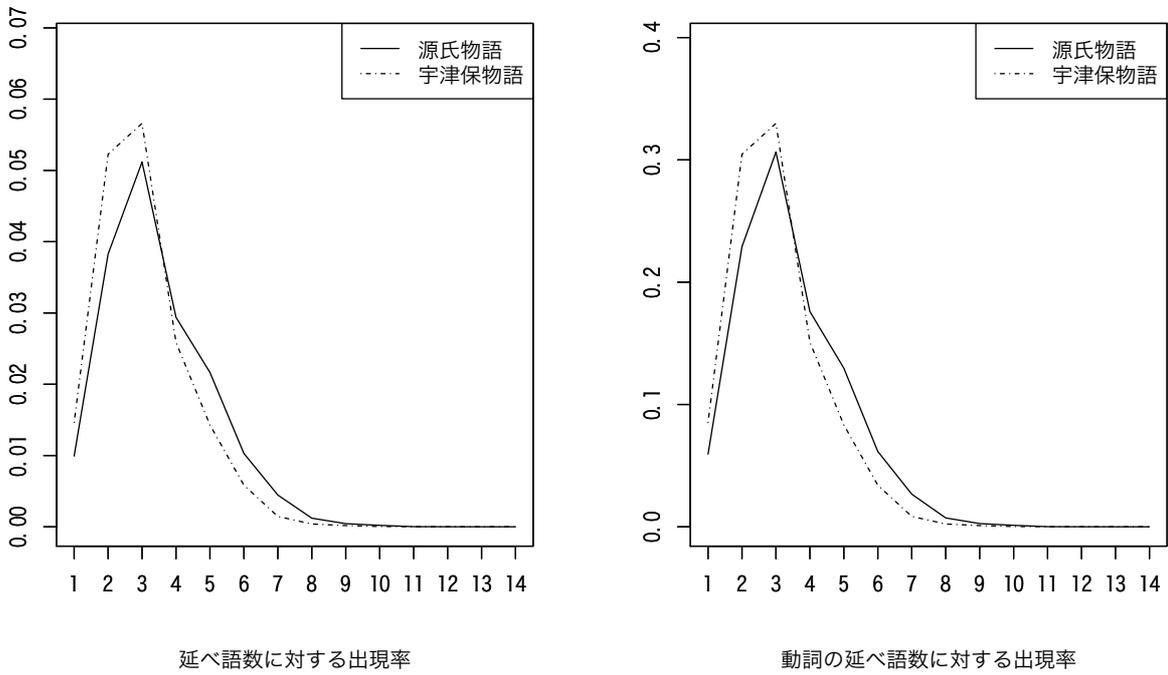


図 2.6 『源氏物語』と『宇津保物語』の動詞の語の長さの分布

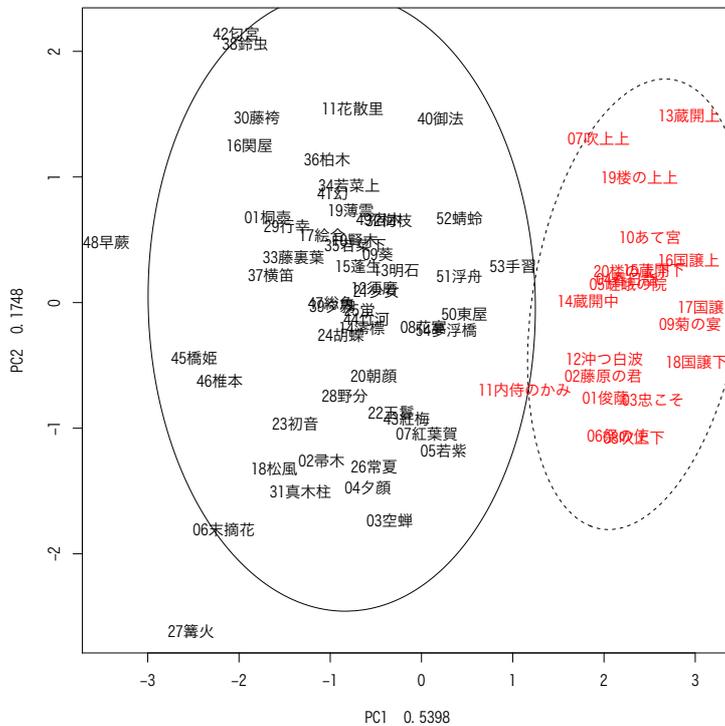


図 2.7 5変数を用いた動詞の語の長さの主成分分析結果

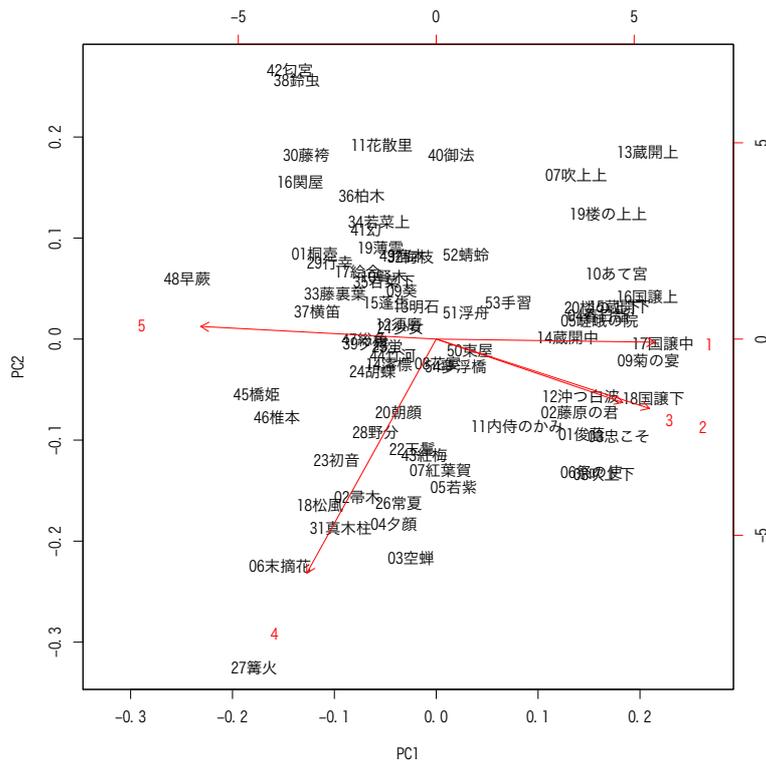


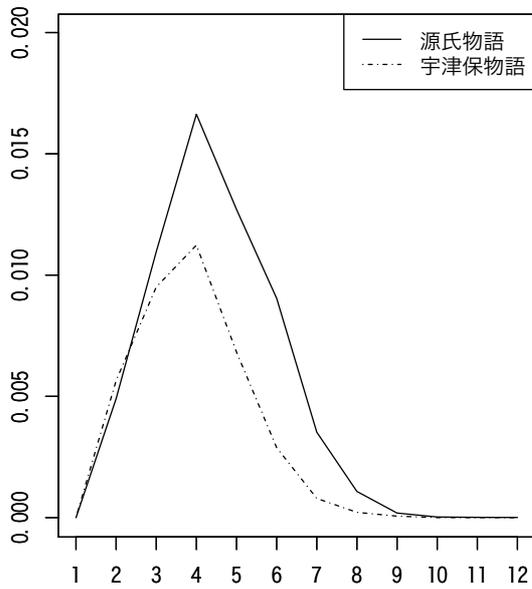
図 2.8 5 変数を用いた動詞の語の長さのバイプロット

### 2.3.2 形容詞

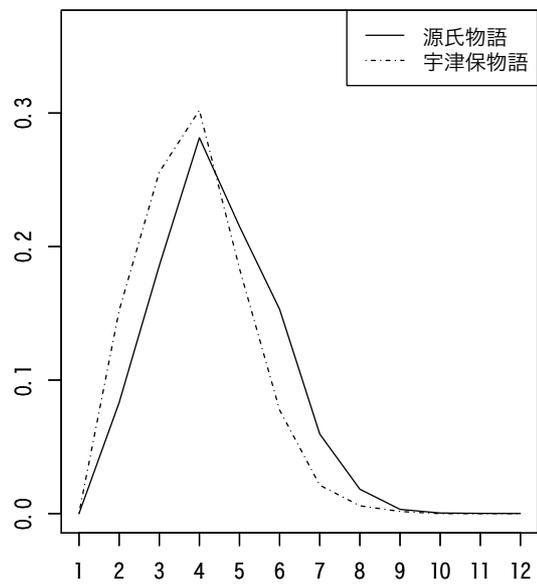
形容詞の語の長さについての集計結果は図 2.9 に示す通りである。長さ 1 および長さ 2 の出現率は『宇津保物語』の方が高いものの、他の長さにおいては『源氏物語』の出現率が総じて高い。両作品ともに長さ 4 に出現率のピークがあるが、出現率の傾向には相違すると考えられる。

次に、巻ごとに集計した形容詞の語の長さについて分析を加えた。長さ 2 から長さ 6 までの 5 変数における頻度の合計は総度数の 90% を超え、93.4% となる。この 5 変数について主成分分析を行った。図 2.10 に示すように、得られた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図において、両作品の諸巻はおおよそ作品別に付置される。ただし、品詞構成比率についての分析結果と同様に『宇津保物語』の第 19 巻「楼の上上」および第 20 巻「楼の上下」は『源氏物語』の 95% 信頼楕円の内側に位置する。

このように、形容詞の語の長さの分析においても、両作品の間に量的傾向の相違が認められたと考えられる。また、「楼の上上」および「楼の上下」の 2 巻に関しては、形容詞の語の長さについての分析結果と品詞構成比率の分析結果が合致すると言える。



延べ語数に対する出現率



形容詞の延べ語数に対する出現率

図 2.9 『源氏物語』と『宇津保物語』の形容詞の語の長さの分布

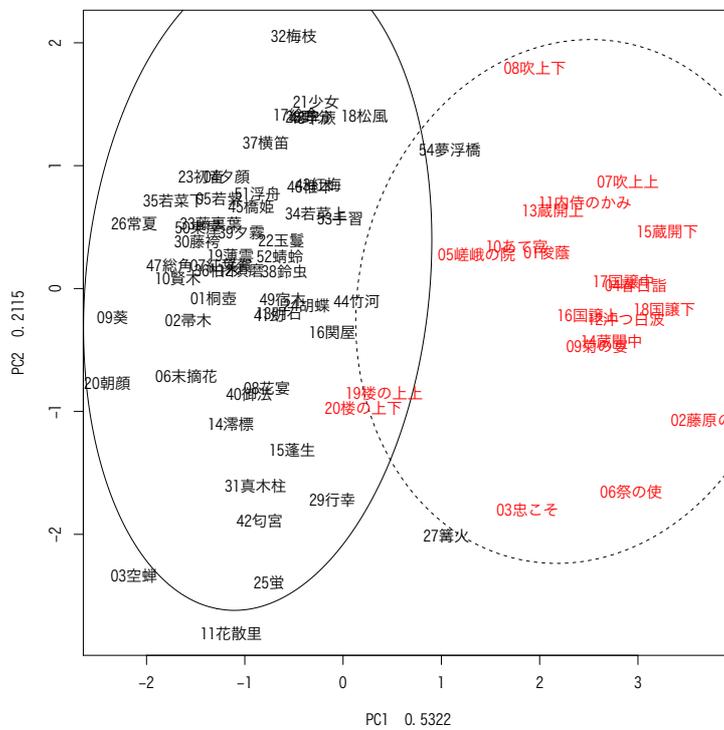


図 2.10 5変数を用いた形容詞の語の長さの主成分分析の結果

### 2.3.3 形容動詞

両作品にあらわれる形容動詞の語の長さの集計結果は図 2.11 に示す通りである。両作品ともに長さ 5 において出現率がピークになるが、『源氏物語』における出現率は 0.00739、『宇津保物語』の出現率は 0.00360 となり、『源氏物語』は『宇津保物語』のおよそ 2 倍となる。

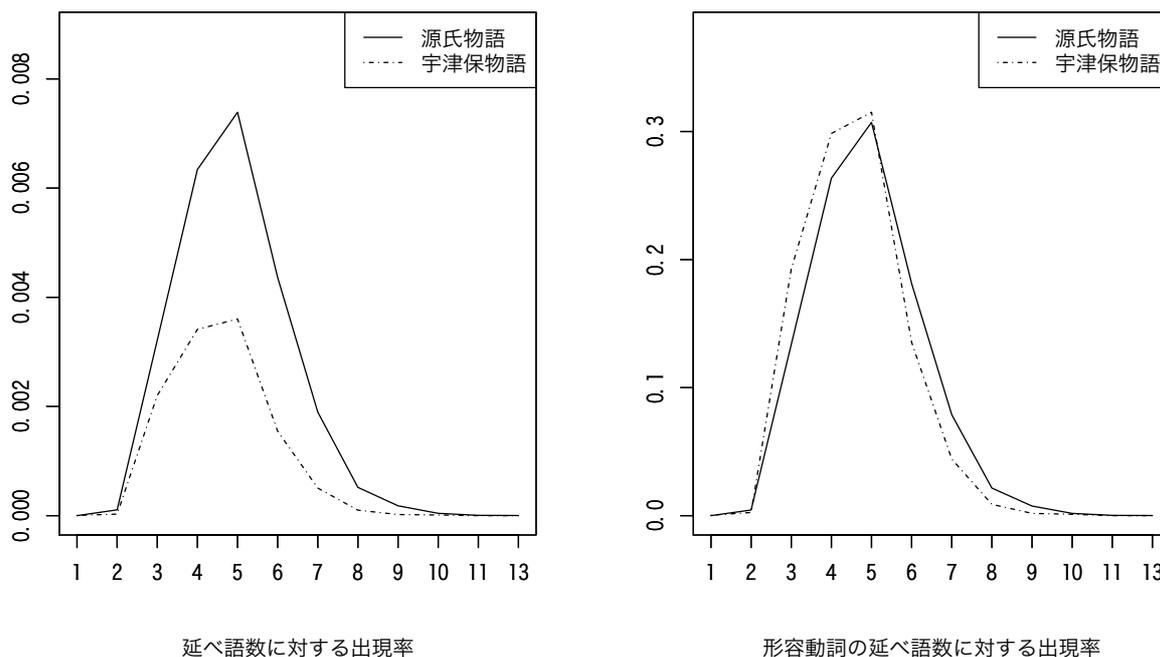


図 2.11 『源氏物語』と『宇津保物語』の形容動詞の語の長さの分布

次に、巻ごとに集計した形容動詞の語の長さについて分析を加えた。長さ 3 から長さ 7 までの 5 変数における頻度の合計は総度数の 90%を超え、96.9%となる。この 5 変数について主成分分析を行った。図 2.12 に示すように、得られた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図において、両作品の諸巻はおよそ作品別に付置される。図 2.10 に示した形容詞の分析結果と同様に、『宇津保物語』の「楼の上上」および「楼の上下」は『源氏物語』の 95%信頼楕円の内側に位置した。ただし、『源氏物語』の第 11 巻「花散里」、第 16 巻「関屋」、第 27 巻「篝火」の 3 巻が『源氏物語』の 95%信頼楕円から外れて付置される。これら 3 巻は共通して延べ語数が 1000 語を下回る巻であり、これら 3 巻の他に両作品を通じて延べ語数が 1000 語を割る巻はない。

そこで、延べ語数の少ない「花散里」「関屋」「篝火」の 3 巻を分析から除外し、あらためて主成分分析を行った。長さ 3 から長さ 7 までの 5 変数の頻度の合計は総度数の 96.9%を占めることから、上述の分析と同様にこれら 5 変数について主成分分析を行った。図 2.13 に示すように、第 1 主成分と第 2 主成分の散布図において、図 2.12 と同様に両作品の諸巻はおよそ作品別

に付置されると言える。また、「楼の上上」および「楼の上下」は『源氏物語』の諸巻に接近して位置する。

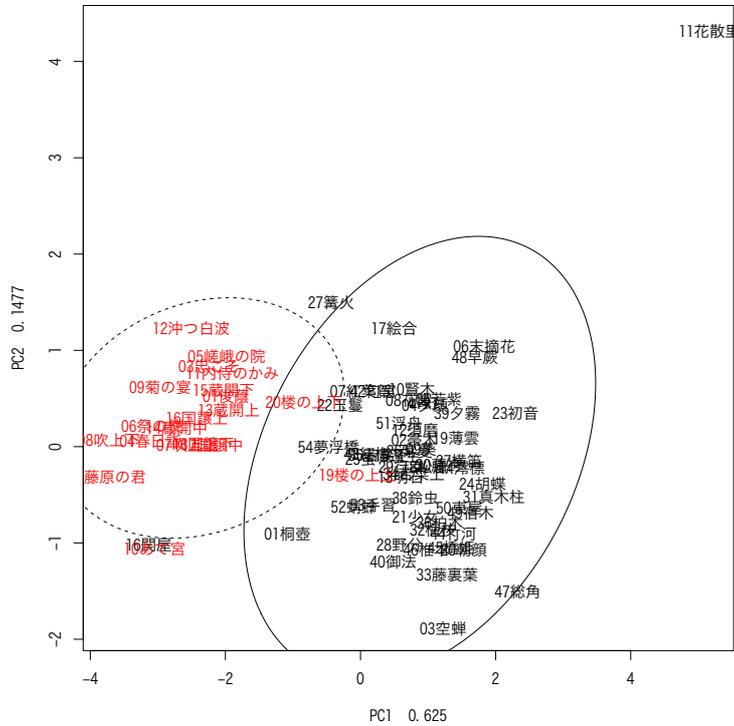


図 2.12 5変数を用いた形容動詞の語の長さの主成分分析結果

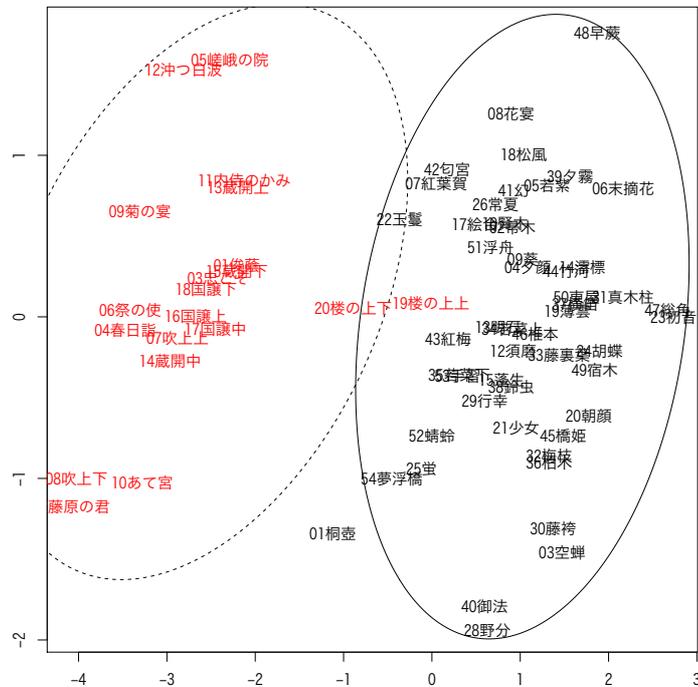


図 2.13 延べ語数の少ない3巻を削除した形容動詞の語の長さの主成分分析結果

このように、形容動詞においても両作品の間において出現傾向の相違が認められた。形容動詞の分析において、「楼の上上」および「楼の上下」が他の『宇津保物語』の諸巻から外れて付置されることは、品詞構成比率および語の頻度の分析結果と合致する。

#### 2.3.4 考察

語の長さの分布についての分析では、動詞・形容詞・形容動詞の3品詞における語の長さの出現率に、両作品の間に出現傾向の顕著な相違が認められた。動詞・形容詞・形容動詞の3品詞においては『源氏物語』は1語当たりの文字数の多い語が相対的に頻出していると言え、これが『源氏物語』における文体的特徴の1つであると考えられる。

また、前章における語の頻度についての分析においては、ストーリーの相違が出現傾向に強く影響しないと考えられる助詞や助動詞といった機能語の出現率に両作品間の相違があらわれた。しかし、語の長さについての分析においては、動詞・形容詞・形容動詞といった語彙的意味を担う実質語に両作品間の相違が顕著に認められたと言える。これはすなわち、1語あたりの文字数を計測することで、ストーリーの相違に起因する影響を考慮する必要がなくなり、古典文の分析においても実質語を作者の識別を目的とした計量分析に有効な分析項目として採り上げることが可能になったと考えられる。したがって、語の頻度においては機能語、語の長さにおいては実質語を分析に採り上げることで、多角的に計量的な検討を加えられると言える。

### 3. 第2部の考察

第2部においては、『源氏物語』および『宇津保物語』を採り上げ、作者の識別を目的とした古典文に対する計量分析の有効性を検討した。計量分析に用いた分析項目は12品詞の構成比率・助詞の語の頻度・助動詞の語の頻度・動詞の語の長さ・形容詞の語の長さ・形容動詞の語の長さである。

分析の結果、すべての分析項目において、『源氏物語』と『宇津保物語』との間に量的傾向の相違が認められた。ゆえに、これらの分析項目は古典文に作者を識別する上で有効であると考えられる。ただし、先にもふれたように、語の長さを用いて作者の識別を行うとき、現代文においては主に動詞が用いられ、形容詞および形容動詞が用いられることは多くない。したがって、形容詞と形容動詞の語の長さは『源氏物語』との作者の識別において有効な分析項目であると推測される。これに関しては第3部においても指摘する。

また、上述したように、『宇津保物語』における第19巻「楼の上上」と第20巻「楼の上下」が12品詞の構成比率の分析結果、形容詞の語の長さについての分析結果、形容動詞の語の長さ

についての分析結果において、『源氏物語』の95%信頼楕円の内側に付置した。これはすなわち、「楼の上上」および「楼の上下」の2巻については、他の『宇津保物語』の諸巻とは異なる量的傾向を有しており、計量的な分析結果に基づくと、むしろ『源氏物語』に近い表現形式であると考えられる。

## 第3部 擬作についての分析

### 1. 問題の所在

第2部では、作者が異なることが明確である『源氏物語』と『宇津保物語』を分析の対象とし、作者が異なる場合に出現傾向が相違する分析項目を明らかにした。そこで、第3部では作者は異なるが、ストーリーに親近性があると考えられる場合について検討を加える。対象となる作品は『山路の露』、『雲隠六帖』、『手枕』の3作品である。

『源氏物語』には複数作者が古くから論じられており、これはすなわち現行の『源氏物語』54巻の中に原著者とされる紫式部以外の作者が執筆した可能性を指摘するものである。上述の3作品は『源氏物語』とは異なる作品であるが、描かれるストーリーは『源氏物語』の延長線上にあることから、『源氏物語』の擬作であると言える。したがって、『源氏物語』において論じられる複数作者説に計量的な検討を加える前に、擬作を採り上げ計量分析を行うことで、ストーリーの影響を受けず、作者の相違を指摘しうる分析項目を明らかにすることを目的とする。

### 2. 分析

分析においては、品詞構成比率・語の頻度・語の長さについて主成分分析を行う。また、『宇津保物語』を用いた分析と同様に『源氏物語』は各巻を1つの分析対象とし、『山路の露』、『雲隠六帖』、『手枕』の3作品はそれぞれを1つの分析対象とする。

#### 2.1 品詞構成比率

品詞構成比率の分析においては、名詞・代名詞・動詞・補助動詞・形容詞・形容動詞・副詞・感動詞・連体詞・助詞・助動詞の11品詞について検討を加える。接続詞は、『山路の露』において、延べ語数および異なり語数はともに3であり、『雲隠六帖』においては出現しておらず、『手枕』における延べ語数は2、異なり語数は1となる。よって、分析から除外した。

##### 2.1.1 『山路の露』の品詞構成比率

はじめに、『山路の露』を採り上げ、作品を分析の単位とし、『源氏物語』と比較した。表3.1は『源氏物語』および『山路の露』の延べ語数および品詞構成比率である。また、図3.1は表

3.1 を可視化したグラフである。図 3.1 において、『源氏物語』と『宇津保物語』との間に認められたような品詞構成比率の顕著な相違は認められず、『源氏物語』と『山路の露』の構成比率は類似した傾向を有することが推測される。

そこで、上記の 11 品詞の構成比率を変数として、『源氏物語』の諸巻と『山路の露』について主成分分析を行った。各品詞の構成比率に隔たりが認められるため、相関係数行列に基づく主成分分析を用いた。図 3.2 は主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図である。『宇津保物語』の諸巻は『源氏物語』の諸巻と分離して付置されたが、図 3.2 において『山路の露』は『源氏物語』の 95%信頼楕円の中に位置した。ただし、第 16 巻「関屋」が『源氏物語』の他の諸巻から離れて付置されることから、延べ語数が 1000 語未満となる第 11 巻「花散里」、「関屋」、第 27 巻「篝火」を分析対象から除外し、あらためて主成分分析を行った。

表 3.1 『源氏物語』と『山路の露』の延べ語数および品詞構成比率

	源氏物語		山路の露	
	延べ語数	構成比率	延べ語数	構成比率
名詞	65697	0.1745	1342	0.1603
代名詞	2254	0.0060	68	0.0081
動詞	62897	0.1671	1369	0.1635
補助動詞	19414	0.0516	389	0.0465
形容詞	22263	0.0591	514	0.0614
形容動詞	9063	0.0241	214	0.0256
副詞	15616	0.0415	405	0.0484
感動詞	260	0.0007	4	0.0005
連体詞	2.106	0.0083	67	0.0080
助詞	119694	0.2.179	2630	0.2.141
助動詞	43624	0.1159	1049	0.1253

延べ語数の少ない 3 巻を除いた主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 3.3 に示す通りである。『山路の露』は『源氏物語』の諸巻から外れて付置されないことから、『山路の露』における品詞構成比率は『源氏物語』の諸巻と顕著な相違はないと考えられる。また、図 3.2 および図 3.3 において、『山路の露』における品詞構成比率は特に『源氏物語』の第 5 巻「若紫」、第 26 巻「常夏」、第 39 巻「夕霧」といった諸巻における品詞構成比率

と類似していると考えられる。

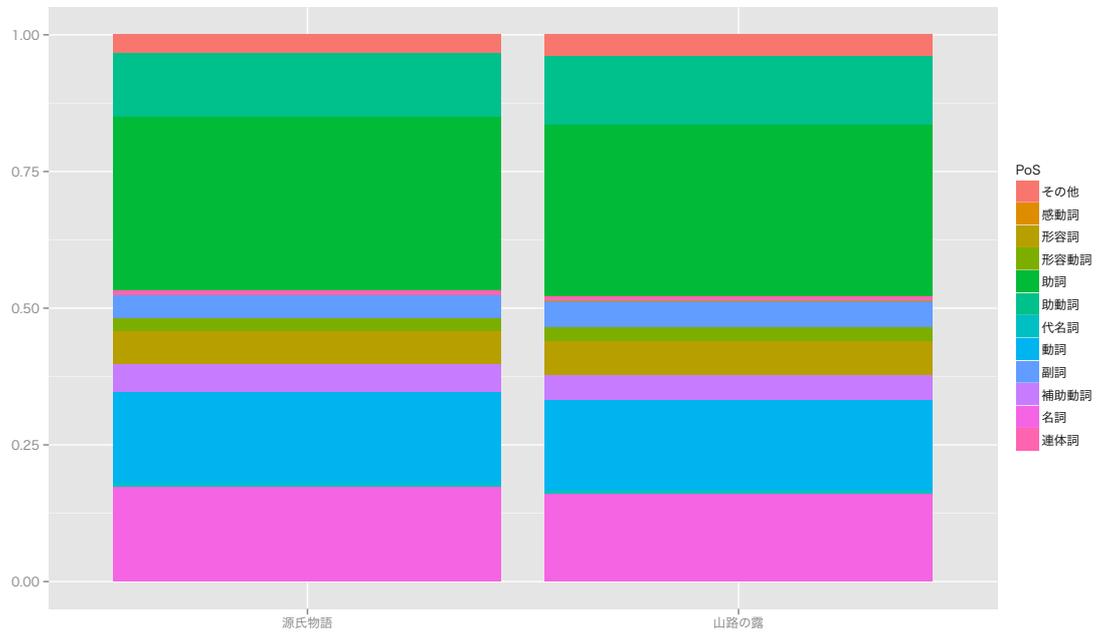


図 3.1 『源氏物語』と『山路の露』の品詞構成比率

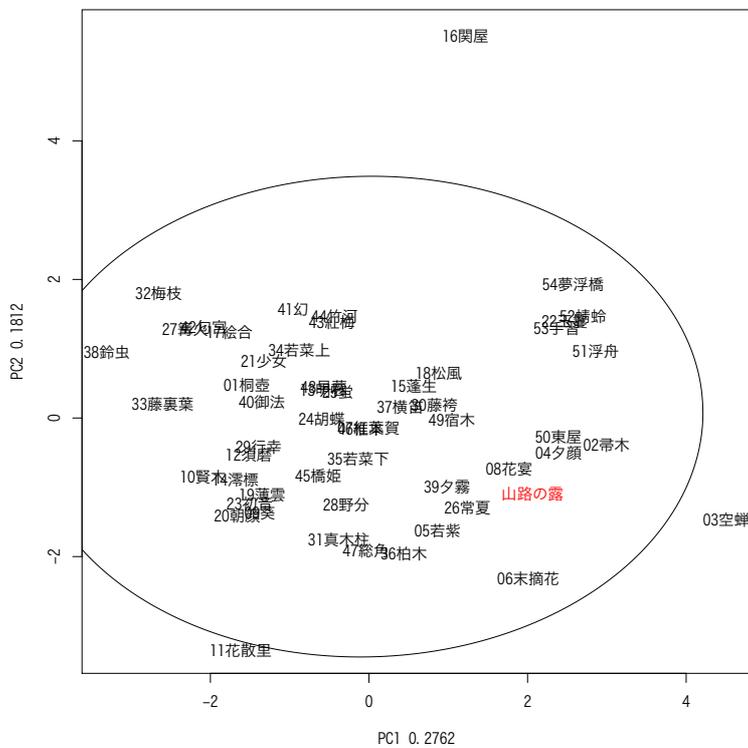


図 3.2 『源氏物語』と『山路の露』の品詞構成比率についての主成分分析の結果

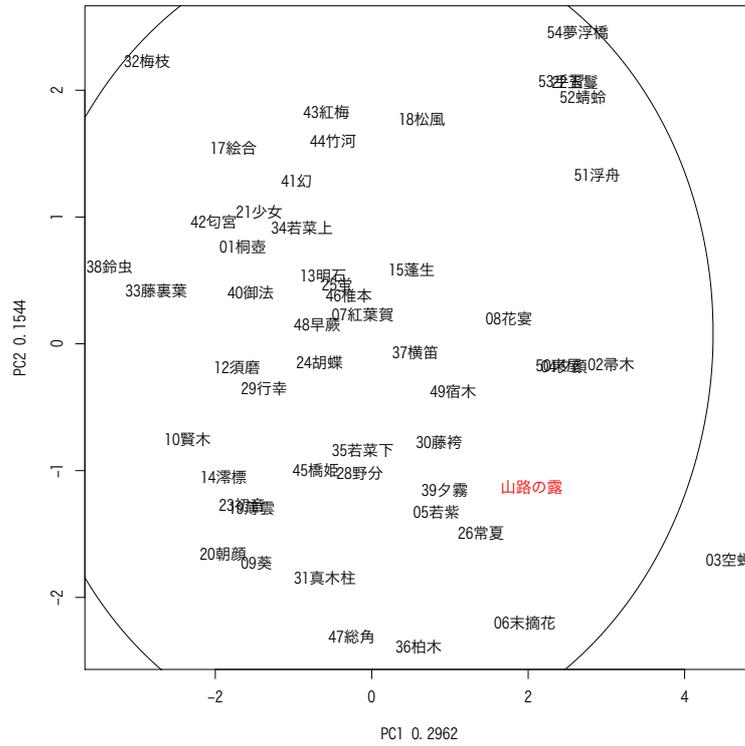


図 3.3 3巻を除外した『源氏物語』と『山路の露』の品詞構成比率についての分析結果

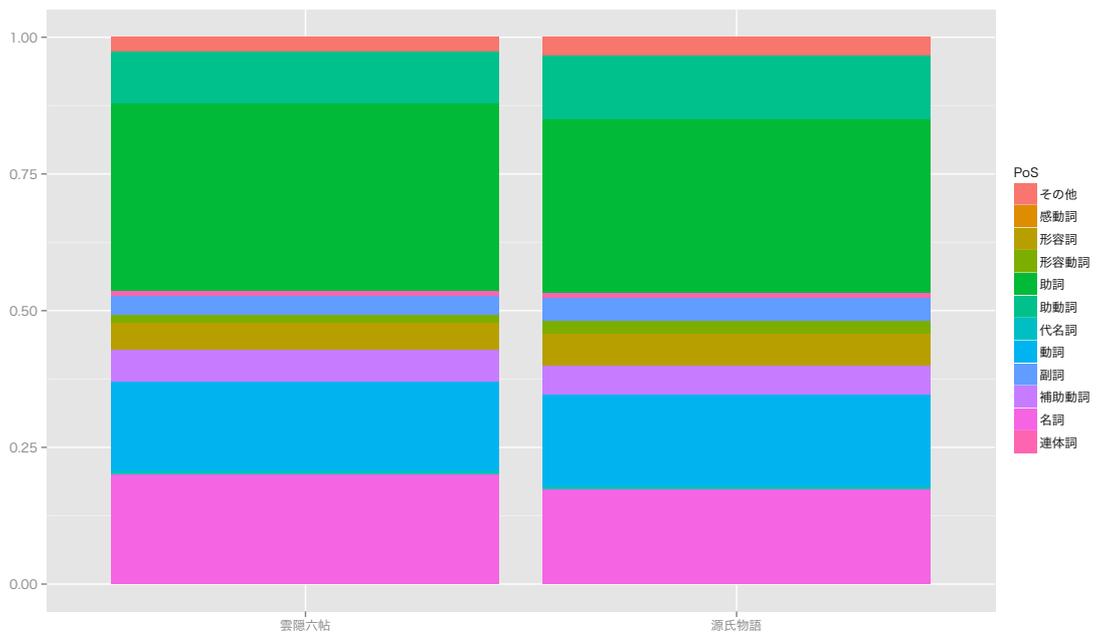


図 3.4 『源氏物語』と『雲隠六帖』の品詞構成比率

## 2.1.2 『雲隠六帖』の品詞構成比率

次に、『雲隠六帖』を採り上げ、作品を分析の単位とし、『源氏物語』と比較した。表 3.2 は『源氏物語』および『雲隠六帖』の延べ語数および品詞構成比率である。また、図 3.4 は表 3.2 を可視化したグラフである。図 3.4 において、『源氏物語』と『雲隠六帖』との間に助詞・助動詞の比率に若干の相違があると考えられるが、『源氏物語』と『雲隠六帖』の構成比率はおおよそ類似した傾向を有すると推測される。

そこで、巻を分析の単位とし、『源氏物語』と『雲隠六帖』と比較し、『源氏物語』との間に品詞構成比率の傾向に相違が認められるのか検討を加える。上記の 11 品詞の構成比率を変数として、『源氏物語』の諸巻と『雲隠六帖』について主成分分析を行った。図 3.5 は主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図である。図 3.5 において、『源氏物語』の「関屋」が外れて位置しているものの、『雲隠六帖』は『源氏物語』とは異なる品詞構成比率であると考えられる。

表 3.2 『源氏物語』と『雲隠六帖』の延べ語数および品詞構成比率

	源氏物語		雲隠六帖	
	延べ語数	構成比率	延べ語数	構成比率
名詞	65697	0.1745	1150	0.2020
代名詞	2254	0.0060	36	0.0063
動詞	62897	0.1671	923	0.1621
補助動詞	19414	0.0516	329	0.0578
形容詞	22263	0.0591	287	0.0504
形容動詞	9063	0.0241	85	0.0149
副詞	15616	0.0415	191	0.0335
感動詞	260	0.0007	6	0.0011
連体詞	2106	0.0083	46	0.0081
助詞	119694	0.2179	1959	0.3441
助動詞	43624	0.1159	532	0.0934

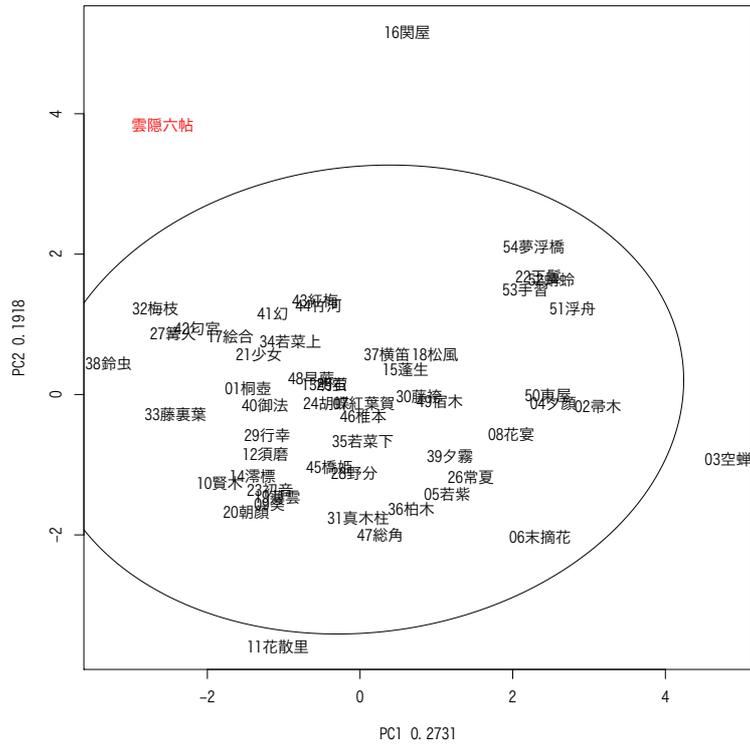


図 3.5 『源氏物語』と『雲隠六帖』の品詞構成比率についての主成分分析の結果

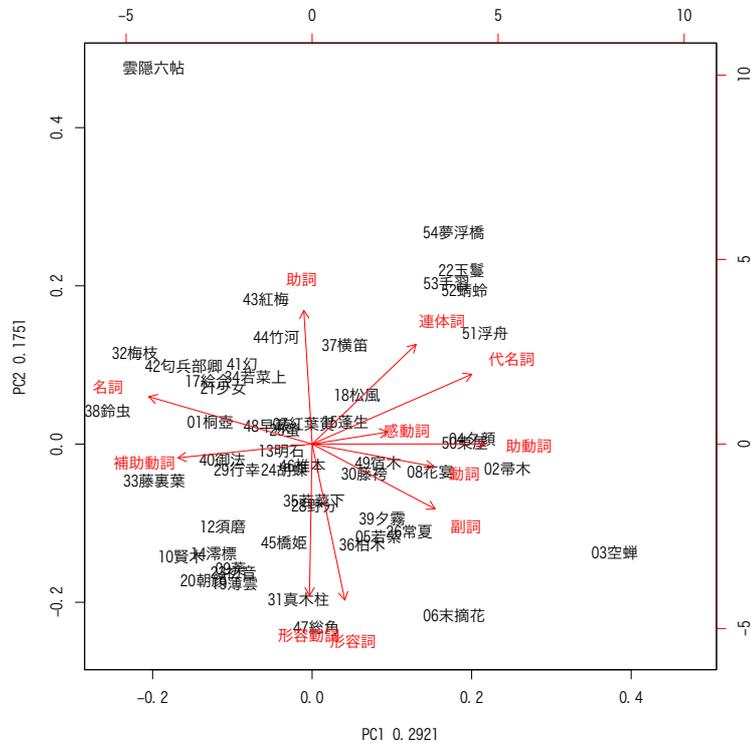


図 3.6 3巻を除外した『源氏物語』と『雲隠六帖』の品詞構成比率のバイプロット

『山路の露』を対象とした分析と同様に、延べ語数の少ない「関屋」「花散里」「篝火」の3巻を除外し、主成分分析を行った。主成分分析によって求められた第1主成分と第2主成分のバイプロットは図3.6に示す通りである。図3.6においては、『雲隠六帖』と『源氏物語』は分離してプロットしており、バイプロットから『雲隠六帖』は『源氏物語』に比べ助詞の構成比率が高く、形容詞および形容動詞の構成比率が低いと考えられる。したがって、この3品詞の文中において占める割合の多寡に両作品の特徴があらわれると言える。

### 2.1.3 『手枕』の品詞構成比率

最後に、『手枕』を採り上げ、作品を分析の単位とし、『源氏物語』と比較した。表3.3は『源氏物語』および『手枕』の延べ語数および品詞構成比率である。また、図3.7は表3.3を可視化したグラフである。図3.7において、『源氏物語』と『宇津保物語』との間における名詞の構成比率に認められたような顕著な相違は認められないと推測される。そこで、上記の11品詞の構成比率を変数として、『源氏物語』の諸巻と『手枕』について主成分分析を行った。図3.8は主成分分析によって求められた第1主成分と第2主成分の散布図である。図3.8において『手枕』は『源氏物語』の諸巻が位置する領域に接近して付置される。

表 3.3 『源氏物語』と『手枕』の延べ語数および品詞構成比率

	源氏物語		手枕	
	延べ語数	構成比率	延べ語数	構成比率
名詞	65697	0.1745	407	0.1852
代名詞	2254	0.0060	4	0.0018
動詞	62897	0.1671	337	0.1533
補助動詞	19414	0.0516	109	0.0496
形容詞	22263	0.0591	184	0.0837
形容動詞	9063	0.0241	66	0.0300
副詞	15616	0.0415	101	0.0460
感動詞	260	0.0007	2	0.0009
連体詞	2.106	0.0083	10	0.0045
助詞	119694	0.2.179	699	0.2.180
助動詞	43624	0.1159	203	0.0924

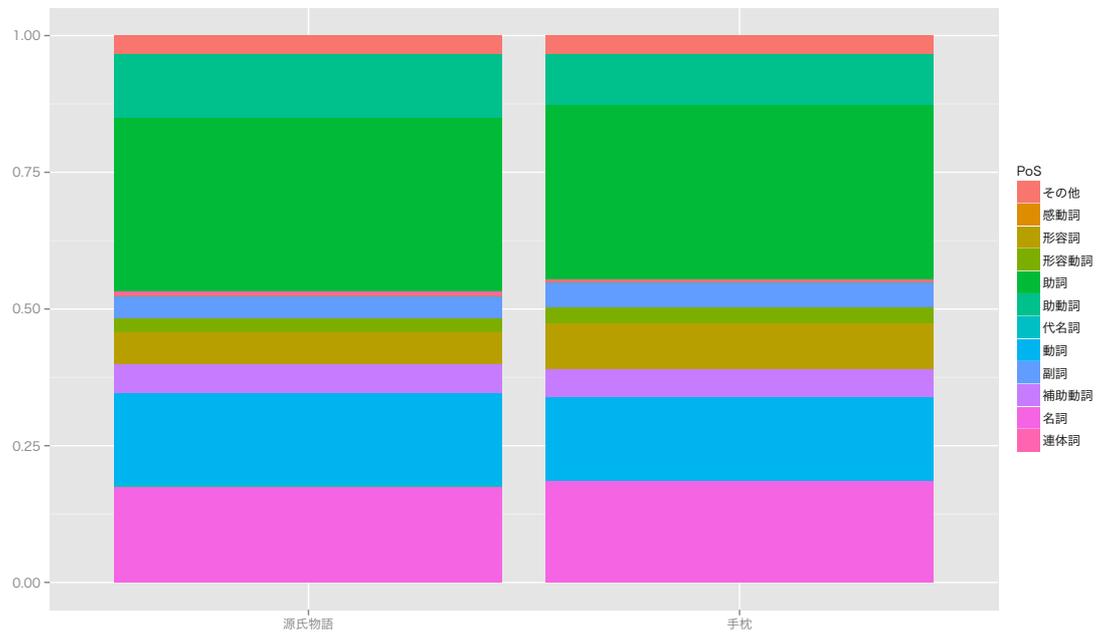


図 3.7 『源氏物語』と『手枕』の品詞構成比率

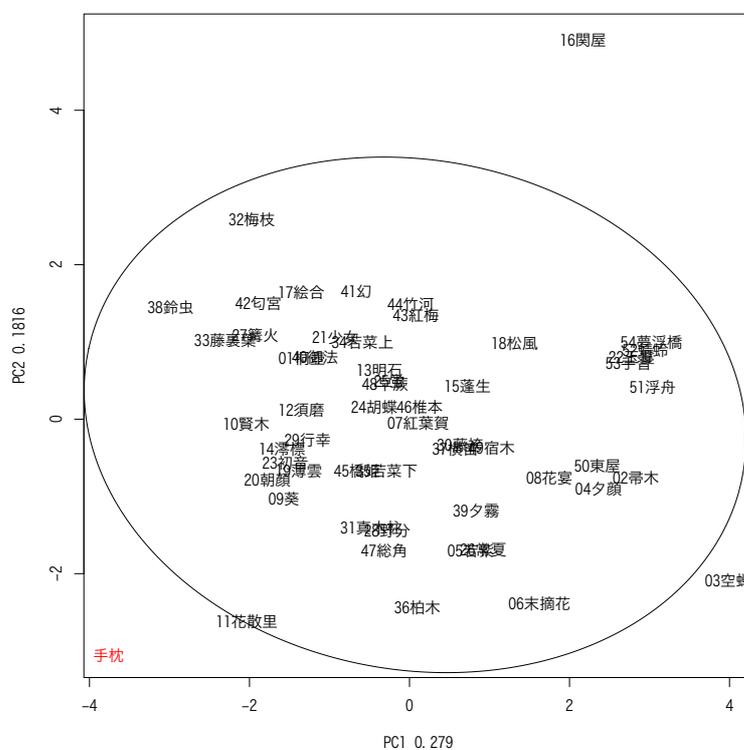


図 3.8 『源氏物語』と『手枕』の品詞構成比率についての主成分分析の結果

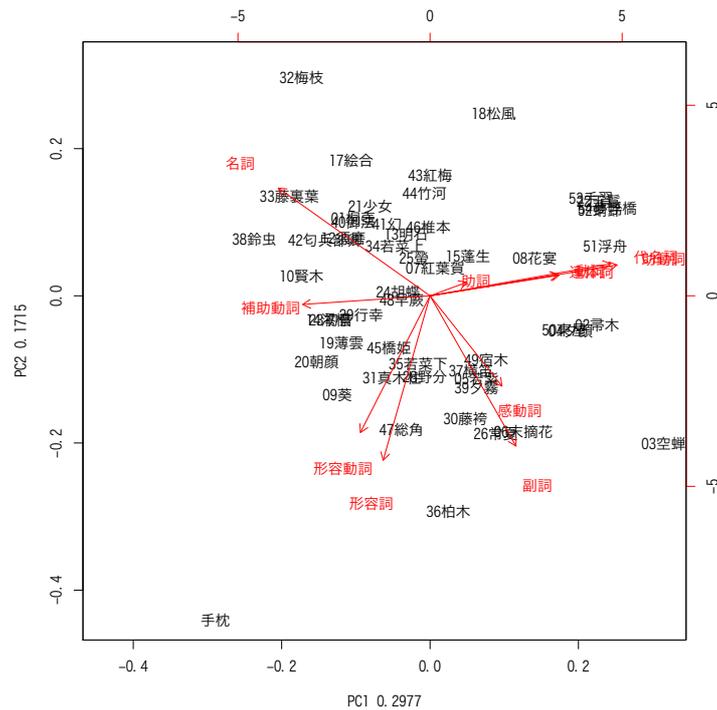


図 3.9 3 巻を除外した『源氏物語』と『手枕』の品詞構成比率のバイプロット

上述の分析と同様に、延べ語数の少ない「関屋」「花散里」「篝火」の 3 巻を分析対象から除外し、主成分分析を行った。主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分のバイプロットは図 3.9 に示す通りである。図 3.9 において『手枕』は『源氏物語』の諸巻から外れて付置される。よって、『手枕』における品詞構成比率は『源氏物語』の諸巻と相違する傾向を有すると考えられる。また、バイプロットから『源氏物語』に比べて、『手枕』は形容詞および形容動詞の占める割合が高いと考えられる。

#### 2.1.4 考察

本章においては、『山路の露』、『雲隠六帖』、『手枕』という擬作 3 作品を採り上げ、『源氏物語』54 巻との間に品詞構成比率の傾向に相違が認められるか、検討を加えた。『山路の露』においては、『源氏物語』との顕著な相違は認められなかった。すなわち、『源氏物語』と『山路の露』の品詞構成比率は類似した傾向を有していると考えられる。その一方で、『雲隠六帖』および『手枕』は『源氏物語』との間に傾向の相違が認められた。特に延べ語数が 1000 語を下回る『源氏物語』の 3 巻を除外したときに、『雲隠六帖』と『手枕』の 2 作品は『源氏物語』の諸巻と異なる傾向を示すと言える。

また、『源氏物語』と『宇津保物語』における品詞構成比率を検討したときに、両作品の間に

形容詞および形容動詞の構成比率に相違が認められた。本章の分析において、主成分分析によって求められたバイプロットから『雲隠六帖』は『源氏物語』に比べ形容詞および形容動詞の構成比率が低く、『手枕』は『源氏物語』に比べ形容詞および形容動詞の構成比率が高いという特徴を有する。このように、『源氏物語』の計量的な特徴の1つとして、形容詞と形容動詞という2品詞の占める割合が挙げられると考えられる。

## 2.2 語の頻度

語の頻度の分析においても、『宇津保物語』の分析と同様に、助詞・助動詞の2品詞について検討を加えた。変数の数を増減させたとしても、分析結果は大きく変わらないため、本章においては出現頻度が1000以上となる語彙について分析を加えた。

表 3.4 品詞別の異なり語数および延べ語数

	源氏物語		山路の露		合計	
	異なり語数	延べ語数	異なり語数	延べ語数	異なり語数	延べ語数
名詞	5922	65697	480	1342	5978	67039
代名詞	46	2254	15	68	46	2322
動詞	5286	62897	541	1369	5342	64266
補助動詞	7	19414	5	389	7	19803
形容詞	840	22263	175	514	847	22777
形容動詞	687	9063	87	214	691	9277
副詞	273	15616	79	405	277	16021
感動詞	15	260	3	4	16	264
連体詞	11	2.106	5	67	11	2.173
助詞	56	119694	41	2630	56	122324
助動詞	26	43624	24	1049	28	44673

### 2.2.1 『山路の露』の語の頻度

まず、品詞別の分析を行う前に『源氏物語』および『山路の露』の異なり語数および延べ語数をする。助詞の両作品を通じた延べ語数は122324、異なり語数は56である。出現頻度が1000

以上となる出現頻度上位 15 語について主成分分析を行った。出現頻度上位 15 語は頻度 1379 以上の語が該当し、累積頻度は 112923 であり、総度数に対する割合は 92.3%となる。図 3.10 は主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図であり、「篝火」が外れて付置されるが、『山路の露』は『源氏物語』と混在する。

また、延べ語数が 1000 語を割り込む「篝火」が外れ値となったことから、延べ語数が 1000 語未満の 3 巻を分析から除外し、あらためて分析を加えた。出現頻度が 1000 を超える語彙は出現頻度上位 15 であり、頻度 1374 以上の語彙が該当し、累積頻度は 112221 であり、総度数に対して 92.3%を占める。主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 3.11 に示す通りであり、図 3.11 においても『山路の露』は『源氏物語』の諸巻から分離せず、混在する。このように、両作品の間に助詞の出現傾向に顕著な相違は認められない。

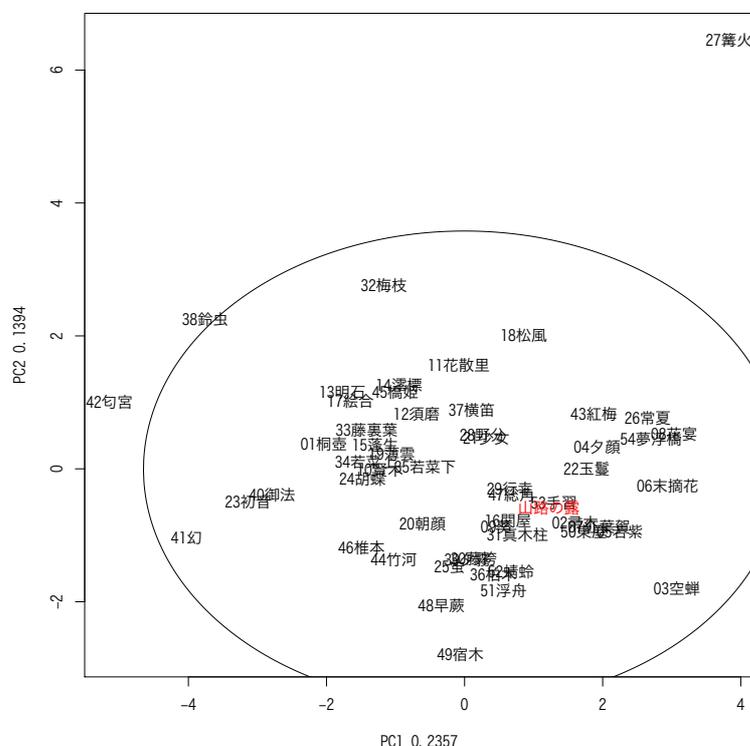


図 3.10 助詞における出現頻度上位 15 語の主成分分析の結果

助動詞の両作品を通じた延べ語数は 44673、異なり語数は 28 である。出現頻度が 1000 を超える出現頻度上位 12 語について主成分分析を行った。よって、出現頻度上位 12 語は出現頻度が 1285 以上の語が該当し、累積頻度は 39456 であり、総度数に対する割合は 88.3%となる。主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 3.12 に示す通りであり、『山路の露』は『源氏物語』の諸巻と混在し、むしろ『山路の露』より「花散里」や「関屋」が外れて付置される。

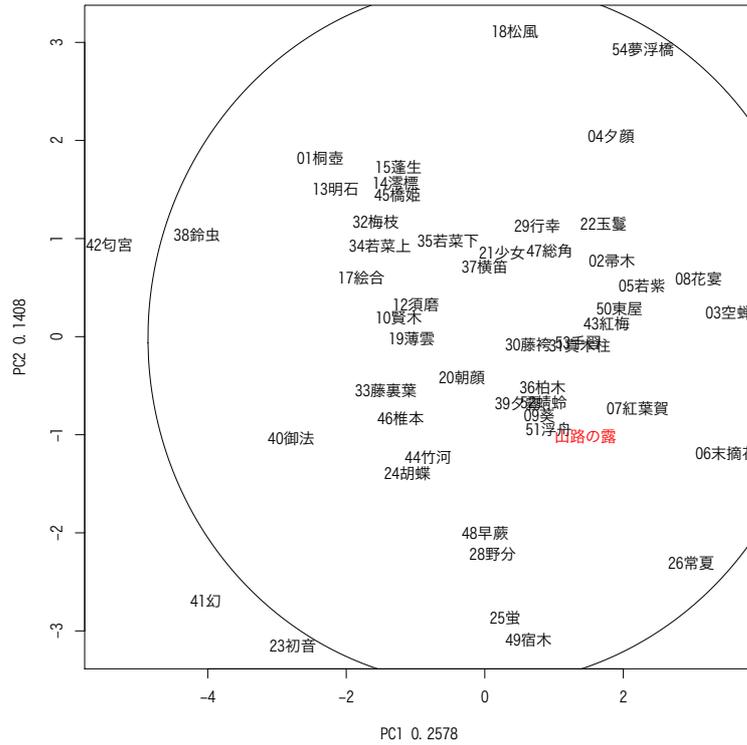


図 3.11 3 卷を除外した助詞の出現頻度上位 15 語の主成分分析の結果

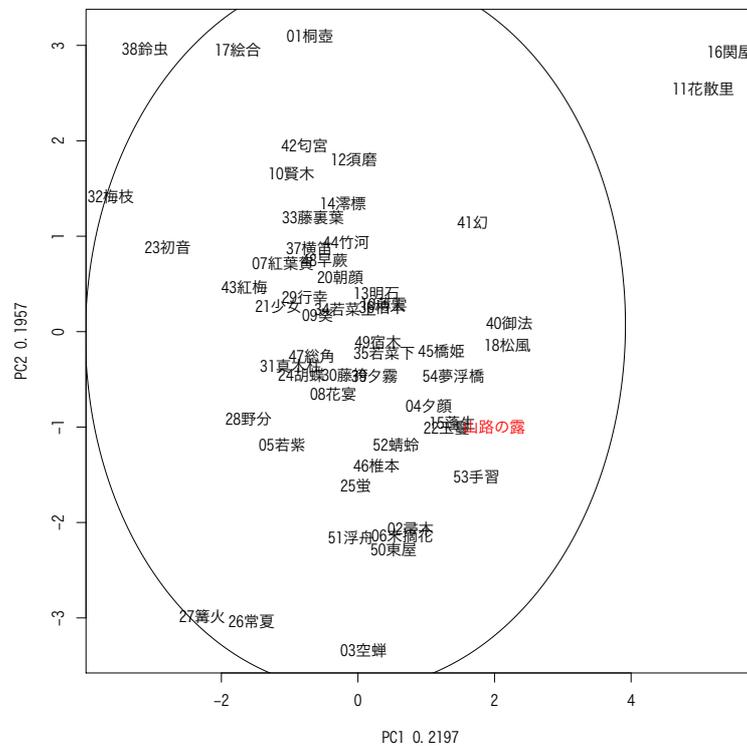


図 3.12 助動詞における出現頻度上位 12 語の主成分分析の結果

このように、出現頻度上位 12 語の分析において、延べ語数が 1000 語未満の分析対象が外れ値となることから、「花散里」「関屋」「篝火」の 3 巻を分析対象から除外し、あらためて主成分分析を行った。よって、出現頻度が 1000 を超える出現頻度上位 12 語について主成分分析を行った。累積頻度は 39220 であり、総度数に対する割合は 88.3%となる。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 3.13 に示す通りであり、『源氏物語』と『山路の露』は混在し、両作品の間に助動詞の出現傾向の相違は認められない。

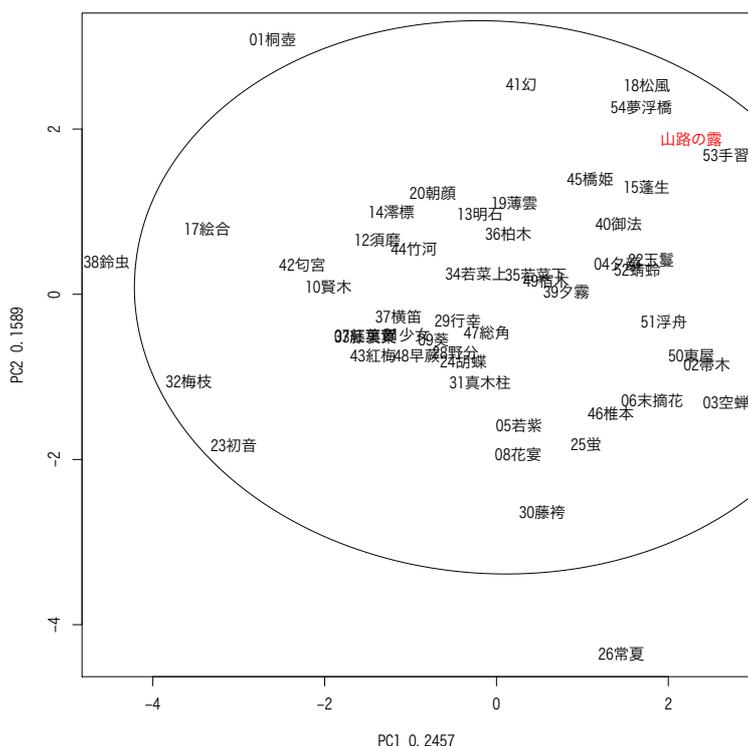


図 3.13 延べ語数の少ない 3 巻を除外した助動詞の出現頻度上位 12 語の主成分分析の結果

以上の分析において、出現頻度が 1000 を超える高頻度語彙を中心に主成分分析を行ったとき、『源氏物語』と『山路の露』の間に助動詞の出現傾向に相違は認められない。しかし、その一方で、出現頻度が 2 以上となる出現頻度上位 27 語について、主成分分析を行ったところ、『山路の露』は『源氏物語』と分離して付置される。分析に用いた出現頻度上位 27 語は、累積頻度が 44672 であり、総度数に対する割合もおよそ 100%となる。図 3.14 は第 1 主成分と第 2 主成分の散布図であり、『山路の露』は第 1 主成分の主成分得点が『源氏物語』の多くの巻より小さく、『源氏物語』の多くの巻から分離して付置されると考えられるが、『源氏物語』の「関屋」が『山路の露』の付近に位置する。しかし、延べ語数が少ない「関屋」の第 1 主成分の主成分得点は-5.65 となり、『山路の露』の-5.49 を下回る。よって、延べ語数が 1000 語を割り込む 3 巻を分析対象から除外し、あらためて主成分分析を行う。

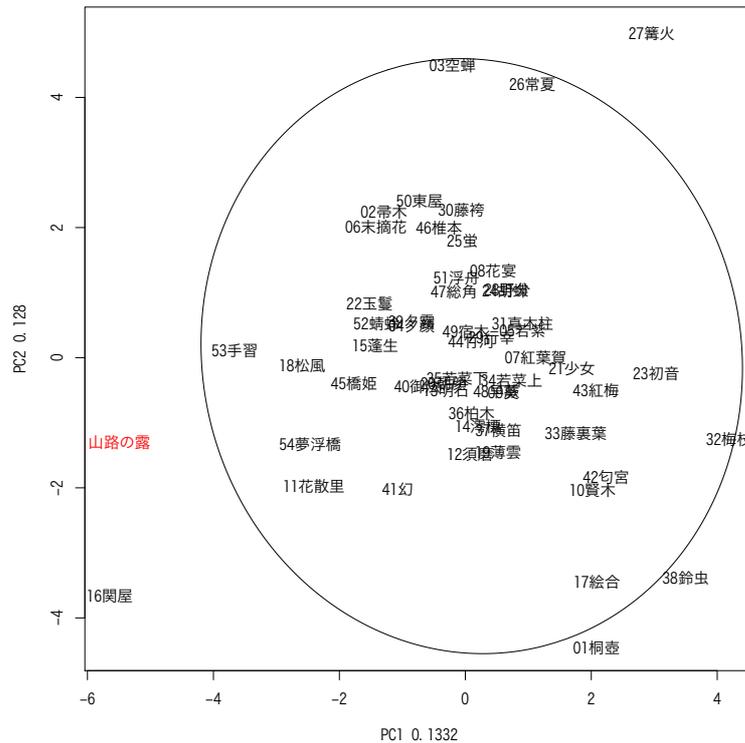


図 3.14 助動詞における出現頻度上位 27 語の主成分分析の結果

表 3.5 助動詞出現頻度上位 27 語の第 2 主成分の因子負荷量上位 5 語および下位 5 語

下位 5 語	PC1	PC2	上位 5 語	PC1	PC2
キ	-0.0843	-0.4246	ナリ	-0.1991	0.3196
ムズ	-0.1404	-0.3479	リ	0.3151	0.2405
ラルル	-0.0997	-0.3159	メリ	-0.1226	0.2320
マホシ	0.0571	-0.2199	マス	-0.0603	0.2218
ヌ	-0.1714	-0.2198	マジ	-0.1257	0.1854

延べ語数が 1000 語未満の 3 巻を分析対象から除外した場合も『山路の露』は『源氏物語』から分離して付置される。主成分分析には同様に出現頻度上位 27 語を用いた。累積頻度は 44409 であり、総度数に対する割合もおおよそ 100%である。分析結果は図 3.15 に示す通りである。『山路の露』は第 2 主成分の主成分得点が最も小さいことから、表 3.5 に示した第 2 主成分の因子負荷量の小さい「き」「むず」「らるる」の出現頻度が相対的に多く、因子負荷量の大きい「なり」の出現頻度が相対的に少ないという特徴を有すると考えられる。

このように低頻度語彙を含め、主成分分析を行ったとき、両作品の間に助動詞の出現傾向の相違は認められ、「むず」「らるる」という低頻度語彙、および「き」という高頻度語彙が『山路の露』に特徴的に頻出していると言える。

『源氏物語』と『山路の露』においてあらわれる語の頻度を分析項目として採り上げたとき、機能語である助動詞の低頻度語彙に両作品間における出現傾向の相違が認められたが、顕著な相違とは言えず、語の頻度という観点において『源氏物語』と『山路の露』は類似した傾向を有していると考えられる。

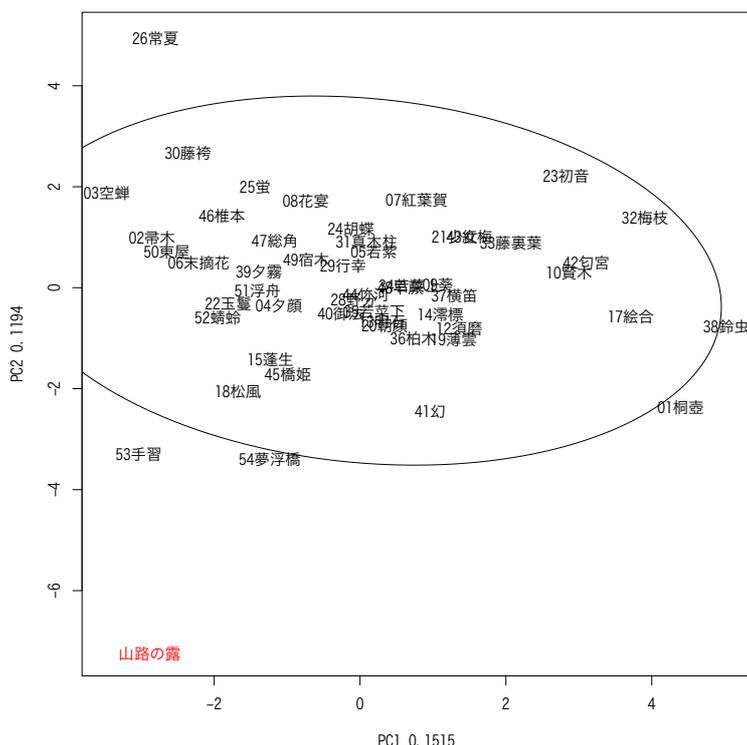


図 3.15 延べ語数の少ない 3 巻を除外した助動詞の出現頻度上位 27 語の主成分分析の結果

### 2.2.2 『雲隠六帖』の語の頻度

次いで、『雲隠六帖』を採り上げた。まず、品詞別の分析を行う前に『源氏物語』および『雲隠六帖』の異なり語数および延べ語数は表 3.6 の通りである。助詞の両作品を通じた延べ語数は 121653、異なり語数は 58 である。そこで、出現頻度が 1000 以上となる出現頻度上位 15 について主成分分析を行った。出現頻度上位 15 語は頻度 1369 以上の語彙が該当し、累積頻度は 112357 であり、総度数に対する割合は 92.4%となる。図 3.16 は主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図であり、「篝火」が外れて付置されるが、『雲隠六帖』は『源氏物語』と混在する。

表 3.6 品詞別の異なり語数および延べ語数

	源氏物語		雲隠六帖		合計	
	異なり語数	延べ語数	異なり語数	延べ語数	異なり語数	延べ語数
名詞	5922	65697	509	1150	6028	66847
代名詞	46	2254	13	36	46	2290
動詞	5286	62897	402	923	5339	63820
補助動詞	7	19414	6	329	7	19743
形容詞	840	22263	135	287	850	22550
形容動詞	687	9063	47	85	689	9148
副詞	273	15616	59	191	278	15807
感動詞	15	260	4	6	15	266
連体詞	11	2.106	4	46	11	2.152
助詞	56	119694	45	1959	58	121653
助動詞	26	43624	22	532	26	44156

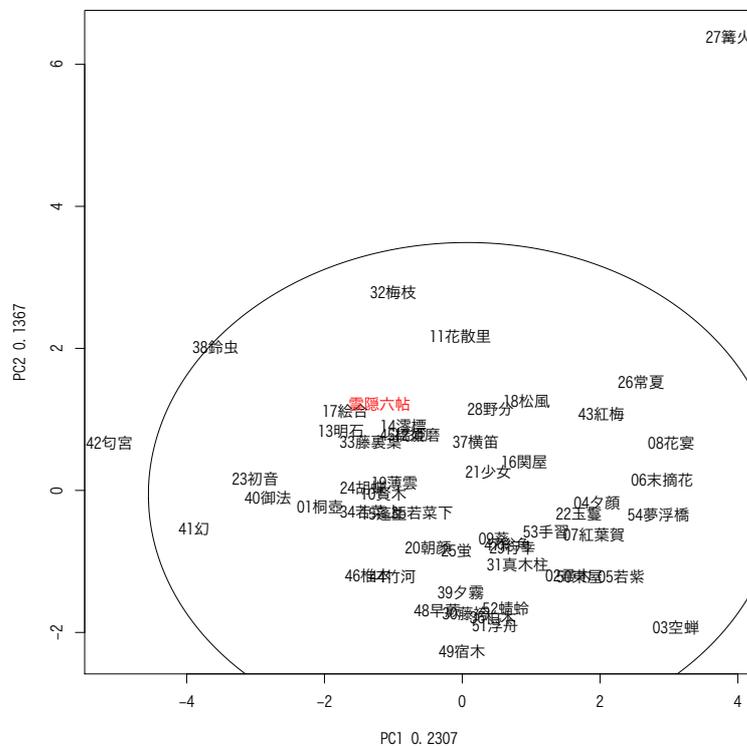


図 3.16 助詞における出現頻度上位 15 語の主成分分析の結果

また、「篝火」が外れ値となったことから、延べ語数が1000語未満の3巻を分析から除外し、あらためて分析を加えた。出現頻度が1000を超える語彙は出現頻度上位15語であり、出現頻度1364以上の語彙が該当し、累積頻度は111655であり、総度数に対して92.4%を占める。主成分分析によって求められた第1主成分と第2主成分の散布図は図3.17に示す通りである。図3.17においても『雲隠六帖』は『源氏物語』の諸巻から顕著に外れて付置することはないが、第2主成分の主成分得点は最も小さく、『雲隠六帖』は『源氏物語』の諸巻と混在するとは言いがたい。よって、両作品の間における助詞の出現傾向に顕著な相違があるとは言えない。

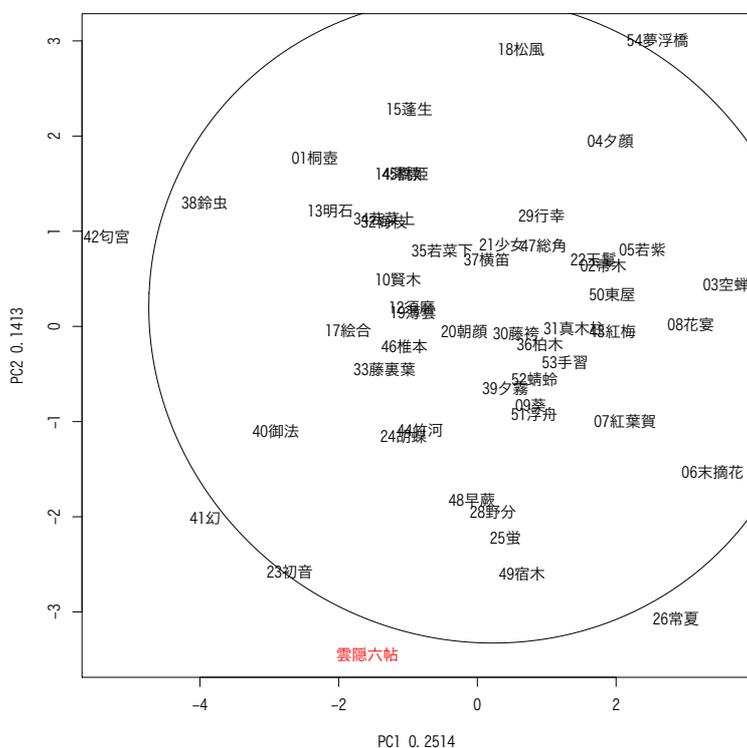


図 3.17 3巻を除外した助詞における出現頻度上位15語の主成分分析の結果

次に、助動詞の両作品を通じた延べ語数は44156、異なり語数は26である。出現頻度が1000を超える出現頻度上位12語について主成分分析を行った。出現頻度上位12語は出現頻度が1285以上の語彙が該当し、累積頻度は39001であり、総度数に対する割合は88.3%となる。主成分分析によって求められた第1主成分と第2主成分の散布図は図3.18に示す通りであり、『雲隠六帖』より「花散里」や「関屋」が外れて付置される。延べ語数が1000語未満の「花散里」「関屋」の2巻が外れることから、延べ語数の少ない3巻を分析対象から除外し、あらためて主成分分析を行った。

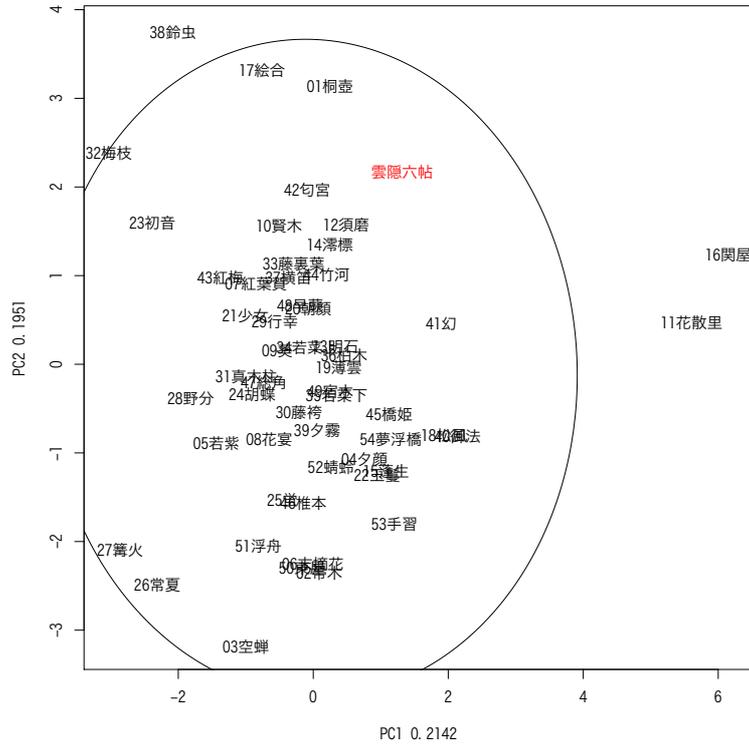


図 3.18 助動詞における出現頻度上位 12 語の主成分分析の結果

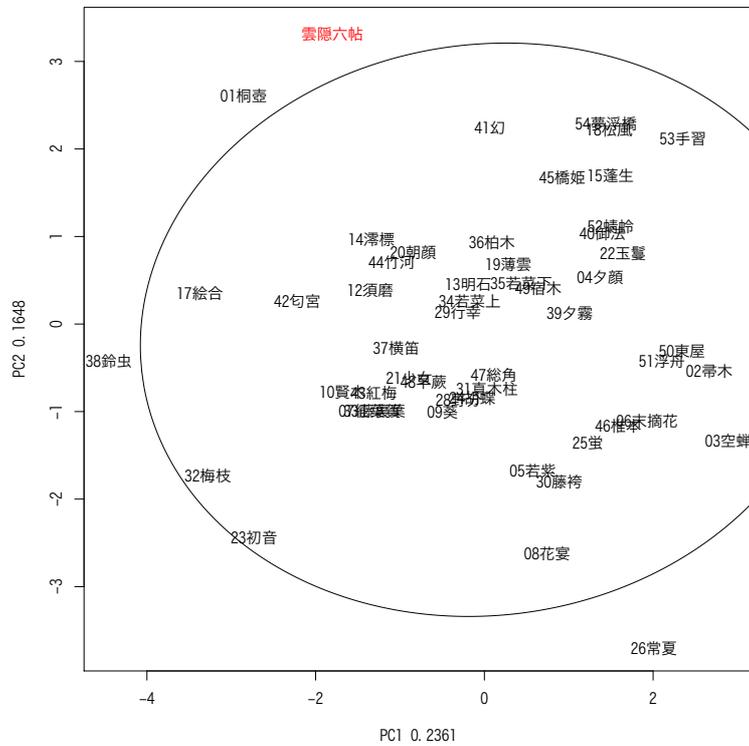


図 3.19 延べ語数の少ない 3 巻を除外した助動詞の出現頻度上位 12 語の主成分分析の結果

上記の3巻を分析対象から除外し、出現頻度が1000を超える出現頻度上位12語について主成分分析を行った。累積頻度は38765であり、総度数に対する割合は88.3%となる。第1主成分と第2主成分の散布図は図3.19に示す通りであり、『雲隠六帖』は『源氏物語』の諸巻から顕著に外れて付置することはないが、第2主成分の主成分得点は最も大きく、『雲隠六帖』は『源氏物語』の諸巻と混在するとは言いがたい。このように、助動詞の分析において、『源氏物語』と『雲隠六帖』の間に助動詞の出現傾向に相違は認められないが、『雲隠六帖』は『源氏物語』の多くの巻とは混在しない。したがって、『雲隠六帖』の助動詞の出現傾向は『源氏物語』の傾向に類似しているが、顕著な相違は認められないと考えられる。

『源氏物語』と『雲隠六帖』においてあらわれる語の頻度を分析項目として採り上げたとき、機能語である助詞と助動詞に両作品間における出現傾向の相違が認められたが、顕著な相違とは言えず、語の頻度という観点において『源氏物語』と『雲隠六帖』は類似した傾向を有していると考えられる。ただし、延べ語数が1000語を下回る3巻を除外した場合に、『雲隠六帖』は『源氏物語』の95%信頼楕円の外に付置される。

### 2.2.3 『手枕』の語の頻度

最後に、『源氏物語』および『手枕』における語の頻度について分析を行った。まず、『源氏物語』と『手枕』の異なり語数および延べ語数は表3.7に示す通りである。助詞の両作品を通じた延べ語数は120393、異なり語数は57である。出現頻度が1000以上となる出現頻度上位15語について主成分分析を行った。出現頻度上位15語は頻度1349以上の語彙が該当し、累積頻度は111198であり、総度数に対する割合は92.4%となる。図3.20は主成分分析によって求められた第1主成分と第2主成分の散布図であり、「篝火」が外れて付置されるが、『手枕』は『源氏物語』と混在する。また、延べ語数が1000語を割り込む「篝火」が外れ値となったことから、延べ語数が1000語未満の3巻を分析から除外し、分析を加えた。出現頻度が1000を超える語彙は出現頻度上位15語であり、頻度1344以上の語彙が該当し、累積頻度は110496であり、総度数に対して92.4%を占める。主成分分析によって求められた第1主成分と第2主成分の散布図は図3.21に示す通りであり、図3.21においても『手枕』は『源氏物語』の諸巻から分離せず、混在する。このように、両作品の間に助詞の出現傾向に顕著な相違は認められない。

ただし、『手枕』も『山路の露』と同様に低頻度語彙を含めて分析を行うと、『源氏物語』の95%信頼楕円の外に位置する。主成分分析に用いたのは出現頻度が2以上となる出現頻度上位55語である。出現頻度上位55語の累積頻度120391であり、総度数に対する割合もおよそ100%となる。主成分分析によって求められた第1主成分と第2主成分の散布図は図3.99に示す通りであり、『手枕』は『源氏物語』の諸巻から分離して付置される。

表 3.7 品詞別の異なり語数および延べ語数

	源氏物語		手枕		合計	
	異なり語数	延べ語数	異なり語数	延べ語数	異なり語数	延べ語数
名詞	5922	65697	204	407	5929	66104
代名詞	46	2254	3	4	46	2258
動詞	5286	62897	22.1	337	5300	63234
補助動詞	7	19414	5	109	7	19523
形容詞	840	22263	111	184	844	22447
形容動詞	687	9063	38	66	688	9129
副詞	273	15616	35	101	273	15717
感動詞	15	260	2	2	15	262
連体詞	11	2.106	4	10	11	2.116
助詞	56	119694	35	699	57	120393
助動詞	26	43624	22	203	27	43827

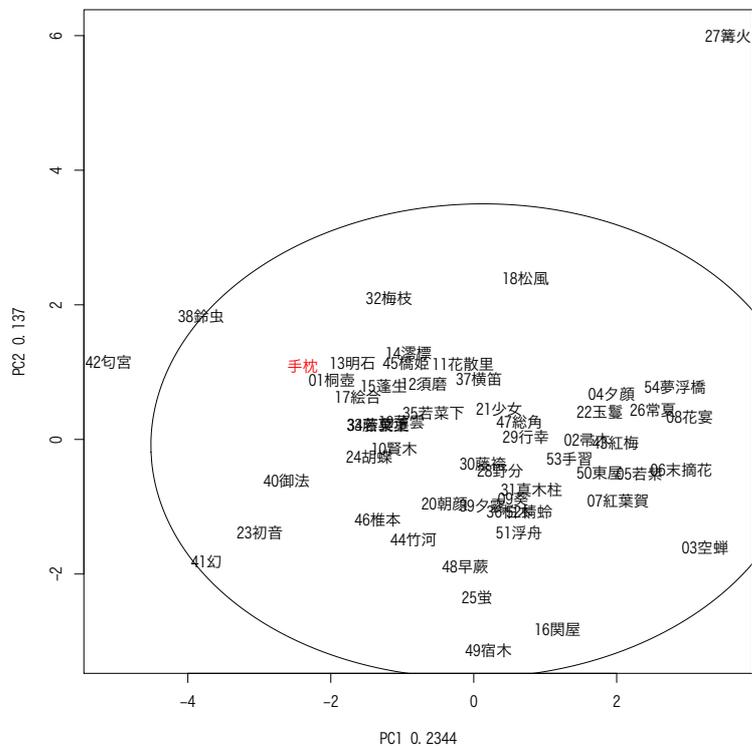


図 3.20 助詞における出現頻度上位 15 語の主成分分析の結果

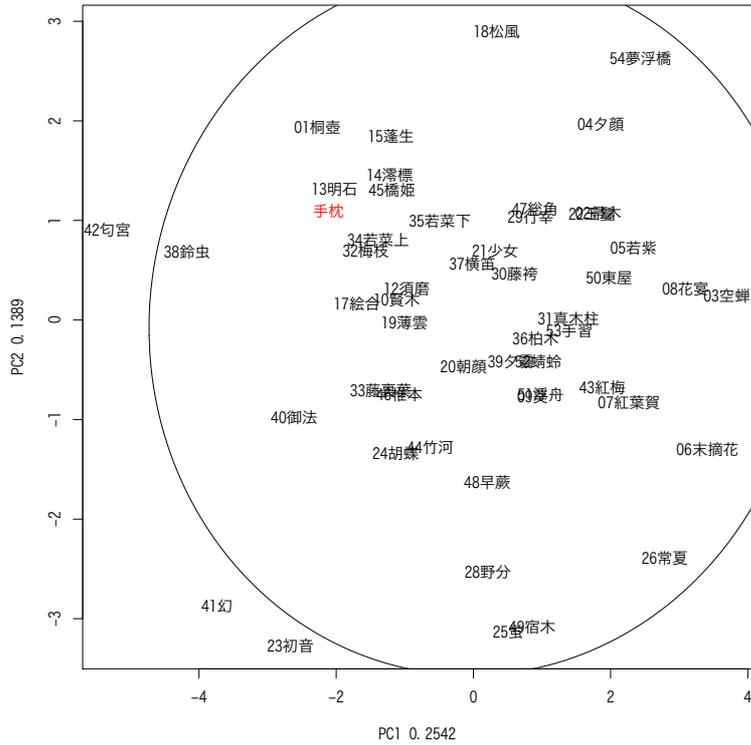


図 3.21 延べ語数の少ない 3 巻を除外した助詞の出現頻度上位 15 語の主成分分析の結果

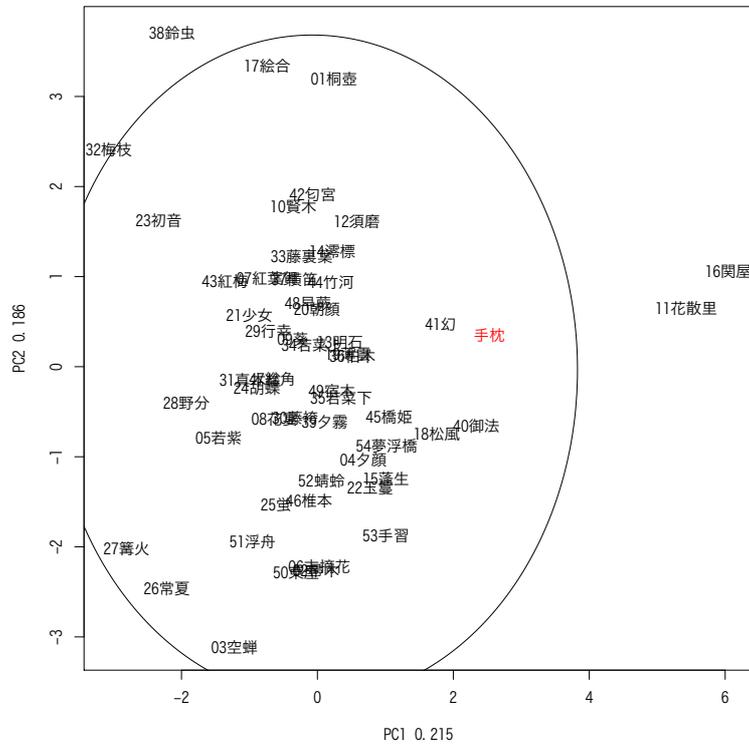


図 3.22 助動詞における出現頻度上位 12 語の主成分分析の結果

最後に、助動詞の両作品を通じた延べ語数は 43827、異なり語数は 27 である。出現頻度が 1000 を超える出現頻度上位 12 語について主成分分析を行った。出現頻度上位 12 語は出現頻度が 1272 以上の語彙が該当し、累積頻度は 38702 であり、総度数に対する割合は 88.3% となる。主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 3.22 に示す通りであり、『手枕』は『源氏物語』の諸巻と混在し、『手枕』より「花散里」や「関屋」が外れて付置される。よって、延べ語数が 1000 語未満の「花散里」「関屋」「篝火」の 3 巻を分析対象から除外し、あらためて主成分分析を行う。

延べ語数が 1000 語未満の 3 巻を分析対象から除外し、出現頻度が 1000 を超える出現頻度上位 12 語について主成分分析を行った。出現頻度上位 12 語は頻度 1268 以上の語彙が該当し、累積頻度は 38466 であり、総度数に対する割合は 88.3% となる。第 1 主成分と第 2 主成分のバイプロットは図 3.23 に示す通りであり、『源氏物語』と『手枕』は分離して付置され、両作品の間における助動詞の出現傾向に相違が認められる。また、図 3.23 より「る」「ぬ」「き」が特徴的に『手枕』に出現していると考えられる。

このように、助動詞の分析において、『源氏物語』と『手枕』の間において助動詞の出現傾向に相違が認められる。「る」「ぬ」「き」といった助動詞が『手枕』に特徴的に頻出していると言える。

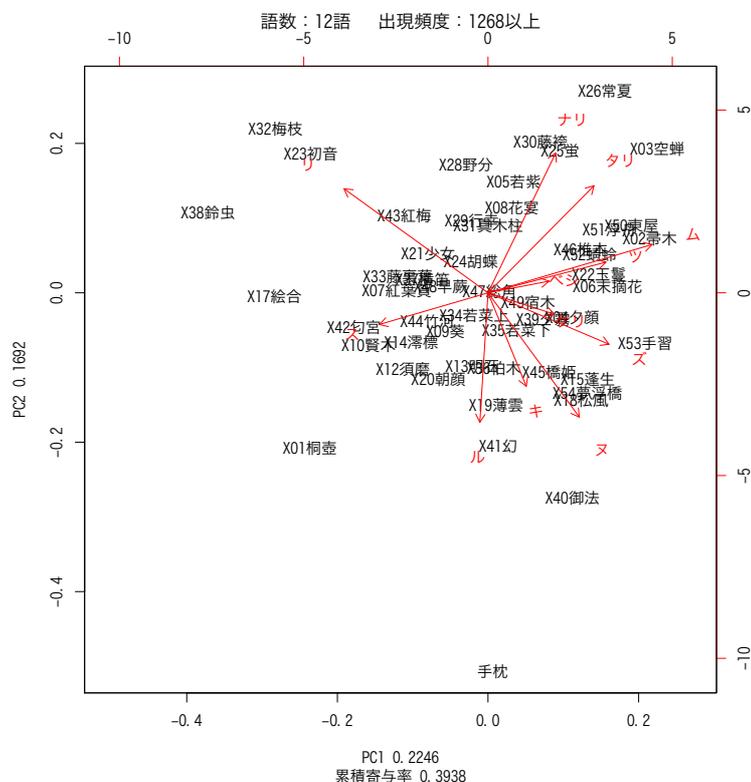


図 3.23 3 巻を除外した助動詞の出現頻度上位 12 語のバイプロット

『源氏物語』と『手枕』においてあらわれる語の頻度を分析項目として採り上げたとき、助詞においては両作品の間に顕著な語の出現傾向の相違は認められなかったが、助動詞の語の出現傾向については両作品間における語の出現傾向の相違が認められた。これは『雲隠六帖』と『源氏物語』について分析を行ったときと同様に、延べ語数が1000語未満となる3巻を除外したときにより顕著となった。

#### 2.2.4 考察

『源氏物語』と『山路の露』との間においては、語の出現傾向に顕著な相違が認められた品詞は助動詞である。ただし、これは低頻度語彙を含めなければ、助動詞の語の頻度についての分析においても、『山路の露』は『源氏物語』の95%信頼楕円に内包される。

また、『源氏物語』と『雲隠六帖』との間においては、延べ語数が1000語未満となる3巻を分析対象から除外したときに、助詞と助動詞のどちらにおいても『源氏物語』の95%信頼楕円の外側に位置する。『源氏物語』と『手枕』との間においては、『源氏物語』と『雲隠六帖』に対する分析結果と同様に、延べ語数が1000語未満となる3巻を除外したときに助動詞の出現傾向に相違が認められた。これに加えて、『源氏物語』と『山路の露』について行った分析結果と同様に、低頻度語彙を含め助詞の語の頻度について主成分分析を行ったところ、『手枕』は『源氏物語』の95%信頼楕円の外に位置した。よって、『源氏物語』と『手枕』の間においても、助詞と助動詞のどちらの品詞においても語の出現傾向が相違すると考えられる。

このように、擬作3作品に共通して『源氏物語』との間に助動詞の出現率に相違が認められた。これは『源氏物語』と『宇津保物語』との間においても認められた傾向である。したがって、助動詞の出現傾向に作者の量的特徴があらわれると考えられる。また、『雲隠六帖』および『手枕』と『源氏物語』との間においては、助詞の出現率にも傾向の相違が認められた。これは助動詞についての分析と同様に、『源氏物語』と『宇津保物語』との間においても認められた傾向である。助詞の出現傾向に関しては、『源氏物語』と『山路の露』との間に、顕著な出現傾向の相違が認められなかったが、以上の分析結果から助動詞に次いで作者の識別に有効な分析項目であると考えられる。

#### 2.3 語の長さ

『源氏物語』および『宇津保物語』を用いた分析と同様に、擬作3作品においても語の長さについて分析を行った。分析は採り上げる作品別の語の長さの分布をした後に、巻ごとに語の長さを集計し、『源氏物語』と擬作との間における語の長さの傾向について検討を加えた。分析

に用いる品詞は動詞・形容詞・形容動詞の 3 品詞であり、主成分分析における変数選択では、総度数に対して 90%以上になることを目安とした。

### 2.2.1 『山路の露』の語の長さ

動詞は語の長さの分析において、『源氏物語』と『宇津保物語』の間に顕著な傾向の相違が認められた品詞である。『源氏物語』と『山路の露』における動詞の語の集計結果は図 3.24 に示す通りである。両作品ともに長さ 3 に出現率のピークがあり、長さ 3 においては『源氏物語』の出現率が『山路の露』の出現率を上回るが、長さ 2 および長さ 4 から長さ 6 においては『山路の露』の出現率が『源氏物語』の出現率を上回る。したがって、両作品の語の長さの分布は異なる傾向を有していると考えられる。

次に、巻ごとに語の長さを集計した。長さ 2 から長さ 6 までの 5 変数において総度数の 92.7% となり 90%を超えることから、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 3.25 に示す通りであり、『源氏物語』の諸巻と『山路の露』は混在し、両作品の間において語の長さの分布の傾向に顕著な相違は認められない。

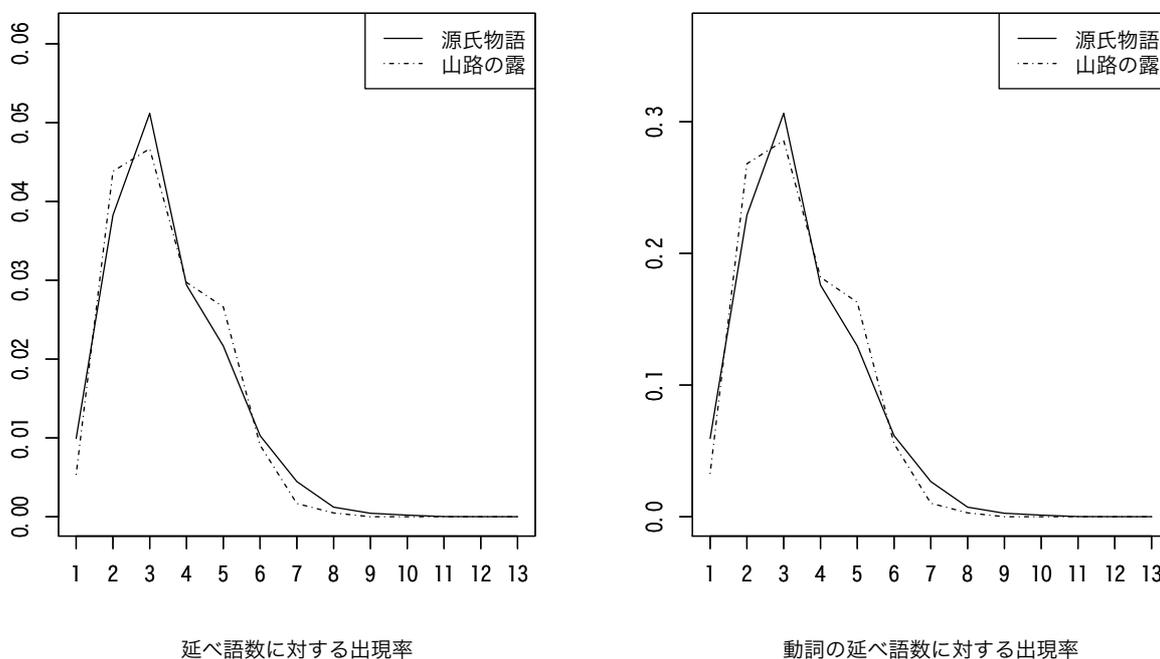


図 3.24 『源氏物語』および『山路の露』における動詞の語の長さの分布

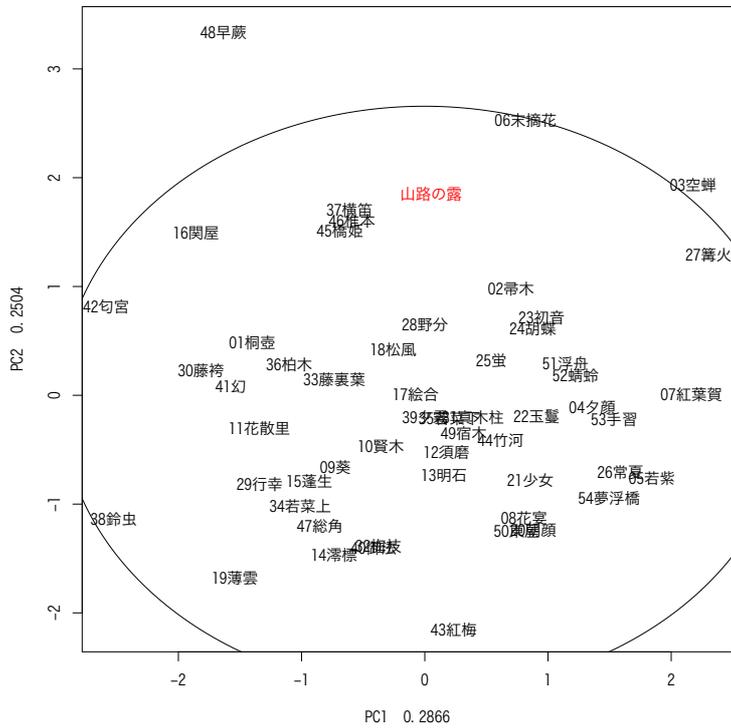


図 3.25 5 変数を用いた動詞の語の長さの主成分分析

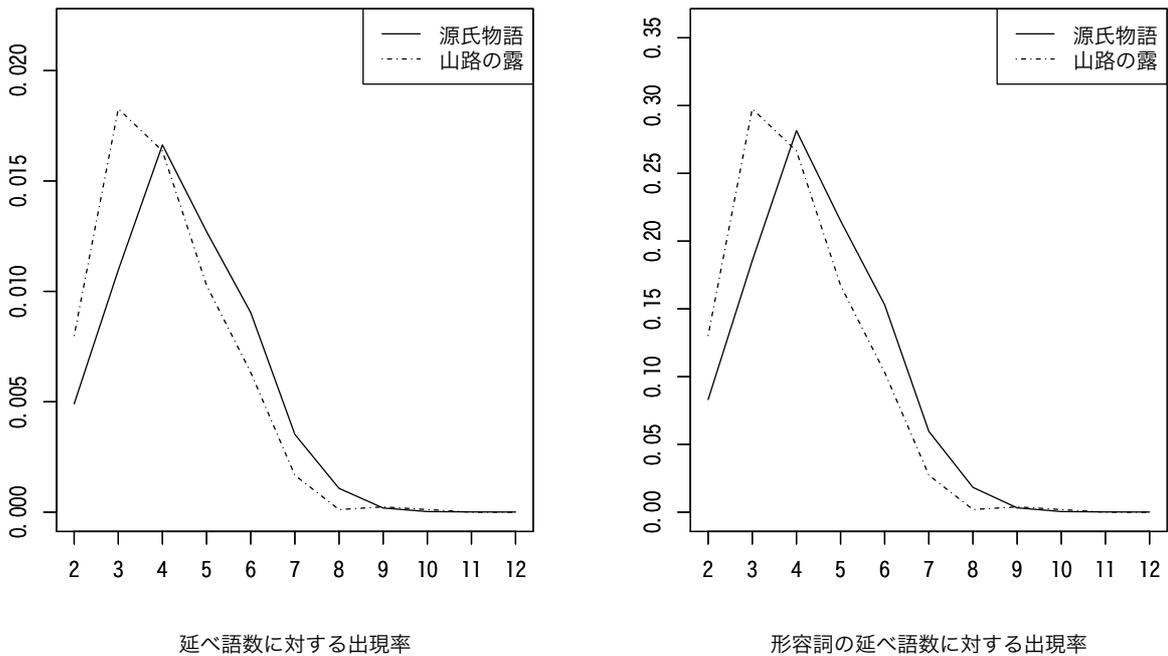


図 3.26 『源氏物語』 および 『山路の露』 における形容詞の語の長さの分布

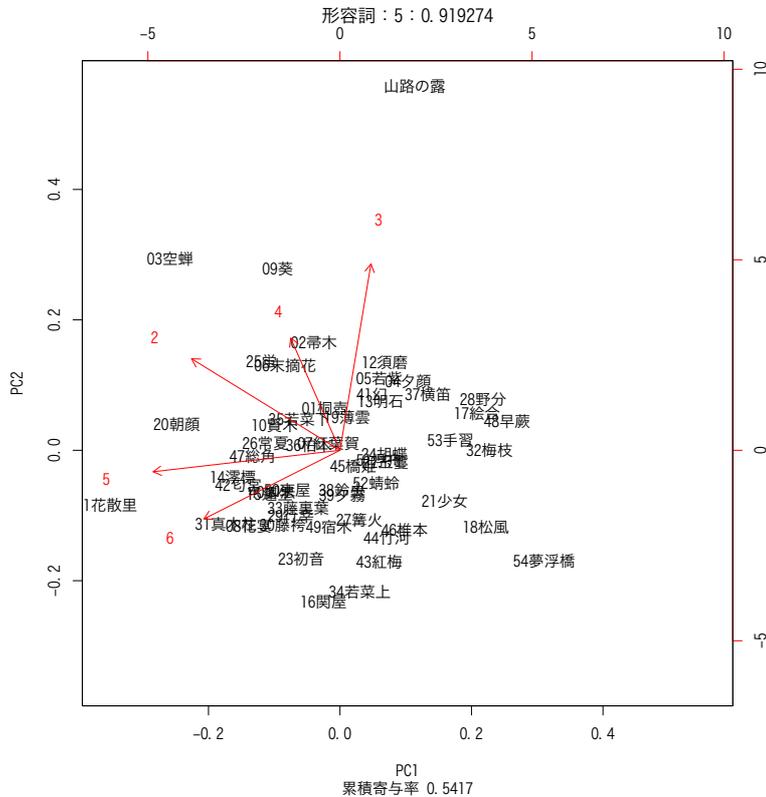
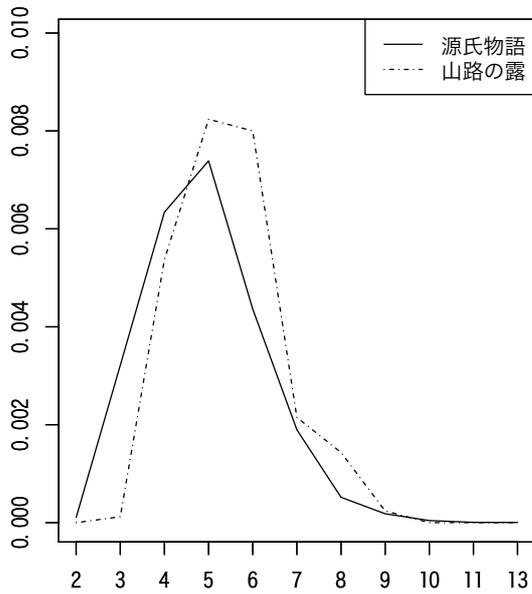


図 3.27 5 変数を用いた形容詞の語の長さの主成分分析

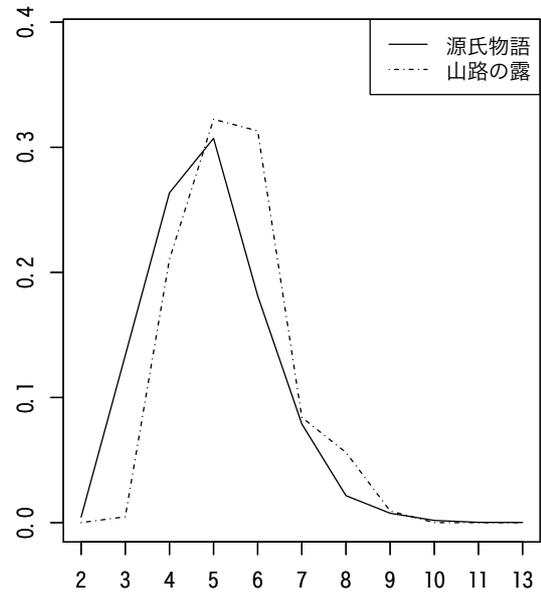
両作品における形容詞の語の集計結果は図 3.26 に示す通りである。『山路の露』の出現率は長さ 2 および長さ 3 において『源氏物語』の出現率を上回り、長さ 3 において出現率のピークとなる。その一方で、『源氏物語』の出現率のピークは長さ 4 であり、長さ 4 から長さ 8 まで『山路の露』の出現率を上回る。このように、両作品の間に語の長さの分布の傾向の相違があると考えられる。

次に、巻ごとに形容詞の語の長さを集計し分析を行った。長さ 2 から長さ 6 までの 5 変数において総度数の 91.9%となるため、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 3.27 に示す通りであり、『源氏物語』の付置される領域に『山路の露』は含まれない。したがって、主成分分析においても両作品の間における語の長さの分布の傾向に相違が認められ、3 文字の形容詞が相対的に『山路の露』に頻出していると言える。

形容動詞の語の集計結果は図 3.28 に示す通りである。両作品ともに長さ 5 における出現率がピークとなる。しかし、長さ 3 においては『源氏物語』の出現率が『山路の露』の出現率を大きく上回り、長さ 6 においては『山路の露』の出現率が『源氏物語』の出現率を上回ることから、両作品の間には語の長さの分布の傾向が相違すると考えられる。



延べ語数に対する出現率



形容動詞の延べ語数に対する出現率

図 3.28 『源氏物語』および『山路の露』における形容動詞の語の長さの分布

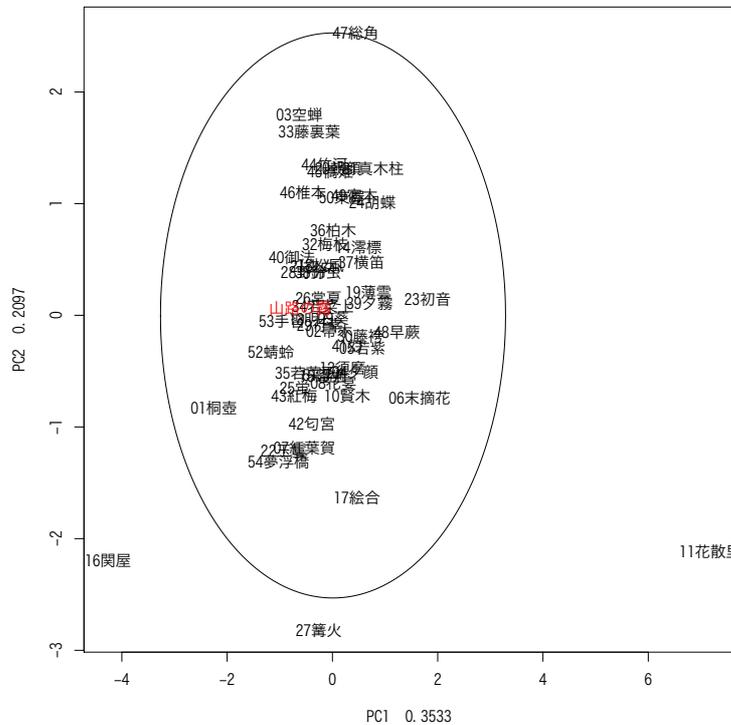


図 3.29 5変数を用いた形容動詞の語の長さの主成分分析

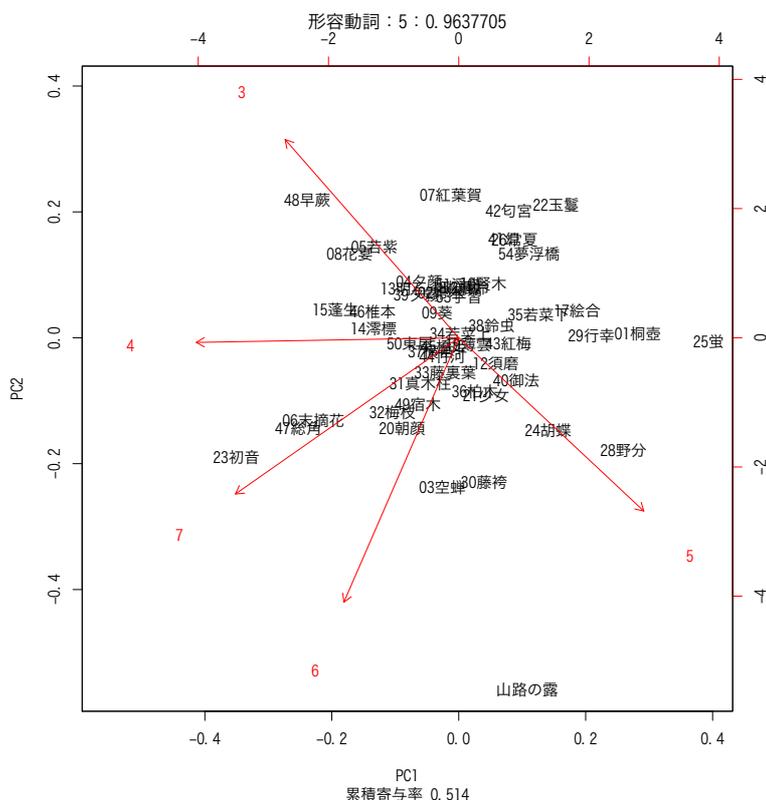


図 3.30 総度数の少ない 3 巻を除いた 5 変数を用いた形容動詞の語の長さの主成分分析

次に、巻ごとに語の長さを集計したところ、長さ 3 から長さ 7 までの 5 変数において総度数の 96.4%となるため、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 3.29 に示す通りであり、『源氏物語』と『山路の露』は混在する。ただし、図 3.29 において『源氏物語』の「花散里」「関屋」「篝火」の 3 巻が『源氏物語』の 95%信頼楕円の外に付置されることから、これら 3 巻を分析対象から除き、あらためて分析を加えた。総度数の少ない 3 巻を除外したときも、長さ 3 から長さ 7 までの 5 変数において総度数の 96.4%となり、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 3.30 に示す通りであり、『源氏物語』の諸巻と『山路の露』は分離して配置される。したがって、形容動詞においても両作品の間における語の長さの分布の傾向に相違があると考えられる。また、変数を減らしても『源氏物語』の諸巻と『山路の露』が混在することはない。

以上の分析において、『源氏物語』および『山路の露』を分析対象として採り上げ、両作品の語の長さの分布について計量的な検討を加えた。分析の結果、形容詞・形容動詞の語の長さの分布に顕著な相違が認められたと考えられる。これら 2 品詞は『源氏物語』と『宇津保物語』との間においても語の長さの分布に相違が認められた品詞であることから、『源氏物語』との作者の識別には有効な品詞であると考えられる。また、『源氏物語』と『宇津保物語』との間にお

いては動詞の語の長さの分布も顕著な相違が認められたが、『源氏物語』と『山路の露』との間においては顕著な相違は認められなかった。また、助動詞の語の長さにおいても形容詞や形容動詞に比べて顕著ではないと考えられるが、両作品の間に傾向の相違が認められた。

形容詞の分析結果から、『山路の露』は長さ3の語が『源氏物語』に比べ相対的に多く出現しており、長さ4から長さ6までの語が『源氏物語』の諸巻に相対的に多く出現していると考えられる。次いで、形容動詞の分析結果から、『山路の露』は長さ5および長さ6の語が『源氏物語』に比べ多く出現しており、『源氏物語』は長さ3の語が相対的に多く出現していると考えられる。

### 2.2.2 『雲隠六帖』の語の長さ

次いで、『雲隠六帖』を採り上げる。『源氏物語』と『雲隠六帖』における動詞の語の集計結果は図3.31に示す通りである。両作品ともに長さ3に出現率のピークがあり、長さ2および長さ3においては『雲隠六帖』の出現率が『源氏物語』の出現率を上回るが、長さ4以降においては『雲隠六帖』の出現率が『源氏物語』の出現率をおおよそ上回る。

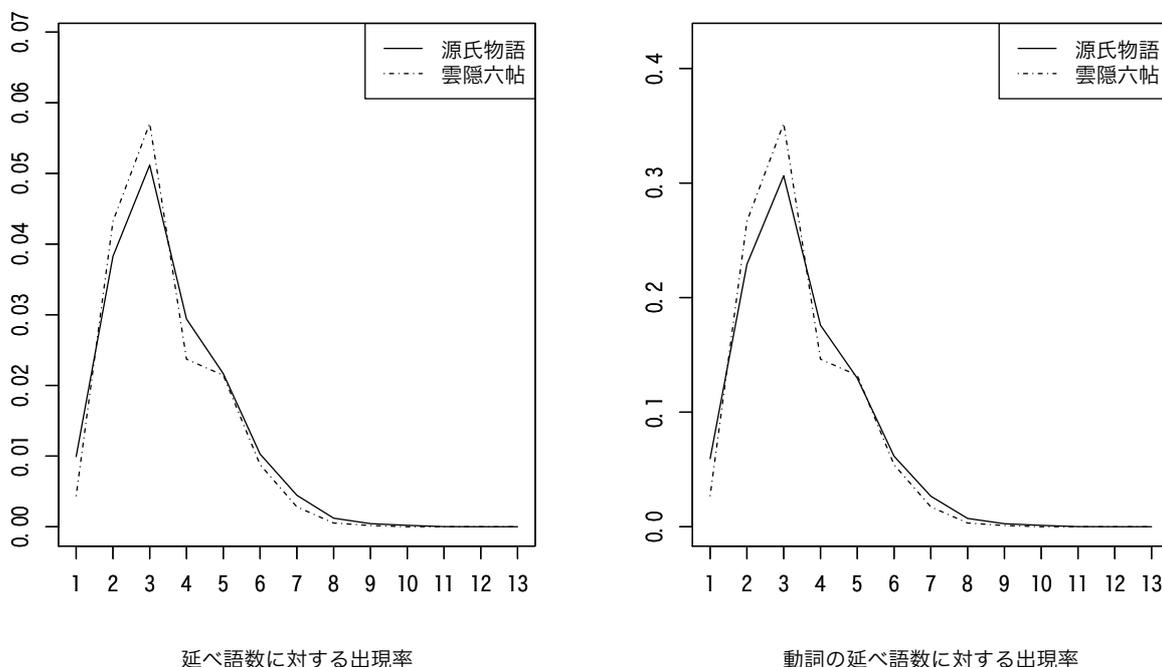


図 3.31 『源氏物語』および『雲隠六帖』における動詞の語の長さの分布

次に、巻ごとに動詞の語の長さを集計したところ、長さ 2 から長さ 6 までの 5 変数において総度数の 90.3% となり、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 3.32 に示す通りであり、『源氏物語』の諸巻と『雲隠六帖』は混在し、両作品の間において語の長さの分布の傾向に顕著な相違は認められない。また、変数の数を増減させても『雲隠六帖』が『源氏物語』の諸巻から分離して付置されることはない。

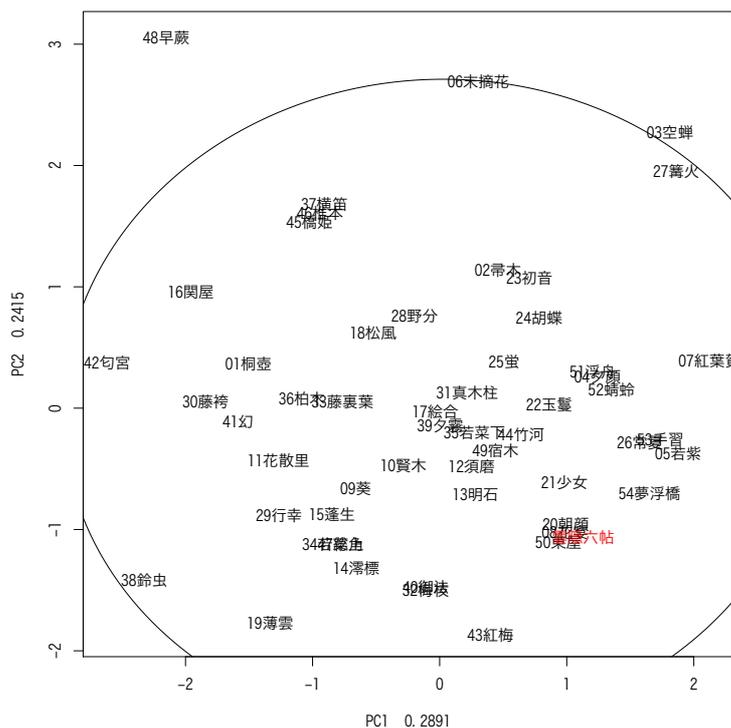


図 3.32 5 変数を用いた動詞の語の長さの主成分分析

両作品における形容詞の語の集計結果は図 3.33 に示す通りである。『雲隠六帖』の出現率は長さ 2 および長さ 3 において『源氏物語』の出現率を上回り、長さ 3 において出現率のピークとなる。その一方で、『源氏物語』の出現率のピークは長さ 4 であり、長さ 4 以降において『雲隠六帖』の出現率を上回る。

次に、巻ごとに形容詞の語の長さを集計したところ、長さ 2 から長さ 6 までの 5 変数において総度数の 91.9% となるため、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 3.34 に示す通りであり、『源氏物語』の 95% 信頼楕円に『雲隠六帖』は含まれず、『源氏物語』の諸巻から外れて付置される。したがって、主成分分析においても両作品の間における語の長さの分布の傾向に顕著な相違があると考えられる。また、変数を増減しても『源氏物語』の諸巻と『雲隠六帖』が混在することはない。したがって、両作品の間におけ

る語の長さの分布の傾向に顕著な相違があると考えられる。

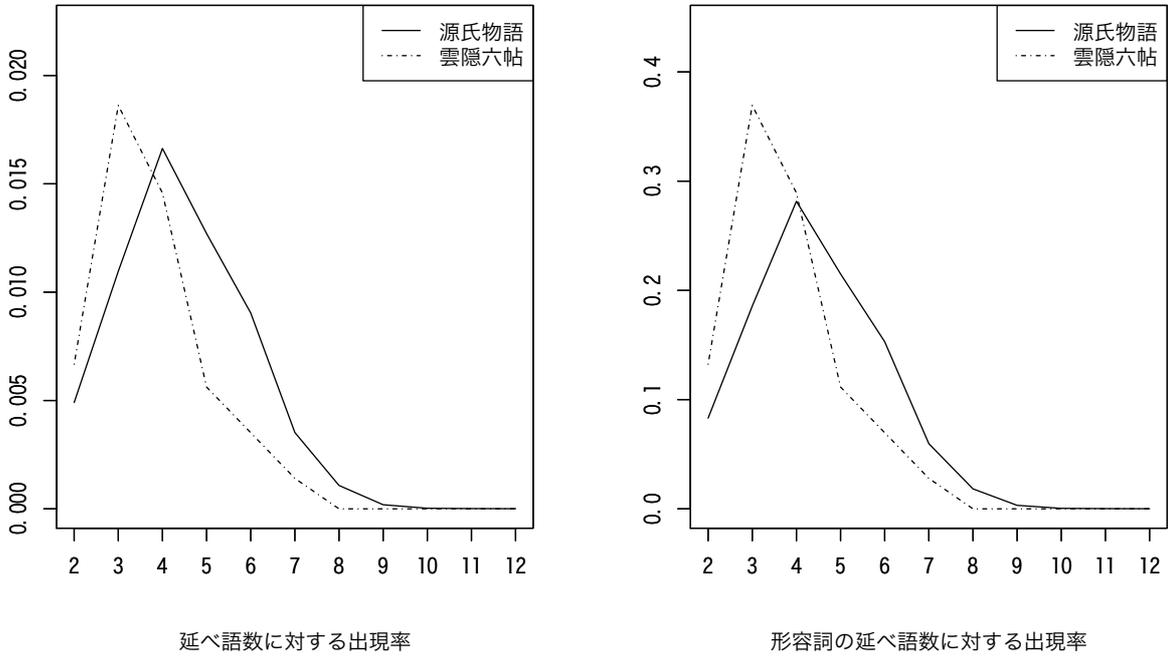


図 3.33 『源氏物語』および『雲隠六帖』における形容詞の語の長さの分布

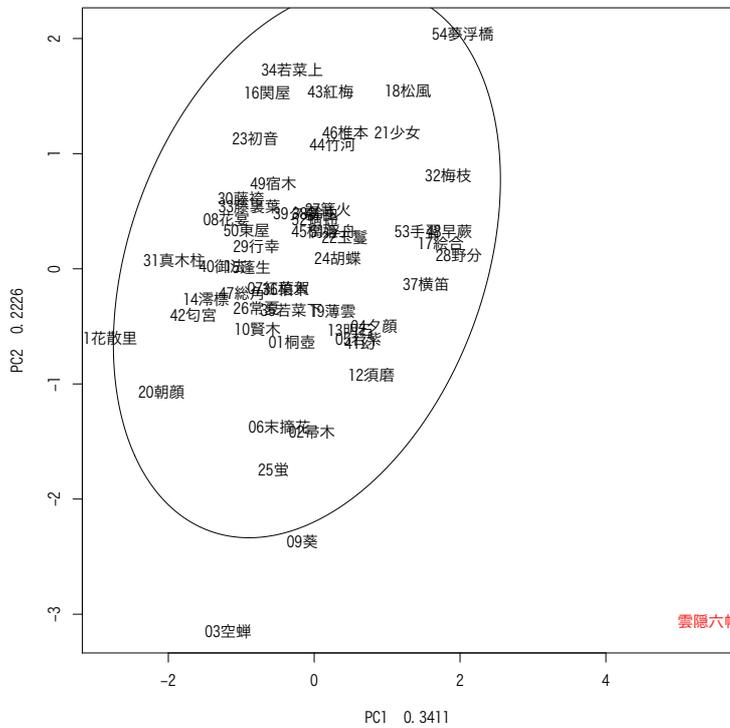


図 3.34 5 変数を用いた形容詞の語の長さの主成分分析の結果

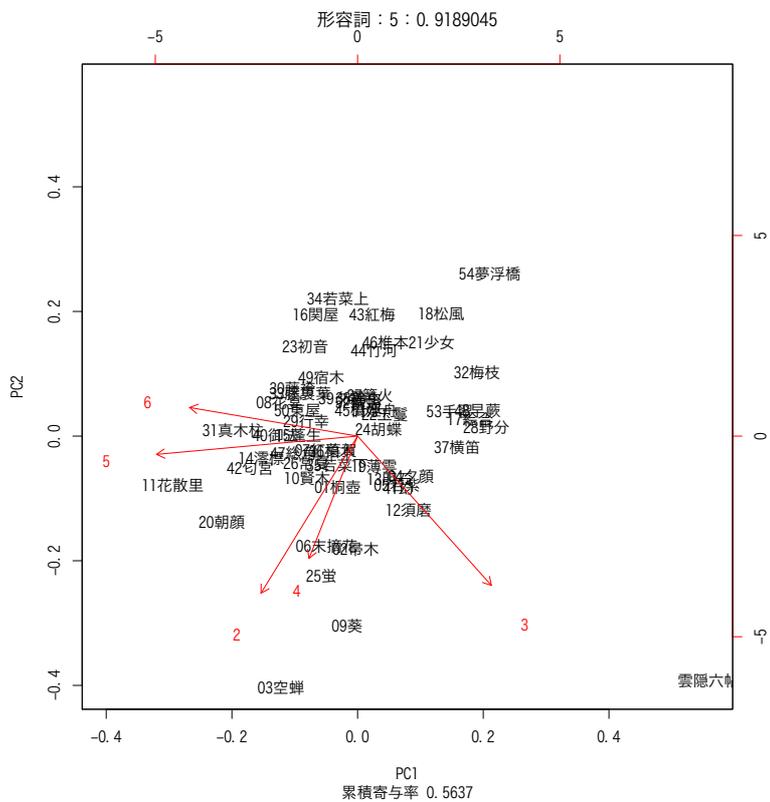
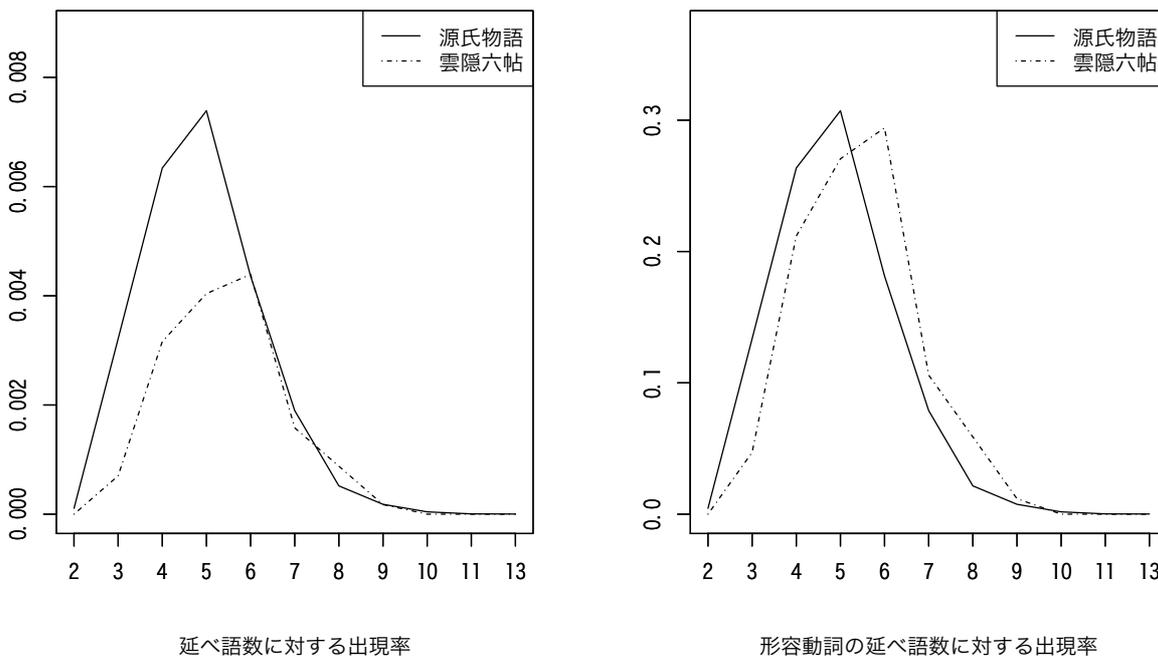


図 3.35 5 変数を用いた形容詞の語の長さのバイプロット



延べ語数に対する出現率

形容動詞の延べ語数に対する出現率

図 3.36 『源氏物語』および『雲隠六帖』における形容動詞の語の長さの分布

最後に、形容動詞の語の集計結果は図 3.36 に示す通りである。図 3.36 に示したように、『源氏物語』は長さ 5 において出現率のピークとなり、『雲隠六帖』は長さ 6 において出現率がピークとなる。また、長さ 6 以降は『源氏物語』および『雲隠六帖』の語の長さの分布はおおよそ同様であるが、長さ 2 から長さ 5 までは両作品において異なる傾向を有していると考えられる。

次に、巻ごとに語の長さを集計したところ、長さ 3 から長さ 7 までの 5 変数において総度数の 96.4% となるため、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 3.37 に示す通りであり、『雲隠六帖』はおおよそ『源氏物語』の 95% 信頼楕円に包含される。ただし、図 3.37 において『源氏物語』の「花散里」「関屋」「篝火」の 3 巻が『源氏物語』の 95% 信頼楕円の外に付置されることから、これら 3 巻を分析対象から除き、あらためて分析を加えた。総度数の少ない 3 巻を除外したときも、長さ 3 から長さ 7 までの 5 変数において総度数の 96.4% となり、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 3.38 に示す通りであり、『雲隠六帖』は『源氏物語』の 95% 信頼楕円の外側に配置される。したがって、両作品の間において語の長さの分布の傾向に相違が認められると言える。

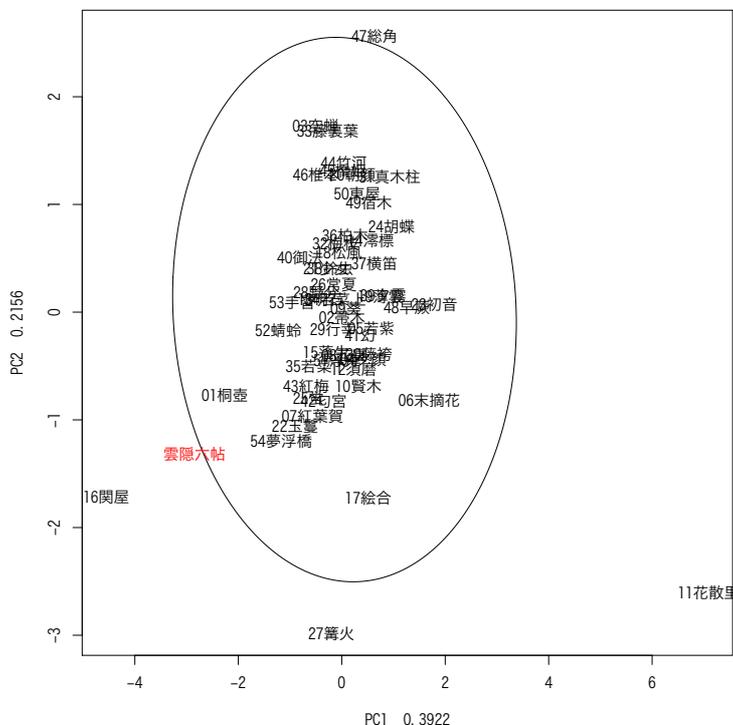


図 3.37 5 変数を用いた形容動詞の語の長さの主成分分析

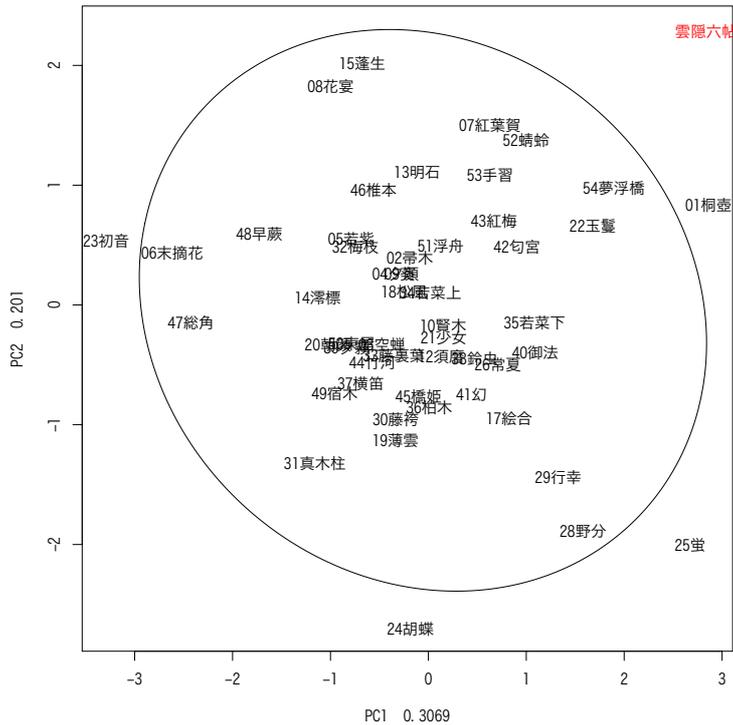


図 3.38 総度数の少ない 3 巻を除いた 5 変数を用いた形容動詞の語の長さの主成分分析

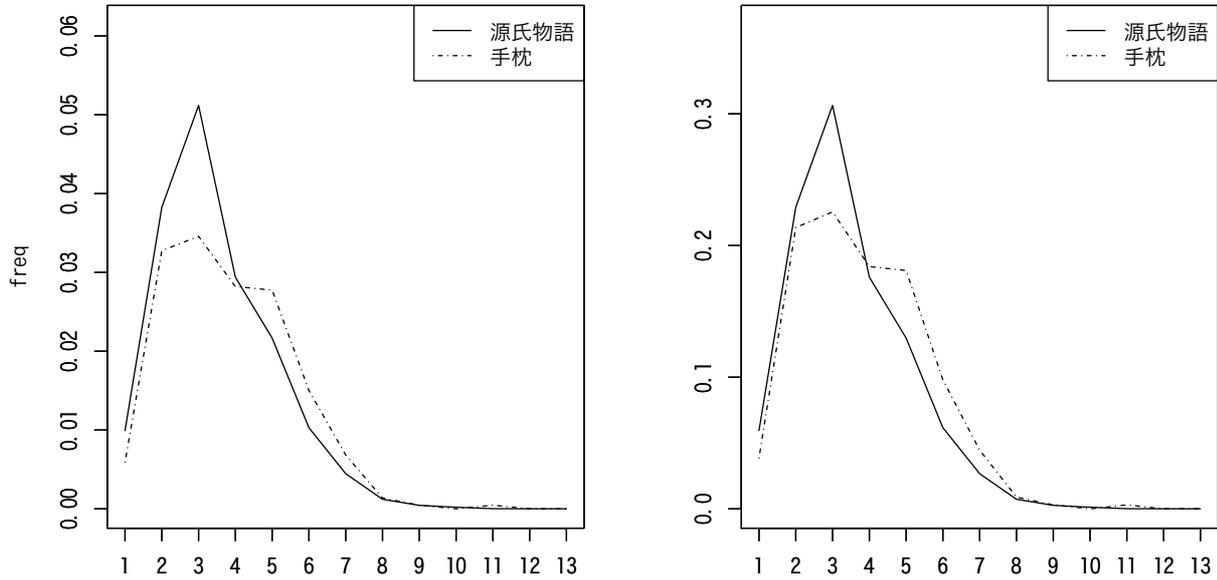
『源氏物語』および『雲隠六帖』を分析対象として採り上げ、両作品の語の長さの分布について計量的に検討を加えた。分析の結果、『源氏物語』と『宇津保物語』との間において量的傾向の相違が認められた動詞の語の長さにおいて、顕著な傾向の相違は認められない。しかし、その一方で、形容詞の語の長さの分布に顕著な相違が認められたと考えられる。形容詞の語の長さ分布については、『源氏物語』と『宇津保物語』、『源氏物語』と『山路の露』との間においても相違が認められた。

形容詞の分析結果から、『雲隠六帖』は長さ 3 の語が『源氏物語』に比べ相対的に多く出現しており、長さ 5 および長さ 6 の語が『源氏物語』の諸巻に相対的に多く出現していると考えられる。次いで、形容動詞の分析においては、延べ語数の少ない 3 巻を除外したときに、両作品間において量的傾向の相違が認められる。

### 2.2.3 『手枕』の語の長さ

最後に、『手枕』を採り上げる。『源氏物語』と『手枕』における動詞の語の集計結果は図 3.39 に示す通りである。両作品ともに長さ 3 に出現率のピークがあり、長さ 1 から長さ 4 までの水準においては『源氏物語』の出現率が『手枕』の出現率を上回るが、長さ 5 から長さ 9 までの水準においては『源氏物語』の出現率が『手枕』の出現率を上回る。このように、作品別に語

の長さを集計すると、両作品の間に傾向の相違が認められると言える。



延べ語数に対する出現率

動詞の延べ語数に対する出現率

図 3.39 『源氏物語』および『手枕』における動詞の語の長さの分布

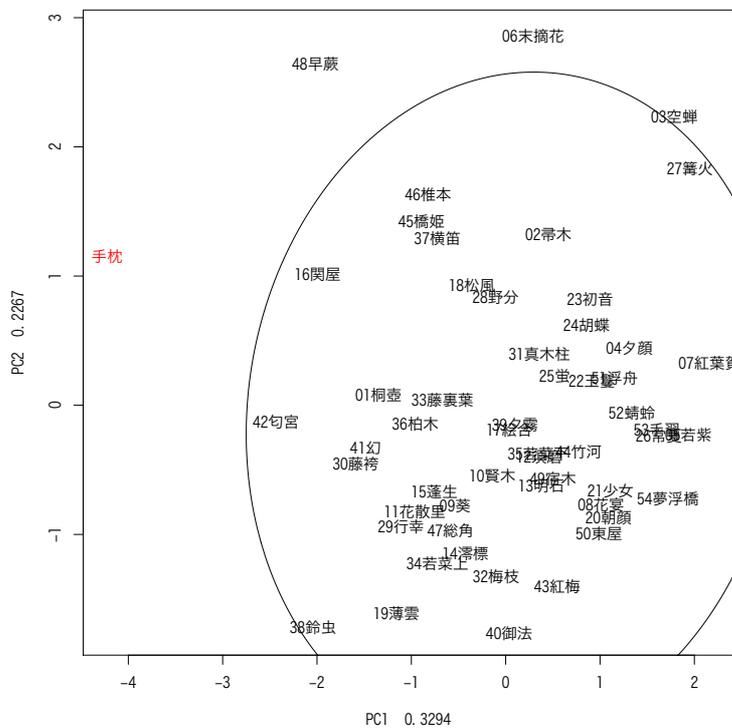


図 3.40 5 変数を用いた動詞の語の長さの主成分分析

次に、巻ごとに語の長さを集計したところ、長さ2から長さ6までの5変数において総度数の90.3%となり、これら5変数について主成分分析を行った。第1主成分と第2主成分の散布図は図3.40に示す通りであり、『手枕』は『源氏物語』の95%信頼楕円から外れて付置される。したがって、両作品の間において語の長さの分布の傾向に相違が認められると考えられる。また、変数の数を増減させても『手枕』が『源氏物語』の諸巻に混在することはない。

両作品における形容詞の語の集計結果は図3.41に示す通りである。『手枕』の出現率は長さ2から長さ6までの水準において『源氏物語』の出現率を上回り、長さ3において出現率のピークとなる。『源氏物語』の出現率のピークも長さ3であるが、図3.41に示すように出現率に乖離が認められる。このように、両作品の間に顕著な語の長さの分布の傾向の相違が認められると考えられる。

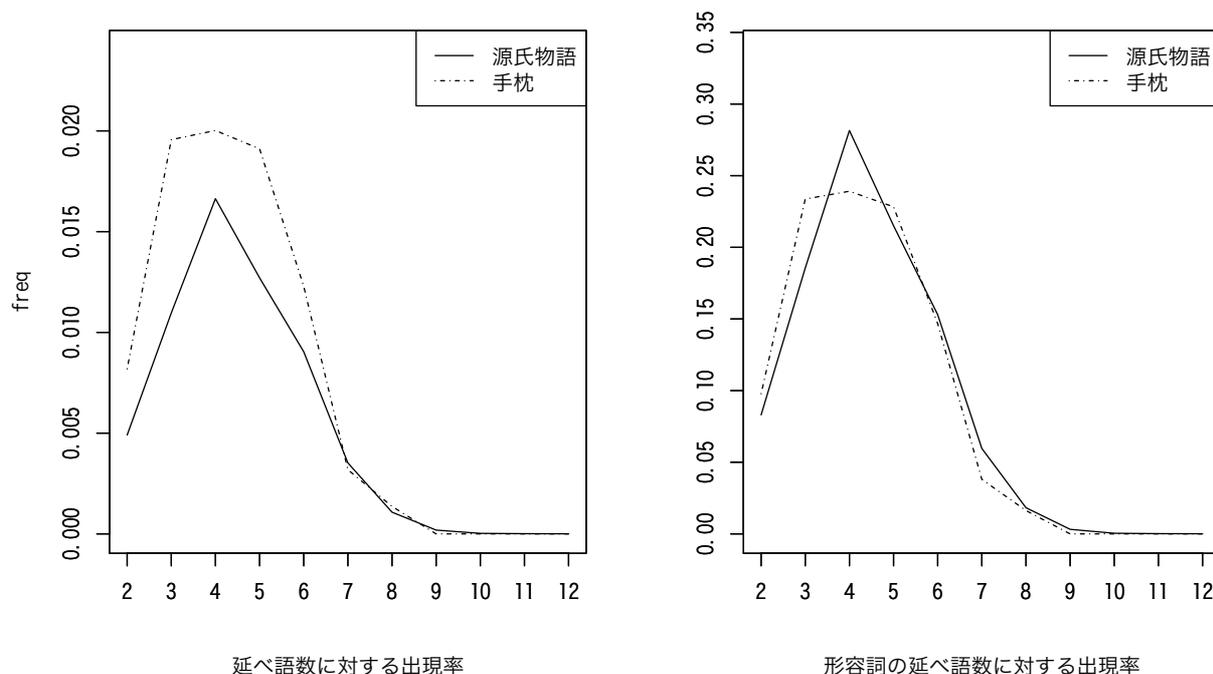


図3.41 『源氏物語』および『手枕』における形容詞の語の長さの分布

次に、巻ごとに語の長さを集計したところ、長さ2から長さ6までの5変数において総度数の91.8%となるため、これら5変数について主成分分析を行った。第1主成分と第2主成分の散布図は図3.42に示す通りであり、『手枕』は『源氏物語』の諸巻から外れて付置される。したがって、主成分分析においても両作品の間における語の長さの分布の傾向に顕著な相違があると考えられる。また、変数を増減しても『源氏物語』の諸巻と『手枕』が混在することはない。したがって、両作品の間における語の長さの分布の傾向に相違があると考えられる。

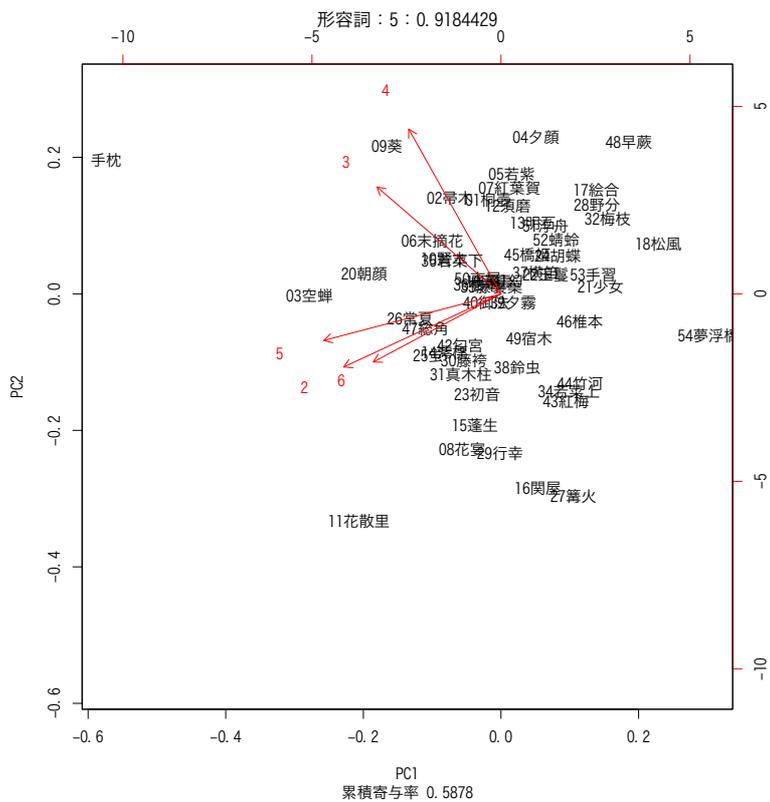


図 3.42 5 変数を用いた形容詞の語の長さの主成分分析

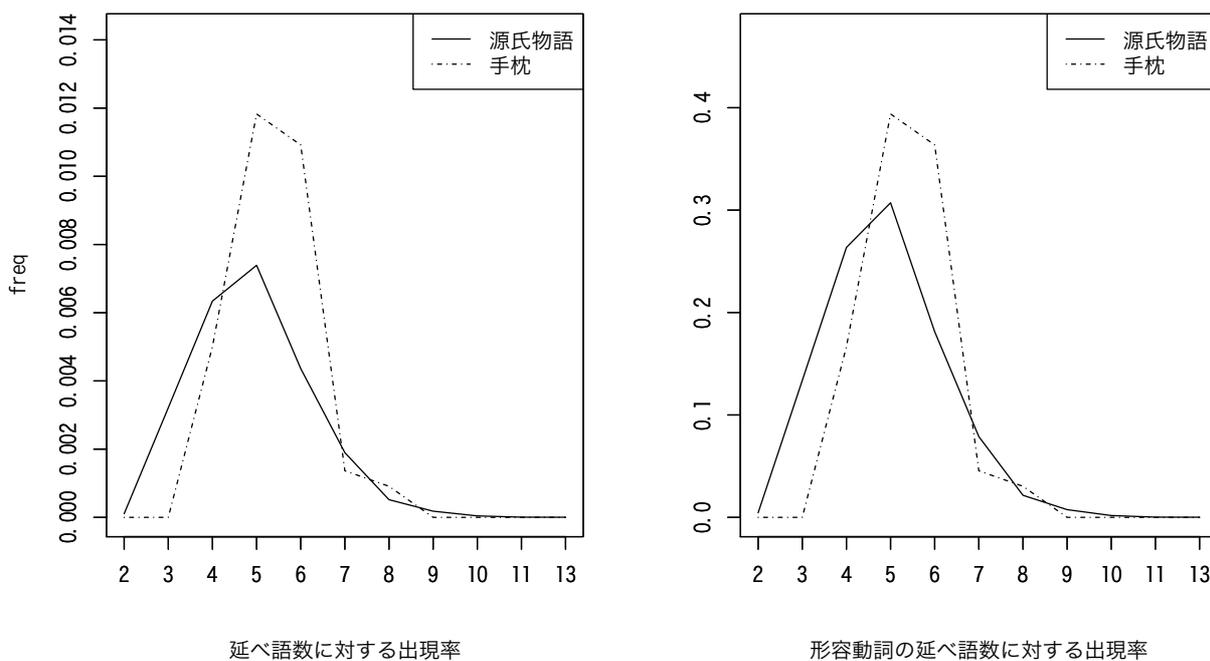


図 3.43 『源氏物語』および『手枕』における形容動詞の語の長さの分布

両作品における形容動詞の語の集計結果は図 3.43 に示す通りである。図 3.43 に示したように、両作品ともに長さ 5 において出現率のピークとなるが、『手枕』は長さ 2 および長さ 3 における出現率は 0 であり、長さ 5 および長さ 6 においては『源氏物語』における出現率を大きく上回る。したがって、作品別に語の長さを集計したとき、両作品の間において語の長さの分布における傾向に顕著な相違が認められると考えられる。

次いで、巻ごとに語の長さを集計したところ、長さ 3 から長さ 7 までの 5 変数において総度数の 96.4% となるため、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 3.44 に示す通りであり、『手枕』は『源氏物語』の 95% 信頼楕円から外れて付置される。したがって、両作品の間において語の長さの分布の傾向に顕著な相違が認められると言える。また、主成分分析の結果から、『手枕』は『源氏物語』の諸巻と比べ、長さ 5 の語が相対的に頻出しており、長さ 7 の語の出現率が低いと言える。

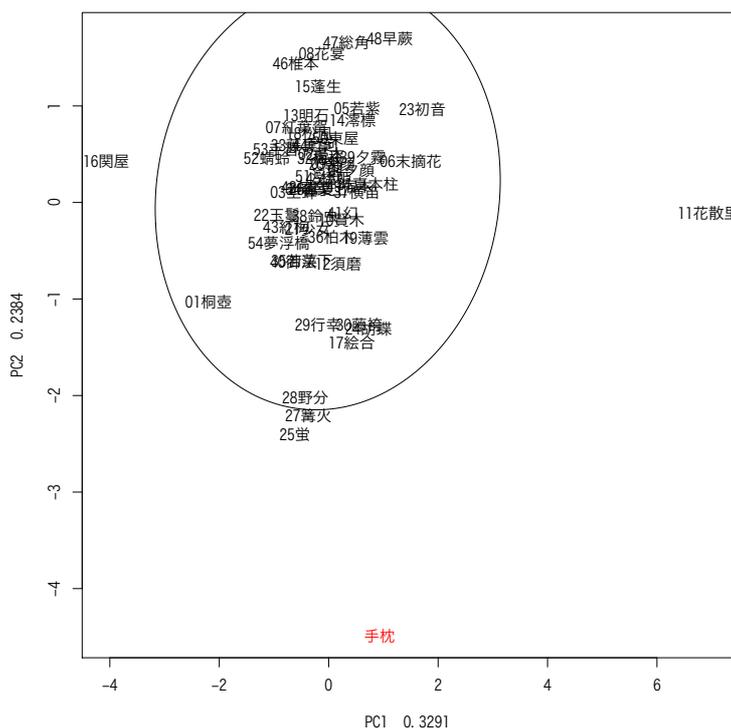


図 3.44 5 変数を用いた形容動詞の語の長さの主成分分析

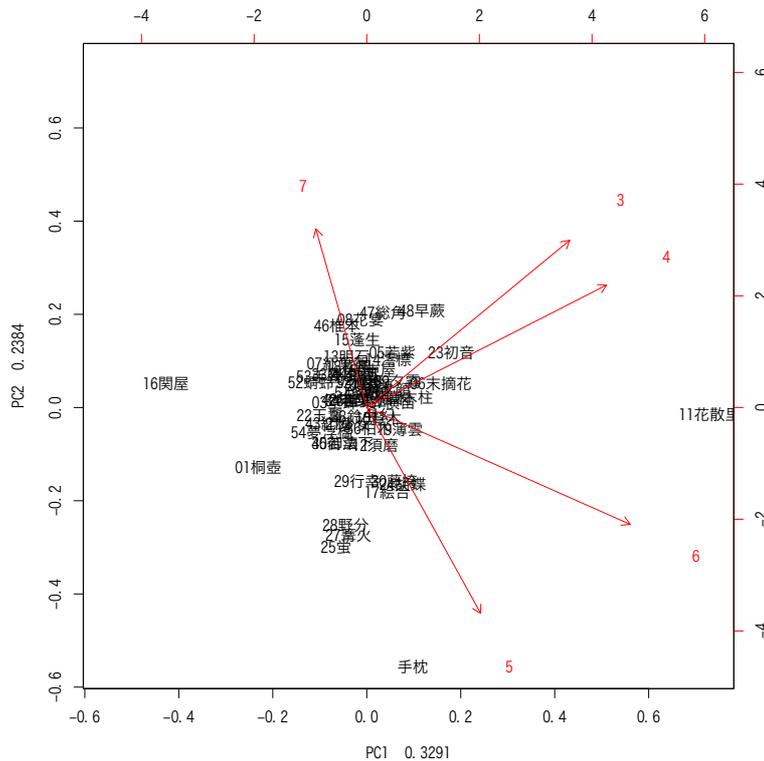


図 3.45 5 変数を用いた形容動詞の語の長さのバイプロット

#### 2.2.4 考察

『源氏物語』と『山路の露』との間、『源氏物語』と『雲隠六帖』との間において形容詞・形容動詞の 2 品詞に、語の長さの出現率に顕著な相違が認められた。また、『源氏物語』と『手枕』との間においては、動詞・形容詞・形容動詞に語の長さの出現率に顕著な相違が認められた。これら擬作 3 作品に共通して、形容詞・形容動詞の 2 品詞において傾向の相違が認められる。

語の長さの分析においても、形容詞・形容動詞に『源氏物語』と擬作 3 作品との間に量的傾向の相違が認められた。なお、この 2 品詞に関しては『源氏物語』と『宇津保物語』の間にも傾向の相違が認められている。したがって、形容詞および形容動詞に『源氏物語』の特徴が表れていると考えられる。

### 3. 第 3 部の考察

『山路の露』、『雲隠六帖』、『手枕』という『源氏物語』の擬作と考えられる 3 作品を分析対象とし、品詞構成比率・語の頻度・語の長さについて分析を行うことで作者の識別が可能であるのか検討を加えた。

表 3.8 分析結果のまとめ

	品詞構成比率	語の頻度		語の長さ		
	12 品詞	助詞	助動詞	動詞	形容詞	形容動詞
山路の露	×	×	○	×	○	○
雲隠六帖	○	○	○	×	○	○
手枕	○	○	○	○	○	○
宇津保物語	○	○	○	○	○	○

分析結果をまとめると表 3.8 の通りであり、本研究の分析結果から考察すると『山路の露』は『源氏物語』の文章の表現形式を巧妙に模倣していると考えられる。その一方で、『手枕』については、本研究において用いた分析項目のすべてにおいて、『源氏物語』との間に傾向の相違が認められた。

品詞構成比率の分析においては、『雲隠六帖』は『源氏物語』に比べ形容詞および形容動詞の構成比率が低く、『手枕』は『源氏物語』に比べ形容詞および形容動詞の構成比率が高いという傾向が明らかになった。また、助動詞の語の頻度・形容詞および形容動詞の語の長さが作者の識別に特に有効な分析項目であると考えられるが、これらの分析項目は低頻度語彙を含めるといった操作や延べ語数が1000語未満となる3巻を分析対象から除外するといった操作を行うことで、出現傾向の相違がより顕著に認められる。これらの分析項目は『源氏物語』において論じられる複数作者説について検討を加えるときに有効な分析項目になり得ると考えられる。

## 第4部 『源氏物語』における複数作者説の検討

### 1. 問題の所在

『源氏物語』においては第三部と称される第42巻「匂宮」から第54巻「夢浮橋」の13巻において、古くから複数作者説が論じられている。著名な複数作者説は2つあり、1つは匂宮三帖における複数作者説であり、もう1つは宇治十帖における複数作者説である。前者は第42巻「匂宮」、第43巻「紅梅」、第44巻「竹河」の3巻の作者について疑問を提起する説であり、後者は第45巻「橋姫」から第54巻「夢浮橋」の10巻の作者について疑問を提起する説である。それぞれの説は別々に提起されており、本章においてはそれぞれの複数作者説を計量的に検討する。また、本研究においては匂宮三帖および宇治十帖に含まれない諸巻を便宜的に他41巻と称する。

### 2. 『源氏物語』全54巻についての分析

#### 2.1 品詞構成比率

『源氏物語』と『宇津保物語』および『源氏物語』と擬作3作品について、分析を行ったように本章においては『源氏物語』の諸巻における品詞構成比率について検討を加える。分析に用いる品詞は名詞・代名詞・動詞・補助動詞・形容詞・形容動詞・副詞・接続詞・感動詞・連体詞・助詞・助動詞の12品詞である。

まず、『源氏物語』における各品詞の構成比率を概観する。表4.1は各品詞の延べ語数および構成比率をまとめた表である。表4.1より助詞の構成比率が0.318となり最も大きく、名詞・動詞・助動詞が0.10以上の構成比率を有する品詞である。その一方で、接続詞および感動詞の構成比率は顕著に低いと言える。

これら12品詞の構成比率を変数として、主成分分析を行った。主成分分析によって求められた第1主成分と第2主成分の散布図は図4.1に示す通りである。図4.1において、実線が他41巻の第1主成分と第2主成分の主成分得点から推定される95%信頼楕円であり、間隔の広い破線が匂宮三帖の95%信頼楕円、間隔の狭い破線が宇治十帖の95%信頼楕円である。第11巻「花散里」および第16巻「関屋」が他41巻の95%信頼楕円の外に位置しているが、匂宮三帖の95%信頼楕円は他41巻の95%信頼楕円に包含され、他41巻と宇治十帖の95%信頼楕円は重複する。

表 4.1 『源氏物語』の延べ語数および品詞構成比率

	延べ語数	構成比率
名詞	65697	0.1745
代名詞	2254	0.0060
動詞	62897	0.1671
補助動詞	19414	0.0516
形容詞	22263	0.0591
形容動詞	9063	0.0241
副詞	15616	0.0415
接続詞	290	0.0008
感動詞	260	0.0007
連体詞	3106	0.0083
助詞	119694	0.3179
助動詞	43624	0.1159

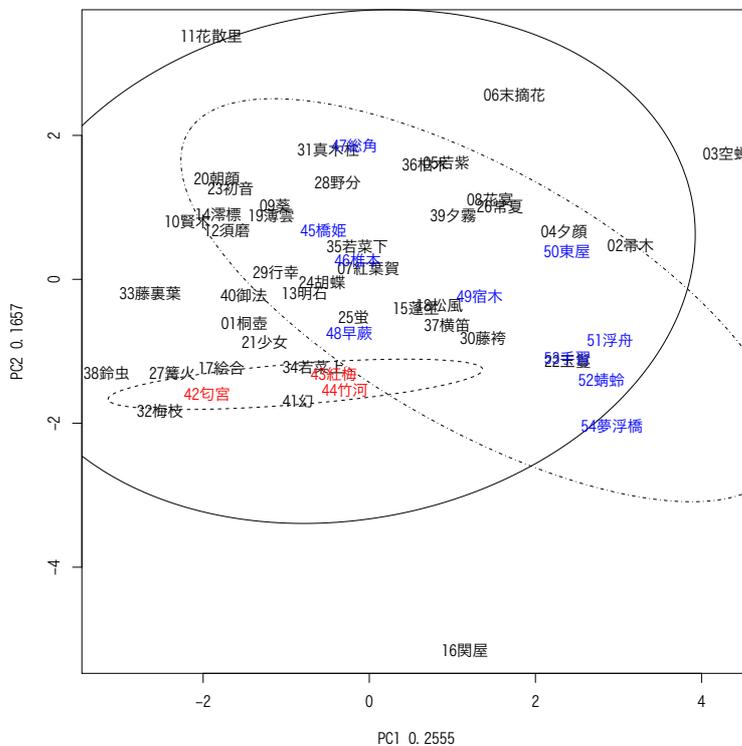


図 4.1 12 品詞の構成比率について主成分分析の結果

このように、匂宮三帖および宇治十帖において論じられている他作者を支持する積極的な根拠は品詞構成比率の主成分分析からは得られないと考えられる。なお、図 4.1 において匂宮三帖と宇治十帖の 95%信頼楕円は大きく重複することはなく、両グループ間における品詞構成比率の傾向が相違する可能性が推測される。

## 2.2 語の頻度

語の頻度の分析では、機能語である助詞および助動詞の 2 品詞について検討を加えた。まず、品詞別の分析を行う前に、『源氏物語』全 54 巻における名詞・代名詞・動詞・補助動詞・形容詞・形容動詞・副詞・接続詞・感動詞・連体詞・助詞・助動詞の 12 品詞の異なり語数および延べ語数について概観する。表 4.2 は『源氏物語』において出現する語彙を品詞別に集計した異なり語数および延べ語数である。助詞および助動詞は異なり語数は 100 語を下回るが、出現頻度が 1000 を超える語も多いことから、出現頻度が 1000 以上となる語彙について主成分分析を行う。

表 4.2 『源氏物語』における異なり語数および延べ語数

	異なり語数	延べ語数
名詞	5922	65697
代名詞	46	2254
動詞	5286	62897
補助動詞	7	19414
形容詞	840	22263
形容動詞	687	9063
副詞	273	15616
接続詞	6	290
感動詞	15	260
連体詞	11	3106
助詞	56	119694
助動詞	26	43624

## 2.2.1 助詞

助詞の延べ語数は 119694、異なり語数は 56 である。出現頻度が 1000 以上となる出現頻度上位 15 について主成分分析を行った。出現頻度上位 15 語は頻度 1346 以上の語彙が該当し、累積頻度は 110566 であり、総度数に対する割合は 92.3%となる。図 4.2 は主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図であり、句宮三帖の第 42 巻「句宮」は他 41 巻の 95%信頼楕円から外れて付置されるが、句宮三帖および宇治十帖と他 41 巻の 95%信頼楕円はそれぞれ重複する。

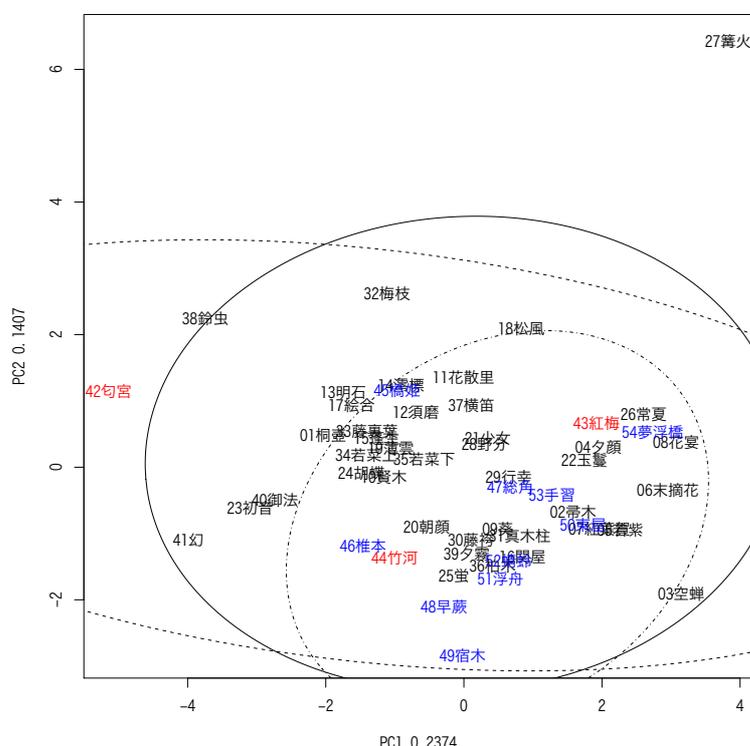


図 4.2 助詞における出現頻度上位 15 語の主成分分析の結果

また、延べ語数が 1000 語を割り込む第 27 巻「篝火」が外れ値となったことから、延べ語数が 1000 語未満の 3 巻を分析から除外しあらためて分析を加えた。出現頻度が 1000 を超える語彙は出現頻度上位 15 であり、頻度 1341 以上の語彙が該当し、累積頻度は 109864 であり、総度数に対して 92.4%を占める。主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 4.3 に示す通りであり、図 4.3 においても句宮三帖および宇治十帖と他 41 巻の 95%信頼楕円はそれぞれ重複する。また、変数の数を増減させても結果は大きく変わらなかった。

したがって、句宮三帖および宇治十帖と他 41 巻の間において助詞の出現傾向に顕著な相違は認められないと言える。

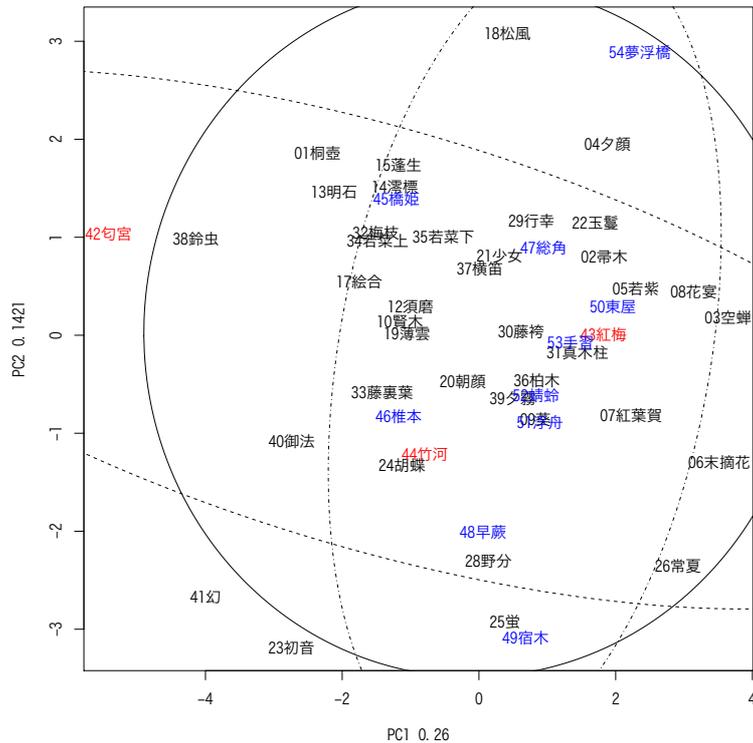


図 4.3 延べ語数の少ない 3 巻を除外した助詞の出現頻度上位 15 語の主成分分析の結果

### 2.2.2 助動詞

次に、助動詞の延べ語数は 43624、異なり語数は 26 である。出現頻度が 1000 を超える出現頻度上位 12 語について主成分分析を行った。出現頻度上位 12 語は出現頻度が 1267 以上の語彙が該当し、累積頻度は 38523 であり、総度数に対する割合は 88.3% となる。主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 4.4 に示す通りであり、句宮三帖および宇治十帖と他 41 巻の 95% 信頼楕円はそれぞれ重複する。また、句宮三帖と宇治十帖はそれぞれの 95% 信頼楕円は重複するが、両グループの諸巻は異なる助動詞の出現傾向を有していることが推測される。また、図 4.4 において、延べ語数が 1000 語未満の「花散里」「関屋」「篝火」の 3 巻が外れることから、これら 3 巻を分析対象から除外し、あらためて主成分分析を行う。

延べ語数が 1000 語未満の 3 巻を分析対象から除外し、出現頻度が 1000 を超える出現頻度上位 12 語について主成分分析を行った。累積頻度は 38287 であり、総度数に対する割合は 88.3% となる。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 4.5 に示す通りであり、句宮三帖および宇治十帖と他 41 巻は混在し、助動詞の出現傾向の相違は認められない。また、図 4.5 において句宮三帖と宇治十帖の諸巻は混在せず、句宮三帖と宇治十帖はそれぞれ異なる名詞の出現傾向を有している可能性が推測される。なお、変数の数を増減させても結果は大きく変わらなかった。

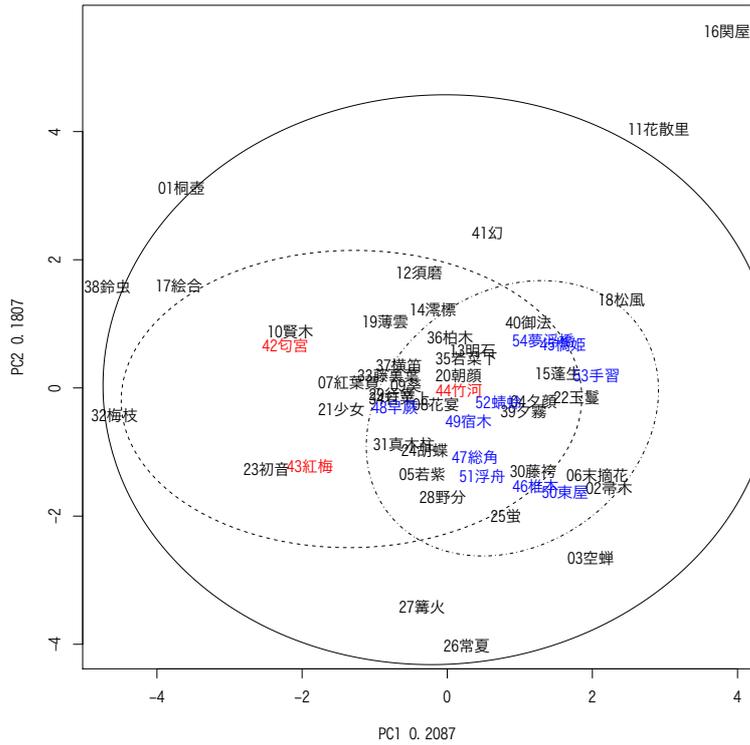


図 4.4 助動詞における出現頻度上位 12 語の主成分分析の結果

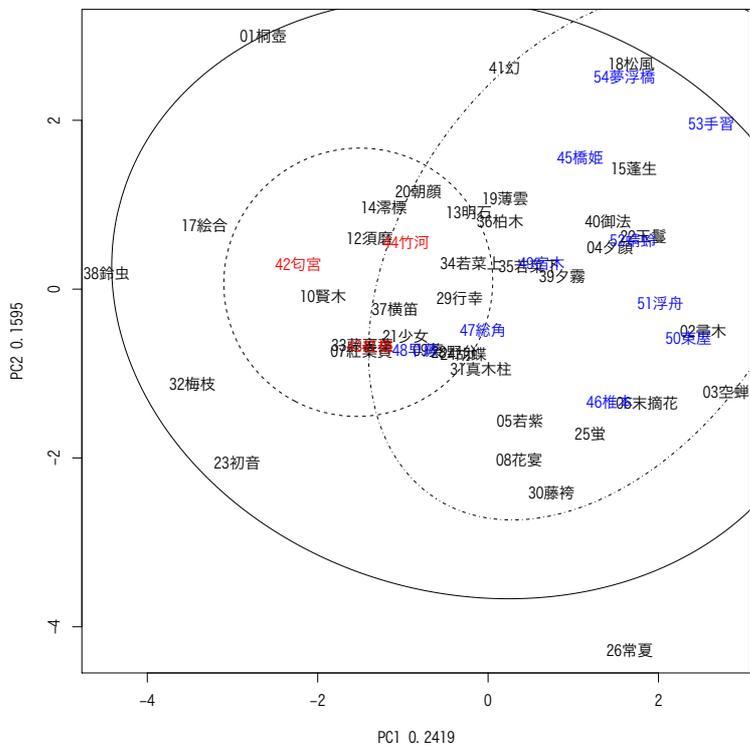


図 4.5 延べ語数の少ない 3 巻を除外した助動詞の出現頻度上位 12 語の主成分分析の結果

したがって、他 41 巻と句宮三帖および宇治十帖との間において、名詞の出現傾向に顕著な相違は認められないと考えられる。しかし、上述のように、句宮三帖と宇治十帖はそれぞれ異なる助動詞の出現傾向を有する可能性が推測される。

### 2.2.3 考察

句宮三帖における複数作者説および宇治十帖における複数作者説の検討では、これまでの分析において作者の識別に有効であると考えられる助詞および助動詞の出現率について計量的な分析結果に基づき検討を加えたが、句宮三帖および宇治十帖とこれら 13 巻を除く 41 巻との間に顕著な傾向の相違は認められなかった。すなわち、語の頻度についての分析結果からは、句宮三帖における複数作者説および宇治十帖における複数作者説を支持する積極的な根拠は見出されない。

## 2.3 語の長さ

分析に用いる品詞は動詞形容詞・形容動詞の 3 品詞であり、主成分分析における変数選択では、総度数に対して 90%以上になることを目安とした。

### 2.3.1 動詞

動詞は語の長さの分析において、『源氏物語』と『宇津保物語』の間に顕著な傾向の相違が認められた品詞である。他 41 巻・句宮三帖・宇治十帖における動詞の語の集計結果は図 4.6 に示す通りである。他 41 巻・句宮三帖・宇治十帖すべて長さ 3 に出現率のピークがあり、各グループの間に傾向に顕著な相違は認められない。

次に、巻ごとに語の長さを集計したところ、長さ 2 から長さ 6 までの 5 変数において総度数の 90.3%となり 90%を超え、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 4.7 に示す通りであり、句宮三帖および宇治十帖と他 41 巻はおおよそ混在し、語の長さの分布の傾向に顕著な相違は認められない。また、変数の数を減らしても各グループが分離して付置されることはない。

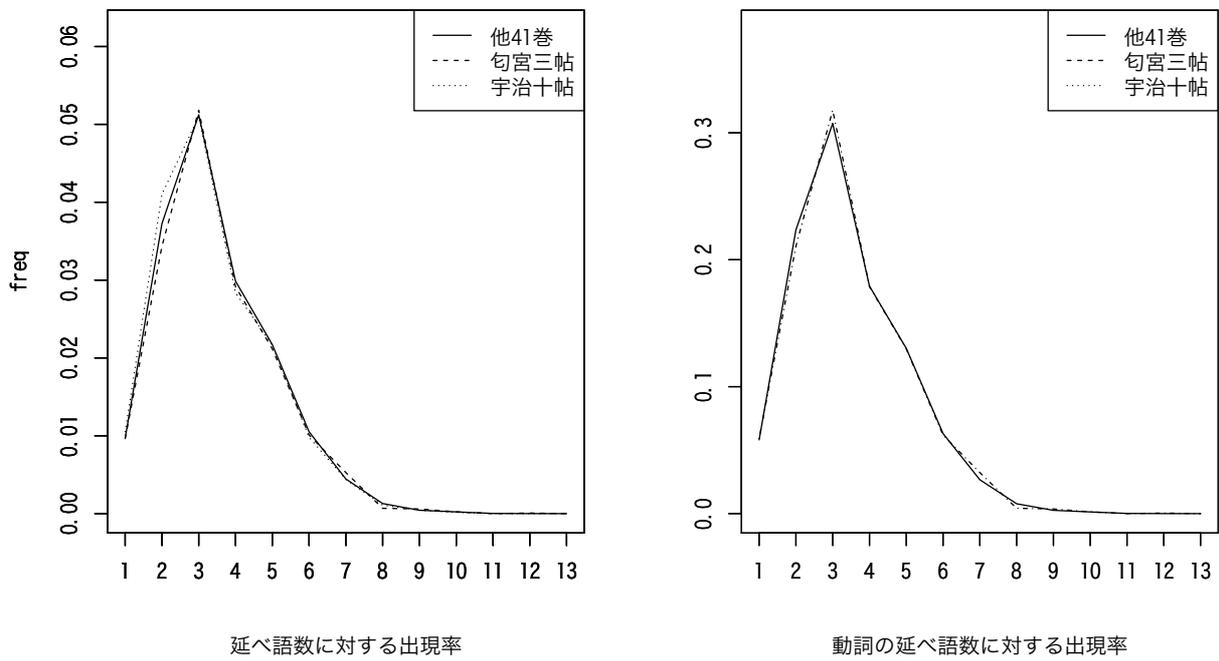


図 4.6 動詞の語の長さの分布

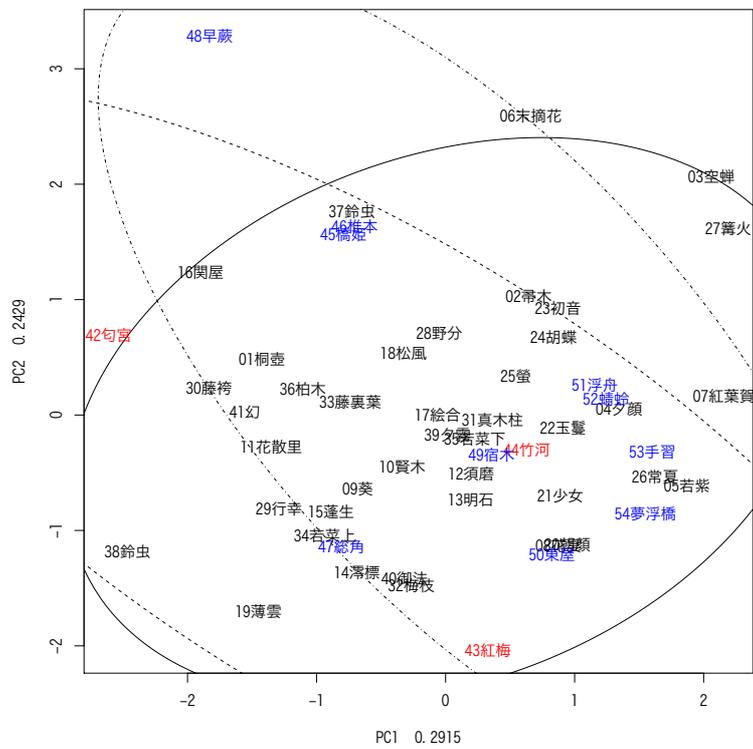


図 4.7 5 変数を用いた動詞の語の長さの主成分分析

### 2.3.2 形容詞

各グループにおける形容詞の語の集計結果は図 4.8 に示す通りである。句宮三帖における出現率が低いながら、他 41 巻・句宮三帖・宇治十帖すべて長さ 4 に出現率のピークがあり、各グループの間に傾向に顕著な相違は認められないと考えられる。

次に、巻ごとに動詞の語の長さを集計したところ、長さ 2 から長さ 6 までの 5 変数において総度数の 91.8%となるため、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 4.9 に示す通りであり、句宮三帖および宇治十帖は他 41 巻とおおよそ混在し、形容詞における語の長さの分布に顕著な傾向の相違は認められない。したがって、主成分分析においても各グループの間における語の長さの分布の傾向に顕著な相違があると考えられない。また、変数を増減しても句宮三帖および宇治十帖と他 41 巻が混在することはない。図 4.9 において、句宮三帖と宇治十帖の 95%信頼楕円は重複するが、句宮三帖と宇治十帖の諸巻は混在するとは言えず、それぞれ異なる形容詞の出現傾向を有している可能性が推測される。

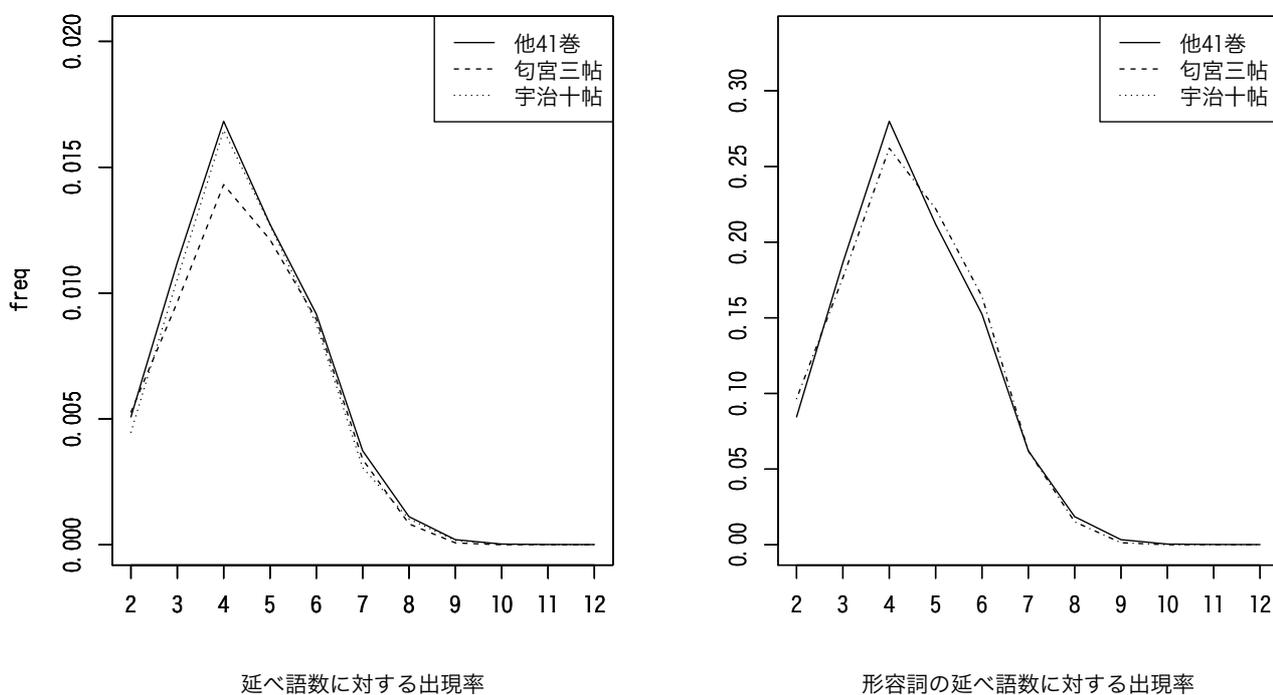


図 4.8 形容詞の語の長さの分布

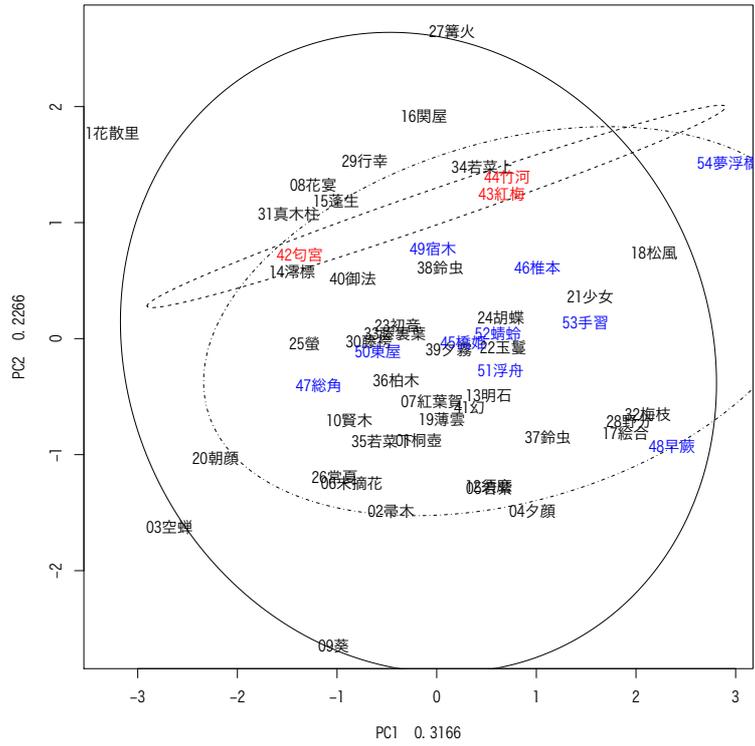
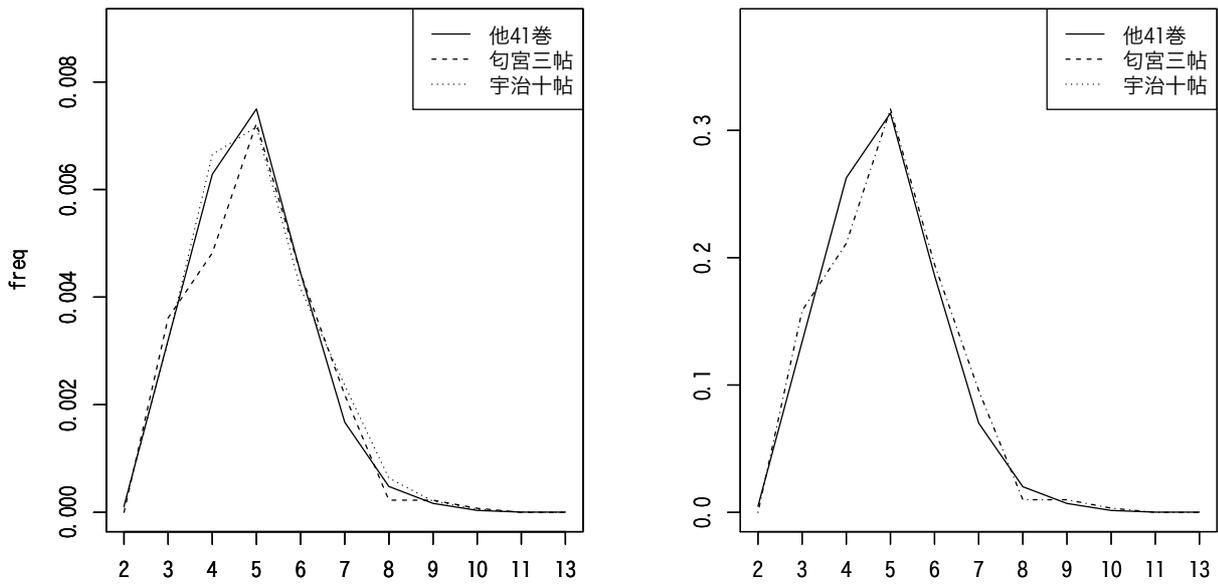


図 4.9 5 変数を用いた形容詞の語の長さの主成分分析



延べ語数に対する出現率

形容動詞の延べ語数に対する出現率

図 4.10 形容動詞の語の長さの分布

### 2.3.3 形容動詞

各グループにおける形容動詞の語の集計結果は図 4.10 に示す通りである。他 41 巻・句宮三帖・宇治十帖すべて長さ 5 における出現率がピークとなる。しかし、長さ 4 では句宮三帖の出現率が他 41 巻および宇治十帖における出現率を割り込む。

次に、巻ごとに語の長さを集計したところ、長さ 3 から長さ 7 までの 5 変数において総度数の 96.4% となるため、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 4.11 に示す通りであり、他 41 巻・句宮三帖・宇治十帖は混在する。ただし、図 4.11 において第 11 巻「花散里」、第 16 巻「関屋」、第 27 巻「篝火」の 3 巻が他 41 巻の 95% 信頼楕円の外に付置されることから、これら 3 巻を分析対象から除きあらためて分析を加えた。

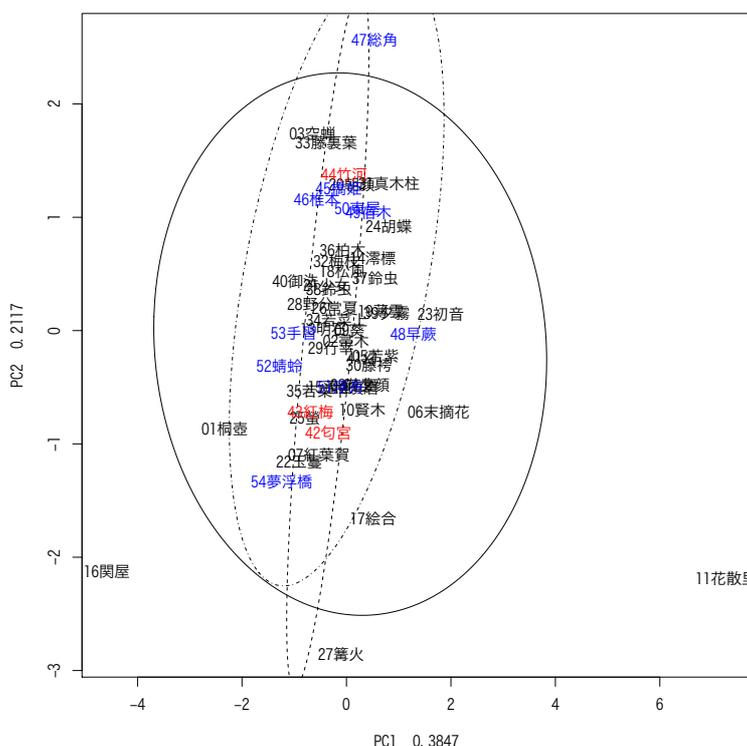


図 4.11 5 変数を用いた形容動詞の語の長さの主成分分析

総度数が 1000 未満となる 3 巻を除外したときも、長さ 3 から長さ 7 までの 5 変数において総度数の 96.4% となり、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 4.12 に示す通りであり、句宮三帖および宇治十帖と他 41 巻は混在する。したがって、形容動詞においても各グループの間における語の長さの分布の傾向に顕著な相違があると考えられない。また、変数を増減しても句宮三帖および宇治十帖と他 41 巻が混在することはない。



## 第5部 『源氏物語』 第三部についての分析

### 1. 問題の所在

第4部では、『源氏物語』において論じられる匂宮三帖と宇治十帖における複数作者説について検討を加えた。その結果、匂宮三帖および宇治十帖の複数作者説を支持する積極的な根拠は認められなかったが、匂宮三帖と宇治十帖との間に、出現傾向に相違が認められる分析項目が散見された。そこで、『源氏物語』の第三部、すなわち匂宮三帖と宇治十帖の13巻に分析対象を限定して計量的な検討を加える。このような計量的な分析を第三部に行うことで、これら13巻の表現形式の量的傾向、あるいは量的特徴を明らかにし、第三部の成立過程に関する考察を行うことを目的とする。用いる分析項目は品詞構成比率・語の頻度・語の長さの分布である。

表 5.1 延べ語数および品詞構成比率

	匂宮三帖		宇治十帖	
	延べ語数	構成比率	延べ語数	構成比率
名詞	8978	0.165	9208	0.1616
代名詞	289	0.0053	475	0.0083
動詞	8946	0.1644	9821	0.1723
補助動詞	2961	0.0544	2519	0.0442
形容詞	3227	0.0593	3159	0.0554
形容動詞	1477	0.0271	1257	0.0221
副詞	2331	0.0428	2355	0.0413
接続詞	48	9.00E-04	43	8.00E-04
感動詞	24	4.00E-04	44	8.00E-04
連体詞	404	0.0074	570	0.01
助詞	17359	0.319	18426	0.3233
助動詞	6499	0.1194	7234	0.1269

## 2. 品詞構成比率

まず、名詞・代名詞・動詞・補助動詞・形容詞・形容動詞・副詞・接続詞・感動詞・連体詞・助詞・助動詞といった 12 品詞の構成比率について主成分分析を行った。また、『源氏物語』の第三部における品詞別の延べ語数および構成比率は表 5.1 に示す通りである。

図 5.1 は 12 品詞の構成比率に対する主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図である。匂宮三帖の第 42 巻「匂宮」は他の諸巻から外れて付置されるが、「匂宮」を除く 12 巻は匂宮三帖と宇治十帖の区別なく混在して配置されていると言える。したがって、12 品詞の構成比率から匂宮三帖と宇治十帖との間に量的傾向の相違は認められないと言える。

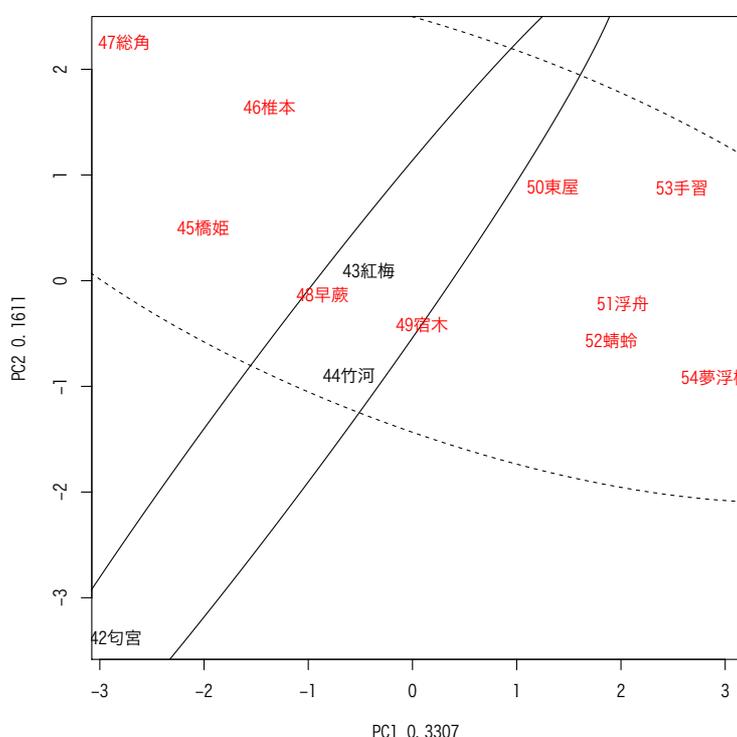


図 5.1 12 品詞の構成比率についての主成分分析の結果

しかし、構成比率の低い接続詞および感動詞を除き、あらためて主成分分析を行ったところ、第 1 主成分と第 2 主成分の散布図である図 5.2 に示すように、第 2 主成分において匂宮三帖と宇治十帖は分離して付置される。図 5.3 は主成分分析によって求められたバイプロットであり、図 5.3 より匂宮三帖は名詞の構成比率が高く、動詞および助動詞の構成比率が低いという傾向を有し、宇治十帖は動詞および助動詞の構成比率が高く、名詞の構成比率が低いという傾向を有すると言える。したがって、品詞構成比率に対する計量分析においては、匂宮三帖と宇治十帖との間に量的傾向の相違が認められると考えられる。

また、第 4 部における『源氏物語』全 54 巻を対象とした分析において、匂宮三帖と宇治十帖

との間に量的傾向の相違が推測されたように、図 5.2 において、第 1 主成分の正負に宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻が分離して配置されていることから、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻において各品詞の構成比率が相違する可能性が推測される。

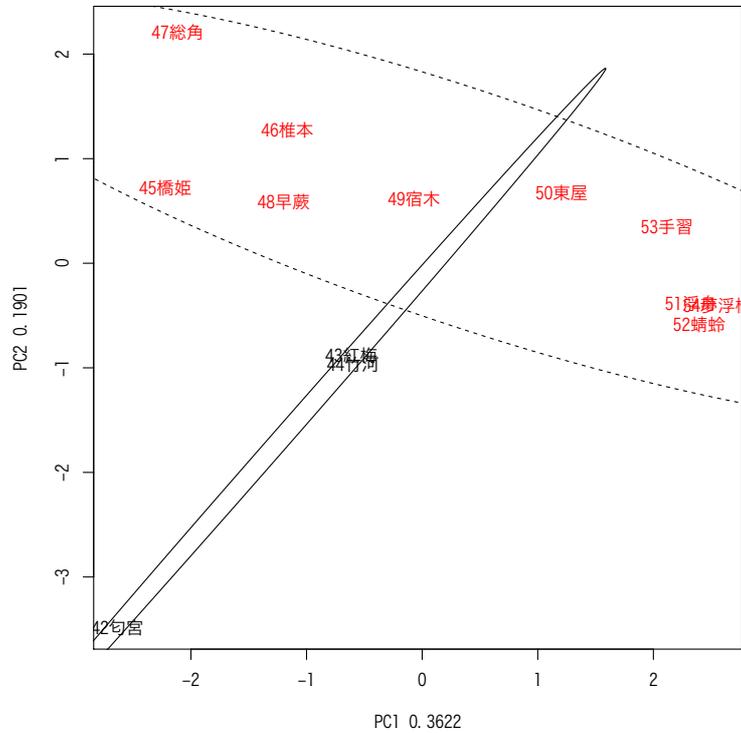


図 5.2 10 品詞の構成比率についての主成分分析の結果

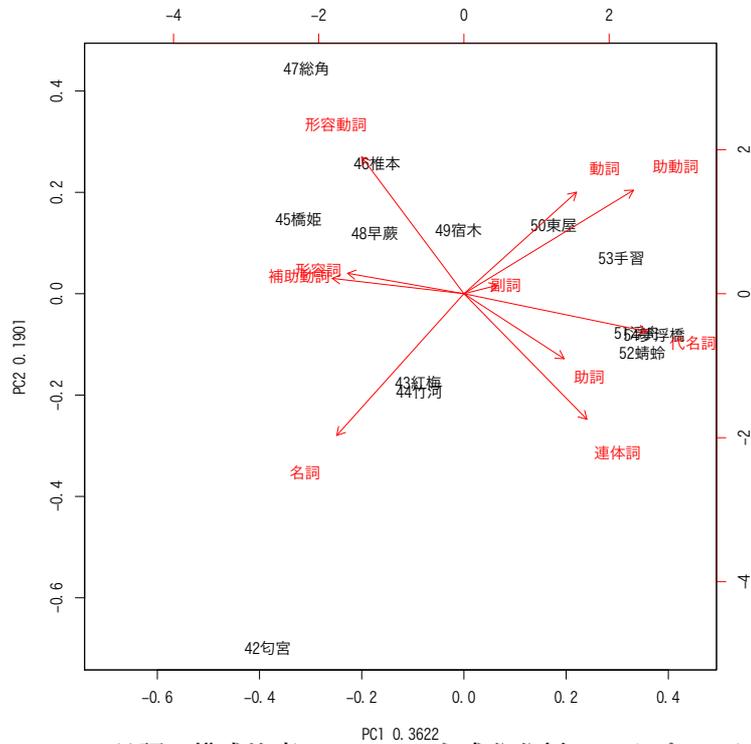


図 5.3 10 品詞の構成比率についての主成分分析のバイプロット

次いで、分析対象を宇治十帖の 10 巻に限定し、品詞構成比率について分析を行った。図 5.4 は 12 品詞の構成比率に対する主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図である。図 5.4 に示したように、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻は第 1 主成分において分離して配置される。したがって、品詞構成比率においては前半 5 巻と後半 5 巻との間に顕著な相違が認められる。図 5.5 は主成分分析によって求められたバイプロットであり、図 5.5 から前半 5 巻には名詞・補助動詞・形容詞・形容動詞が相対的に頻出しており、後半 5 巻においては代名詞・動詞・連体詞・助動詞が相対的に頻出していると言える。また、品詞構成比率の分析では、変数の数を 12 品詞から減らしても、常に前半 5 巻と後半 5 巻は分離して位置する。

このように、宇治十帖は前半 5 巻と後半 5 巻の間に品詞構成比率の量的傾向が相違することは明らかである。次いで、図 5.1 と図 5.2 では、第 1 主成分の正負において匂宮三帖および宇治十帖前半 5 巻のグループと宇治十帖後半 5 巻というように分類されていると考えられることから、第三部の 13 巻における 12 品詞の構成比率の主成分分析の結果において、匂宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻というグループに分割し 95%信頼楕円を描いた図が図 5.6 である。図 5.6 に示したように、両グループの 95%信頼楕円は重複するが、それぞれの信頼楕円の中に他方の分析対象が包含されることはない。したがって、宇治十帖が前半 5 巻と後半 5 巻に分類されるのではなく、『源氏物語』の第三部の中で第 50 巻「東屋」以降の 5 巻が、ひとつのまとまりをもって成立した可能性が考えられる。

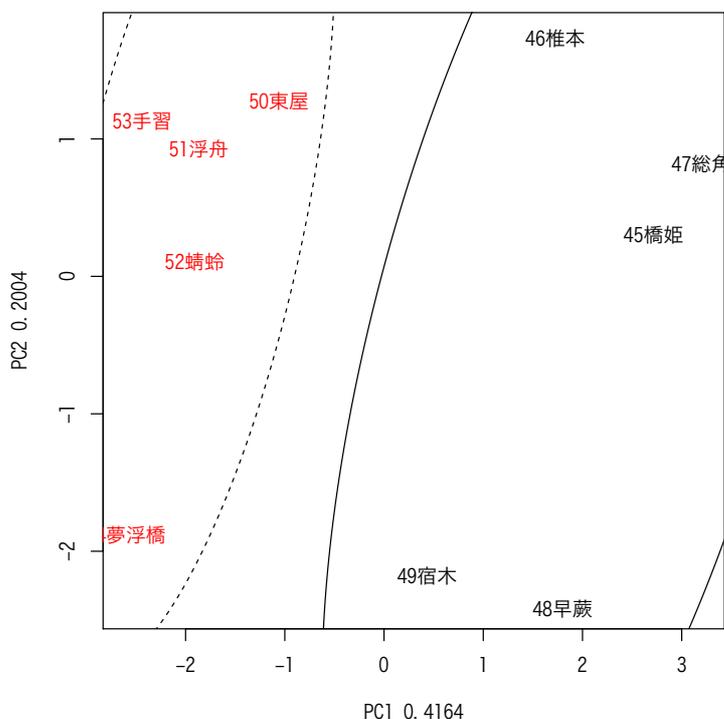


図 5.4 宇治十帖に限定した 12 品詞の構成比率についての主成分分析の結果

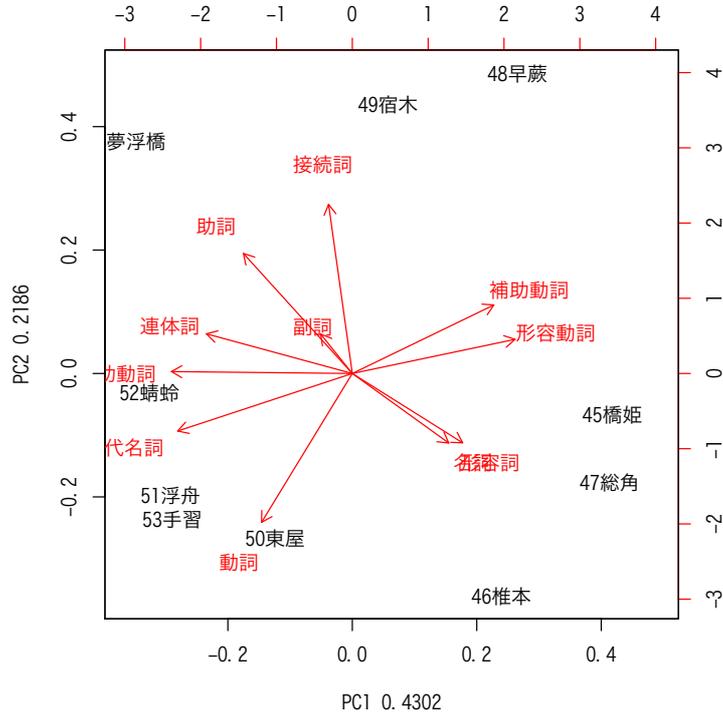


図 5.5 宇治十帖に限定した 12 品詞の構成比率についての主成分分析のバイプロット

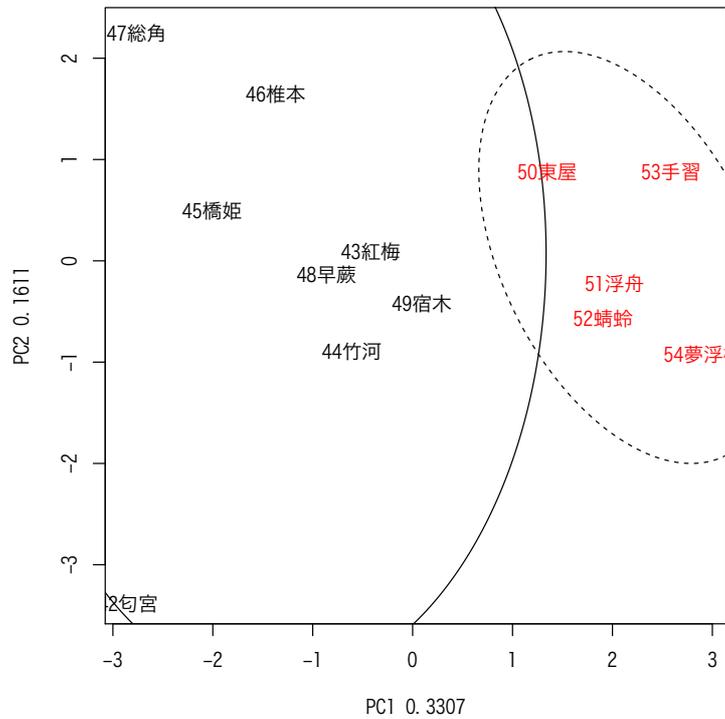


図 5.6 宇治十帖後半 5 巻とその他 8 巻の 12 品詞の構成比率についての主成分分析

### 3. 語の頻度

語の頻度の分析において、書き手の識別を目的としないことから、延べ語数上位 10 品詞である名詞・代名詞・動詞・補助動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・助詞・助動詞について検討を加える。これまでと同様に、品詞別に分析を行い、計量的に検討を加える。まず、品詞別の分析を行う前に、『源氏物語』第三部の 13 巻における異なり語数および延べ語数について概観する。表 5.2 は第三部において出現する語彙を品詞別に集計した異なり語数および延べ語数である。

表 5.2 異なり語数および延べ語数

	匂宮三帖		宇治十帖		合計	
	異なり語数	延べ語数	異なり語数	延べ語数	異なり語数	延べ語数
名詞	808	2501	2541	18186	2798	20687
代名詞	18	78	34	764	35	842
動詞	736	2165	2660	18767	2835	20932
補助動詞	6	726	7	5480	7	6206
形容詞	235	725	517	6386	544	7111
形容動詞	127	303	404	2734	425	3037
副詞	82	505	179	4686	186	5191
接続詞	5	10	4	91	5	101
感動詞	4	7	8	68	9	75
連体詞	7	126	8	974	9	1100
助詞	45	4290	54	35785	54	40075
助動詞	22	1455	25	13733	25	15188

#### 3.1 名詞

表 5.2 に示したように、『源氏物語』における名詞の延べ語数は 20687、異なり語数は 2798 である。名詞は異なり語数が 100 語を超えるため、出現頻度上位 100 語を目安に主成分分析を行った。よって、出現頻度が 31 以上となる出現頻度上位 102 語について分析を加えた。上位 102 語まで累積頻度は 11397 となり、これは名詞の総度数の 55.1%を占める。主成分分析によ

って求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.7 に示す通りであり、95%信頼楕円は重複するが、句宮三帖と宇治十帖との間において、語の出現傾向に相違が認められると考えられる。また、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間においても語の出現頻度について傾向の相違があることが推測される。

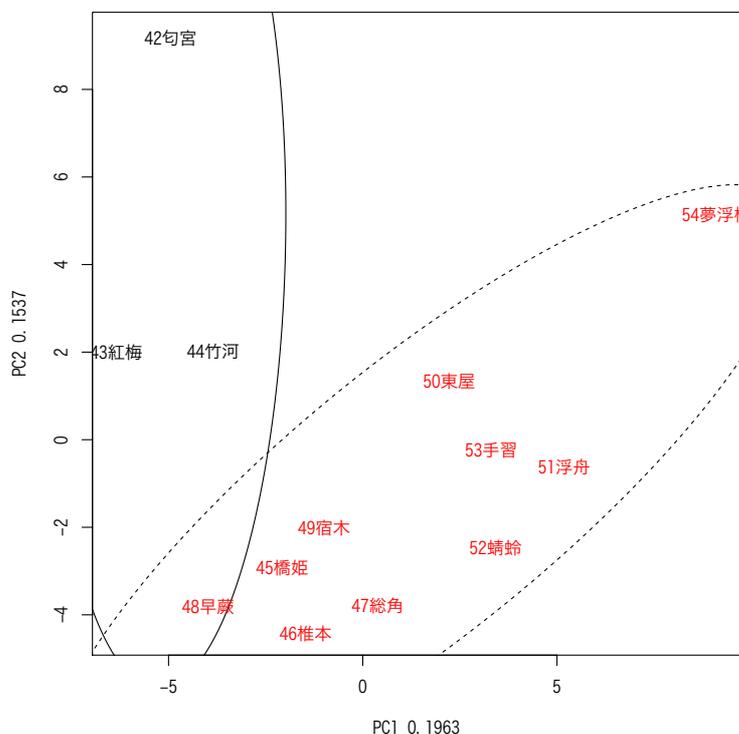


図 5.7 名詞における出現頻度上位 102 語の主成分分析の結果

そこで、品詞構成比率についての分析と同様に、分析対象を宇治十帖の 10 巻に限定し、名詞の語の頻度について分析を行った。宇治十帖における名詞の延べ語数は 18186、異なり語数は 2541 である。名詞は異なり語数が 100 語を超えるため、上述したように出現頻度上位 100 語を目安として主成分分析を行った。出現頻度上位 99 語に該当するのは頻度が 28 以上の語彙であり、上位 99 語まで累積頻度は 10211 となり、これは名詞の総度数の 56.1%を占める。主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.8 に示す通りであり、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻は混在せず、語の出現傾向に相違が認められる。

このように、宇治十帖は前半 5 巻と後半 5 巻の間に名詞の語の出現傾向が相違すると考えられる。そこで、第三部の 13 巻における名詞の語の頻度の主成分分析において、句宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻というグループに分割し 95%信頼楕円を描いた。図 5.9 に示すように、第 1 主成分の正負において、信頼楕円は重複するが両グループは分離して配置し、混在しないと考えられる。すなわち、宇治十帖前半 5 巻の名詞の語の出現傾向は句宮三帖

に類する量的傾向を有していると考えられる。

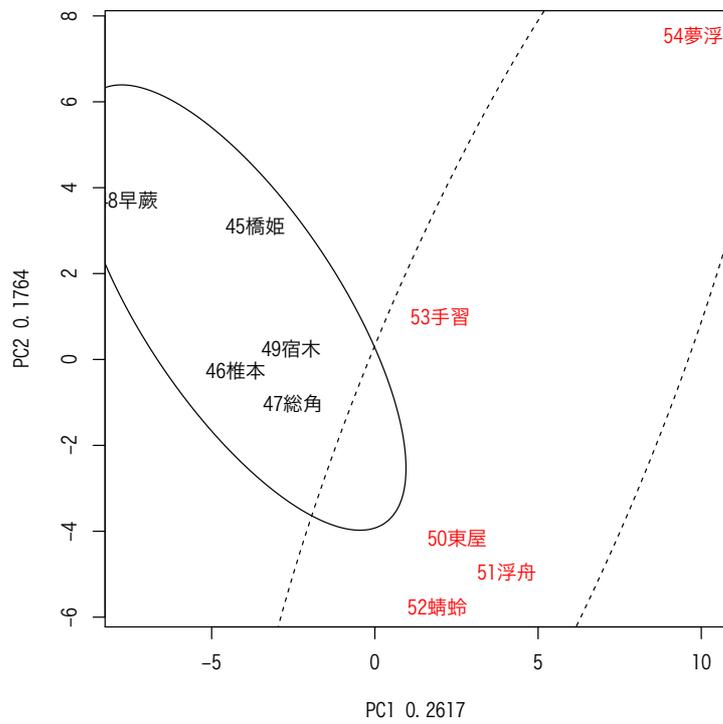


図 5.8 宇治十帖に限定した名詞における出現頻度上位 99 語の主成分分析の結果

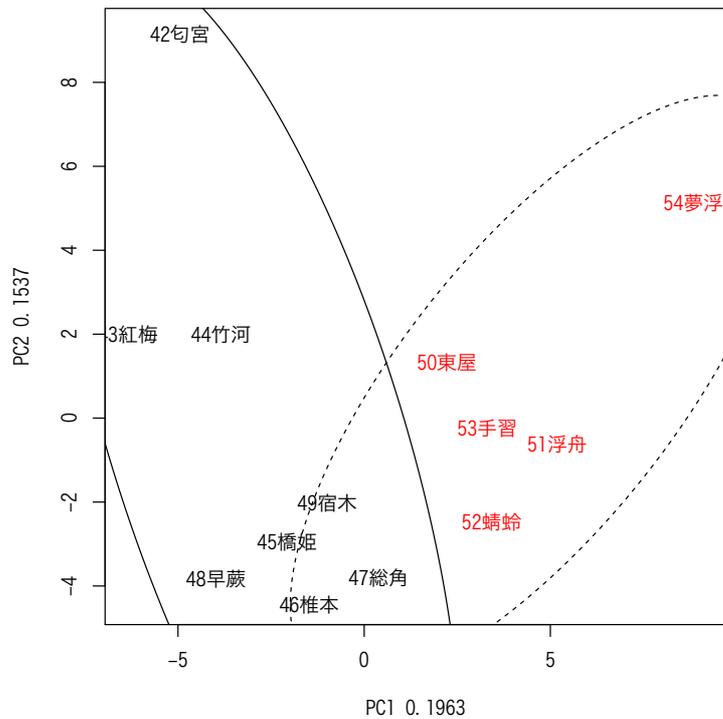


図 5.9 宇治十帖後半 5 巻とその他 8 巻の名詞における出現頻度上位 102 語の主成分分析

### 3.2 代名詞

次に、代名詞について分析を行った。代名詞は異なり語数が 100 語を割り込むことから、頻度が 2 以上の語彙をについて主成分分析を行った。これは出現頻度上位 28 語が該当し、この 28 語の累積頻度は 835 であり、総度数に対する割合は 99.2%となる。主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.10 に示す通りであり、句宮三帖と宇治十帖との間において、語の出現傾向に相違は認められない。

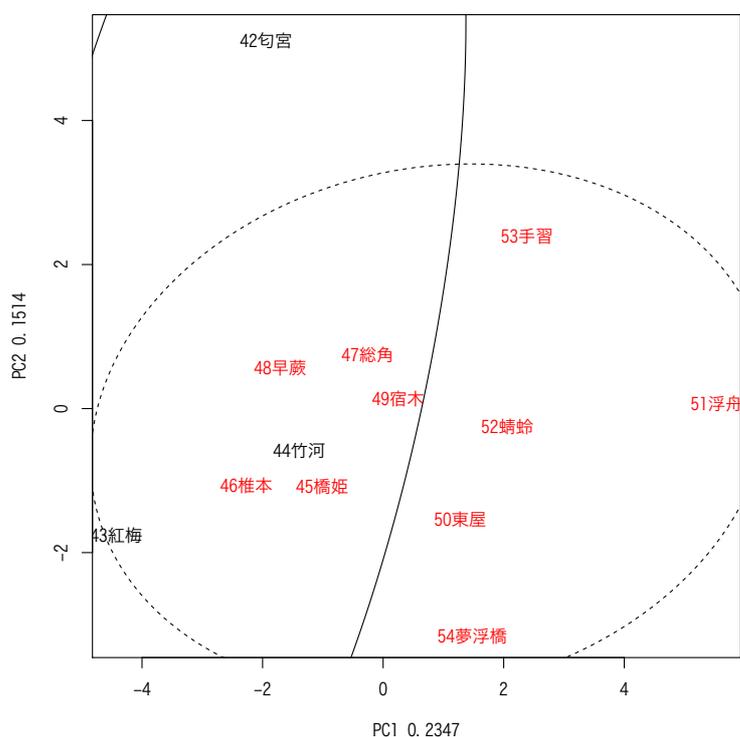


図 5.10 代名詞における出現頻度上位 28 語の主成分分析の結果

次に、宇治十帖の延べ語数は 764、異なり語数は 34 である。同様に、対象を宇治十帖に限定して頻度が 2 以上の語彙をについて主成分分析を行った。これは出現頻度上位 28 語が該当し、この 28 語の累積頻度は 758 であり、総度数に対する割合は 99.2%となる。主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.11 に示す通りであり、両グループの 95% 信頼楕円は重複するが、両グループの対象は混在せず、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間において、語の出現傾向に相違は認められる。

最後に、宇治十帖は前半 5 巻と後半 5 巻の間に代名詞の出現傾向が相違することから、第三部の 13 巻の主成分分析において、句宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻というグループに分割し 95% 信頼楕円を描いた。図 5.12 に示したように、第 1 主成分の正負において、

両グループの信頼楕円は重複するが対象は分離され、混在しないと考えられる。すなわち、宇治十帖前半 5 巻の代名詞の語の出現傾向は匂宮三帖に類する量的傾向を有していると考えられる。

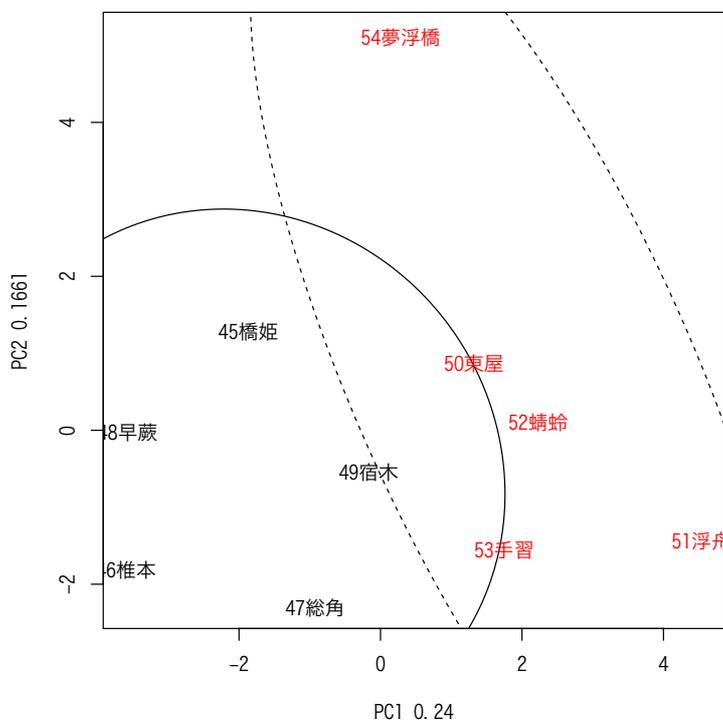


図 5.11 宇治十帖に限定した代名詞における出現頻度上位 28 語の主成分分析の結果

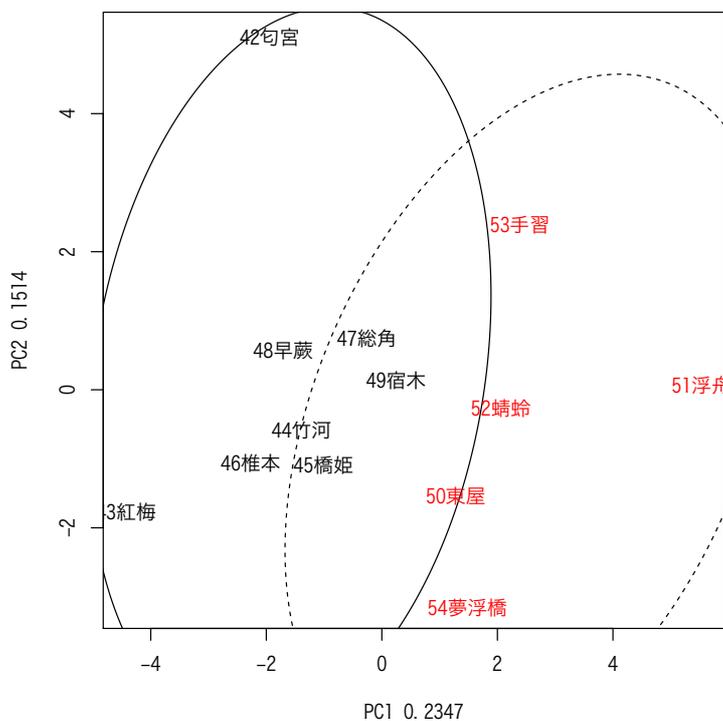


図 5.12 宇治十帖後半 5 巻とその他 8 巻の代名詞における出現頻度上位 28 語の主成分分析

### 3.3 動詞

動詞の延べ語数は 20932、異なり語数は 2835 である。動詞の出現頻度上位 101 語に該当するのは頻度が 28 以上の語彙であり、上位 101 語まで累積頻度は 11969 となり、これは動詞の総度数の 57.2% を占める。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.13 に示す通りであり、名詞における分析結果と同様に、句宮三帖と宇治十帖との間において、第 1 主成分に語の出現傾向に相違が認められる。また、第 2 主成分において宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間においても語の出現頻度について傾向の相違があることが推測される。

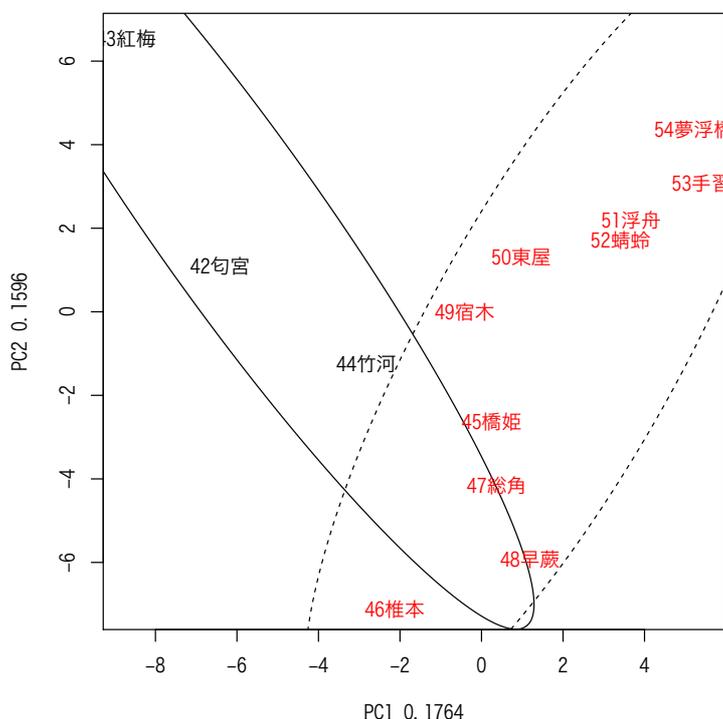


図 5.13 動詞における出現頻度上位 101 語の主成分分析の結果

次に、宇治十帖の動詞の延べ語数は 18767、異なり語数は 2660 である。動詞の出現頻度上位 99 語に該当するのは頻度が 25 以上の語彙であり、上位 99 語まで累積頻度は 10735 となり、これは動詞の総度数の 57.2% を占める。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.14 に示す通りであり、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間において、第 1 主成分に語の出現傾向に相違が認められる。

このように、宇治十帖は前半 5 巻と後半 5 巻の間に動詞の語の出現傾向が相違することから、第三部の 13 巻の主成分分析において、句宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻というグループに分割し 95% 信頼楕円を描いた。図 5.15 に示したように、両グループは分離され、混在しないと考えられる。また、図 5.15 より、宇治十帖の後半 5 巻、あるいはこれに第 49 巻

「宿木」を加えた6巻の動詞の語の出現傾向は相互に類似していると考えられる。

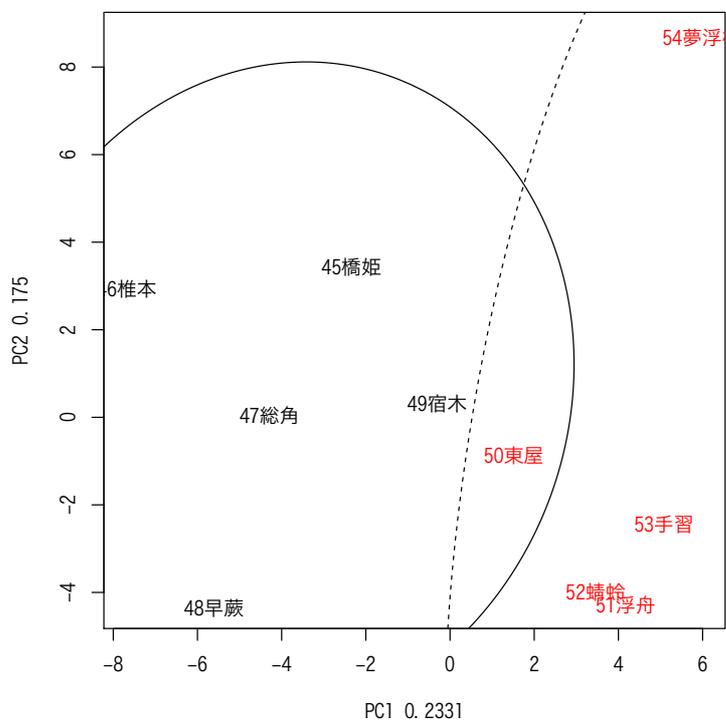


図 5.14 宇治十帖に限定した動詞における出現頻度上位 99 語の主成分分析の結果

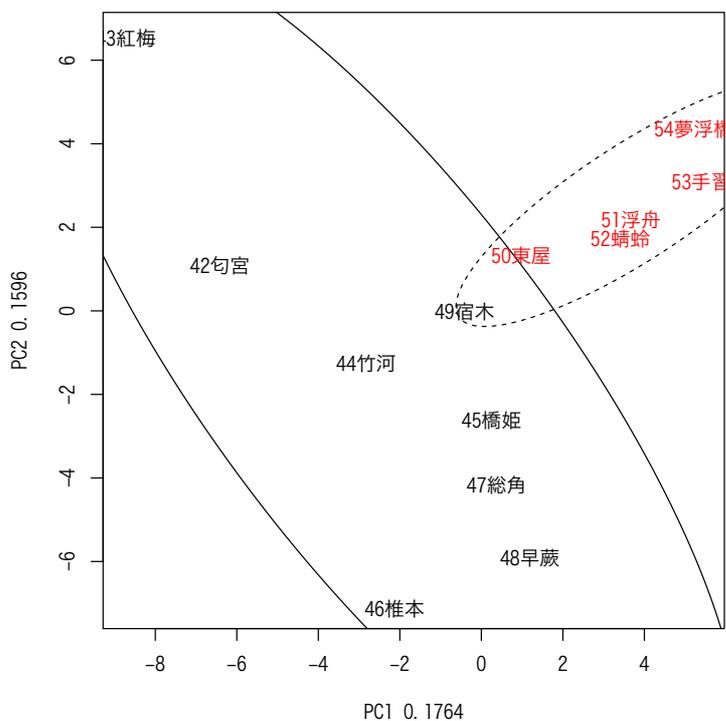


図 5.15 宇治十帖後半 5 巻とその他 8 巻の動詞の出現頻度上位 101 語の主成分分析の結果

### 3.4 補助動詞

補助動詞の延べ語数は 6206、異なり語数は 7 である。出現頻度が 2 以上になる語彙について主成分分析を行った。頻度が 2 以上となる語は、出現頻度上位 6 語が該当する。主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.16 に示す通りである。図 5.16 において、句宮三帖の第 44 巻「竹河」と宇治十帖の第 46 巻「椎本」がおおよそ同じ位置に付置されるなど、句宮三帖と宇治十帖との間において、語の出現傾向に相違は認められないと考えられる。

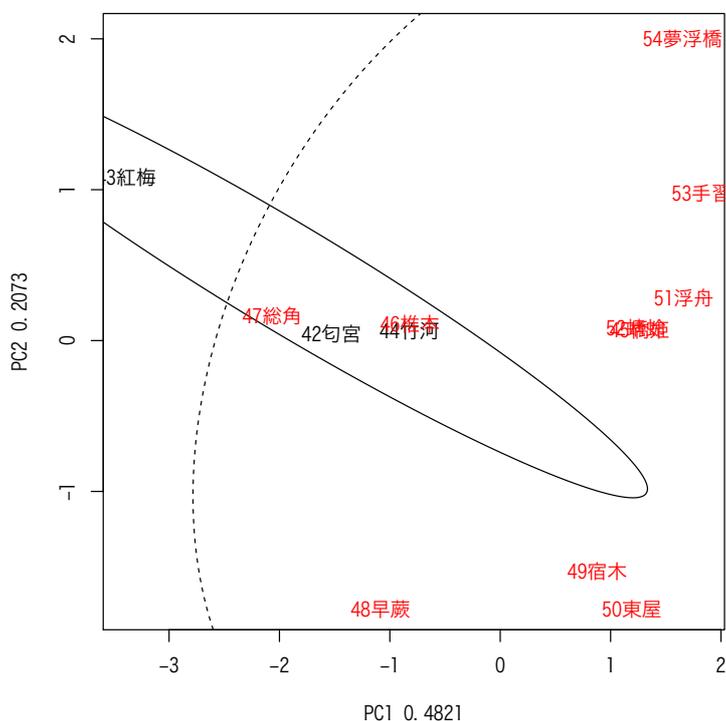


図 5.16 補助動詞における全語彙の主成分分析の結果

次に、宇治十帖の補助動詞の延べ語数は 5480、異なり語数は 7 である。出現頻度が 2 以上になる語彙について主成分分析を行った。頻度が 2 以上となる語は、出現頻度上位 6 語が該当する。主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.17 に示す通りである。図 5.17 において、前半 5 巻に属する第 45 巻「橋姫」および第 49 巻「宿木」は後半 5 巻に接近して付置される、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間において、語の出現傾向に顕著な相違は認められないと言える。

最後に、第三部の 13 巻における主成分分析において、句宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻のグループに分割し 95%信頼楕円を描いた。図 5.18 に示したように、両グループは明確に分離して付置されはしないが、第 1 主成分において宇治十帖後半 5 巻は一群を形成

すると考えられる。

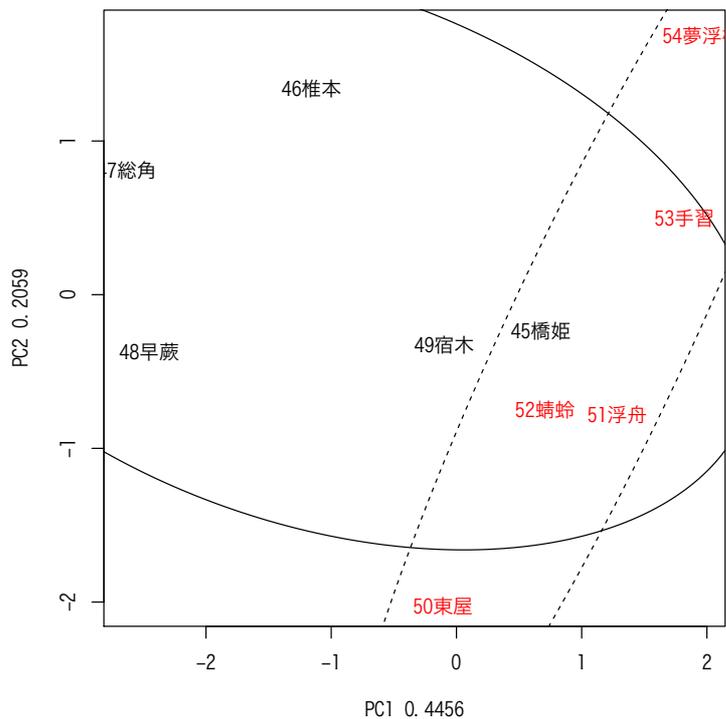


図 5.17 宇治十帖に限定した補助動詞における出現頻度上位 6 語の主成分分析の結果

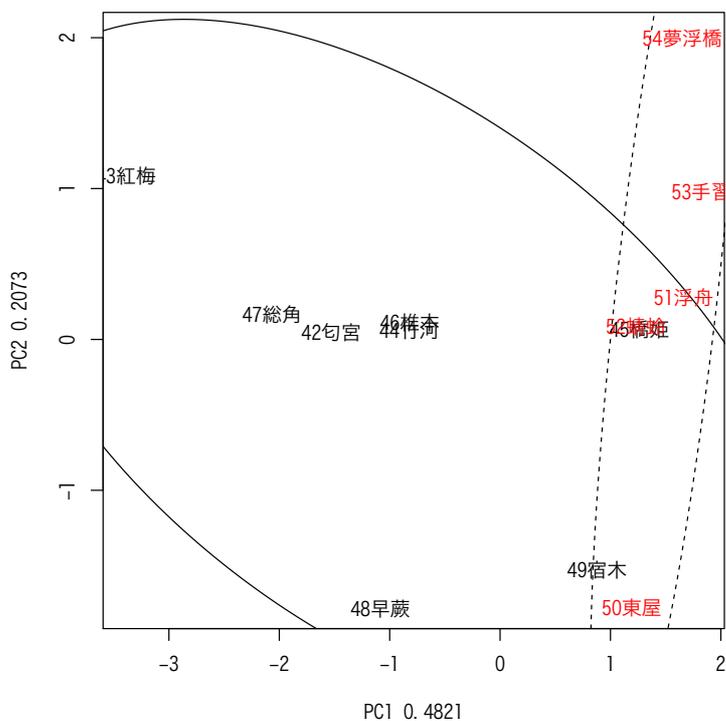


図 5.18 宇治十帖後半 5 巻とその他 8 巻の補助動詞における全語彙の主成分分析の結果

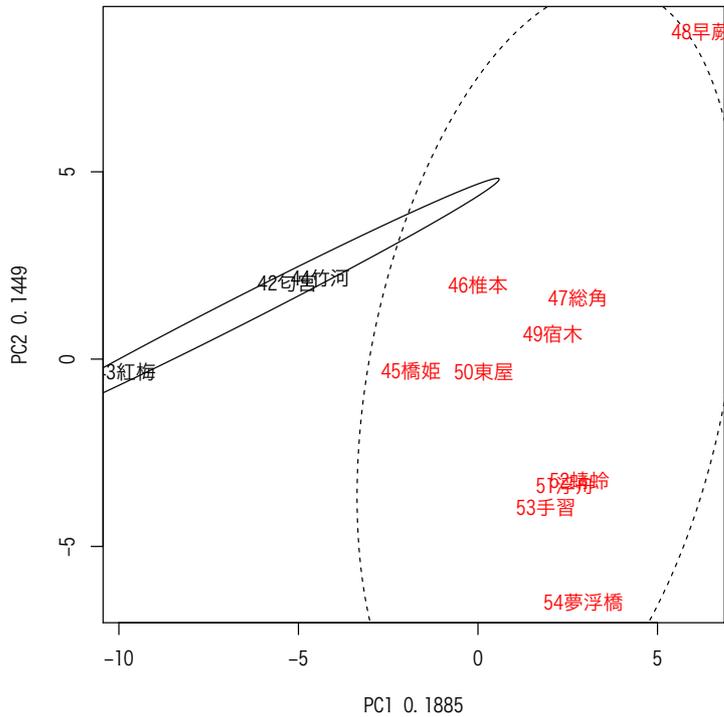


図 5.19 形容詞における出現頻度上位 99 語の主成分分析の結果

### 3.5 形容詞

形容詞の延べ語数は 7111、異なり語数は 544 である。出現頻度上位 99 語は頻度 16 以上の語が該当し、累積頻度は 5329 であり、形容詞の総度数に対する割合は 74.9%となる。図 5.19 は第 1 主成分と第 2 主成分の散布図であり、句宮三帖と宇治十帖との間において、語の出現傾向に顕著な相違が認められる。また、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間においても語の出現頻度について傾向の相違があることが推測される。

次に、宇治十帖における形容詞の延べ語数は 6386、異なり語数は 517 である。出現頻度上位 99 語は頻度 14 以上の語が該当し、累積頻度は 4807 であり、形容詞の総度数に対する割合は 75.3%となる。図 5.20 は第 1 主成分と第 2 主成分の散布図であり、前半 5 巻に属する第 48 巻「早蕨」および後半 5 巻に属する第 54 巻「夢浮橋」が他の巻から外れて付置されるが、前半 5 巻と後半 5 巻の 95%信頼楕円は重複しており、両グループの語の出現傾向に顕著な相違は認められないが、第 1 主成分において両グループの対象は正負に概ね分離して配置することから、異なる傾向を有していると考えられる。

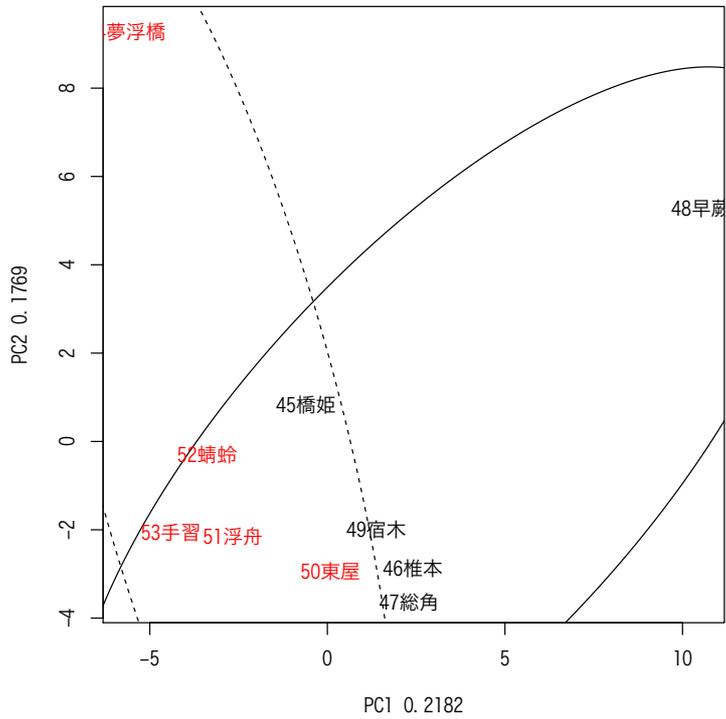


図 5.20 宇治十帖に限定した形容詞における出現頻度上位 99 語の主成分分析の結果

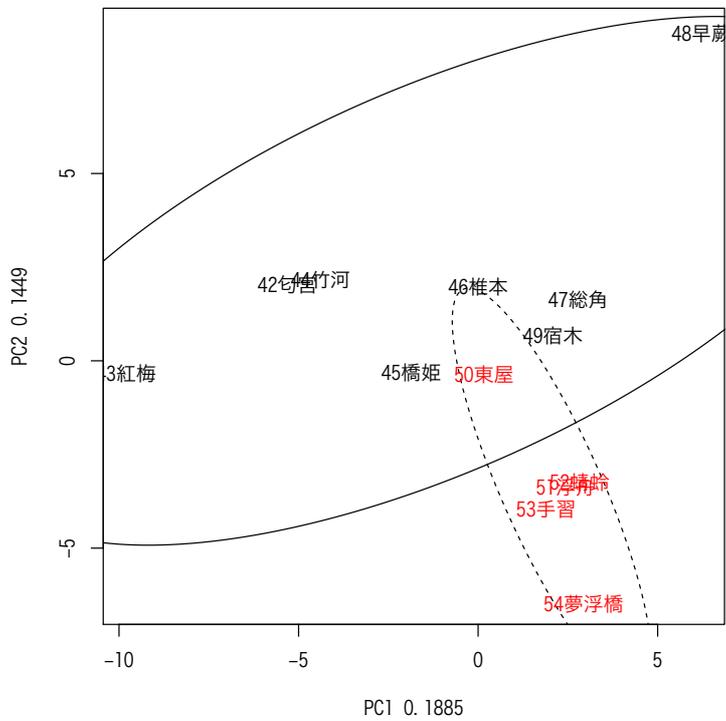


図 5.21 宇治十帖後半 5 巻とその他 8 巻の形容詞の出現頻度上位 99 語の主成分分析の結果

最後に、第三部の 13 巻の主成分分析において、匂宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻というグループに分割し 95%信頼楕円を描いた。図 5.21 に示したように、第 50 巻「東屋」が匂宮三帖および宇治十帖前半 5 巻のグループの 95%信頼楕円の内側に位置するが、両グループはおおよそ分離すると考えられる。すなわち、匂宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻、特に第 51 巻「浮舟」以降の 4 巻は異なる量的傾向を有していると考えられる。

### 3.6 形容動詞

形容動詞の延べ語数は 3037、異なり語数は 425 である。出現頻度上位 99 語は頻度 7 以上の語が該当し、累積頻度は 2368 であり、形容動詞の総度数に対する割合は 78.0%となる。主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.22 に示す通りであり、匂宮三帖と宇治十帖との間において、語の出現傾向に顕著な相違が認められる。

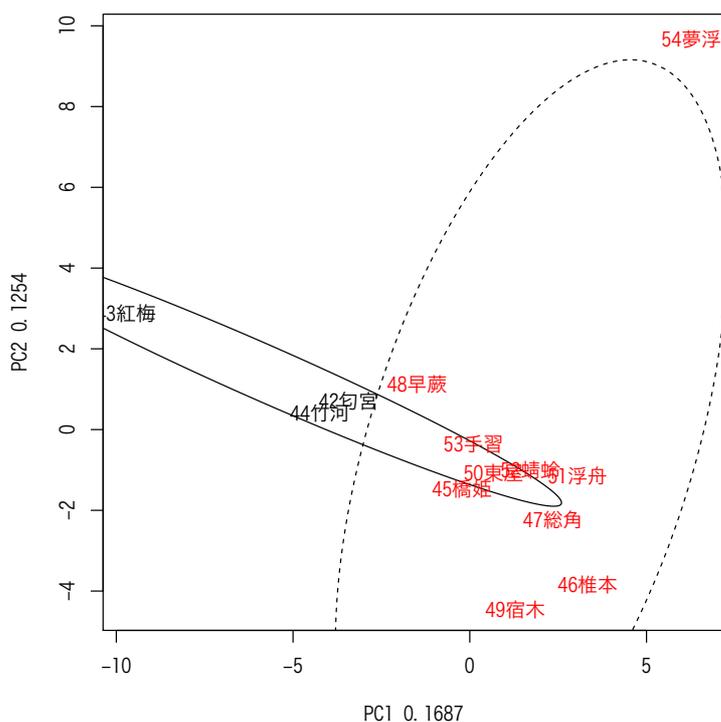


図 5.22 形容動詞における出現頻度上位 99 語の主成分分析の結果

次に、宇治十帖における形容動詞の延べ語数は 2734、異なり語数は 404 である。出現頻度上位 103 語は頻度 6 以上の語が該当し、累積頻度は 2154 であり、形容動詞の総度数に対する割合は 78.8%となる。主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.23 に示す通りであり、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間において、語の出現傾向に相違が認められると考えられる。

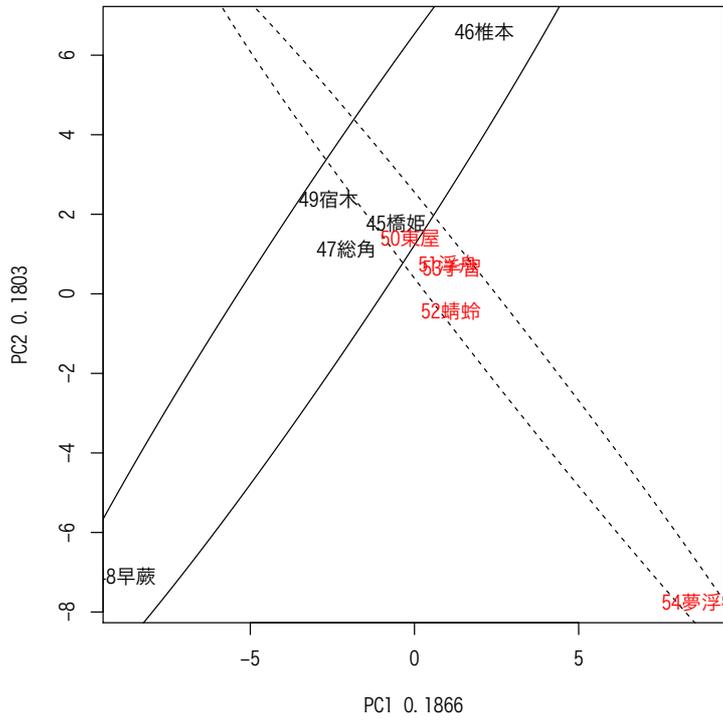


図 5.23 宇治十帖に限定した形容動詞における出現頻度上位 103 語の主成分分析の結果

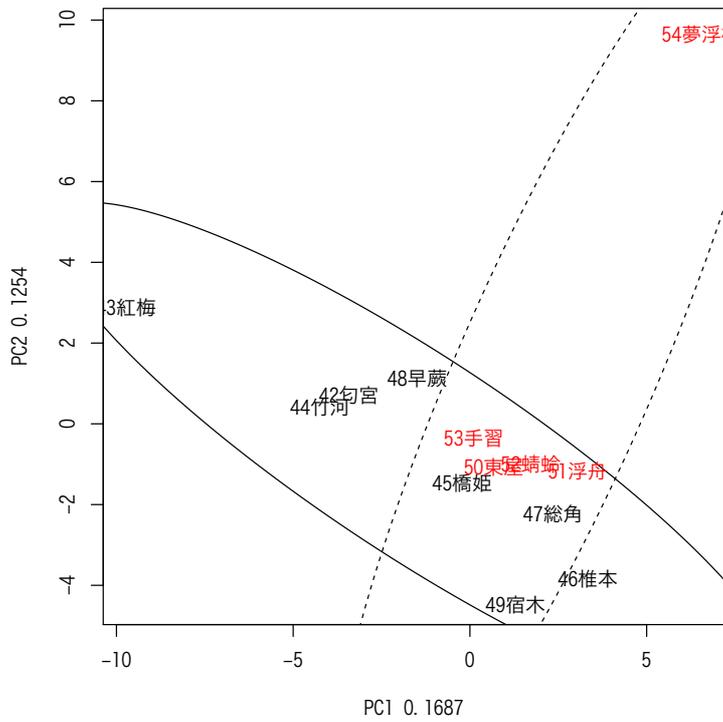


図 5.24 宇治十帖後半 5 巻とその他 8 巻の形容動詞の出現頻度上位 99 語の主成分分析の結果

また、第三部の 13 巻の主成分分析の結果において、匂宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻に分割し、それぞれ 95%信頼楕円を描くと、両グループの諸巻の多くは混在する。

このように、形容動詞においては匂宮三帖と宇治十帖との間には出現傾向の相違が認められるが、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間、匂宮三帖および宇治十帖全 5 巻と宇治十帖後半 5 巻との間においては出現傾向の顕著な相違は認められない。

### 3.7 副詞

副詞の延べ語数は 5191、異なり語数は 186 である。主成分分析には、頻度が 4 以上となる出現頻度上位 94 語を分析に用いる。これは累積頻度が 5057 であり、総度数に対する割合は 97.4% となる。主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.25 に示す通りであり、第 42 巻「匂宮」が外れて付置されるが、匂宮三帖と宇治十帖との間において、語の出現傾向に顕著な相違は認められない。

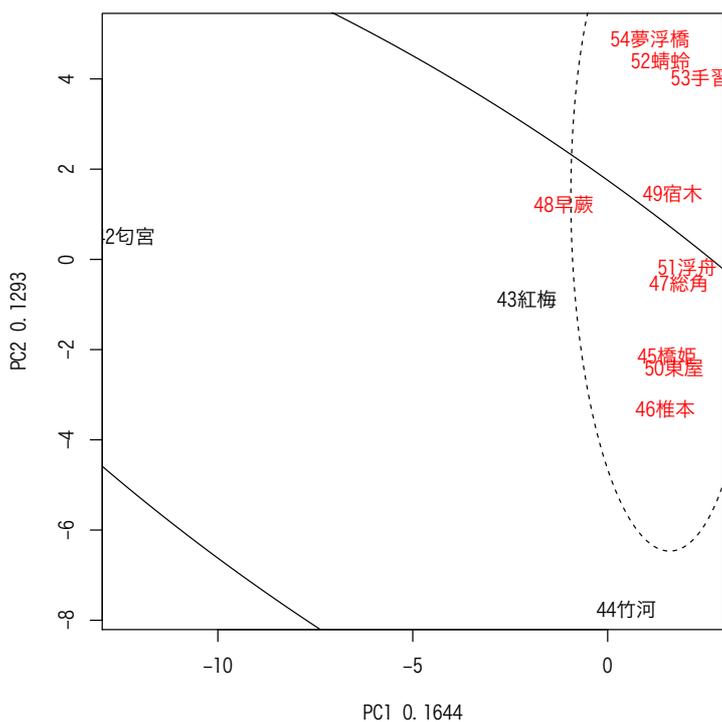


図 5.25 副詞における出現頻度上位 94 語の主成分分析の結果

次に宇治十帖における副詞の延べ語数は 4686、異なり語数は 179 である。主成分分析には、頻度が 3 以上となる出現頻度上位 102 語を分析に用いる。これは累積頻度が 4591 であり、総度数に対する割合は 98.0% となる。主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.26 に示す通りであり、後半 5 巻に属する第 54 巻「夢浮橋」が他の 4 巻から離れ

て付置され、両グループの諸巻は混在し、前半 5 巻と後半 5 巻との間において、語の長さの傾向に相違は認められない。

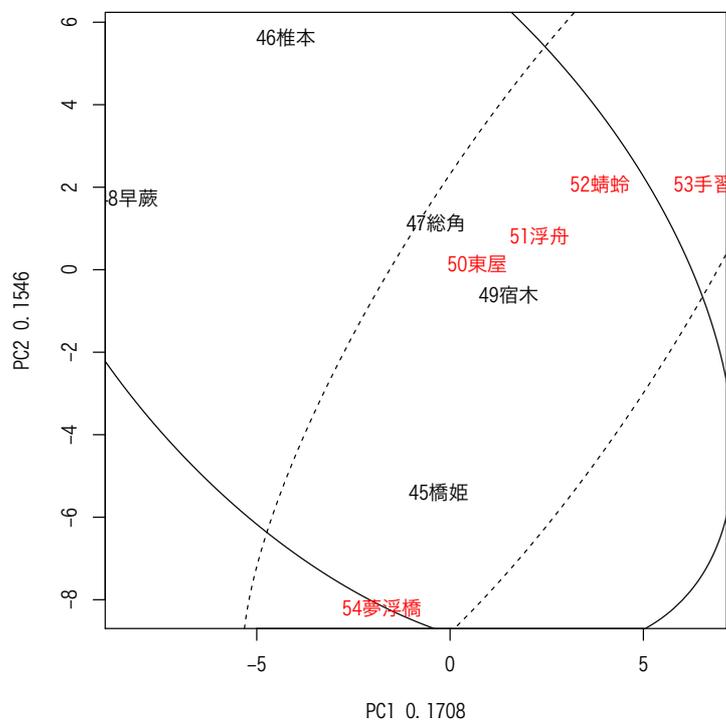


図 5.26 宇治十帖に限定した副詞における出現頻度上位 102 語の主成分分析の結果

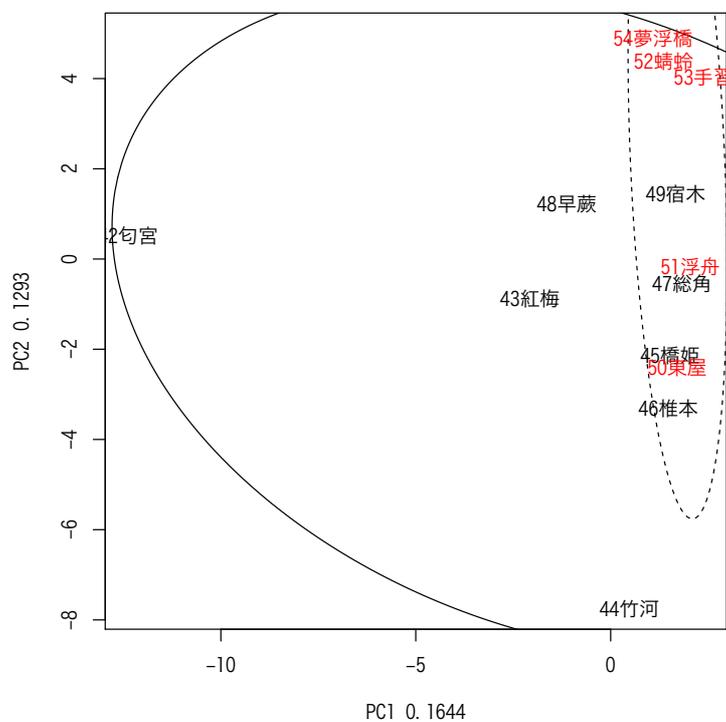


図 5.27 宇治十帖後半 5 巻とその他 8 巻の副詞の出現頻度上位 94 語の主成分分析の結果

また、第三部の 13 巻の主成分分析の結果において、句宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻に分割し、それぞれ 95%信頼楕円を描くと、両グループの諸巻の多くは混在する。

このように、副詞においては句宮三帖と宇治十帖との間、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間、句宮三帖および宇治十帖全 5 巻と宇治十帖後半 5 巻との間において、顕著な出現傾向の相違は認められない。

### 3.10 連体詞

連体詞の延べ語数は 1100、異なり語数は 9 である。出現頻度が 2 以上となる出現頻度上位 6 語について主成分分析を行った。出現頻度上位 6 語の累積頻度は 1097 であり、総度数に対する割合は 99.7%である。図 5.28 は第 1 主成分と第 2 主成分の散布図であり、句宮三帖と宇治十帖との間において、語の出現傾向に相違は認められない。

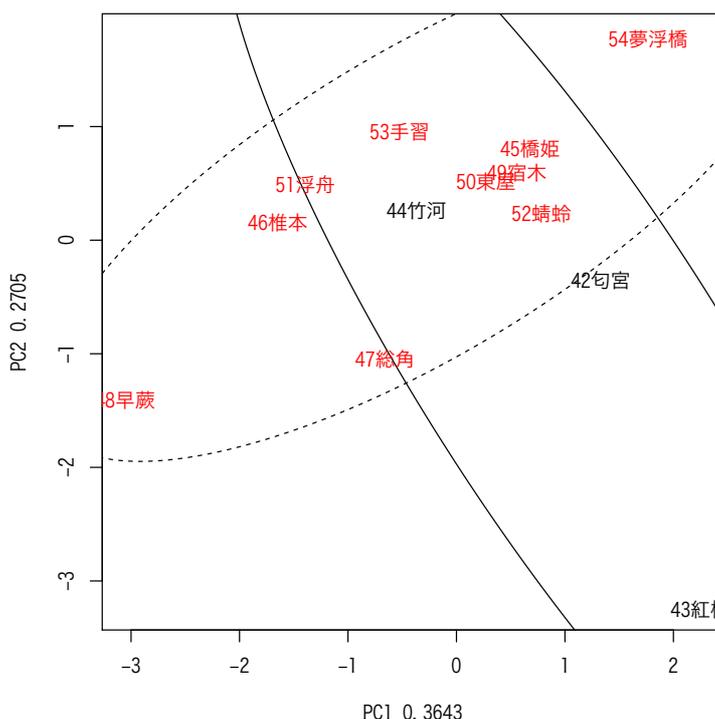


図 5.28 連体詞における出現頻度上位 6 語の主成分分析の結果

宇治十帖における連体詞の延べ語数は 974、異なり語数は 8 である。出現頻度が 2 以上となる出現頻度上位 6 語について主成分分析を行った。出現頻度上位 6 語の累積頻度は 972 であり、総度数に対する割合は 99.8%である。図 5.29 は第 1 主成分と第 2 主成分の散布図であり、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間において、語の出現傾向に相違は認められない。

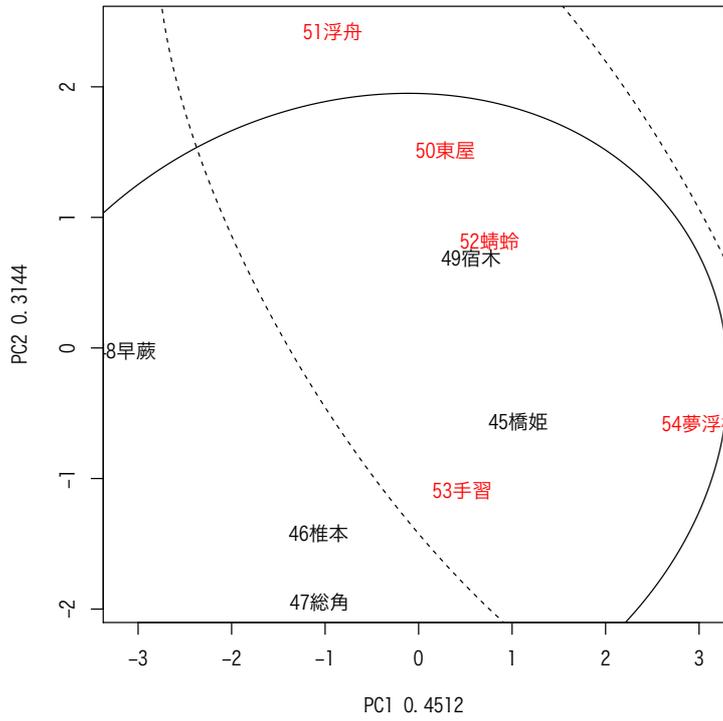


図 5.29 宇治十帖に限定した連体詞における出現頻度上位 6 語の主成分分析の結果

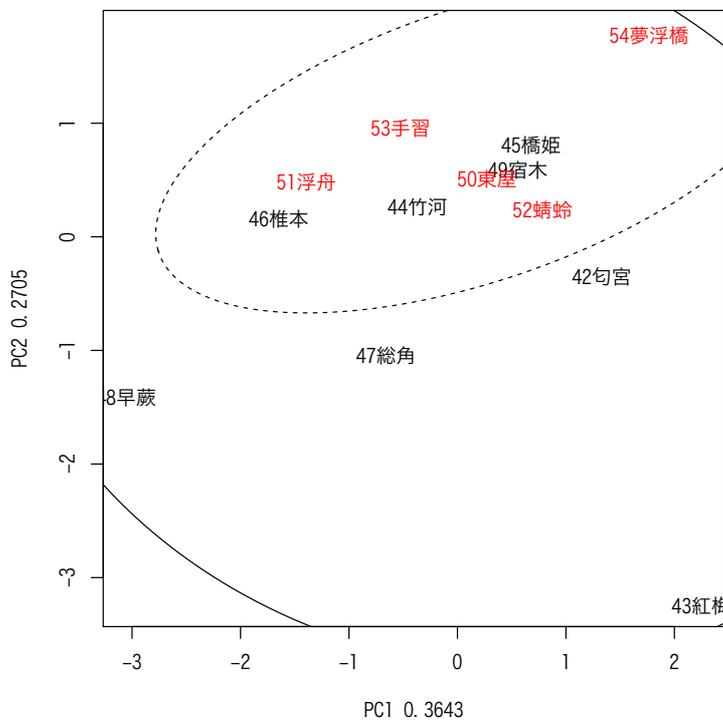


図 5.30 宇治十帖後半 5 巻とその他 8 巻の連体詞の出現頻度上位 6 語の主成分分析の結果

また、第三部の 13 巻の主成分分析の結果において、匂宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻に分割し、それぞれ 95%信頼楕円を描くと、両グループの諸巻の多くは混在する。

このように、連体詞においては匂宮三帖と宇治十帖との間、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間、匂宮三帖および宇治十帖全 5 巻と宇治十帖後半 5 巻との間において、顕著な出現傾向の相違は認められない。

### 3.11 助詞

助詞の延べ語数は 40075、異なり語数は 54 である。出現頻度が 1000 以上となる出現頻度上位 9 語について主成分分析を行った。出現頻度上位 9 語は頻度 1368 以上の語彙が該当し、累積頻度は 33126 であり、総度数に対する割合は 82.7%となる。図 5.31 は主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図であり、第 44 巻「竹河」が宇治十帖と混在し、匂宮三帖と宇治十帖との間において、語の出現傾向に顕著な相違は認められない。

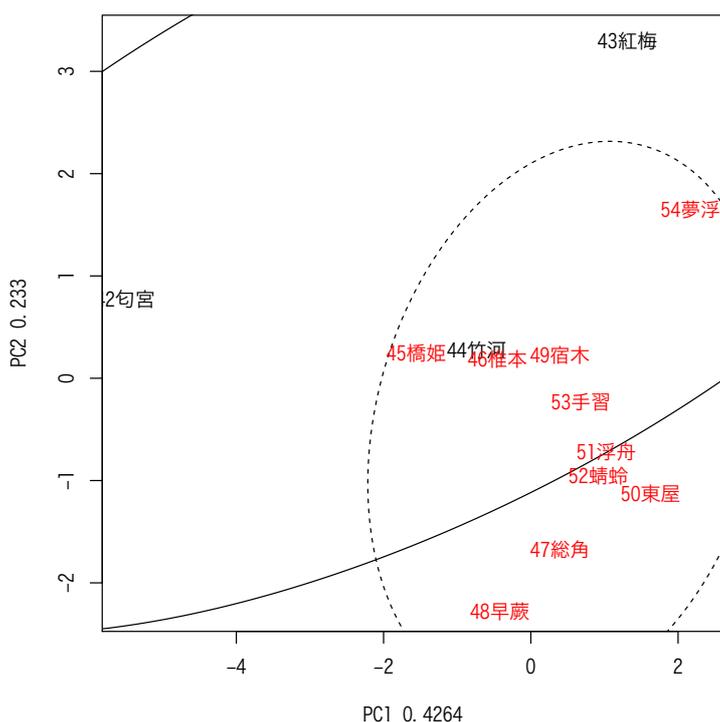


図 5.31 助詞における出現頻度上位 9 語の主成分分析の結果

次に、宇治十帖における助詞の延べ語数は 35785、異なり語数は 54 である。出現頻度が 1000 以上となる出現頻度上位 9 語について主成分分析を行った。出現頻度上位 9 語は頻度 1218 以上の語彙が該当し、累積頻度は 29493 であり、総度数に対する割合は 82.4%となる。図 5.32 は主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図であり、第 1 主成分の正負

において前半 5 巻と後半 5 巻は分離して配置していると考えられることから、両グループの間において、語の長さの傾向に相違が認められると言える。

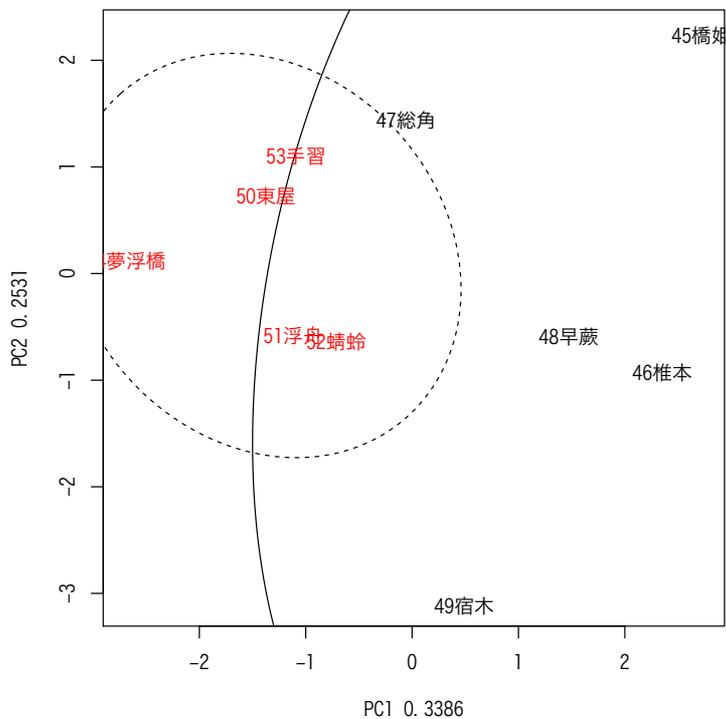


図 5.32 宇治十帖に限定した助詞における出現頻度上位 9 語の主成分分析の結果

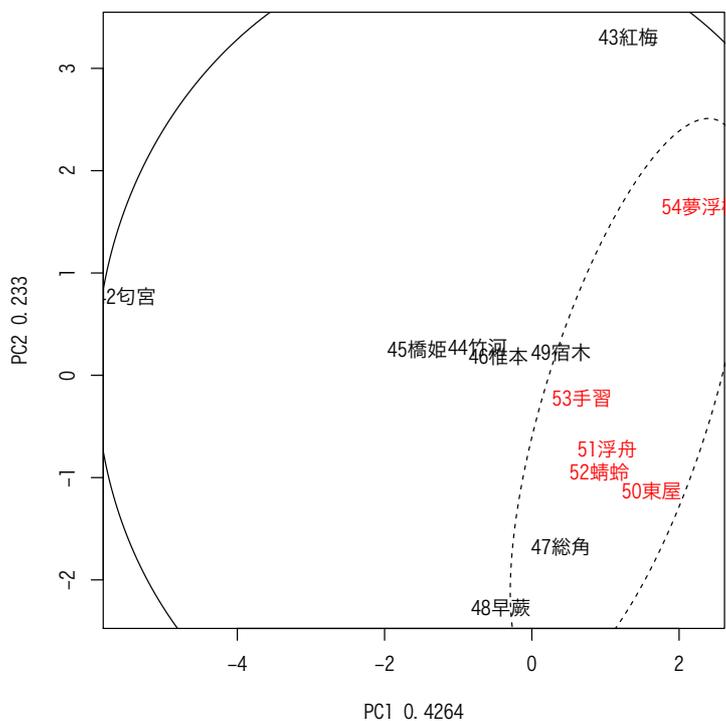


図 5.33 宇治十帖後半 5 巻とその他 8 巻の助詞における出現頻度上位 9 語の主成分分析の結果

最後に、第三部の 13 巻に対する主成分分析の結果において、匂宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻に分割し、95%信頼楕円を描くと、図 5.33 に示すように前者の信頼楕円に宇治十帖後半 5 巻が包含されるが、宇治十帖後半 5 巻は緊密にまとまって付置される。

このように、助詞においては匂宮三帖と宇治十帖との間、匂宮三帖および宇治十帖全 5 巻と宇治十帖後半 5 巻との間には出現傾向の顕著な相違が認められないが、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間においては出現傾向の相違は認められると考えられる。

### 3.12 助動詞

最後に、助動詞の延べ語数は 15188、異なり語数は 25 である。出現頻度が 1000 を超える出現頻度上位 8 語について主成分分析を行った。出現頻度上位 8 語は出現頻度が 1007 以上の語彙が該当し、累積頻度は 10800 であり、総度数に対する割合は 71.1%となる。主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.34 に示す通りであり、匂宮三帖と宇治十帖との間において、語の出現傾向に顕著な相違が認められるとは言えない。

次に、分析に低頻度語彙を含め、出現頻度が 3 以上となる出現頻度上位 23 語について、主成分分析を行ったとき、匂宮三帖と宇治十帖との間において、語の出現傾向に相違が認められると考えられる。上位 23 語の累積頻度は 15186 であり、総度数に対する割合もおおよそ 100%となる。図 5.35 は第 1 主成分と第 2 主成分の散布図であり、宇治十帖の第 48 巻「早蕨」が匂宮三帖の第 43 巻「紅梅」の付近に位置するが、匂宮三帖と宇治十帖との間において、語の出現傾向に相違があると推測される。

次に、宇治十帖における助動詞の延べ語数は 13733、異なり語数は 25 である。出現頻度が 1000 を超える出現頻度上位 5 語について主成分分析を行った。出現頻度上位 5 語は出現頻度が 1083 以上の語彙が該当し、累積頻度は 6921 であり、総度数に対する割合は 50.4%となる。主成分分析によって求められた第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.36 に示す通りであり、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間において、前半 5 巻の第 46 巻「椎本」が他の 4 巻から離れるが、おおよそ語の出現傾向に相違が認められる。

出現頻度が 3 以上となる出現頻度上位 23 語について、主成分分析を行った。累積頻度は 13731 であり、総度数に対する割合もおおよそ 100%となる。図 5.37 は第 1 主成分と第 2 主成分の散布図であり、前半 5 巻と後半 5 巻との間において、第 1 主成分において語の出現傾向に顕著な相違が認められる。

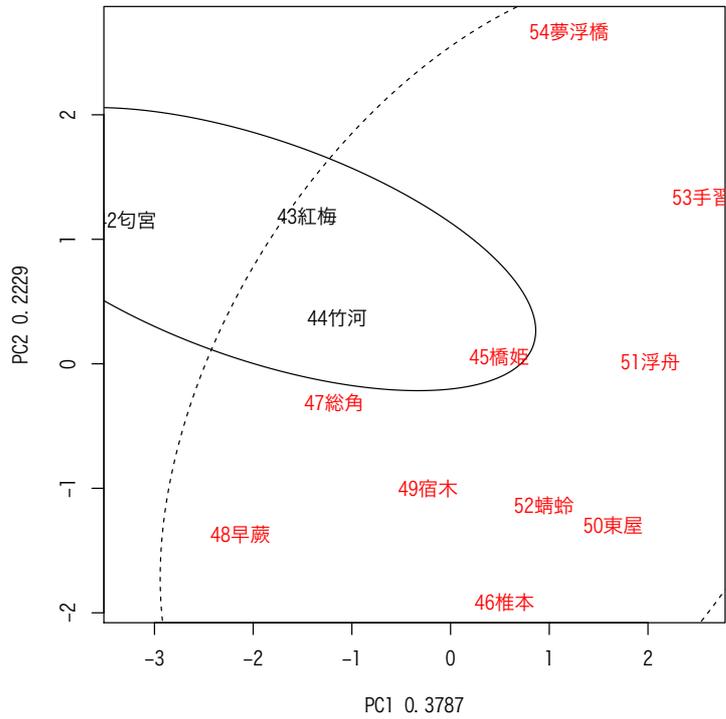


図 5.34 助動詞における出現頻度上位 8 語の主成分分析の結果

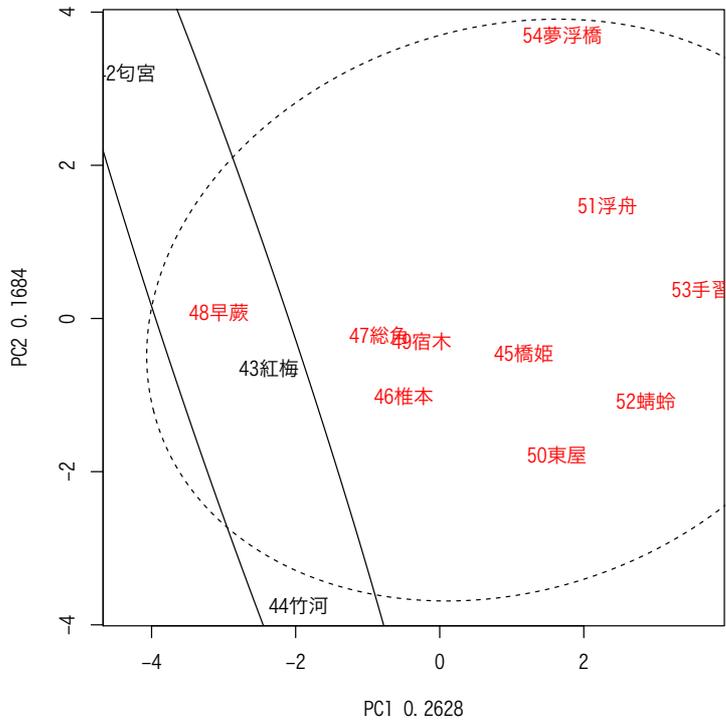


図 5.35 助動詞における出現頻度上位 23 語の主成分分析の結果

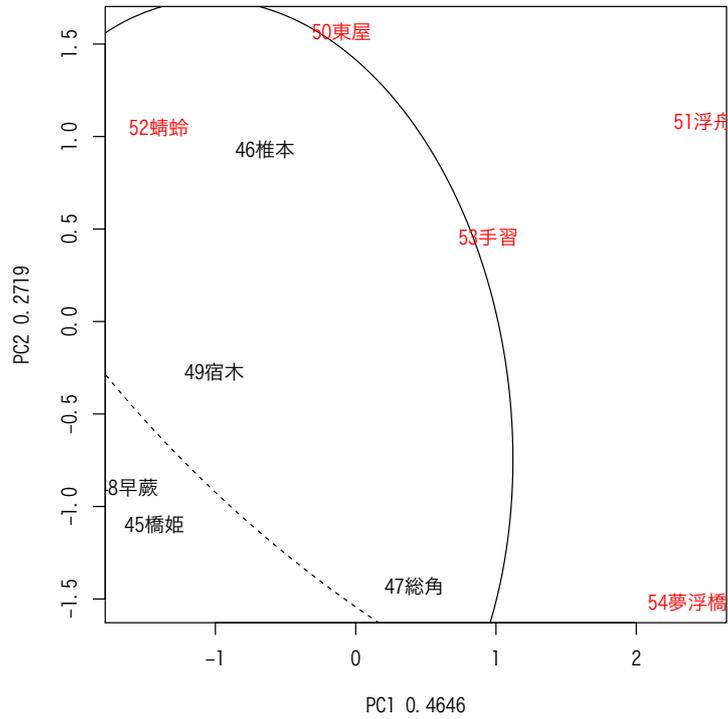


図 5.36 宇治十帖に限定した助動詞における出現頻度上位 5 語の主成分分析の結果

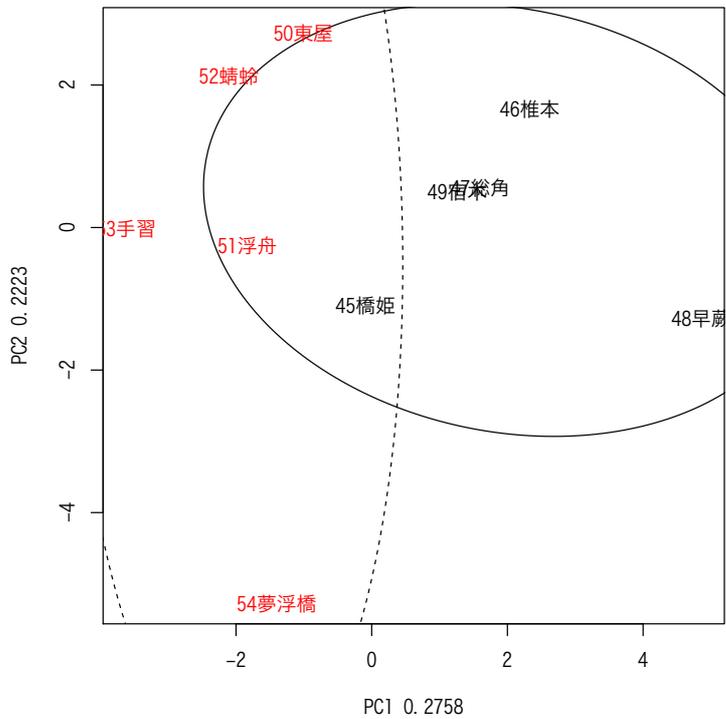


図 5.37 宇治十帖に限定した助動詞における出現頻度上位 23 語の主成分分析の結果

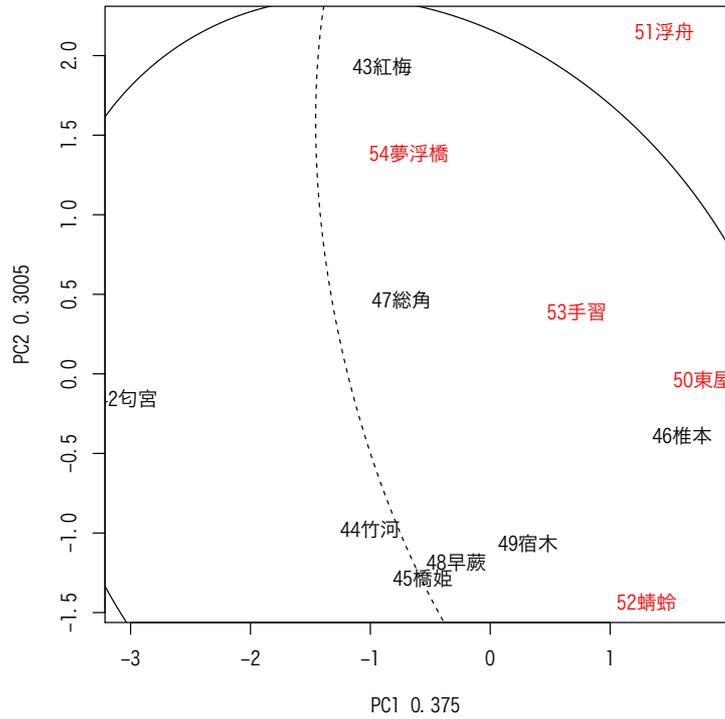


図 5.38 宇治十帖後半 5 巻と他 8 巻の助動詞における出現頻度上位 5 語の主成分分析の結果

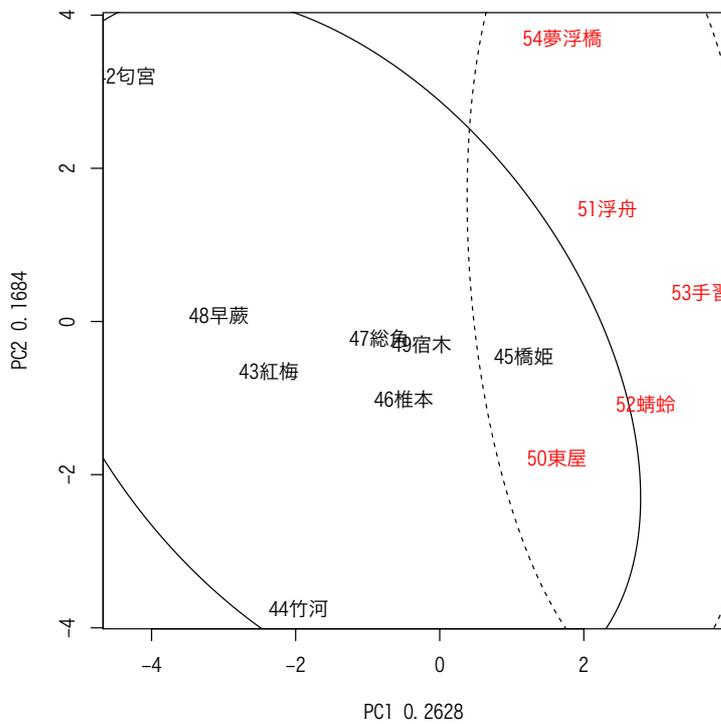


図 5.39 宇治十帖後半 5 巻と他 8 巻の助動詞における出現頻度上位 23 語の主成分分析の結果

最後に、第三部の 13 巻に対する出現頻度上位 5 語についての主成分分析の結果において、句宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻に分割し、95%信頼楕円を描くと、両グループは混在する。しかし、図 5.39 に示すように低頻度語彙を含め、出現頻度上位 23 語についての主成分分析の結果において、句宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻に分割し、95%信頼楕円を描くと、第 1 主成分において両グループはグループ別におよそ分離して付置される。

このように、助動詞においては句宮三帖と宇治十帖との間、句宮三帖および宇治十帖全 5 巻と宇治十帖後半 5 巻との間に出現傾向の相違が認められ、宇治十帖の後半 5 巻は宇治十帖前半 5 巻、句宮三帖および宇治十帖前半 5 巻のグループと相違する傾向を有していると考えられる。

### 3.13 考察

分析対象を句宮三帖および宇治十帖の 13 巻に限定し、語の頻度について分析を加えた。分析の結果、名詞・動詞・形容詞・形容動詞の出現傾向が句宮三帖と宇治十帖との間において相違していると言える。

次に、分析対象を宇治十帖に限定し、語の頻度について分析を加えたところ、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間において、名詞・代名詞・動詞・形容詞・形容動詞・助詞・助動詞の出現傾向に相違が認められた。他 41 巻と宇治十帖についての計量的な分析から、宇治十帖複数作者説については本研究において指示できる根拠は認められなかったが、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻の間には顕著な量的傾向の相違があると言える。

また、句宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻を比較するとき、名詞・代名詞・動詞・形容詞・助動詞において、両グループの間に語の出現傾向に相違が認められた。すなわち、宇治十帖の前半 5 巻は後半 5 巻よりも、表現形式の計量的な分析においては句宮三帖との親近性が高いと考えられる。

このように、語の頻度の分析において、宇治十帖後半 5 巻は宇治十帖前半 5 巻と、あるいは句宮三帖および宇治十帖前半 5 巻のグループとは異なる語の出現傾向を有していると考えられる。

## 4. 語の長さ

最後に、語の長さについて分析を行った。分析に用いる品詞は名詞・代名詞・動詞・補助動詞・形容詞・形容動詞・副詞・助詞・助動詞の 9 品詞であり、主成分分析における変数選択で

は、総度数に対して 90%以上になることを目安とした。また、擬作 3 作品に対する分析と同様に、水準数が 2 未満の品詞についても主成分分析を行わなかった。本章において、感動詞・接続詞・連体詞を分析から除外したのは語の長さを集計した結果、水準数が 2 であることによる。

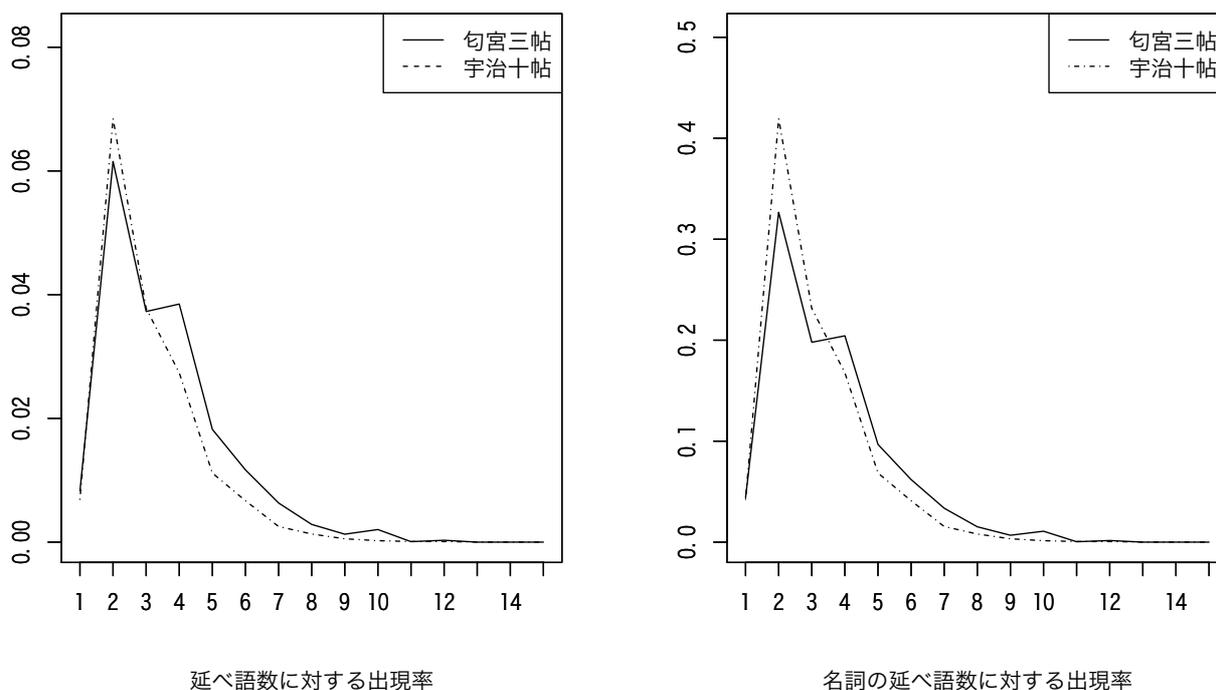


図 5.40 名詞の語の長さの分布

#### 4.1 名詞

まず、句宮三帖および宇治十帖における名詞の語の分布について概観する。両グループの語の長さの集計結果は図 5.40 に示す通りである。句宮三帖および宇治十帖はともに長さ 2 に出現率のピークがあるが、宇治十帖は長さ 3 以降の出現率はなだらかに減少するのに対し、句宮三帖は長さ 3 の出現率を長さ 4 の出現率が上回る。

次に、巻ごとに集計した語の長さに対し、主成分分析を行った。長さ 2 から長さ 6 までの 5 変数において総度数の 92.3% となり 90% を超えるため、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.41 に示す通りであり、句宮三帖と宇治十帖との間において、語の長さの傾向に顕著な相違が認められる。また、変数の数を増減させても両グループが分離して付置されることはない。

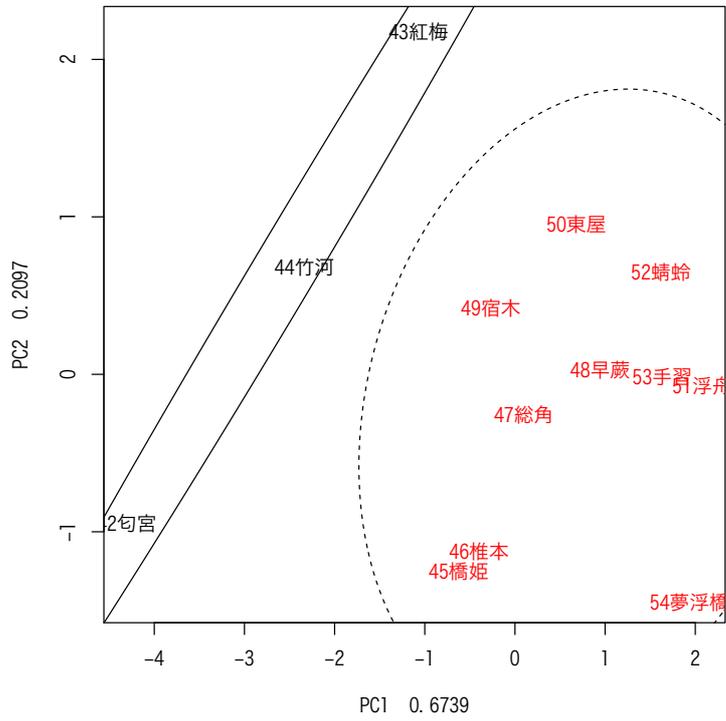


図 5.41 匂宮三帖および宇治十帖についての名詞の主成分分析

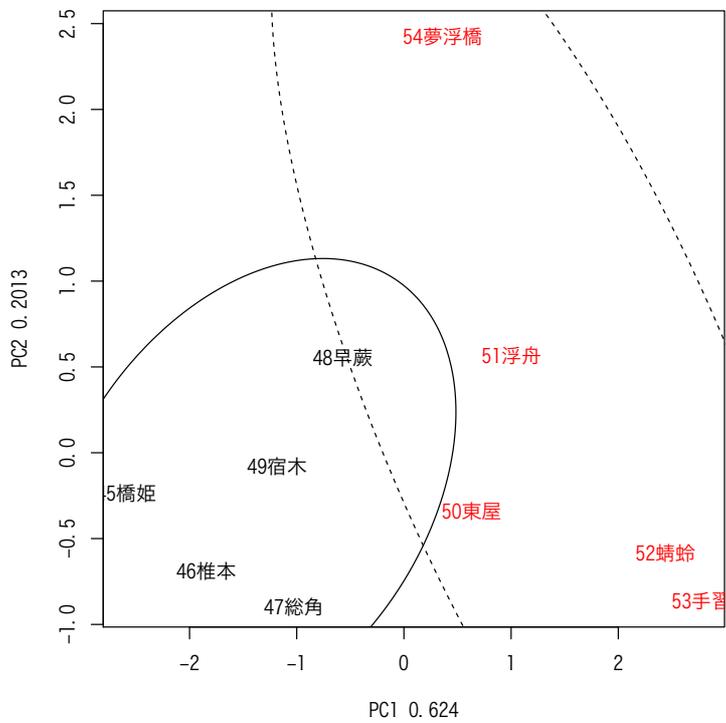


図 5.42 宇治十帖についての名詞の主成分分析

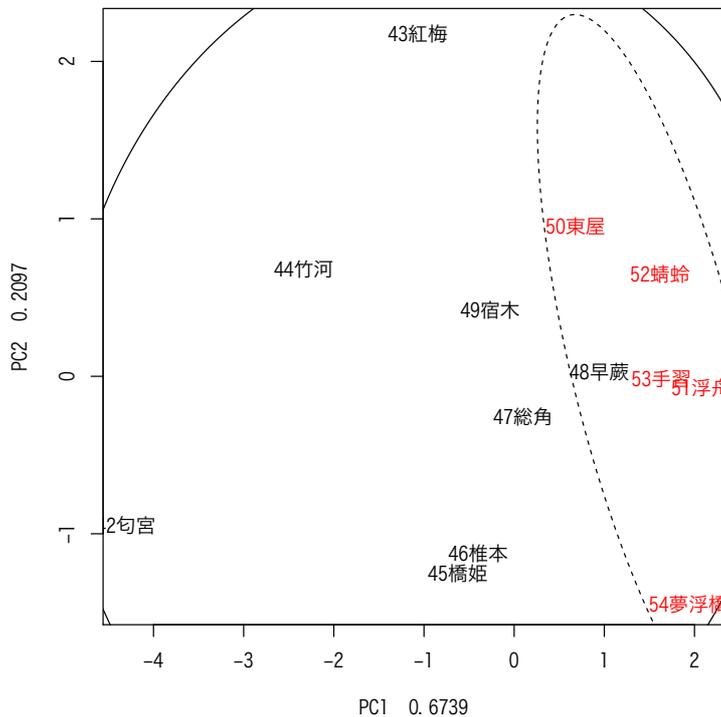


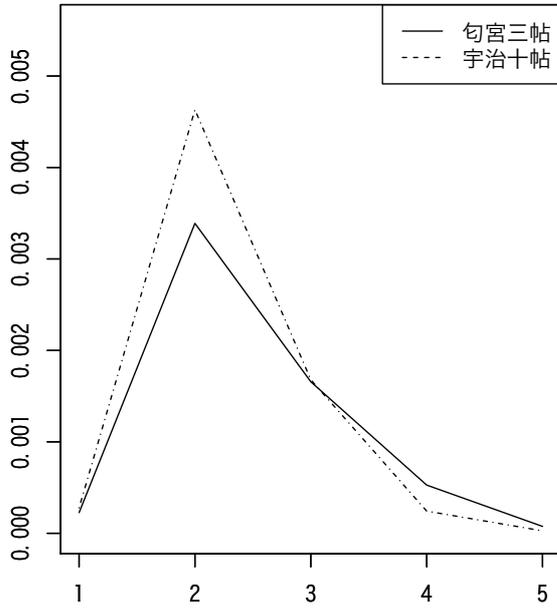
図 5.43 匂宮三帖および宇治十帖全 5 巻と宇治十帖後半 5 巻についての名詞の主成分分析

次に、宇治十帖の 10 巻について主成分分析を行った。長さ 1 から長さ 5 までの 5 変数において総度数の 92.9% となり 90% を超えるため、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.42 に示す通りであり、第 1 主成分において宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻の諸巻はおおよそ分離して付置き、両グループの間において、語の長さの傾向に相違が認められる。

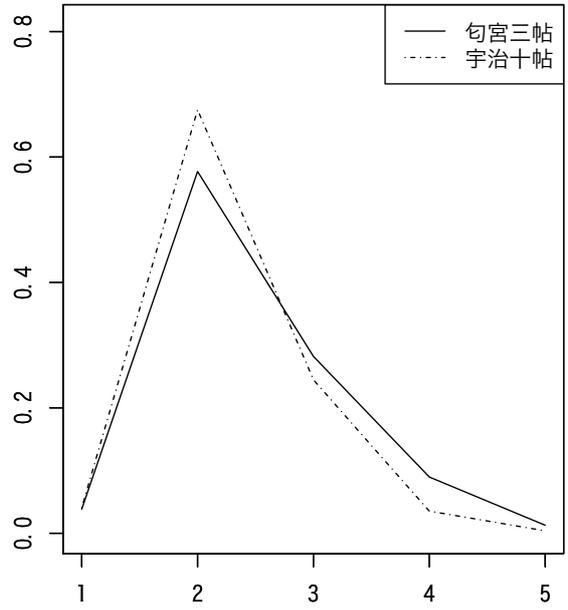
このように、宇治十帖は前半 5 巻と後半 5 巻の間に名詞の語の長さの量的傾向が相違すると言える。そこで、第三部の 13 巻における主成分分析において、匂宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻というグループに分割し 95% 信頼楕円を描いた。図 5.43 に示したように、95% 信頼楕円は重複するが、第 1 主成分の正負において、両グループは分離され、おおよそ混在しないと考えられる。すなわち、匂宮三帖の名詞の語の長さの分布は宇治十帖前半 5 巻に類する量的傾向を有していると考えられる。

## 4.2 代名詞

匂宮三帖と宇治十帖における代名詞の語の集計結果は図 5.44 に示す通りである。匂宮三帖および宇治十帖はともに長さ 2 に出現率のピークがあり、長さ 1 および長さ 2 においては宇治十帖の出現率が匂宮三帖を上回るが、長さ 3 以降の出現率は匂宮三帖が宇治十帖を上回る。



延べ語数に対する出現率



代名詞の延べ語数に対する出現率

図 5.44 代名詞の語の長さの分布

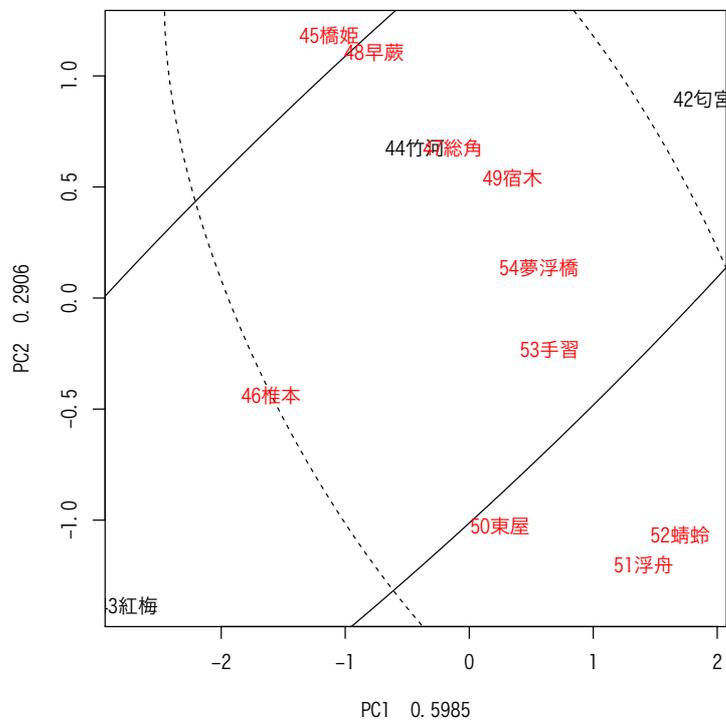


図 5.45 匂宮三帖および宇治十帖についての3変数を用いた代名詞の語の長さの主成分分析

巻ごとに集計した語の長さに対し、主成分分析を行った。長さ 1 から長さ 3 までの 3 変数において総度数の 95.5% となり 90% を超えるため、これら 3 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.45 に示す通りであり、両グループの諸巻は混在し、匂宮三帖と宇治十帖との間において、語の長さの傾向に相違は認められない。

次に、巻ごとに集計した語の長さに対し、主成分分析を行った。長さ 1 から長さ 3 までの 3 変数において総度数の 95.5% となり 90% を超えるため、これら 3 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.46 に示す通りであり、第 1 主成分において宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻は分離して付置き、両グループの間において、語の長さの傾向に相違が認められると言える。

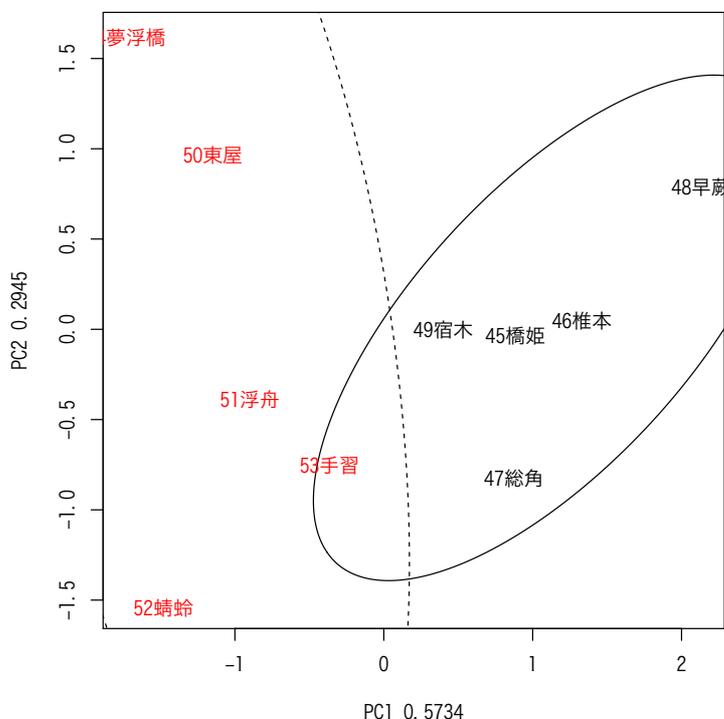


図 5.46 宇治十帖についての 3 変数を用いた代名詞の語の長さの主成分分析

このように、宇治十帖は前半 5 巻と後半 5 巻の間に代名詞の語の長さの量的傾向が相違すると思われる。そこで、第三部の 13 巻における主成分分析において、匂宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻というグループに分割し 95% 信頼楕円を描いた。図 5.47 に示したように、両グループの 95% 信頼楕円は重複するが、宇治十帖後半 5 巻はまとまって位置する。また、匂宮三帖の代名詞の語の長さの分布は宇治十帖前半 5 巻に類する量的傾向を有していると思われる。

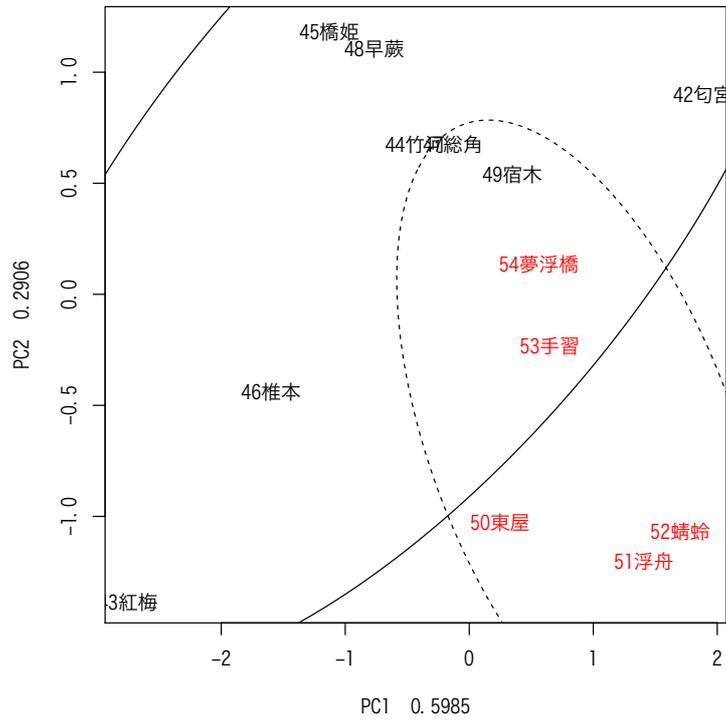


図 5.47 匂宮三帖および宇治十帖全 5 巻と宇治十帖後半 5 巻についての代名詞の主成分分析

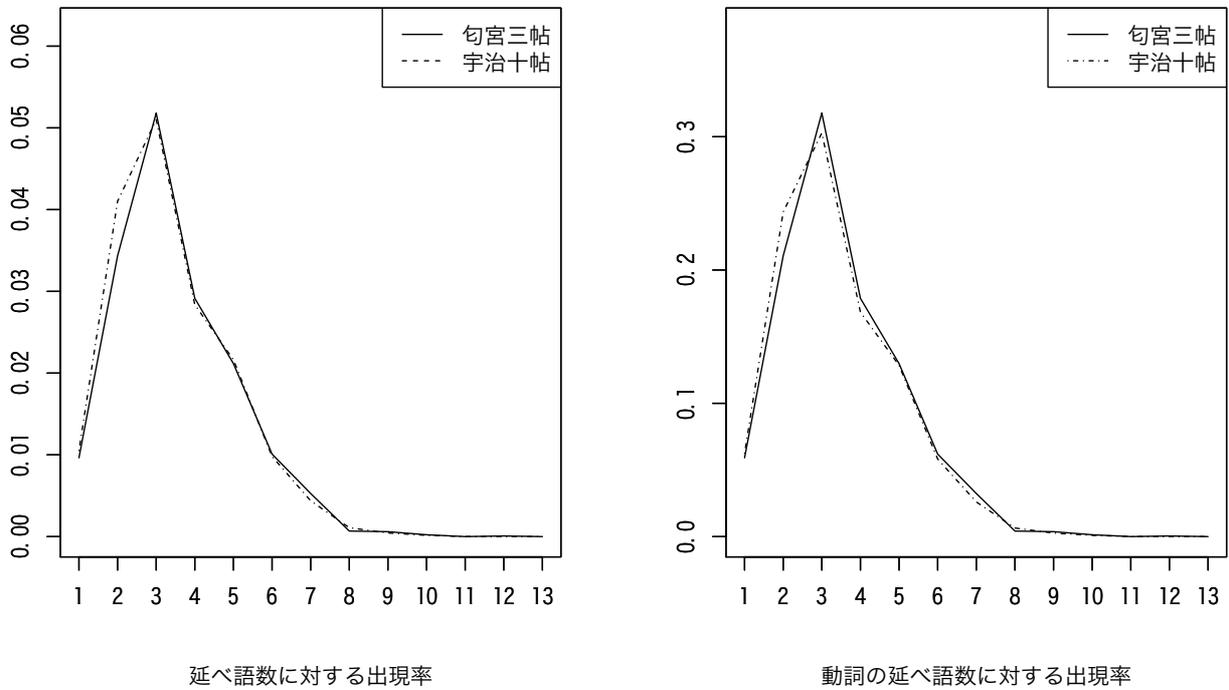


図 5.48 動詞の語の長さの分布

### 4.3 動詞

句宮三帖および宇治十帖における動詞の語の集計結果は図 5.48 に示す通りである。句宮三帖および宇治十帖はともに長さ 3 に出現率のピークがあり、両グループの間に傾向に顕著な相違は認められない。

次に、巻ごとに集計した語の長さに対し、主成分分析を行った。長さ 1 から長さ 5 までの 5 変数において総度数の 90.5% となり 90% を超え、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.49 に示す通りであり、両グループの諸巻は混在し、句宮三帖と宇治十帖との間において、語の長さの傾向に相違は認められない。ただし、図 5.49 において、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間においても、品詞構成比率の分析結果や一部の語の頻度の分析結果において認められたような、語の長さについての傾向に相違があることが推測される。

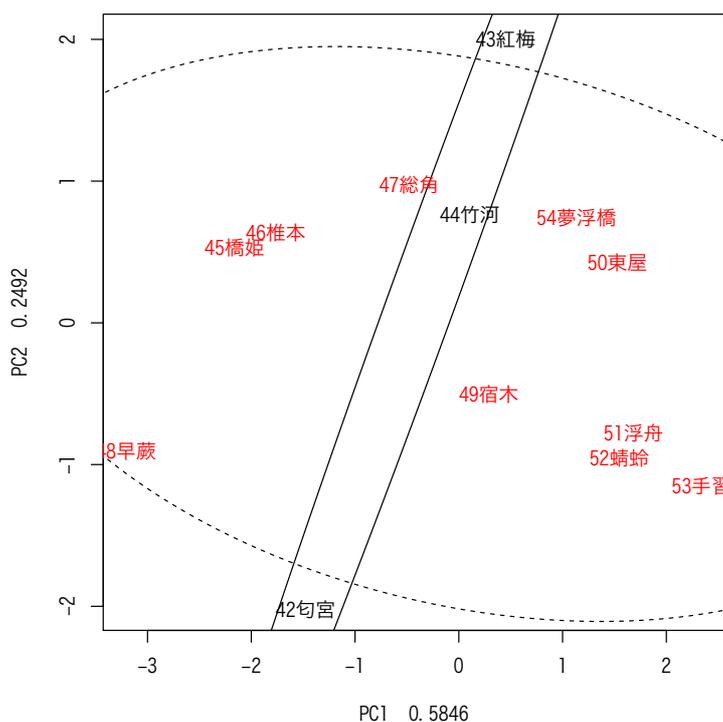


図 5.49 句宮三帖および宇治十帖についての 5 変数を用いた動詞の語の長さの主成分分析

次に、巻ごとに集計した語の長さに対し、主成分分析を行った。長さ 1 から長さ 5 までの 5 変数において総度数の 90.6% となり 90% を超え、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.50 に示す通りであり、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間において、語の長さの傾向に顕著な相違が認められる。

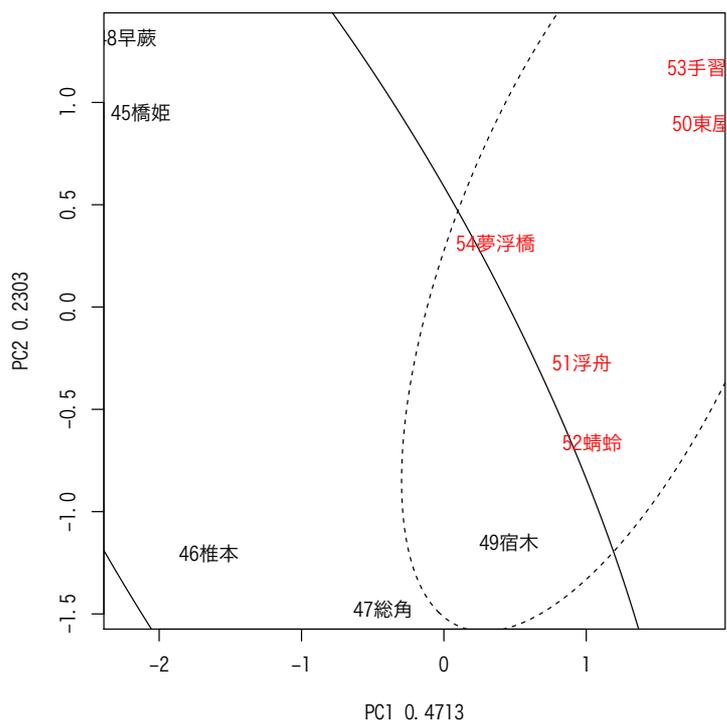


図 5.50 宇治十帖についての 5 変数を用いた動詞の語の長さの主成分分析

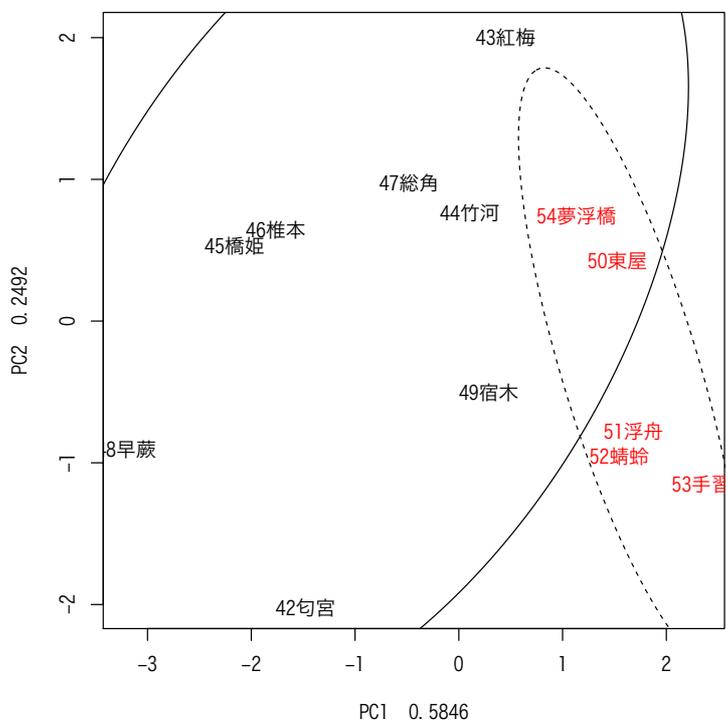


図 5.51 匂宮三帖および宇治十帖全 5 巻と宇治十帖後半 5 巻についての動詞の主成分分析

このように、宇治十帖は前半 5 巻と後半 5 巻の間に動詞の語の長さの量的傾向が相違すると考えられる。そこで、第三部の 13 巻における主成分分析において、匂宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻というグループに分割し 95%信頼楕円を描いた。図 5.51 に示したように、95%信頼楕円は重複するが、第 1 主成分の正負において両グループは分離され、およそ混在しないと考えられる。すなわち、匂宮三帖の動詞の語の長さは宇治十帖前半 5 巻に類する量的傾向を有していると考えられる。

#### 4.4 補助動詞

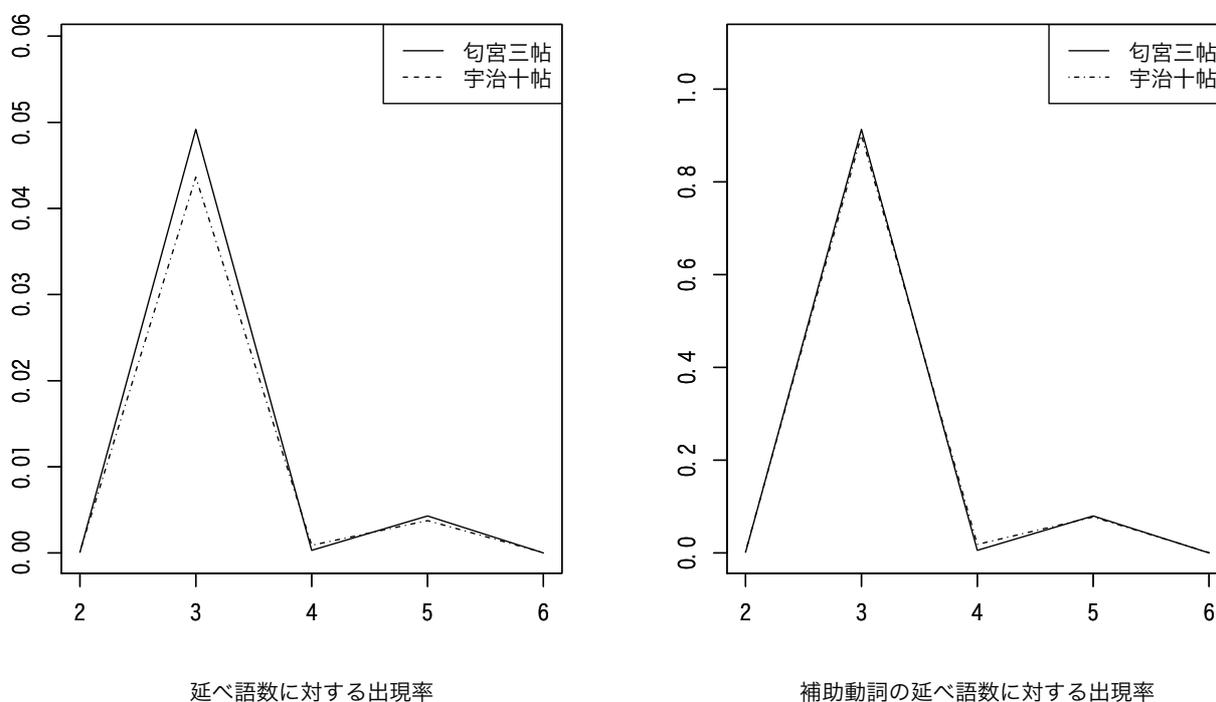


図 5.52 補助動詞の語の長さの分布

匂宮三帖と宇治十帖における補助動詞の語の集計結果は図 5.52 に示す通りである。動詞と同様に、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻はともに長さ 3 に出現率のピークがあり、両グループの間に傾向に顕著な相違は認められない。

次に、巻ごとに語の長さを集計し主成分分析を行った。長さ 3 から長さ 5 までの 3 変数において総度数の 99.7%となるため、これら 3 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.53 に示す通りであり、匂宮三帖の第 44 巻「竹河」が宇治十帖の諸巻が位置する領域に接近して位置するが、匂宮三帖と宇治十帖との間において、語の長さの傾向に相違が認められると言える。

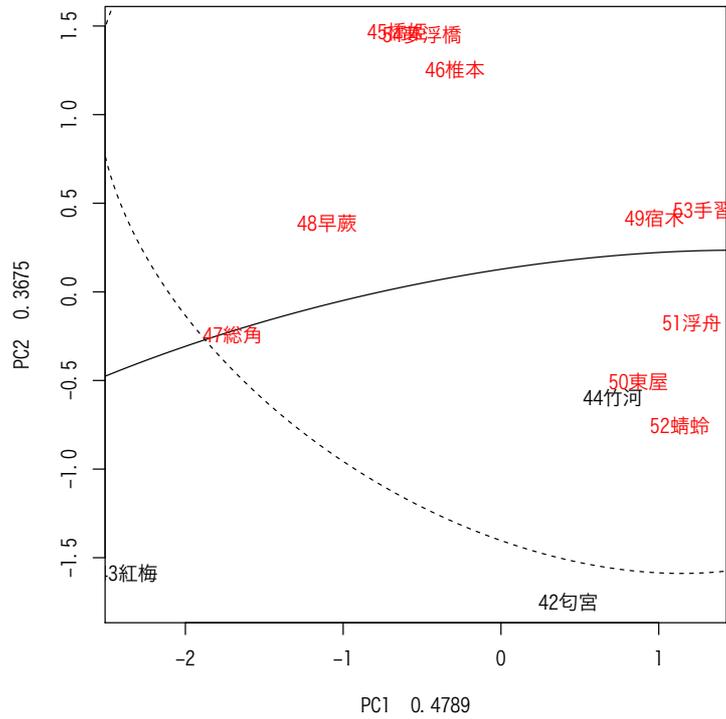


図 5.53 匂宮三帖および宇治十帖についての 3 変数を用いた補助動詞の主成分分析

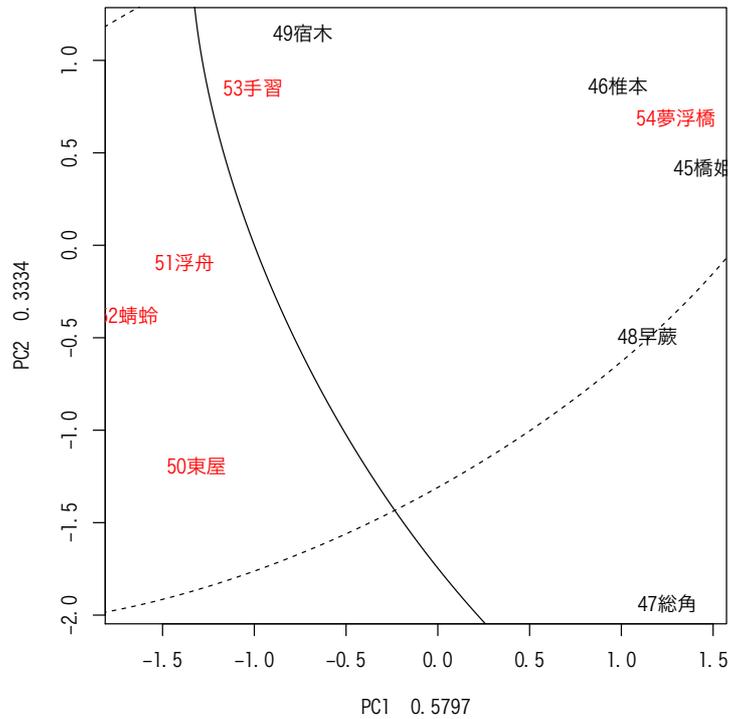


図 5.54 宇治十帖についての 3 変数を用いた補助動詞の主成分分析

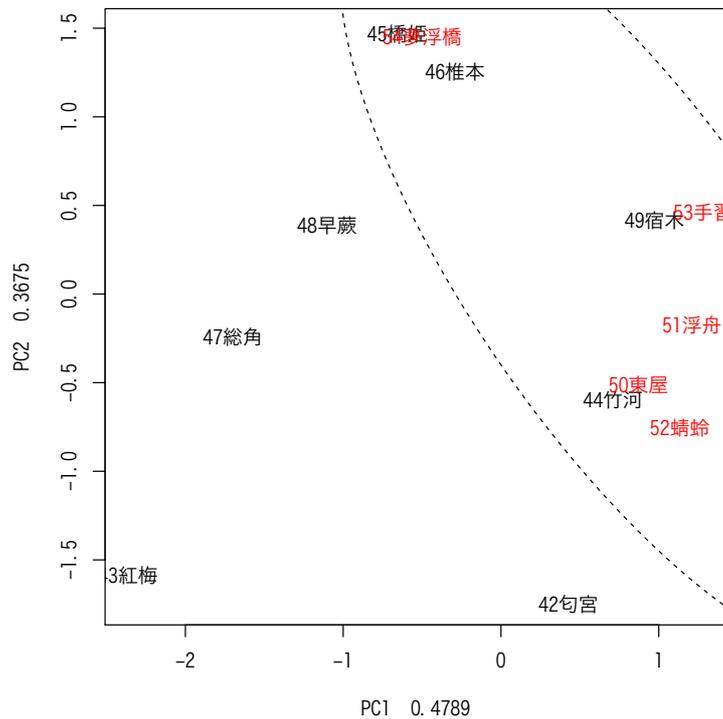


図 5.55 匂宮三帖および宇治十帖全 5 巻と宇治十帖後半 5 巻についての補助動詞の主成分分析

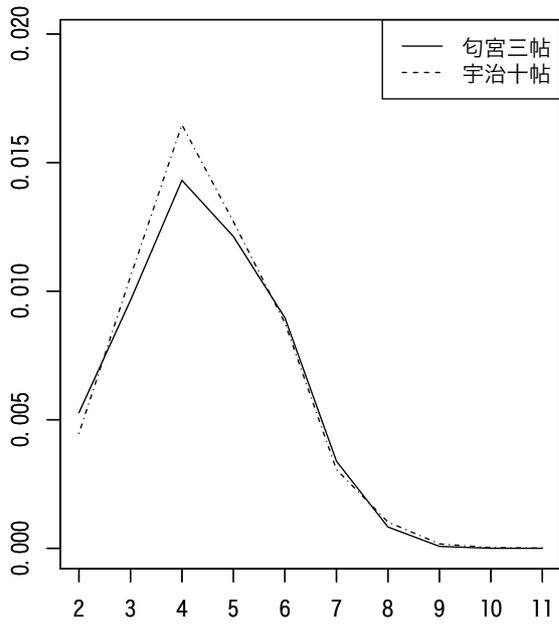
次に、宇治十帖を対象とし、主成分分析を行った。長さ 3 から長さ 5 までの 3 変数において総度数の 99.6%となるため、これら 3 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.54 に示す通りであり、両グループの諸巻は混在し、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間において、語の長さの傾向に相違は認められない。

最後に、第三部の 13 巻における主成分分析において、匂宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻というグループに分割し 95%信頼楕円を描いた。図 5.55 に示したように、95%信頼楕円は重複し、両グループの間に量的傾向の相違は認められない。

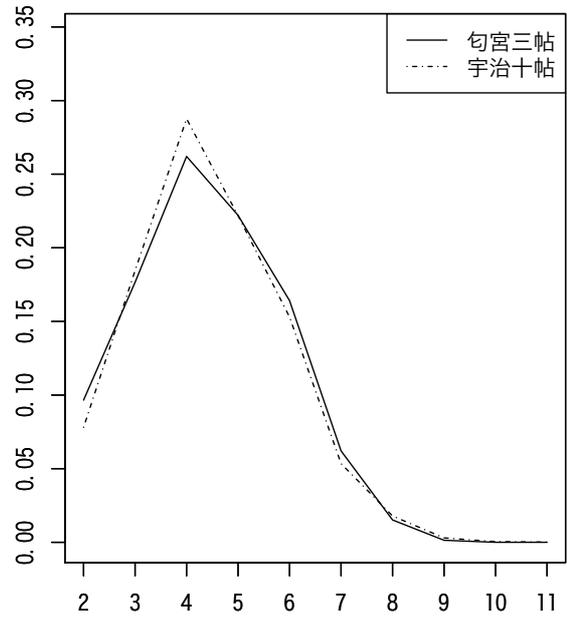
#### 4.5 形容詞

匂宮三帖と宇治十帖における形容詞の語の集計結果は図 5.56 に示す通りである。匂宮三帖における出現率が低いものの、匂宮三帖および宇治十帖はともに長さ 4 に出現率のピークがあり、両グループの間に傾向に顕著な相違は認められないと考えられる。

次に、巻ごとに集計した語の長さに対し、主成分分析を行った。長さ 2 から長さ 6 までの 5 変数において総度数の 92.5%となるため、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.57 に示す通りであり、両グループの諸巻は混在し、匂宮三帖と宇治十帖との間において、語の長さの傾向に相違は認められない。



延べ語数に対する出現率



形容詞の延べ語数に対する出現率

図 5.56 形容詞の語の長さの分布

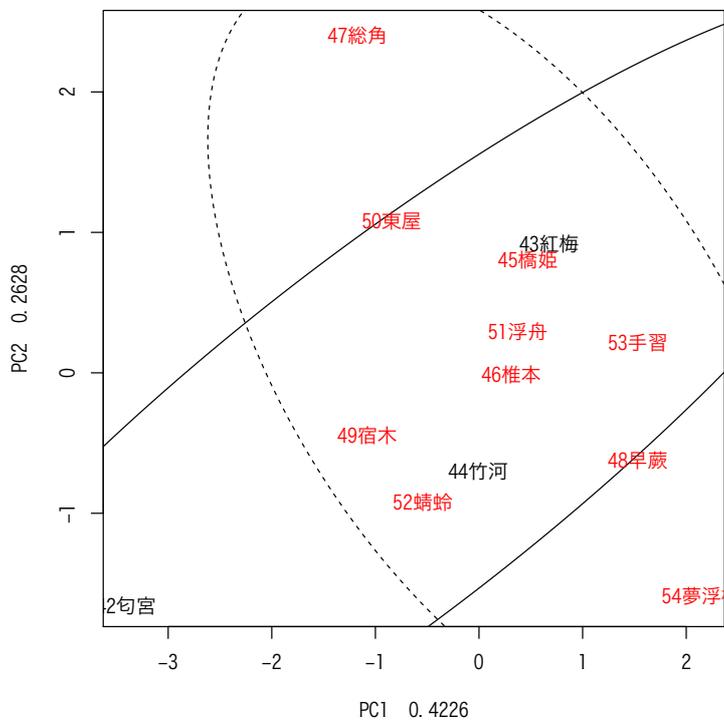


図 5.57 匂宮三帖および宇治十帖についての 5 変数を用いた形容詞の語の長さの主成分分析

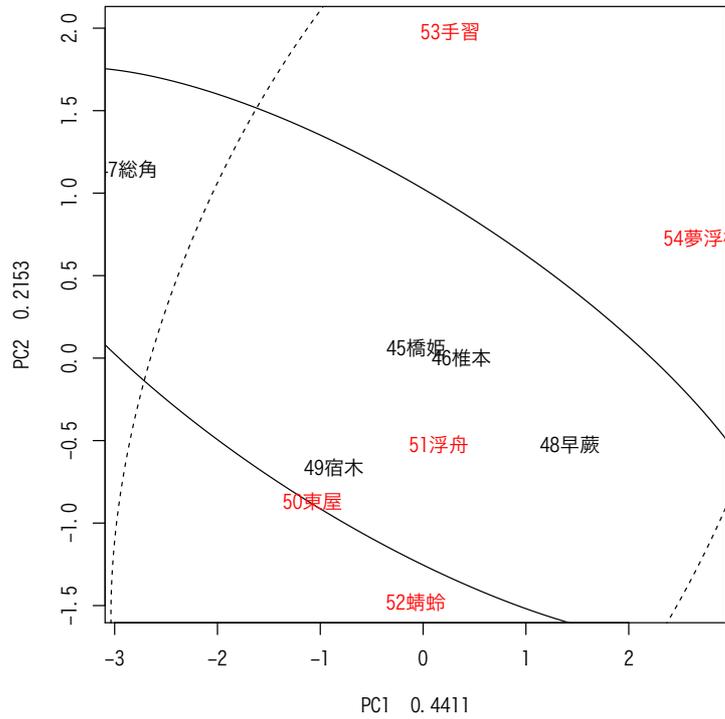


図 5.58 宇治十帖についての 5 変数を用いた形容詞の語の長さの主成分分析

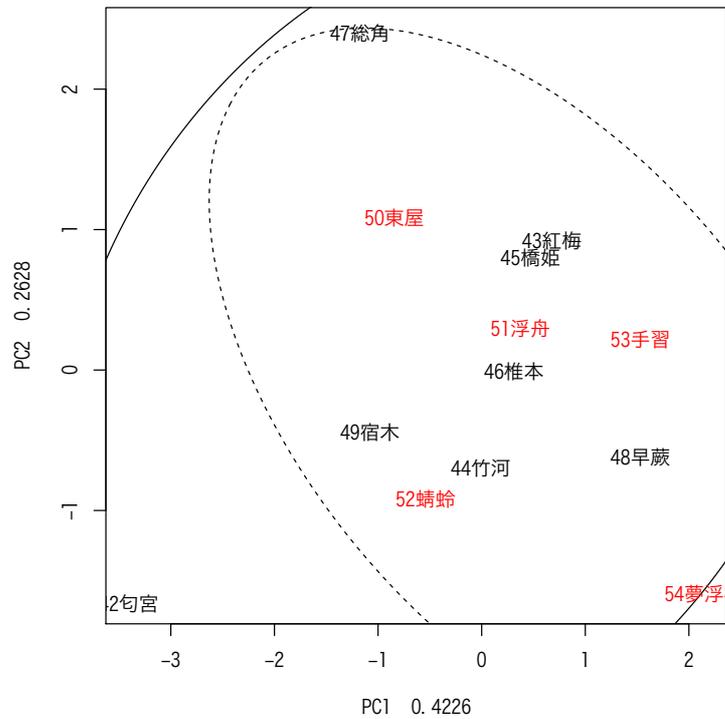


図 5.59 匂宮三帖および宇治十帖全 5 巻と宇治十帖後半 5 巻についての形容詞の主成分分析

宇治十帖を分析対象とし集計した語の長さに対し、主成分分析を行った。長さ 2 から長さ 6 までの 5 変数において総度数の 92.5% となるため、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.58 に示す通りであり、両グループの諸巻は混在し、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間において、語の長さの傾向に相違は認められない。

最後に、第三部の 13 巻における主成分分析において、匂宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻というグループに分割し 95% 信頼楕円を描いた。図 5.59 に示したように、95% 信頼楕円は重複し、両グループの間に量的傾向の相違は認められない。

以上より、形容詞においては匂宮三帖と宇治十帖との間、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間、匂宮三帖および宇治十帖全 5 巻と宇治十帖後半 5 巻との間において、顕著な出現傾向の相違は認められない。

#### 4.6 形容動詞

匂宮三帖と宇治十帖における形容動詞の語の集計結果は図 5.60 に示す通りである。匂宮三帖および宇治十帖はともに長さ 5 における出現率がピークとなる。しかし、長さ 4 においては匂宮三帖の出現率が宇治十帖における出現率を割り込む。

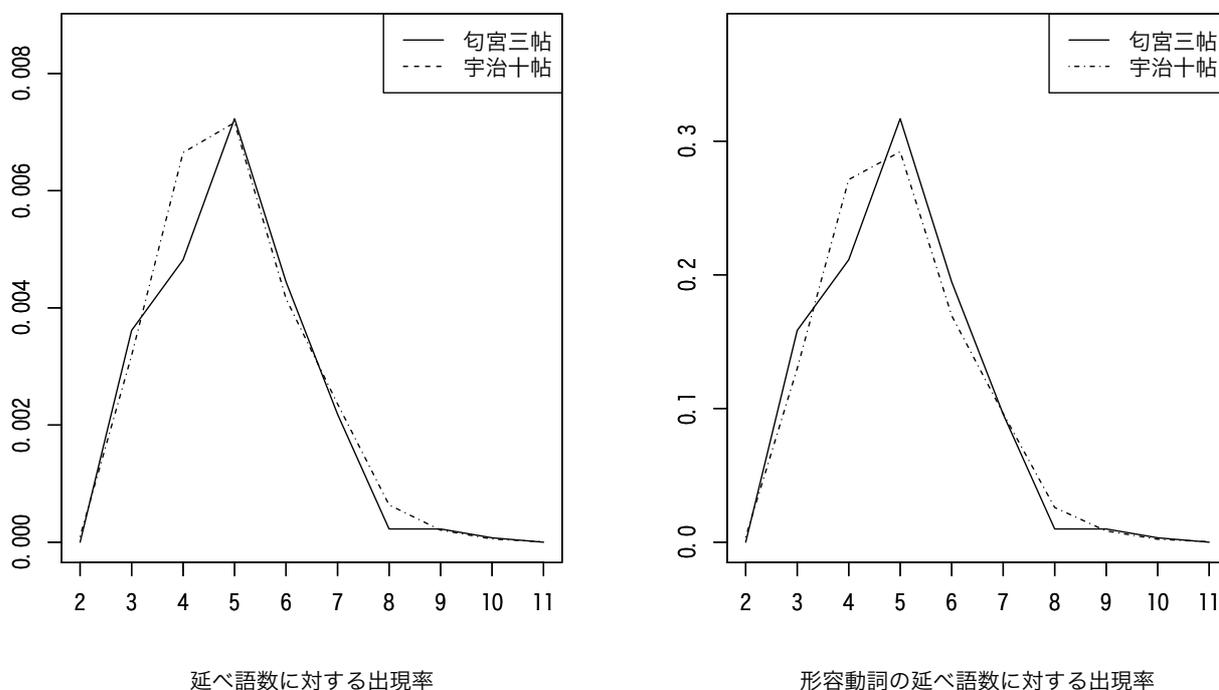


図 5.60 形容動詞の語の長さの分布

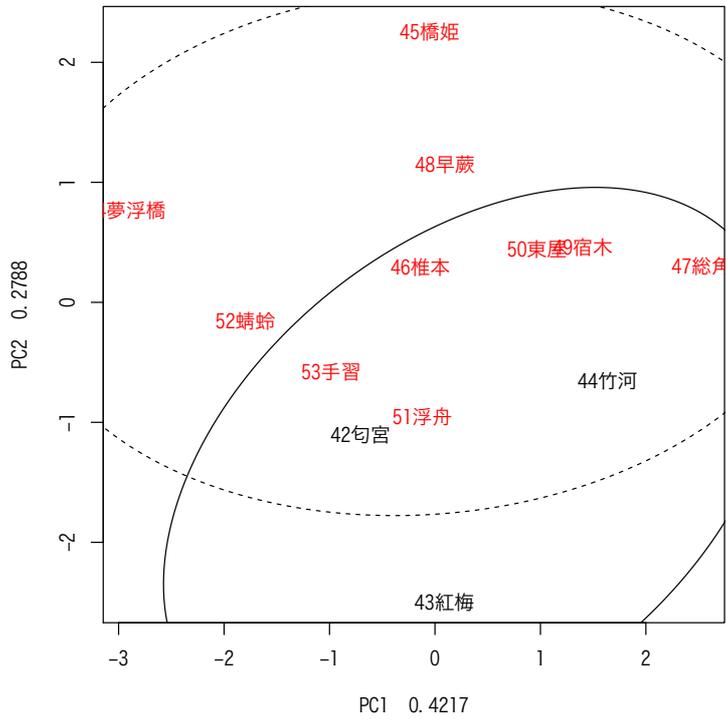


図 5.61 匂宮三帖および宇治十帖についての 5 変数を用いた形容動詞の語の長さの主成分分析

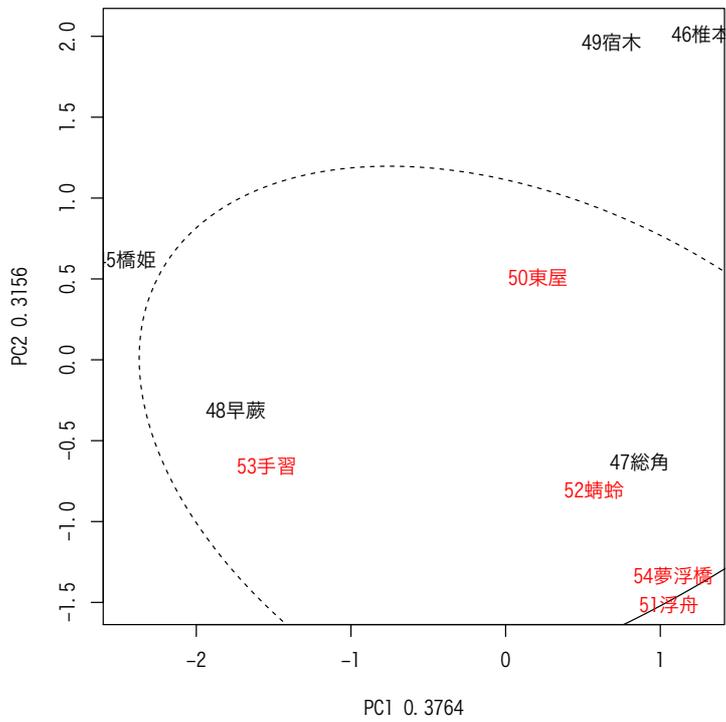


図 5.62 宇治十帖についての 5 変数を用いた形容動詞の語の長さの主成分分析

次に、巻ごとに集計した語の長さに対し、主成分分析を行った。長さ 3 から長さ 7 までの 5 変数において総度数の 96.1%となるため、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.61 に示す通りであり、匂宮三帖と宇治十帖との間において、顕著ではないが語の長さの傾向に相違が認められると考えられる。

宇治十帖を分析対象とし集計した語の長さに対し、主成分分析を行った。長さ 3 から長さ 7 までの 5 変数において総度数の 95.9%となるため、これら 5 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.62 に示す通りであり、前半 5 巻に属する第 46 巻「椎本」が後半 5 巻に、後半 5 巻に属する第 50 巻「東屋」が前半 5 巻に接近して位置するが、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間において、顕著ではないが語の長さの傾向に相違が認められると考えられる。

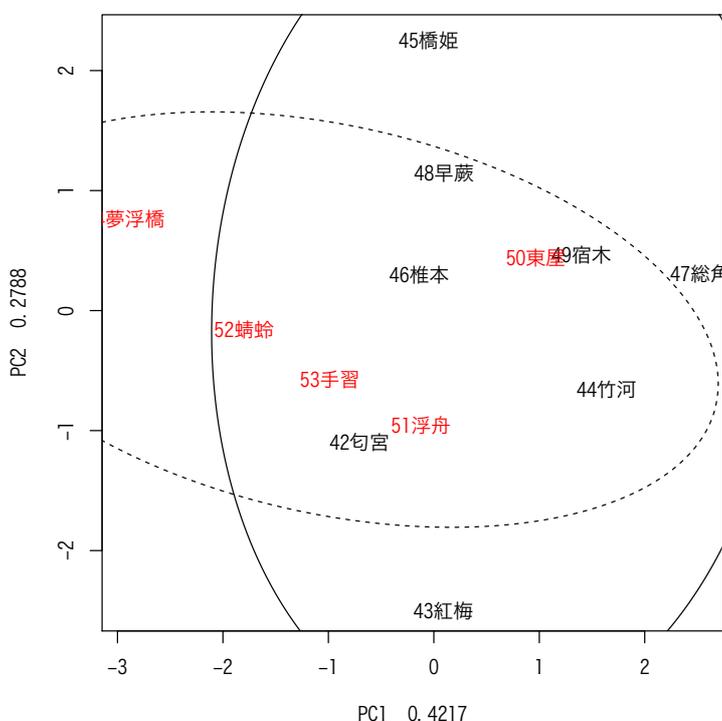


図 5.63 匂宮三帖および宇治十帖全 5 巻と宇治十帖後半 5 巻についての形容動詞の主成分分析

最後に、第三部の 13 巻における主成分分析において、匂宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻というグループに分割し 95%信頼楕円を描いた。図 5.63 に示したように、95%信頼楕円は重複し、両グループの間に量的傾向の相違は認められない。

以上より、形容動詞においては匂宮三帖と宇治十帖との間においては量的傾向の相違が認められると考えられるが、その一方で宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間、匂宮三帖および宇治十帖全 5 巻と宇治十帖後半 5 巻との間において、顕著な出現傾向の相違は認められない。

#### 4.7 副詞

両グループにおける副詞の語の集計結果は図 5.64 に示す通りである。句宮三帖および宇治十帖はともに長さ 2 における出現率がピークとなり、両グループの間に傾向に顕著な相違は認められない。

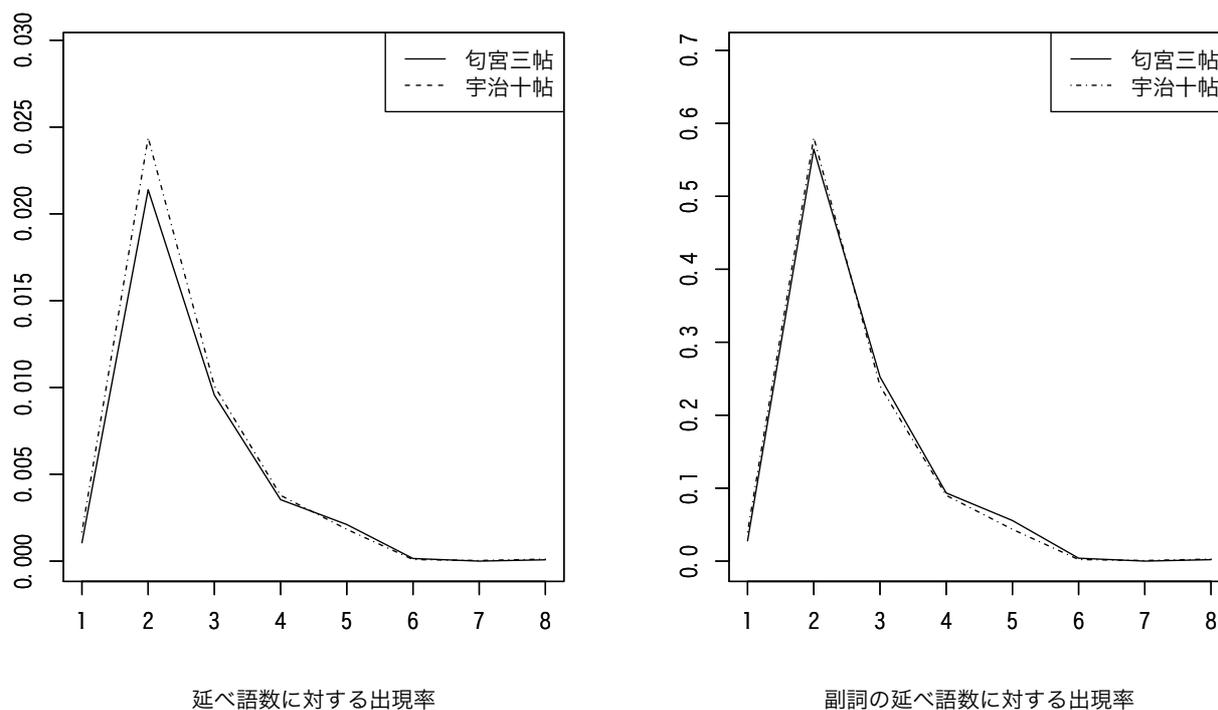


図 5.64 副詞の語の長さの分布

次に、巻ごとに集計した語の長さに対し、主成分分析を行った。長さ 2 から長さ 4 までの 3 変数において総度数の 91.1%となるため、これら 3 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.65 に示す通りであり、両グループの諸巻は混在し、句宮三帖と宇治十帖との間において、語の長さの傾向に相違は認められない。

宇治十帖を対象とし集計した語の長さに対し、主成分分析を行った。長さ 2 から長さ 4 までの 3 変数において総度数の 95.3%となるため、これら 3 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.66 に示す通りであり、両グループの諸巻は混在し、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間において、語の長さの傾向に相違は認められないと考えられる。

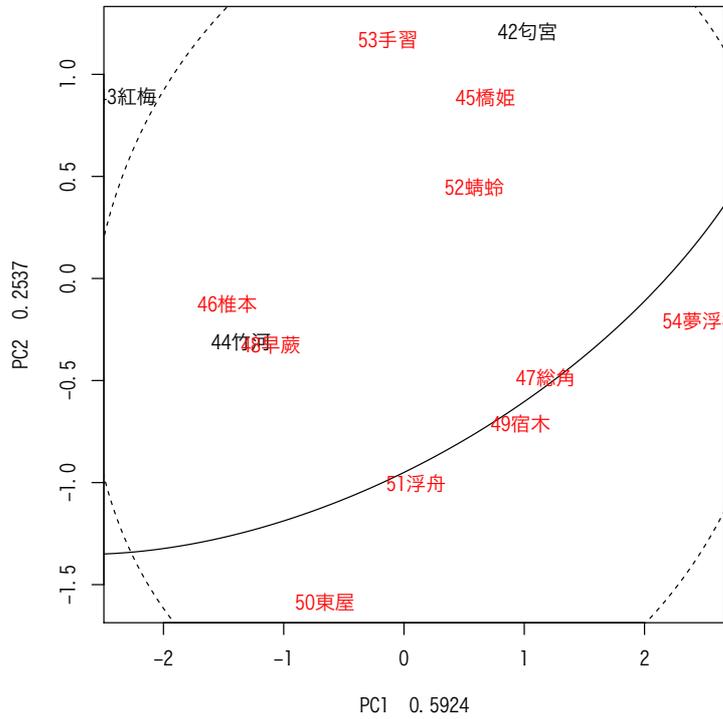


図 5.65 匂宮三帖および宇治十帖についての3変数を用いた副詞の語の長さの主成分分析

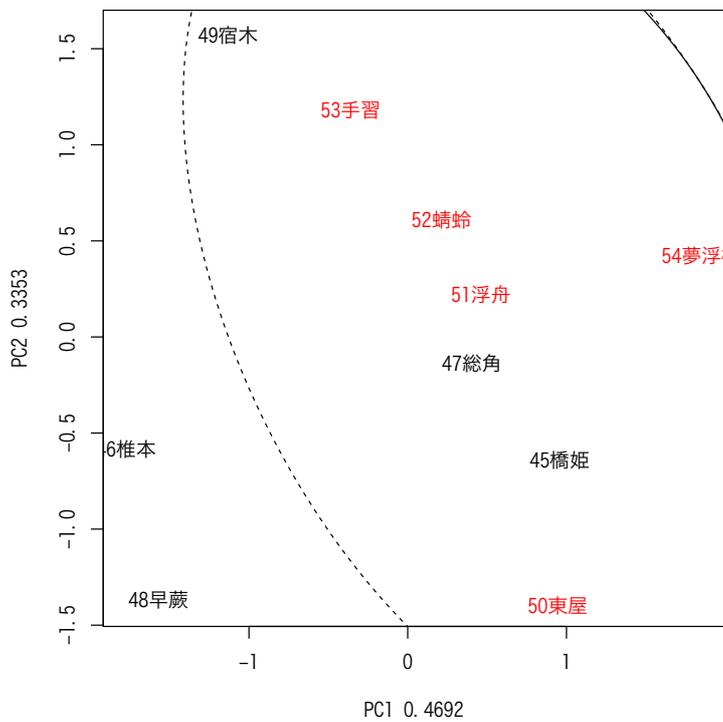


図 5.66 宇治十帖についての3変数を用いた副詞の語の長さの主成分分析

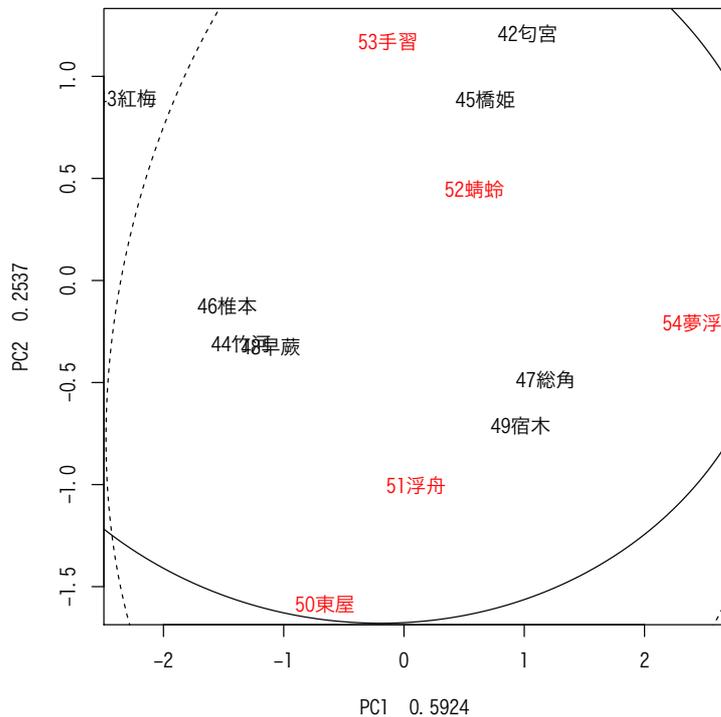


図 5.67 匂宮三帖および宇治十帖全 5 巻と宇治十帖後半 5 巻についての副詞の主成分分析

最後に、第三部の 13 巻における主成分分析において、匂宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻というグループに分割し 95%信頼楕円を描いた。図 5.67 に示したように、95%信頼楕円は重複し、両グループの間に量的傾向の相違は認められない。

このように、副詞においても匂宮三帖と宇治十帖との間、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間、匂宮三帖および宇治十帖全 5 巻と宇治十帖後半 5 巻との間において、顕著な出現傾向の相違は認められない。

#### 4.8 助詞

助詞の匂宮三帖と宇治十帖における語の集計結果は図 5.68 に示す通りである。図 5.68 に示したように、匂宮三帖および宇治十帖は同様な語の長さの分布の傾向を有していると考えられる。

次に、巻ごとに集計した語の長さに対し、主成分分析を行った。長さ 1 から長さ 3 までの 3 変数において総度数の 99.9%となるため、これら 3 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.69 に示す通りであり、宇治十帖の第 48 巻「早蕨」が宇治十帖の他の巻から外れて付置されるが、分析対象はおおよそグループ別にまとまり配置されてい

ると考えられる。

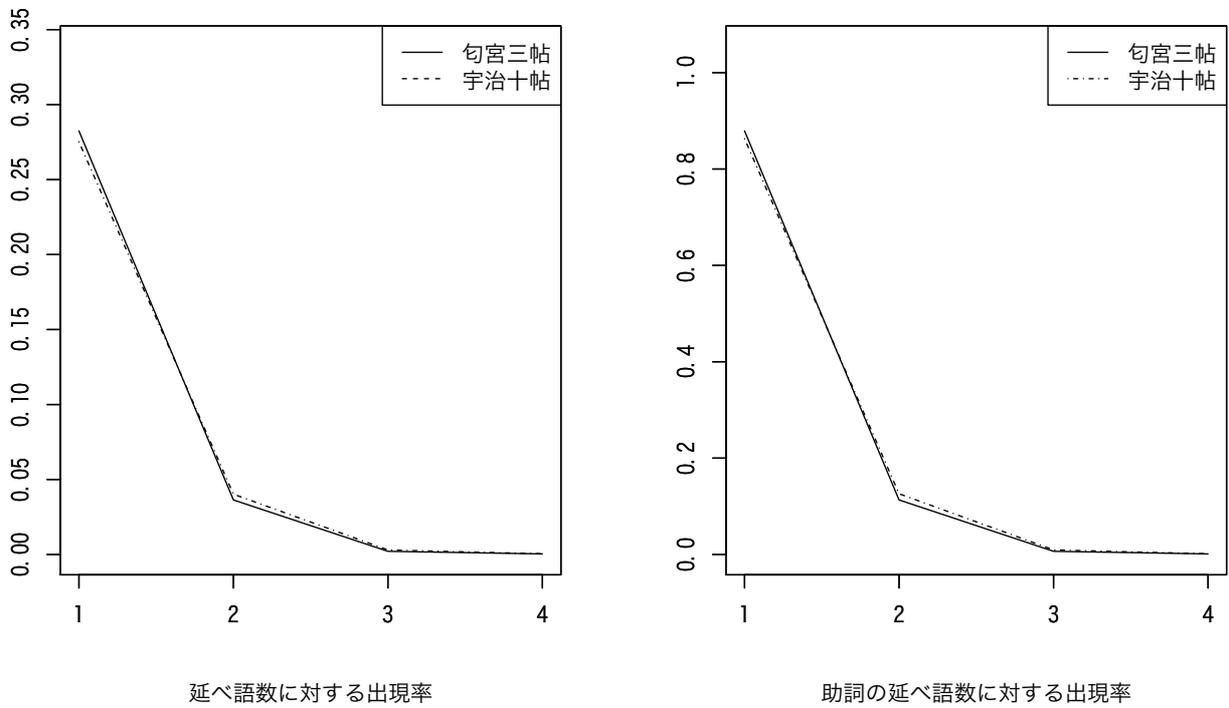


図 5.68 助詞の語の長さの分布

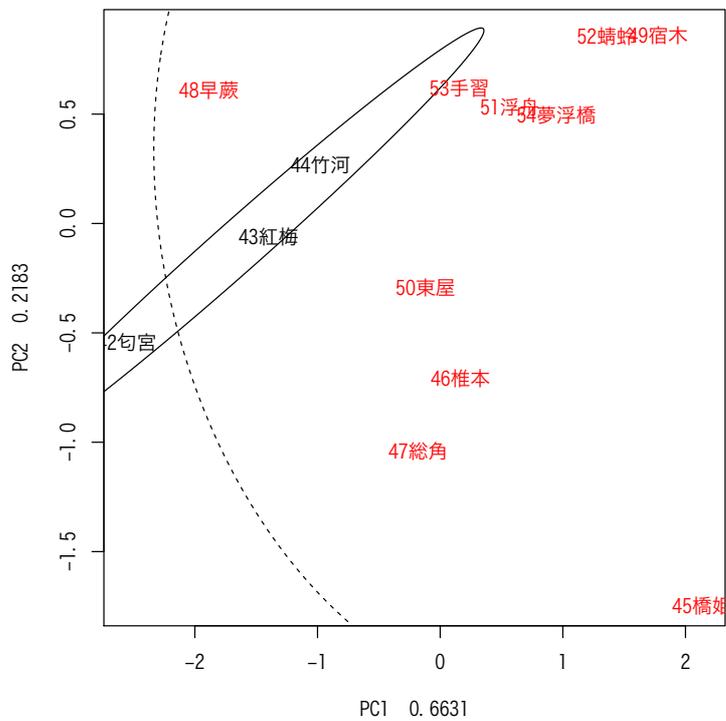


図 5.69 句宮三帖および宇治十帖についての 3 変数を用いた助詞の語の長さの主成分分析

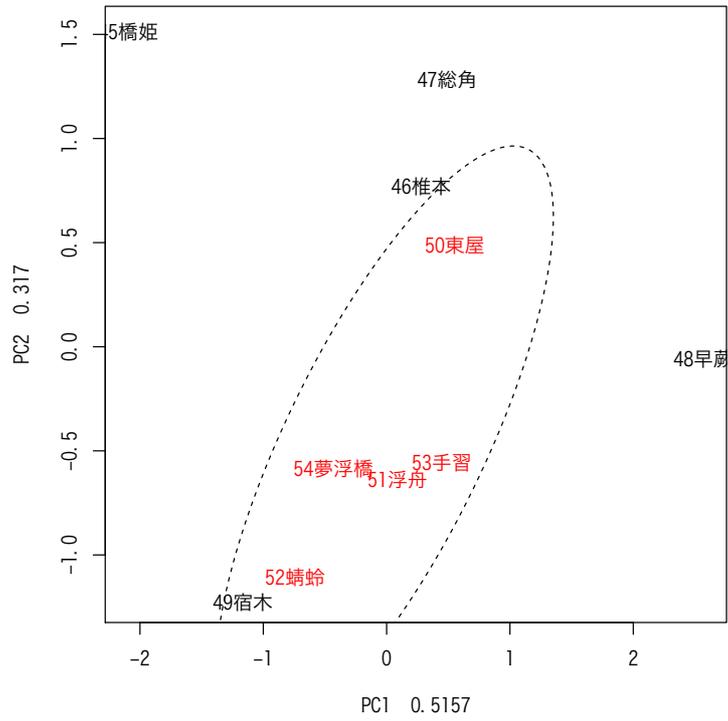


図 5.70 宇治十帖についての 3 変数を用いた助詞の語の長さの主成分分析

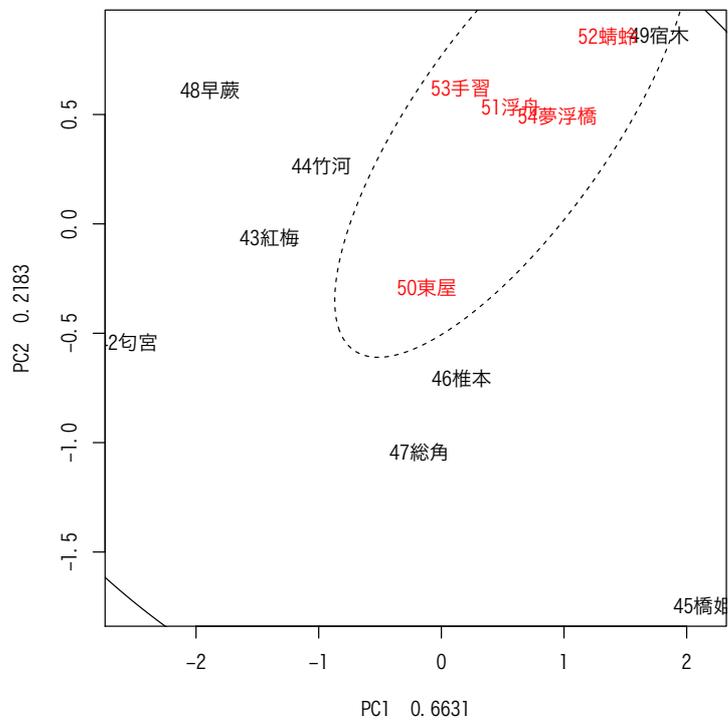


図 5.71 匂宮三帖および宇治十帖全 5 巻と宇治十帖後半 5 巻についての助詞の主成分分析

宇治十帖を対象とし集計した語の長さに対し、主成分分析を行った。長さ 1 から長さ 3 までの 3 変数において総度数の 99.8%となるため、これら 3 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.69 に示す通りであり、前半 5 巻に属する第 49 巻「宿木」が他の巻から外れて付置され、両グループの間に顕著な量的傾向の相違は認められないと考えられる。

最後に、第三部の 13 巻における主成分分析において、匂宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻というグループに分割し 95%信頼楕円を描いた。図 5.71 に示したように、95%信頼楕円は重複し、両グループの間に量的傾向の顕著な相違は認められない。

このように、助詞においても匂宮三帖と宇治十帖との間、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間、匂宮三帖および宇治十帖全 5 巻と宇治十帖後半 5 巻との間において、顕著な出現傾向の相違は認められない。

#### 4.9 助動詞

助動詞の両グループにおける語の集計結果は図 5.72 に示す通りである。図 5.72 に示したように、長さ 1 から長さ 3 までの出現率は総じて宇治十帖における出現率が高いが、両グループの間に傾向は同様であると考えられる。

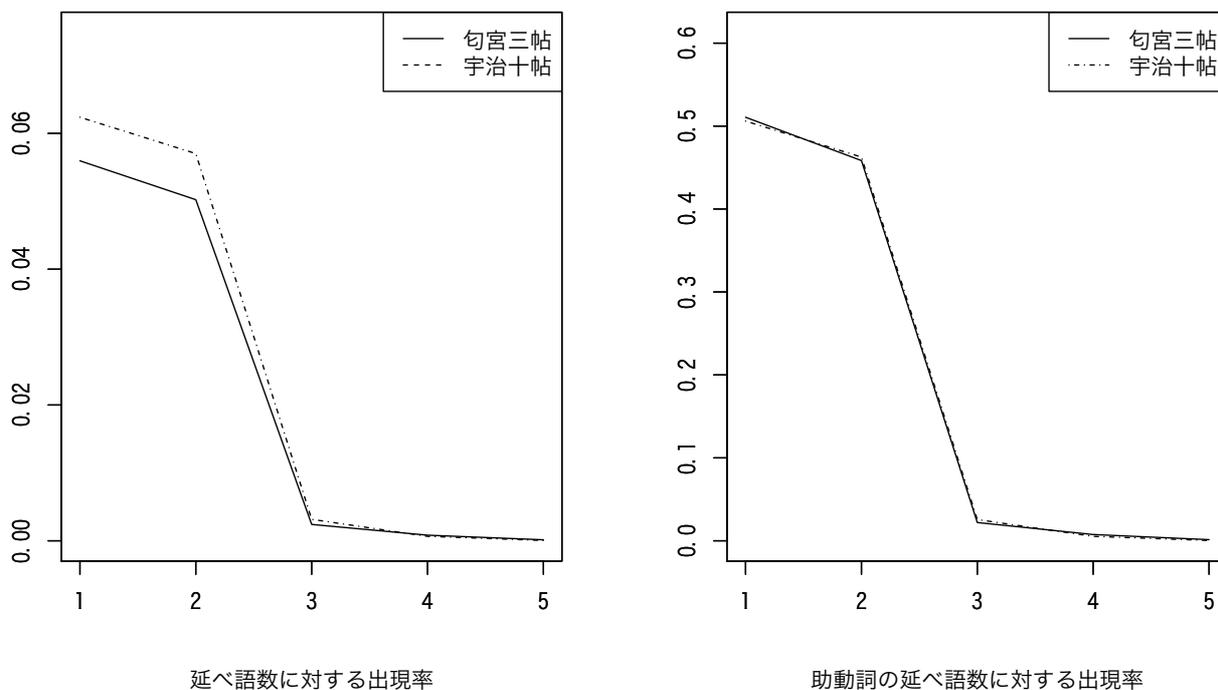


図 5.72 助動詞の語の長さの分布

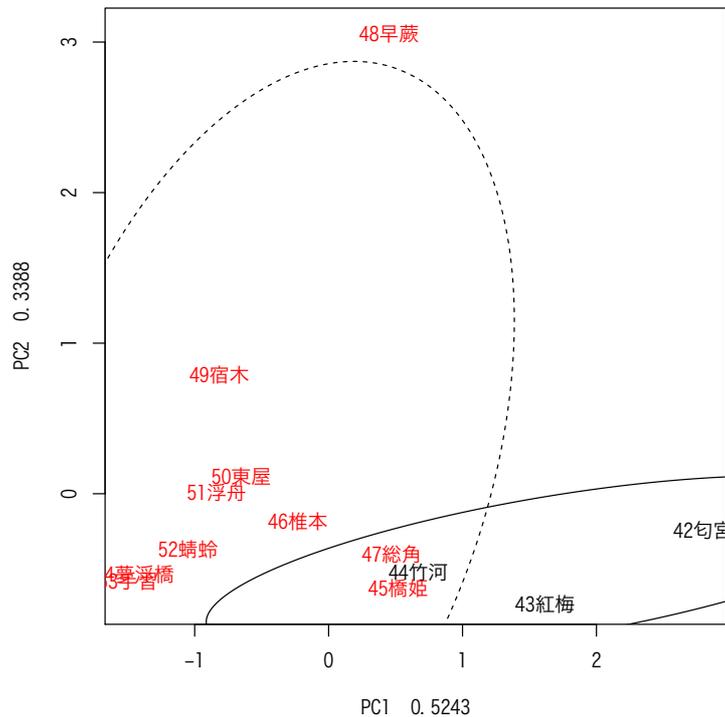


図 5.73 匂宮三帖および宇治十帖についての 3 変数を用いた助動詞の語の長さの主成分分析

次に、巻ごとに集計した語の長さに対し、主成分分析を行った。長さ 1 から長さ 3 までの 3 変数において総度数の 99.4%となるため、これら 3 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.73 に示す通りであり、匂宮三帖と宇治十帖との間に、第 1 主成分において語の長さの傾向に顕著な相違が認められる。

宇治十帖を対象とし語の長さに対し、主成分分析を行った。長さ 1 から長さ 3 までの 3 変数において総度数の 99.4%となるため、これら 3 変数について主成分分析を行った。第 1 主成分と第 2 主成分の散布図は図 5.74 に示す通りであり、宇治十帖の前半 5 巻と後半 5 巻との間に、第 1 主成分において語の長さの傾向に相違が認められると考えられる。

このように、宇治十帖は前半 5 巻と後半 5 巻の間に助動詞の語の長さについて量的傾向が相違することが明らかになった。そこで、第三部の 13 巻の主成分分析において、匂宮三帖および宇治十帖前半 5 巻と宇治十帖後半 5 巻というグループに分割し 95%信頼楕円を描いた。図 5.75 に示したように、両グループの 95%信頼楕円は重複し、匂宮三帖および宇治十帖前半 5 巻の信頼楕円の内側に宇治十帖後半 5 巻は包含されるが、後半 5 巻はまとまって付置されていることから、これら 5 巻の助動詞の語の長さは同様な傾向を有していると考えられる。

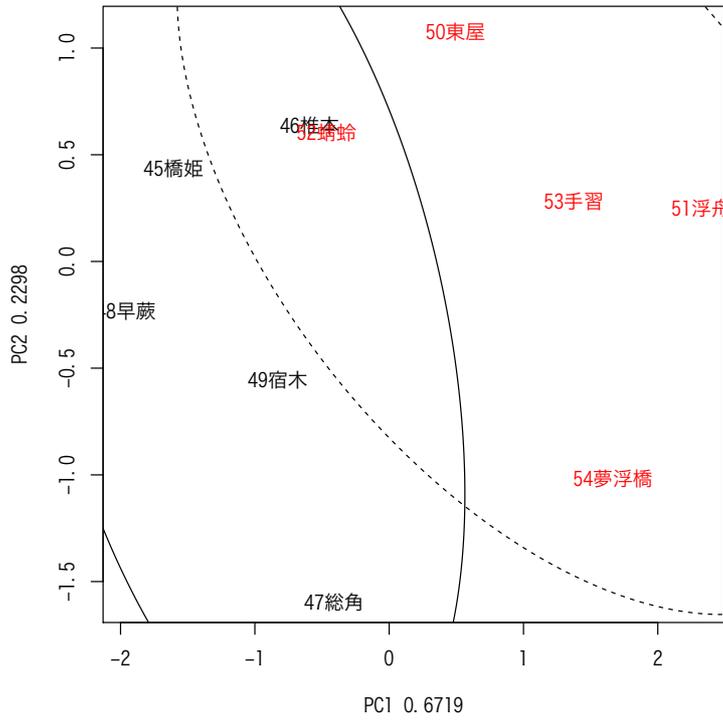


図 5.74 宇治十帖についての3変数を用いた助動詞の語の長さの主成分分析

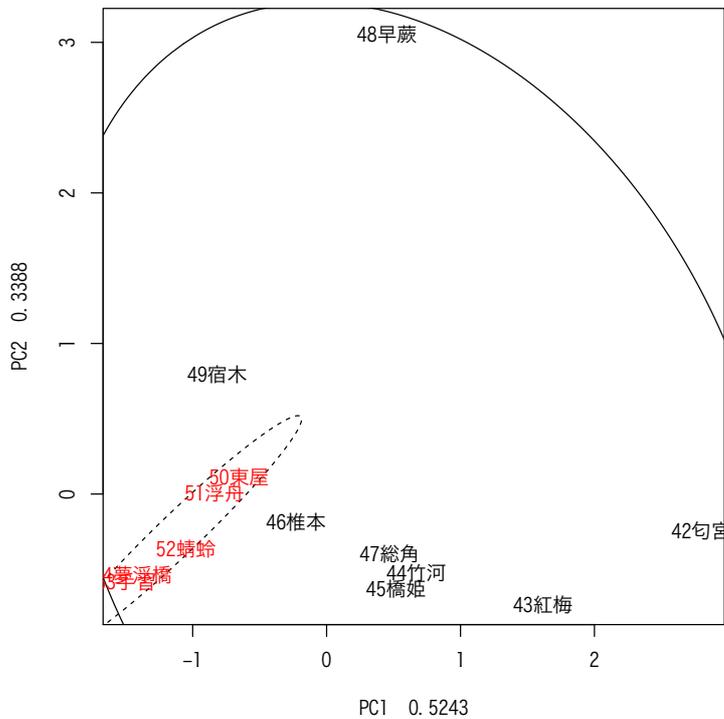


図 5.75 句宮三帖および宇治十帖全5巻と宇治十帖後半5巻についての助動詞の主成分分析

#### 4.10 考察

分析対象を匂宮三帖および宇治十帖の13巻に限定し、語の長さについて分析を加えた。分析の結果、名詞においては、匂宮三帖と宇治十帖の95%信頼楕円が重複せず、明確に分離する。ゆえに、名詞の語の長さに関しては両グループ間において傾向の相違があると言える。他方、補助動詞・形容動詞・助動詞の語の長さの分析結果においては、95%信頼楕円は重複することから、両グループ間において顕著な相違は認められないが、補助動詞・形容動詞においては第2主成分によって、助動詞においては第1主成分によって、両グループが概ね分離していると考えられることから、少なくとも両グループ間において、計量的な判断に基づく語の長さの傾向の相違があると考えられる。

次に、分析対象を宇治十帖に限定し、語の長さの分布についての分析では、名詞・代名詞・動詞・助動詞において語の長さの分布に相違する傾向が認められた。他41巻と宇治十帖についての計量的な分析から、宇治十帖複数作者説については本研究において指示できる根拠は認められなかったが、宇治十帖前半5巻と後半5巻との間には量的傾向の相違があると考えられる。

最後に、匂宮三帖および宇治十帖前半5巻というグループと宇治十帖後半5巻を比較するとき、両グループの95%信頼楕円が重複することなく分離することはおおそ確認されなかったが、名詞・代名詞・動詞・助詞・助動詞といった品詞の分析結果において、宇治十帖後半5巻がまとまって一群を形成し、位置していると言える。これはすなわち、宇治十帖後半5巻が第三部の他の8巻とは相違すると見られる特徴的な語の長さの傾向を有していると考えられる。

#### 5. 第5部の考察

『源氏物語』における第三部に対して、品詞構成比率・語の頻度・語の長さについて計量的な分析を行った結果をまとめると表5.3のようになる。『源氏物語』第三部の13巻においては、名詞・動詞・形容詞・形容動詞における語の頻度、名詞・補助動詞・形容動詞・助動詞の語の長さの分析結果から、匂宮三帖と宇治十帖の間に異なる量的傾向が認められると考えられる。

また、宇治十帖において、ヒロインのひとりとして描かれる浮舟の登場する巻が、宇治十帖の5巻目である第49巻「宿木」であることから、ストーリーの観点からは宇治十帖を前半4巻と後半6巻に分けられる。しかし、本研究における12品詞による品詞構成比率、名詞・代名詞・動詞・形容詞・形容動詞・助詞・助動詞の語の頻度、名詞・代名詞・動詞・助動詞の語の長さについての分析結果から、計量的な判断に基づく宇治十帖は前半5巻と後半5巻において異なる量的傾向を有していることが明らかになった。

これに加えて、句宮三帖と宇治十帖の前半5巻で1つのグループとみなし、宇治十帖の後半5巻と比較したとき、12品詞の品詞構成比率、名詞・代名詞・動詞・形容詞における語の頻度に対する分析結果において、前者と後者の間に量的傾向の相違が認められた。

以上の分析結果から、『源氏物語』における第三部の13巻において、宇治十帖の後半5巻は他8巻とは異なる計量的な特徴を有していると考えられる。

表 5.3 第5部における分析結果のまとめ

		句宮三帖と宇治十帖	宇治十帖前半5巻と後半5巻	句宮三帖および宇治十帖前半5巻と宇治十帖後半5巻
品詞構成比率	12品詞	×	○	○
語の頻度	名詞	○	○	○
	代名詞	×	○	○
	動詞	○	○	○
	補助動詞	×	×	×
	形容詞	○	○	○
	形容動詞	○	○	×
	副詞	×	×	×
	連体詞	×	×	×
	助詞	×	○	×
	助動詞	×	○	○
	語の長さ	名詞	○	○
代名詞		×	○	×
動詞		×	○	×
補助動詞		○	×	×
形容詞		×	×	×
形容動詞		○	×	×
副詞		×	×	×
助詞		×	×	×
助動詞		○	○	×

## 第6部 結論

本研究は計量文献学の方法を用いた『源氏物語』の成立過程に関する計量的な研究である。統計手法を用いることで、今後なされるであろう『源氏物語』の量的側面に関する計量的な議論に耐えうる透明性の高い、統計解析による分析結果を示し、これに基づき『源氏物語』において論じられる複数作者説および『源氏物語』の成立に関して、計量的な観点から考察を行った。

本研究における計量分析においては、品詞構成比率・語の頻度・語の長さという文書の表現形式に関わる計数可能な要素を採り上げ、これについて統計手法を用い分析を行った。分析は下記の4段階によって構成された。

- (1) 作者が『源氏物語』と相違することが明らかである『宇津保物語』を比較対象とし、古典文の作者の識別に有効な分析項目を明らかにした。
- (2) 後世に成立した『山路の露』、『雲隠六帖』、『手枕』を分析対象に採り上げ、作者は異なるが『源氏物語』の擬作であると考えられる作品を対象としたとき、(1)と同様にストーリーに親近性が想定される場合においても、作者の識別に有効である分析項目を明らかにした。
- (3) 『源氏物語』において複数作者説が論じられている匂宮三帖および宇治十帖を採り上げ、これら13巻以外の諸巻と作者が同一である蓋然性が高いのか、あるいは他作者である蓋然性が高いのか検討を加えた。
- (4) (3)において作者が相違することを指示する積極的な根拠が認められなかったことから、『源氏物語』における第三部の成立過程について、計量的な観点から検討を加えた。

(1)は本論文における第2部、(2)は第3部、(3)は第4部、(4)は第5部にそれぞれ対応する。

第2部における分析の結果、『源氏物語』と『宇津保物語』との間に量的傾向の相違が認められたことから、12品詞の構成比率・助詞の語の頻度・助動詞の語の頻度・動詞の語の長さ・形容詞の語の長さ・形容動詞の語の長さが古典文の作者の識別に有効な分析項目であることを明らかにした。

しかし、語の長さを用いて作者の識別を行うとき、現代文においては主に動詞が用いられ、形容詞および形容動詞が用いられることは多くない。これはすなわち、形容詞と形容動詞の語の長さは『源氏物語』との作者の識別において有効な分析項目であると考えられる。

また、本研究の分析結果から『宇津保物語』における第19巻「楼の上上」と第20巻「楼の

上下」が12品詞の構成比率の分析結果、形容詞の語の長さについての分析結果、形容動詞の語の長さについての分析結果において、『源氏物語』の95%信頼楕円の内側に付置した。これは「楼の上上」および「楼の上下」の2巻が他の『宇津保物語』の諸巻とは異なる量的傾向を有しており、むしろ『源氏物語』に近い表現形式であると考えられる。

次いで、第3部では作者は相違するがストーリーに親近性があると考えられる場合について検討を加えるために、『源氏物語』の擬作であると考えられる『山路の露』、『雲隠六帖』、『手枕』といった3作品を採り上げた。

品詞構成比率の分析では『源氏物語』と『山路の露』の間にはいかなる品詞においても顕著な出現率の相違は認められなかった。つまり、品詞構成比率に限ると『山路の露』は『源氏物語』とよく類似した傾向を有していると考えられる。その一方で、『雲隠六帖』は『源氏物語』に比べ形容詞および形容動詞の構成比率が低く、『手枕』は『源氏物語』に比べ形容詞および形容動詞の構成比率が高いという傾向を有していると言える。

また、語の頻度の分析では、『源氏物語』と『山路の露』の間において、低頻度語彙を分析に含めることで、助動詞の語の出現傾向に相違が認められた。『源氏物語』と『雲隠六帖』、『源氏物語』と『手枕』の間においては、延べ語数が1000語未満となる3巻を分析対象から除外したときに、助詞と助動詞のどちらにおいても『源氏物語』の95%信頼楕円の外側に位置するこれは上述の助動詞の出現傾向に作者の相違があらわれるという指摘を支持する分析結果であると言える。

語の長さの分布についての分析では、『源氏物語』と『山路の露』の間において、形容詞・形容動詞の2品詞において語の長さの出現率に顕著な相違が認められた。『山路の露』は品詞構成比率および語の頻度において、『源氏物語』と類似した傾向を有していたが、語の長さの分析において、顕著ではないが『源氏物語』との間に異なる傾向が認められると考えられる。また、擬作3作品に共通して、形容詞・形容動詞の2品詞において傾向の相違が認められる。

表1 古典文の作者の識別に有効な分析項目

	品詞構成比率	語の頻度		語の長さ		
	12品詞	助詞	助動詞	動詞	形容詞	形容動詞
山路の露	×	×	○	×	○	○
雲隠六帖	○	○	○	×	○	○
手枕	○	○	○	○	○	○
宇津保物語	○	○	○	○	○	○

第2部および第3部における分析の結果を総括すると、表3.8の再掲であるが、表1に示す通りである。

『源氏物語』の第三部に該当する句宮三帖および宇治十帖は従来から複数作者説が論じられており、本研究の第4部ではこの複数作者説について検討を加えた。分析においては、第2部および第3部における計量分析において、古典文の作者の識別に有効であると考えられる12品詞を用いた品詞構成比率、助詞および助動詞の語の頻度、動詞・形容詞・形容動詞の語の長さを用いて分析を行った。結果、句宮三帖における複数作者説および宇治十帖における複数作者説を支持する積極的な根拠は見出されなかった。

最後に、本研究の第5部において、『源氏物語』の第三部に対し、品詞構成比率・語の頻度・語の長さについて、分析を加えた。品詞構成比率についての分析では、句宮三帖と宇治十帖との間に品詞構成比率の傾向に顕著な相違が認められ、句宮三帖は名詞の構成比率が高く、動詞および助動詞の構成比率が低いという傾向を有し、宇治十帖は動詞および助動詞の構成比率が高く、名詞の構成比率が低いという傾向を有すると言える。次いで、語の頻度について分析では名詞・動詞・形容詞・形容動詞、語の長さについての分析では名詞・補助動詞・形容動詞・助動詞が句宮三帖と宇治十帖との間において傾向が相違していると言える。このように、両グループの間に、計量的な判断に基づく表現形式の量的傾向の相違が認められると言える。

次に、分析対象を宇治十帖に限定し、品詞構成比率・語の頻度・語の長さの分布について分析を加えたところ、先にふれたようにストーリーの観点からは宇治十帖を前半4巻と後半6巻に分けられ得るが、宇治十帖の前半5巻と後半5巻との間で、各分析項目において出現傾向に相違が認められた。品詞構成比率についての分析から前半5巻には名詞・補助動詞・形容詞・形容動詞が相対的に頻出しており、後半5巻においては代名詞・動詞・連体詞・助動詞が相対的に頻出していると言える。次に、語の頻度についての分析では名詞・代名詞・動詞・形容詞・形容動詞・助詞・助動詞において語の出現傾向に相違が認められる。最後に、語の長さの分布についての分析では、名詞・動詞・代名詞・助動詞において語の長さの分布に相違する傾向が認められる。したがって、句宮三帖と宇治十帖との間に認められる相違と同様の相違が、宇治十帖内部の前半5巻と後半5巻との間に認められると考えられる。

また、句宮三帖と宇治十帖の前半5巻で1つのグループとみなし、宇治十帖の後半5巻と比較すると、12品詞の品詞構成比率、名詞・代名詞・動詞・形容詞における語の頻度に対する分析結果において量的傾向の相違が認められる。

ゆえに、本研究においては、『源氏物語』の第三部と称される13巻について、品詞構成比率・語の頻度・語の長さという文章の表現形式に関わる計数可能な要素を採り上げ、これについて統計手法を用い分析を行った結果、『源氏物語』の第三部には、句宮三帖・宇治十帖前半5巻・宇治十帖後半5巻という3つの異なる傾向を有するグループが存在すると考えられる。

このように、本研究における結論は、『源氏物語』と作者が相違する『宇津保物語』、『山路の露』、『雲隠六帖』、『手枕』を対象とした比較・分析を通じて、作者の識別に有効な分析項目を明らかにし、これを用いて『源氏物語』において論じられる複数作者説について計量的に検討を加えたところ、複数作者説を支持する積極的な根拠は得られなかった。

次に、『源氏物語』第三部に対する計量分析から、第三部の13巻は匂宮三帖・宇治十帖前半5巻・宇治十帖後半5巻という3つのグループに分類されると考えられる。特に、第三部の13巻において、宇治十帖の後半5巻は他8巻とは異なる計量的な特徴を有していると考察される。これはすなわち、計量的な観点に基づき、統計手法を用いて『源氏物語』に本文を分析した結果、宇治十帖には量的傾向が相違する2つのグループが存在することが明らかになったと言える。

参考文献

- [1] 池田亀鑑. (1951) 「源氏物語の構成」(『新講源氏物語(上)』所収), 至文堂.
- [2] 石田穰二. (1961). 「匂宮・紅梅・竹河の三帖をめぐって」. 国文学: 解釈と鑑賞, 26(12).
- [3] 小林栄子. (1935). 『源氏・伊勢物語新研究』. 晋文館.
- [4] 大野晋. (1984). 『源氏物語』. 岩波書店.
- [5] 武田宗俊. (1954). 『源氏物語の研究』. 岩波書店.
- [6] 藤井貞和. (2000). 『源氏物語論』. 岩波書店.
- [7] 池田亀鑑. (1951). 『新講源氏物語(下)』. 至文堂.
- [8] 藤村潔. (1966). 『源氏物語の構造』. 桜楓社.
- [9] 加藤昌嘉, 中川照将. (2010). 「『源氏物語』はどのように出来たのか?」を考えるために(『紫上系と玉鬘系—成立論のゆくえ』所収). 勉誠出版.
- [10] 上田英代, 村上征勝, 今西祐一郎, 樺島忠夫, 上田裕一. (1994). 『源氏物語語彙用例総索引 自立語編』, 勉誠社.
- [11] 上田英代, 村上征勝, 今西祐一郎, 樺島忠夫, 上田裕一, 藤田真理. (1996). 『源氏物語語彙用例総索引 付属語編』, 勉誠社.
- [12] 池田亀鑑. (1985). 『源氏物語大成 索引篇』, 中央公論社.
- [13] 室城秀之. (1995). 『うつほ物語 全 改訂版』. おうふう.
- [14] 池田亀鑑. (1955). 『日本古典全書 源氏物語7』. 朝日新聞社.
- [15] 長谷川和子. (1957). 『源氏物語の研究』. 東宝書房.
- [16] 大久保正. (1969). 『本居宣長全集第15巻 鈴屋文集下』. 筑摩書房
- [17] 村上征勝. (1996). 「計量文献学の歴史と課題」. 計算機統計学, Vol. 9, No. 1, pp. 65-74.
- [18] 小林英夫. (1975). 「文体論の建設」, 『小林英夫著作集 第7巻』, pp. 1-210, みすず書房.
- [19] Guiraud, P. 佐藤信夫 訳. (1954). 『文体論—ことばのスタイル—』. 白水社.
- [20] De Morgan, S. E. (1882). Memoir of Augustus de Morgan. Longmans, Green, and Company.
- [21] Mendenhall, T. C. (1887). The characteristic curves of composition, *Science*, (214S), pp. 237-246.
- [22] Mendenhall, T. C. (1901). A mechanical solution of a literary problem. *Popular Science Monthly*, Vol. 60, No. 2, pp. 97-105.
- [23] Williams, C. B. (1975). Mendenhall's studies of word-length distribution in the works of Shakespeare and Bacon. *Biometrika*, Vol. 62, pp. 207-211.
- [24] Fucks, W. (1952). On mathematical analysis of style. *Biometrika*, Vol. 39, No. 1-2, pp. 122-129.
- [25] Brinegar, C. S. (1963). Mark Twain and the Quintus Curtius Snodgrass letters: a statistical test of authorship. *Journal of the American Statistical Association*, Vol. 58, pp. 85-96.

- [26] O'Donnell, B. (1966). Stephen Crane's *The O'Ruddy*: A Problem In Authorship Discrimination. In Leed (ed.), *The Computer and Literary Style*. Kent, OH: Kent State University Press, pp. 107-115.
- [27] Radday, Y. T. (1970). Isaiah and the computer: A preliminary report. *Computers and the Humanities*, Vol. 5, No. 2, pp. 65-73.
- [28] Forsyth, R. S., Holmes, D. I., and Tse, E. K. (1999). Cicero, Sigonio, and Burrows: investigating the authenticity of the "Consolatio". *Literary and Linguistic Computing*, Vol. 14, No. 3, pp. 375-400.
- [29] Ast, F. (1835). *Lexicon Platonicum*, 3 vols. Lipsiae.
- [30] Campbell, L. (1867). *The Sophistes and Politicus of Plato*. Clarendon Press.
- [31] Dittenberger, W. (1881). Sprachliche Kriterien für die Chronologie der platonischen Dialoge. *Hermes*, Vol. 16, No. 3, pp. 321-345.
- [32] Lutoslawski, W. (1897). *The Origin and Growth of Plato's Logic, With an Account of Plato's Style and of the Chronology of His Writings*. Longmans, Green, and Company.
- [33] Ellegård, A. (1962). A Statistics Method for Determining Authorship : The Junius Letters, 1769-1772, *Acta Universitatis Gothoburgensis: Gothenburg Studies in English*, 13.
- [34] Mosteller, F. and Wallace, D. (1963). Inference in an authorship problem. *Journal of The American Statistical Association*, Vol. 58, pp. 275-309.
- [35] Morton, A. Q. (1965). The authorship of Greek prose, *Journal of the Royal Statistical Society*. A-128, pp. 169-233.
- [36] Burrows, J. F. (1987). Word patterns and story shapes : the statistical analysis of narrative style. *Literary and Linguistic Computing*, Vol. 2, No. 2, pp. 61-70.
- [37] Holmes, D. I. and Forsyth, R. S. (1995). The federalist revisited : new direction in authorship attribution. *Literary and Linguistic Computing*, Vol. 10, No. 2, pp. 111-117.
- [38] Binongo, J. N. G. (2003). Who wrote the 15th book of Oz? An application of multivariate analysis to authorship attribution. *Chance*, Vol. 16, No. 4, pp. 375-388.
- [39] 波多野完治. (1935). 『文章心理学: 日本語の表現価値』. 三省堂.
- [40] 大野晋. (1956). 「基本語彙に関する二三の研究」, 国語学, Vol. 23, pp. 34-46.
- [41] 水谷静夫. (1965). 「大野の語彙法則について」, 計量国語学, Vol. 35, pp. 1-13.
- [42] 安本美典. (1957). 「宇治十帖の作者—文章心理学による作者推定—」. 心理学評論, 2(1), 147-156.
- [43] 金明哲. (1994). 「読点の打ち方と文章の分類」. 計量国語学, Vol. 19, No. 7, pp. 317-330.
- [44] 金明哲. (2002). 「助詞の n-gram モデルに基づいた書き手の識別」. 計量国語学, Vol. 23, No. 5, pp. 225-140.

- [45] 安本美典. (1977). 「現代の文体研究」. 岩波講座『日本語』, 10, pp. 395-423, 岩波書店.
- [46] 新井皓土. (1997). 「源氏物語・宇治十帖の作者問題:一つの計量言語学的アプローチ」. 一橋論叢, Vol. 117, No. 3, pp. 397-413.
- [47] 村上征勝・今西祐一郎. (1999). 「源氏物語の助動詞の計量分析」. 情報処理学会論文誌, Vol. 40, No. 3, pp. 774-782.
- [48] 金明哲. (1996). 「日本語における単語の長さの分布と文章の著者」, 社会情報, Vol.5, No.2, pp.13-21.

## 謝辞

本論文は同志社大学大学院文化情報学研究科文化計量研究室において行った研究が中心になっております。研究を進めるにあたり、村上征勝教授にご指導いただきました。村上教授には統計学の基礎から教えてくださり、また『源氏物語』の計量分析を行う上で多大なご支援をしていただきました。深く感謝いたします。

また、テキストデータの計量分析に関しましては、金明哲教授に学部生の時より長い間に渡り懇切丁寧ご指導していただきました。とても感謝しております。

矢野環教授には統計学のみならず、『源氏物語』研究にとって貴重なコメントをくださり心より御礼申し上げます。また、沈力教授には言語学につきまして、ご指導くださり厚く御礼申し上げます。

国文学研究資料館の今西祐一郎教授はご多忙の中、貴重な時間をさいて本論文の審査を引き受けてくださり心より深く感謝いたします。

最後に、著者が同志社大学在学中には文化情報学研究科の皆様、文化計量学研究室の皆様にはいつも励ましていただき、大変お世話になりました。ここに感謝の意を表します。

付録1 延べ語数一覧

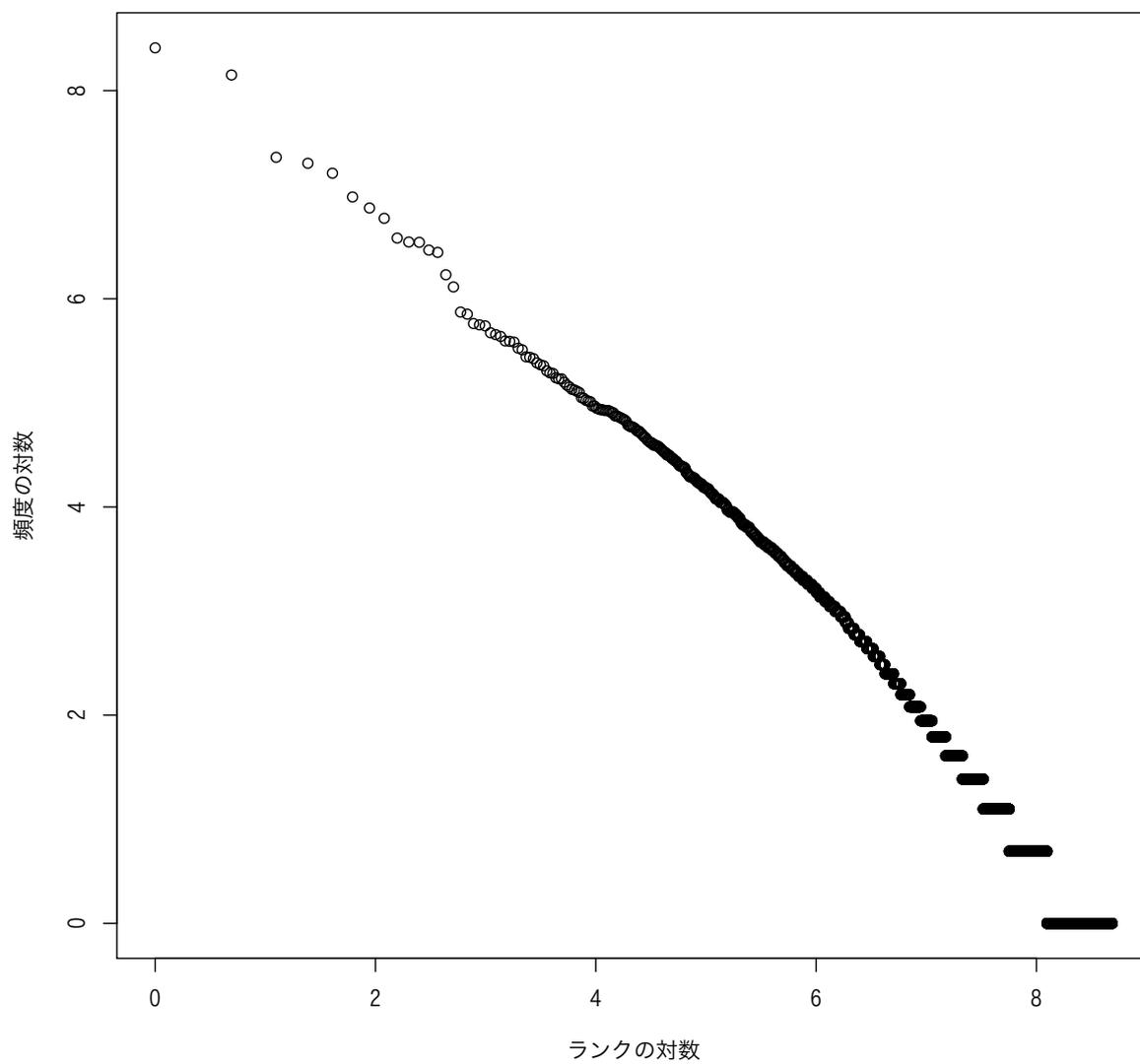
	合計	名詞	代名詞	動詞	補助動詞	形容詞	形容動詞	副詞	接続詞	感動詞	連体詞	助詞	助動詞	その他
01桐壺	4804	916	20	766	303	289	82	209	3	1	38	1498	527	152
02帚木	9383	1546	67	1666	268	618	215	391	15	8	90	2983	1209	307
03空蟬	2187	331	21	401	61	158	54	107	1	1	28	682	266	76
04夕顔	9566	1600	80	1698	412	570	236	403	6	13	96	3015	1155	282
05若紫	9406	1532	50	1672	551	568	234	393	9	15	75	2927	1122	258
06末摘花	6139	982	42	1113	261	407	165	269	1	7	34	1930	760	168
07紅葉賀	5559	932	35	956	339	347	109	219	3	4	39	1780	615	181
08花宴	2009	365	16	355	82	117	42	87	0	2	11	617	256	59
09葵	9167	1564	40	1467	542	623	226	373	13	7	45	2957	982	328
10賢木	9664	1783	37	1586	598	616	230	356	4	1	52	3019	1066	316
11花散里	724	134	3	113	28	45	31	25	0	1	2	227	87	28
12須磨	8391	1625	39	1455	443	492	200	322	2	2	45	2589	915	262
13明石	7865	1517	34	1362	304	463	181	306	1	4	59	2486	870	278
14滯標	6296	1123	21	1079	393	381	167	240	1	3	50	1968	667	203
15蓬生	4605	823	28	781	208	269	109	186	3	2	39	1474	546	137
16閑屋	934	185	5	157	26	49	8	34	0	0	14	309	110	37
17総合	3656	792	19	578	170	198	83	139	2	2	33	1134	402	104
18松風	4030	734	31	739	184	207	88	143	4	0	24	1248	501	127
19薄雲	6023	1072	20	994	343	365	161	248	8	2	35	1890	689	196
20朝顔	3993	660	17	663	242	276	104	137	0	2	12	1308	434	138
21少女	10040	1913	56	1674	583	531	235	390	7	5	70	3208	1081	287
22玉鬘	8186	1429	65	1443	350	461	328	215	2	11	99	2623	1006	215
23初音	2689	532	22	439	132	164	79	105	1	1	10	839	276	89
24胡蝶	4041	775	27	674	205	225	112	169	3	2	34	1273	435	107
25螢	3767	687	19	618	185	228	83	150	5	2	28	1208	434	120
26常夏	4351	737	20	715	200	288	101	206	8	7	43	1368	527	131
27篝火	653	134	1	106	29	33	13	30	0	1	3	214	66	23
28野分	3510	645	15	618	176	192	87	158	1	8	17	1107	386	100
29行幸	5235	953	20	818	329	302	123	212	7	7	51	1620	576	217
30藤袴	2795	457	15	407	143	171	74	145	6	0	30	914	342	91
31真木柱	7234	1212	40	1284	440	447	203	295	3	4	48	2258	790	210
32梅枝	3638	768	17	604	192	189	87	108	4	0	26	1156	391	96
33藤裏葉	4430	922	16	737	222	265	107	147	3	2	28	1385	470	126
34若菜上	20199	3747	107	3161	1130	1125	473	813	21	12	206	6451	2233	720
35若菜下	20223	3627	115	3243	1060	1293	445	972	11	12	173	6361	2197	714
36柏木	7926	1286	49	1274	494	493	206	403	9	16	66	2514	850	266
37横笛	3694	619	30	593	249	206	99	150	7	8	48	1198	382	105
38鈴虫	2748	571	13	398	165	155	68	108	2	1	22	876	268	101
39夕霧	14021	2277	99	2323	770	844	362	658	10	8	121	4413	1622	514
40御法	3720	695	20	577	221	230	86	133	0	0	31	1166	434	127
41幻	4286	808	21	658	175	252	104	158	3	1	31	1426	491	158
42匂兵部卿	2696	565	16	397	141	169	55	115	2	1	26	866	264	79
43紅梅	2517	435	14	445	165	134	50	91	1	2	24	816	268	72
44竹河	8065	1501	48	1323	420	422	198	299	7	4	76	2608	923	236
45橋姫	7299	1320	29	1205	399	427	193	319	7	5	59	2275	842	219
46椎本	7290	1288	42	1260	394	402	176	273	5	3	45	2281	879	242
47総角	17437	2757	95	2919	3	1046	1118	493	781	4	102	5520	2006	593
48早蕨	3557	574	16	576	210	196	100	129	5	2	29	1173	413	134
49宿木	18839	3039	107	2986	912	1084	515	829	27	11	169	6110	2359	691
50東屋	12999	2086	104	2256	558	806	336	516	9	12	134	4169	1621	392
51浮舟	14415	2341	131	2482	612	811	323	608	11	8	166	4618	1804	500
52蜻蛉	11798	1881	104	1990	533	658	233	499	10	4	122	3833	1503	428
53手習	14221	2340	109	2490	622	723	294	566	8	17	111	4644	1866	451
54夢浮橋	3556	560	27	603	194	161	71	166	5	3	37	1162	460	107
	合計	名詞	代名詞	動詞	補助動詞	形容詞	形容動詞	副詞	接続詞	感動詞	連体詞	助詞	助動詞	その他
01俊藤	17430	4020	180	3224	473	648	214	541	29	31	283	5600	1718	469
02藤原の君	10939	2929	109	1921	378	331	68	290	34	7	128	3438	1035	271
03忠こそ	6786	1355	71	1276	328	287	79	196	10	3	74	2163	765	179
04春日詣	4792	1321	38	825	140	156	39	129	6	3	38	1545	435	117
05嵯峨の院	10910	2538	121	1854	458	457	125	417	41	18	130	3366	1011	374
06祭の使	9126	2450	73	1690	268	324	72	188	21	9	46	2921	792	272
07吹上上	8868	2776	91	1458	235	280	89	167	27	3	66	2735	753	188
08吹上下	4604	1268	33	877	106	164	29	92	14	2	39	1382	494	104
09菊の宴	12404	2997	104	2199	450	448	99	315	40	20	77	4167	1104	384
10あて宮	5369	1494	55	933	220	212	42	139	23	6	29	1625	447	144
11内侍のかみ	18739	4162	287	3211	551	651	230	814	2	32	209	5991	2011	588
12沖つ白波	4924	1297	56	837	219	170	46	109	11	4	32	1476	504	163
13蔵開上	18502	4096	235	2957	982	687	218	559	46	40	179	5868	1999	636
14蔵開中	11085	2124	168	1950	521	385	106	379	21	19	87	3645	1299	381
15蔵開下	12853	2809	197	2179	502	385	155	415	24	22	89	4225	1423	428
16国譲上	17559	3275	277	2873	960	645	189	660	25	29	175	5737	2016	698
17国譲中	16762	3174	221	2923	1007	566	195	619	37	36	129	5513	1781	561
18国譲下	23476	4796	344	4130	1269	739	245	761	55	23	209	7517	2537	851
19楼の上上	14747	2849	155	2275	973	760	285	623	5	17	133	4585	1618	469
20楼の上下	17762	3813	169	2905	1014	913	306	729	9	19	137	5390	1805	553
	合計	名詞	代名詞	動詞	補助動詞	形容詞	形容動詞	副詞	接続詞	感動詞	連体詞	助詞	助動詞	その他
山路の露	8374	1342	68	1369	389	514	214	405	3	4	67	2630	1049	320
雲隠六帖	5693	1150	36	923	329	287	85	191	0	6	46	1959	532	149
手枕	2198	407	4	337	109	184	66	101	2	2	10	699	203	74

付録2 異なり語数一覧

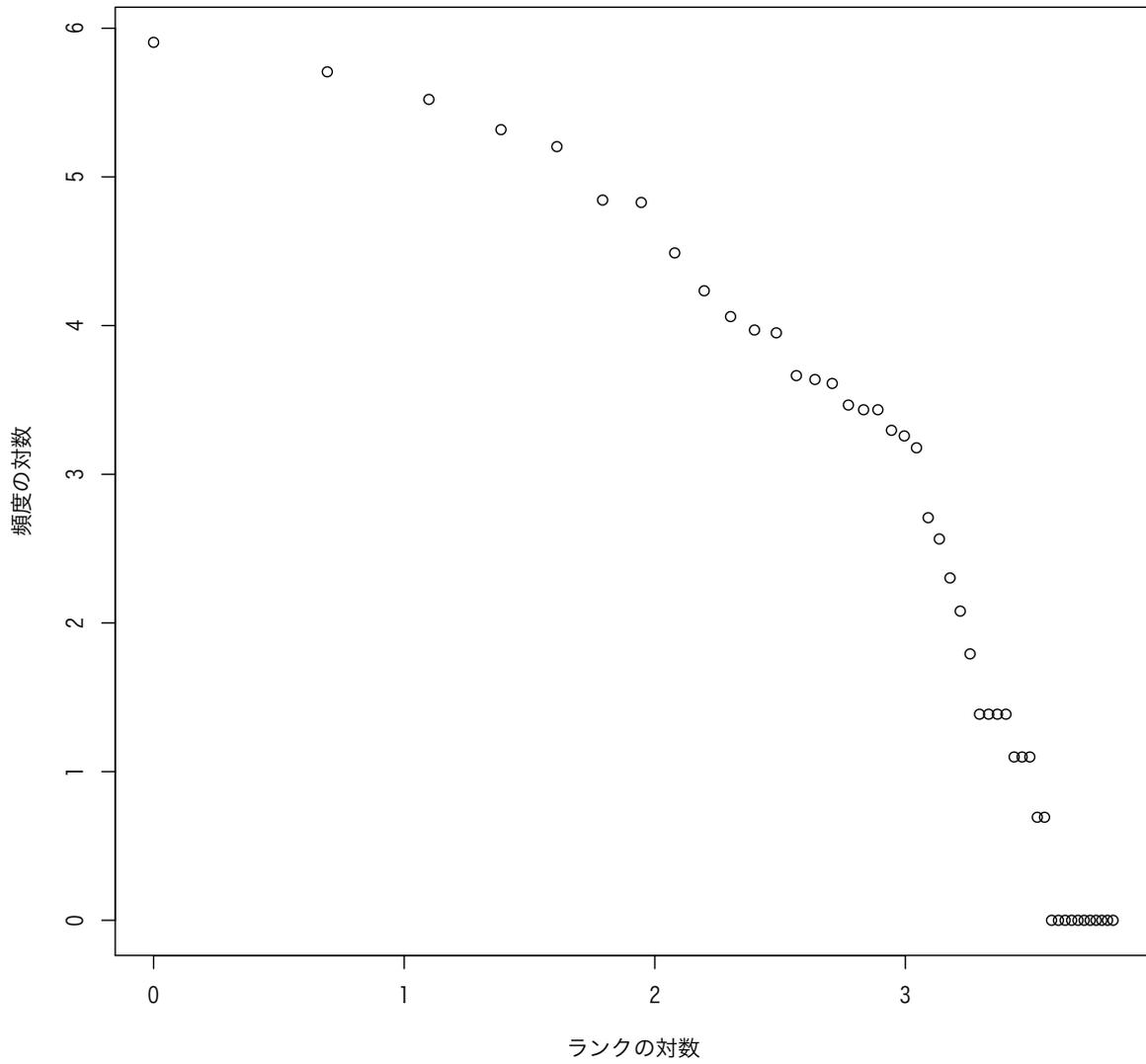
	合計	名詞	代名詞	動詞	補助動詞	形容詞	形容動詞	副詞	接続詞	感動詞	連体詞	助詞	助動詞	その他
01桐壺	1250	464	12	375	5	142	53	52	1	1	5	38	21	81
02帯木	1983	593	21	719	5	228	113	80	2	5	5	48	22	142
03空蟬	709	189	12	223	3	89	38	38	1	1	4	32	21	58
04夕顔	1986	643	21	704	5	220	105	70	2	6	5	47	22	136
05若紫	1793	607	19	615	5	181	100	72	4	5	5	46	22	112
06末摘花	1474	463	15	515	6	166	89	62	1	5	4	44	22	82
07紅葉賀	1352	442	13	457	5	156	63	58	2	2	4	39	22	89
08花宴	701	227	11	218	2	72	32	42	0	1	4	30	20	42
09葵	1788	598	12	596	5	200	105	78	2	2	5	42	21	122
10賢木	1909	685	12	623	5	209	104	73	1	1	5	44	23	124
11花散里	309	82	2	85	3	35	21	19	0	1	2	24	15	20
12須磨	1774	653	14	601	5	166	89	70	2	1	5	46	21	101
13明石	1758	593	12	619	6	178	88	66	1	2	6	44	21	122
14滞標	1457	490	12	478	6	157	89	59	1	2	6	45	22	90
15蓬生	1218	402	15	406	6	134	70	44	2	1	5	39	20	74
16閑屋	377	127	5	112	4	36	6	13	0	0	4	28	17	25
17絵合	994	403	8	279	5	101	47	37	1	2	5	35	21	50
18松風	1194	397	11	417	5	126	51	44	1	0	4	40	21	77
19薄雲	1368	438	11	453	5	156	79	59	2	1	4	44	22	94
20朝顔	1060	320	12	349	5	132	61	49	0	1	3	38	21	69
21少女	2010	742	19	657	6	192	119	74	3	3	5	43	23	124
22玉鬘	1696	578	16	592	5	183	79	75	1	3	5	44	22	93
23初音	882	325	8	254	5	101	42	34	1	1	4	36	21	50
24胡蝶	1102	374	12	349	5	112	70	49	2	1	6	36	21	65
25螢	1016	318	12	328	5	116	50	50	3	2	4	39	21	68
26常夏	1194	379	10	370	6	164	67	50	3	2	4	41	22	76
27篝火	291	91	1	80	4	24	12	14	0	1	2	25	17	20
28野分	1015	334	8	302	4	122	62	49	1	3	4	42	21	63
29行幸	1282	431	15	384	6	149	73	58	4	3	4	38	21	96
30藤袴	738	204	9	217	5	100	46	36	4	0	5	40	21	51
31真木柱	1592	473	18	574	6	182	102	66	2	2	5	43	22	97
32梅枝	1060	390	10	336	5	102	52	37	2	0	5	38	21	62
33藤裏葉	1244	449	12	402	5	134	65	42	2	2	4	38	23	66
34若菜上	2955	1133	22	1000	6	290	171	89	3	3	5	46	22	165
35若菜下	3010	1072	20	1027	6	327	168	103	3	4	6	49	22	203
36柏木	1579	486	12	538	6	180	102	76	1	4	5	41	21	107
37横笛	965	291	12	318	6	100	57	49	2	3	6	38	21	62
38鈴虫	881	322	8	256	6	92	40	45	1	1	4	36	20	50
39夕霧	2333	737	25	839	6	259	142	90	4	4	6	47	22	152
40御法	944	314	9	281	4	111	51	48	0	0	4	35	20	67
41幻	1083	367	11	338	4	130	53	50	2	1	4	38	21	64
42匂宮	834	306	9	227	4	101	42	38	1	1	4	33	21	47
43紅梅	745	230	8	229	4	85	40	36	1	2	4	36	21	49
44竹河	1599	552	15	516	5	173	98	70	5	3	6	40	21	95
45橋姫	1644	541	11	546	5	190	105	67	3	2	4	45	21	104
46椎本	1642	551	15	542	5	179	102	58	2	2	6	44	21	115
47総角	2501	759	18	917	6	277	174	98	1	1	6	48	22	174
48早蕨	963	269	10	328	6	98	65	42	2	2	6	40	22	73
49宿木	2644	957	19	871	6	261	175	90	4	4	4	47	23	183
50東屋	2125	647	21	758	6	233	148	79	4	4	6	47	22	150
51浮舟	2143	672	25	786	5	214	124	74	3	3	7	45	23	162
52蜻蛉	1795	578	21	614	6	196	94	74	2	4	5	43	21	137
53手習	2104	687	21	771	6	202	119	83	2	4	5	46	23	135
54夢浮橋	836	245	10	271	4	92	42	43	2	3	4	36	21	63
	合計	名詞	代名詞	動詞	補助動詞	形容詞	形容動詞	副詞	接続詞	感動詞	連体詞	助詞	助動詞	その他
01俊藤	2548	1140	18	832	6	154	72	89	6	7	6	50	24	144
02藤原の君	2051	1112	19	504	9	104	35	75	4	5	10	48	24	102
03忠こそ	1194	460	14	374	6	92	39	52	3	3	5	39	22	85
04春日詣	1178	592	14	307	6	55	25	44	2	2	4	46	25	56
05嵯峨の院	1750	828	21	449	7	126	61	64	5	3	5	49	25	107
06祭の使	1911	1016	21	468	6	113	38	60	5	3	8	52	26	95
07吹上上	1738	975	18	428	6	86	35	42	3	3	5	46	22	69
08吹上下	1147	551	11	322	6	67	18	47	2	2	6	37	20	58
09菊の宴	2098	1097	23	533	10	124	43	63	3	5	6	51	23	117
10あて宮	1233	645	14	309	5	71	25	35	2	2	5	39	21	60
11内侍のかみ	2269	1128	25	600	9	136	55	85	2	8	8	52	24	137
12沖つ白波	1104	581	12	243	4	70	21	37	2	2	5	43	24	60
13蔵開上	2444	1191	25	654	4	169	79	74	4	10	10	52	25	147
14蔵開中	1810	798	22	519	7	121	55	74	5	5	11	51	28	114
15蔵開下	1994	938	23	547	7	127	73	70	3	8	6	47	23	122
16国譲上	1975	901	26	509	7	148	74	80	6	4	8	50	24	138
17国譲中	2064	976	26	546	6	137	73	87	4	4	8	47	23	127
18国譲下	2584	1267	30	699	7	156	90	82	5	7	8	51	24	158
19楼の上上	2031	895	24	526	8	182	82	88	1	9	7	51	25	133
20楼の上下	2259	1058	25	606	10	177	75	80	3	7	7	46	24	141
	合計	名詞	代名詞	動詞	補助動詞	形容詞	形容動詞	副詞	接続詞	感動詞	連体詞	助詞	助動詞	その他
山路の露	1578	480	15	541	5	175	87	79	3	3	5	41	24	120
雲隠六帖	1327	509	13	402	6	135	47	59	0	4	4	45	22	81
手枕	743	204	3	231	5	111	38	35	1	2	4	35	22	52

付録3 『源氏物語』の語の頻度の分布

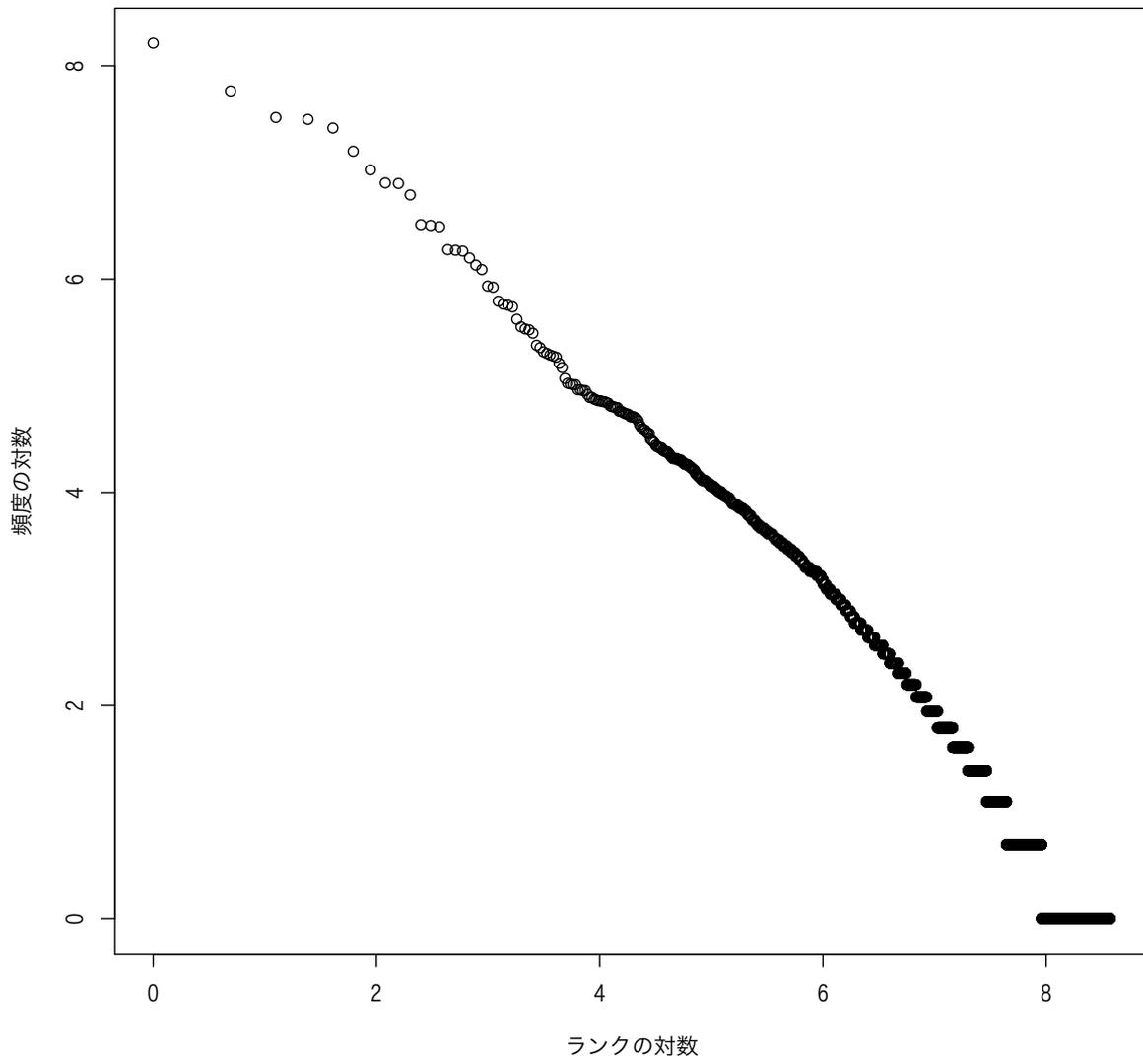
a. 名詞



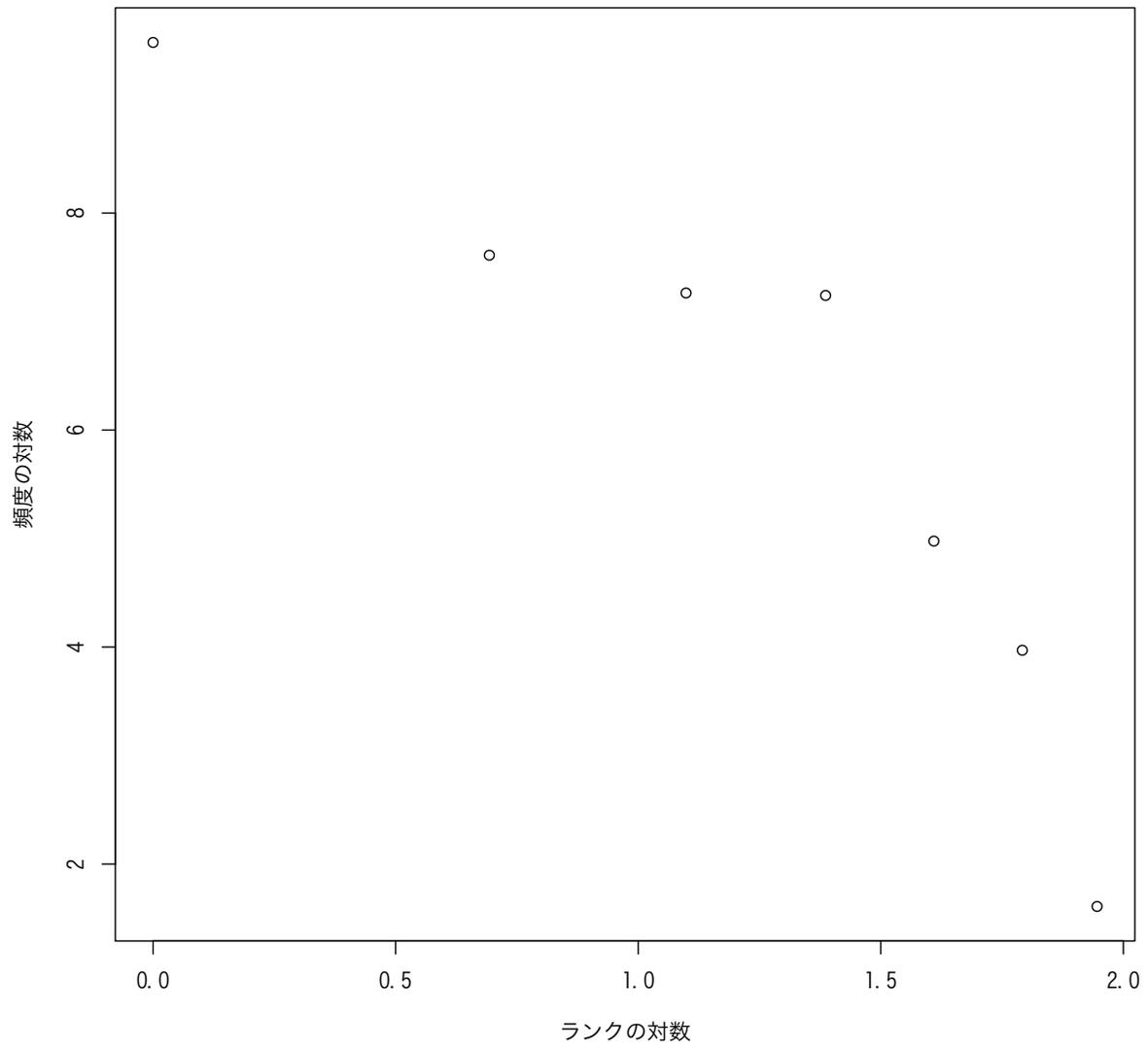
b. 代名詞



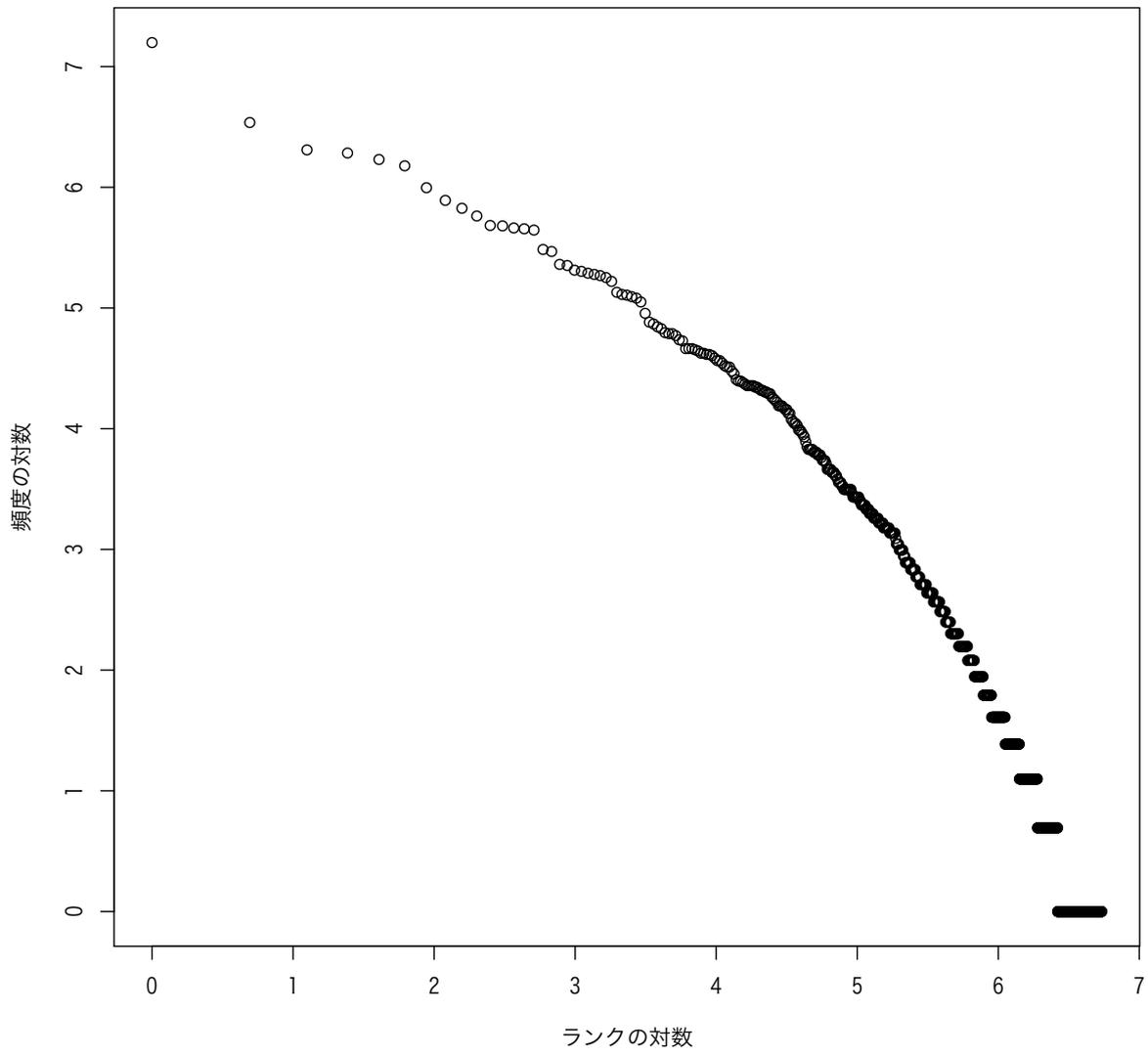
c. 動詞



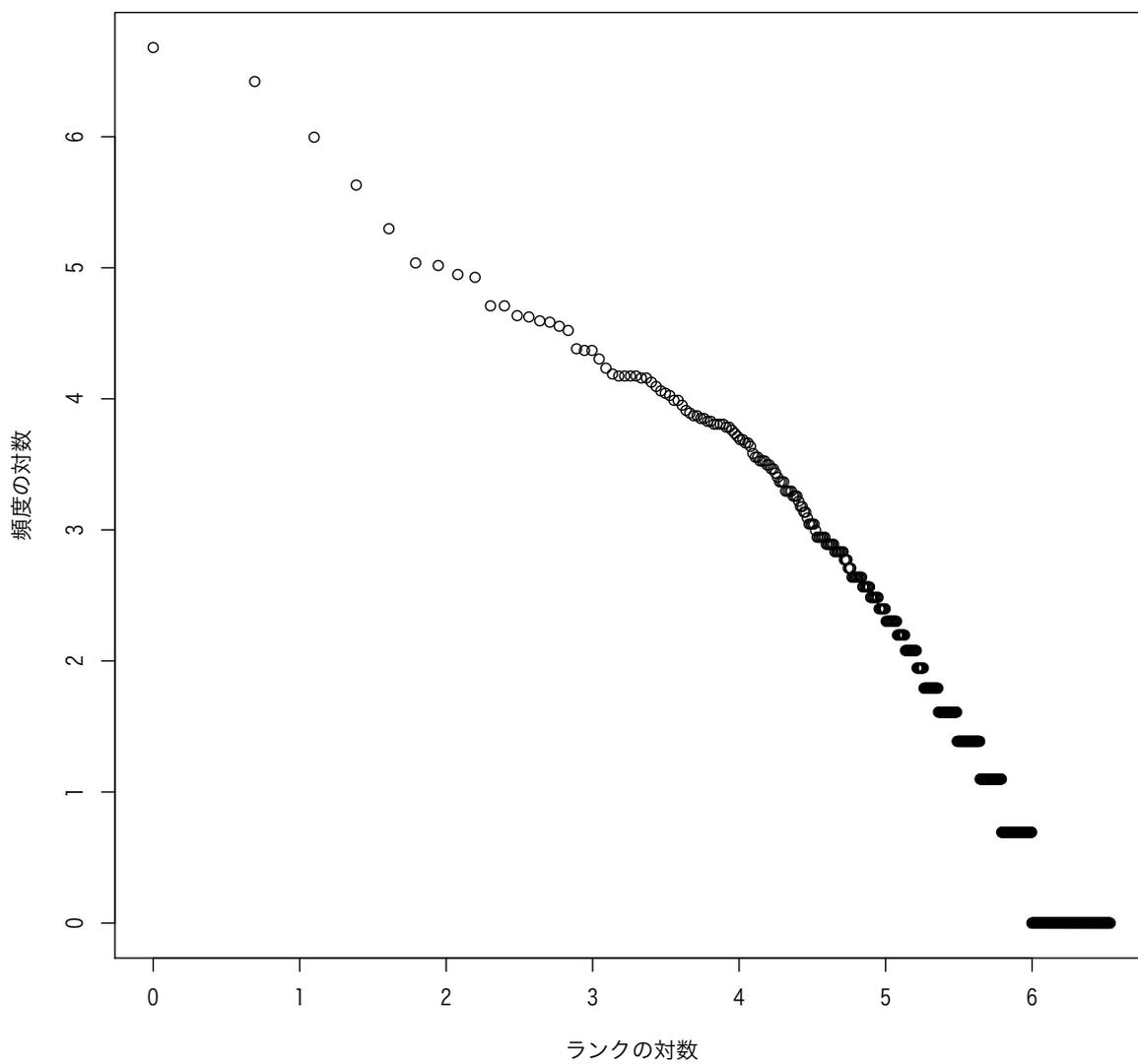
d. 補助動詞



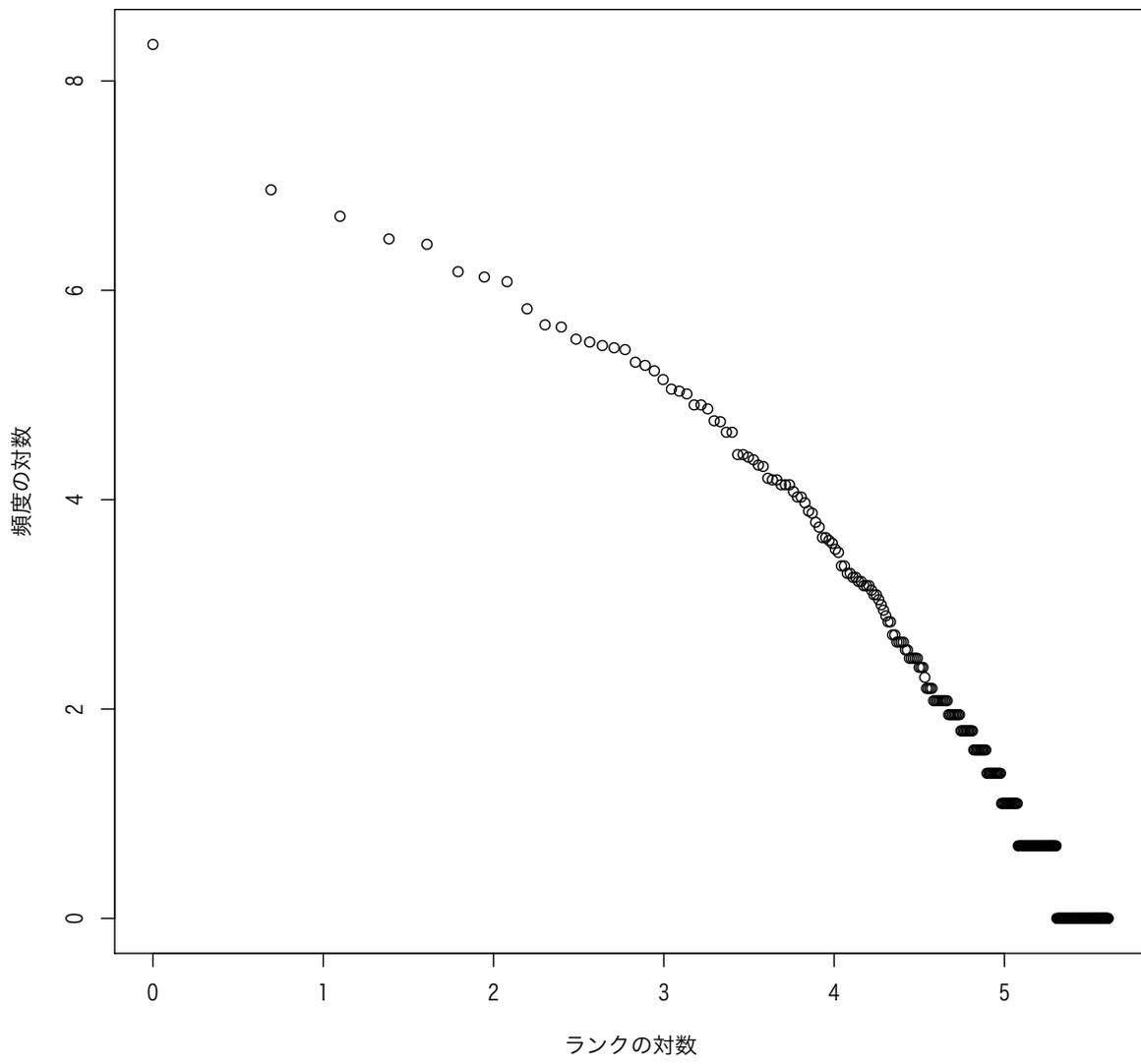
e. 形容詞



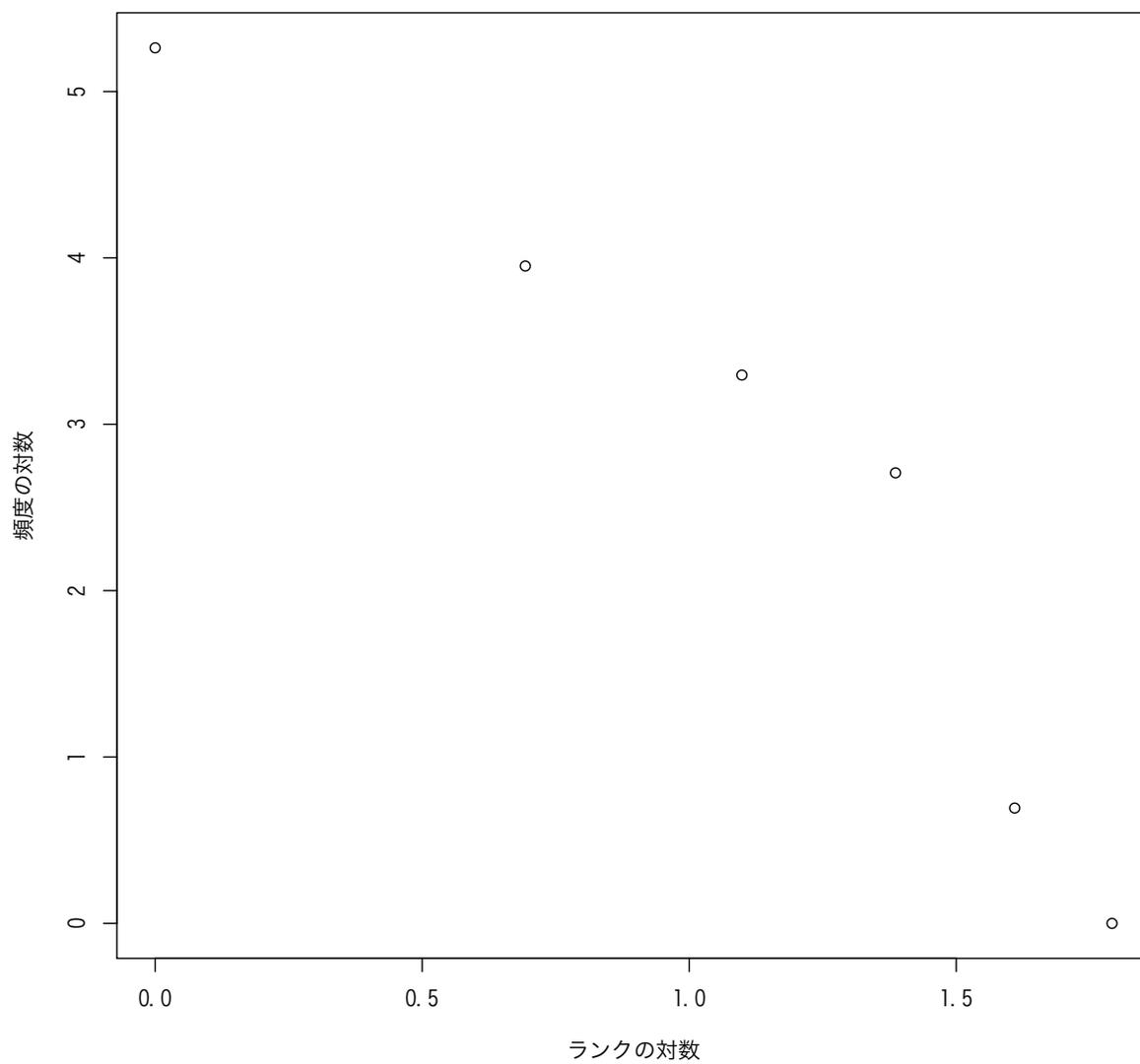
f. 形容動詞



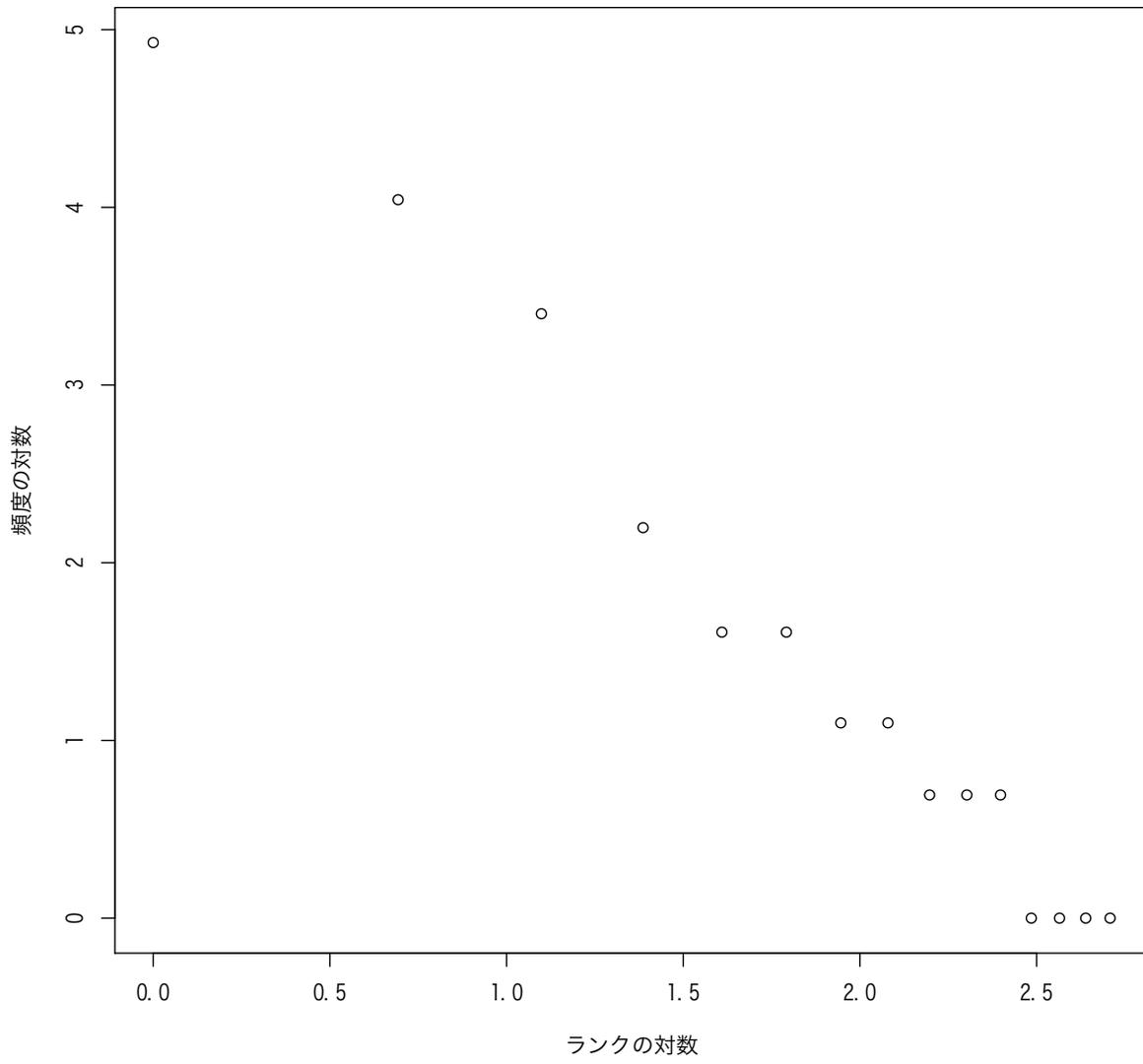
g. 副詞



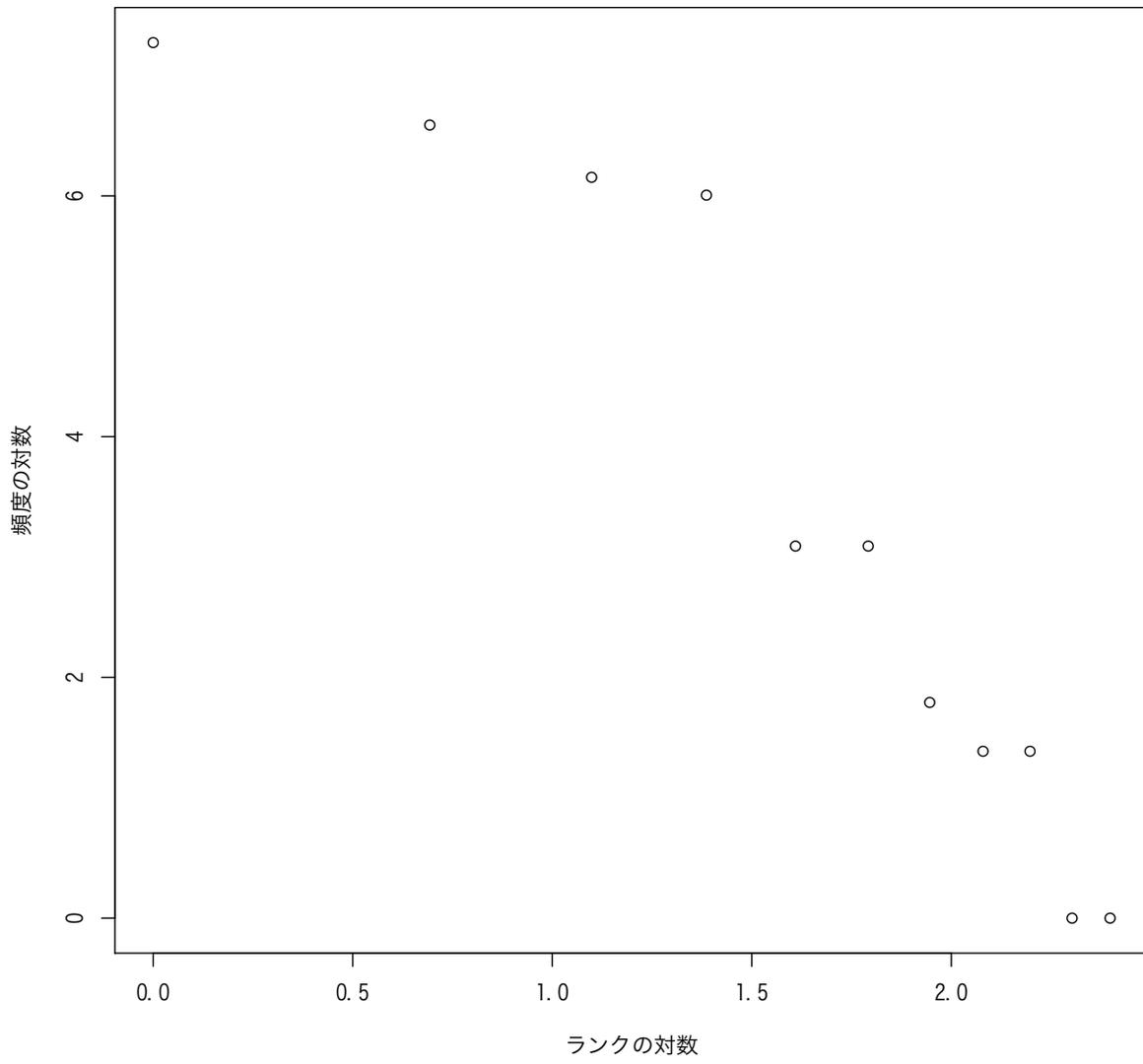
## h. 接続詞



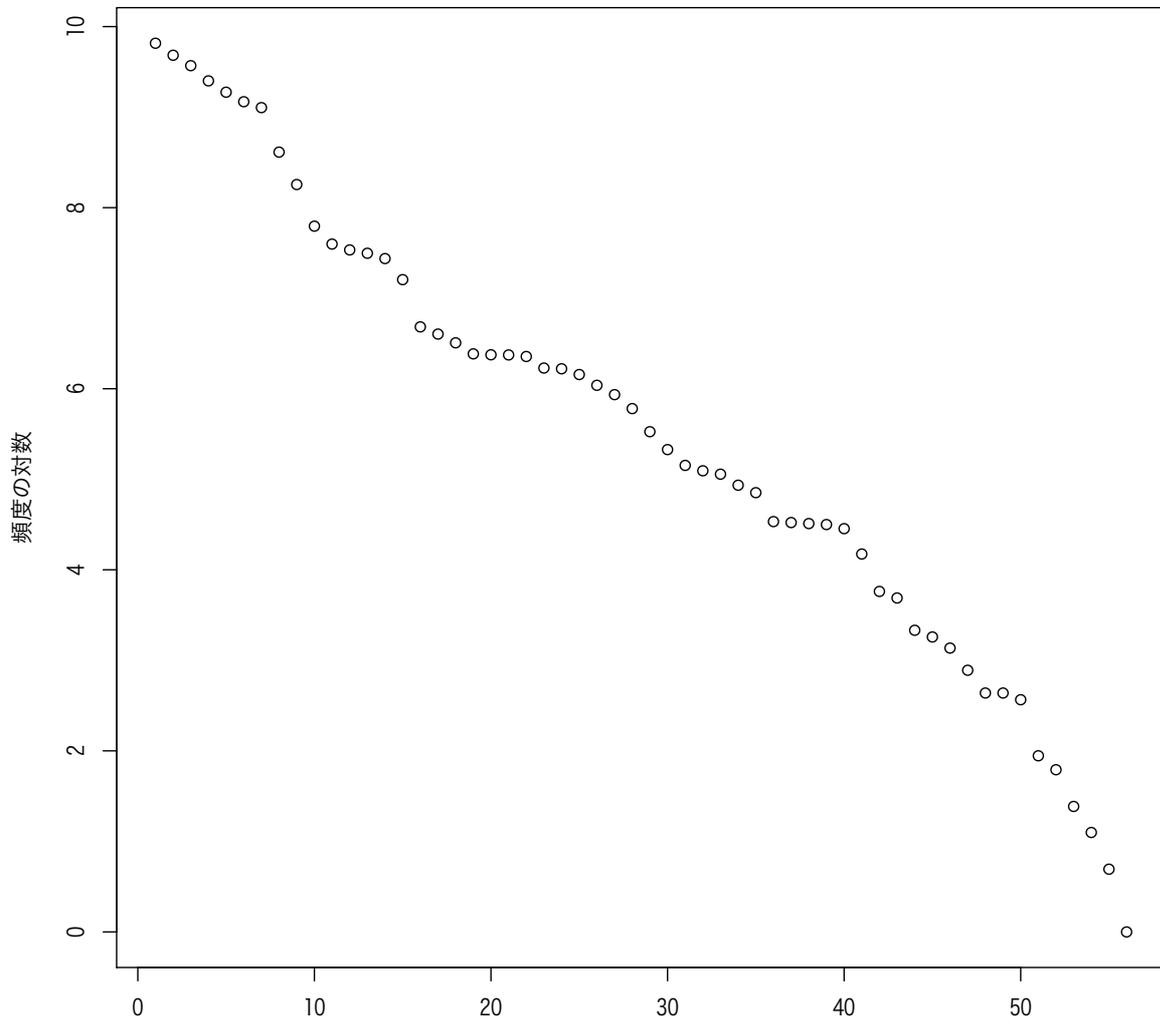
i. 感動詞



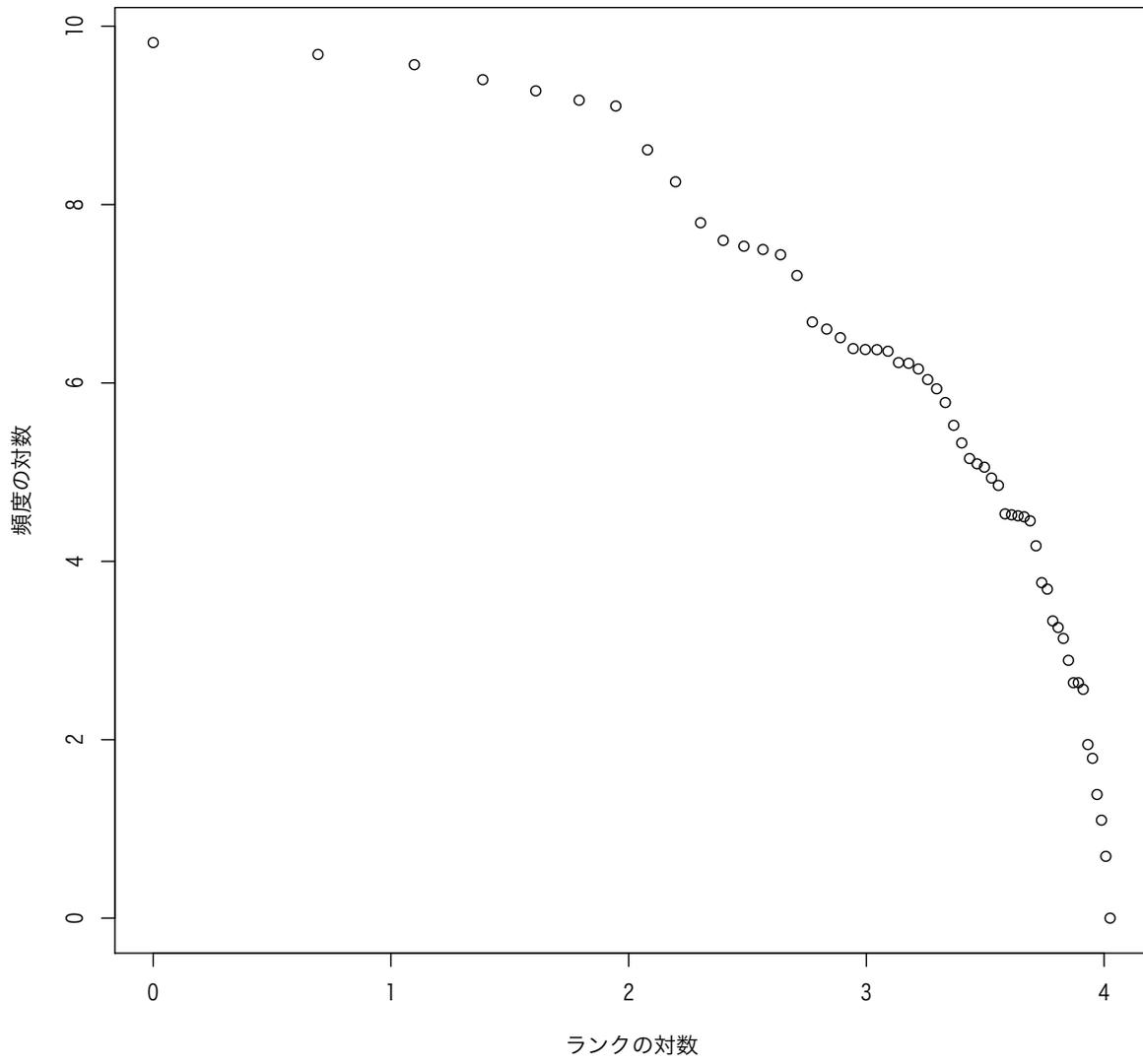
j. 連体詞



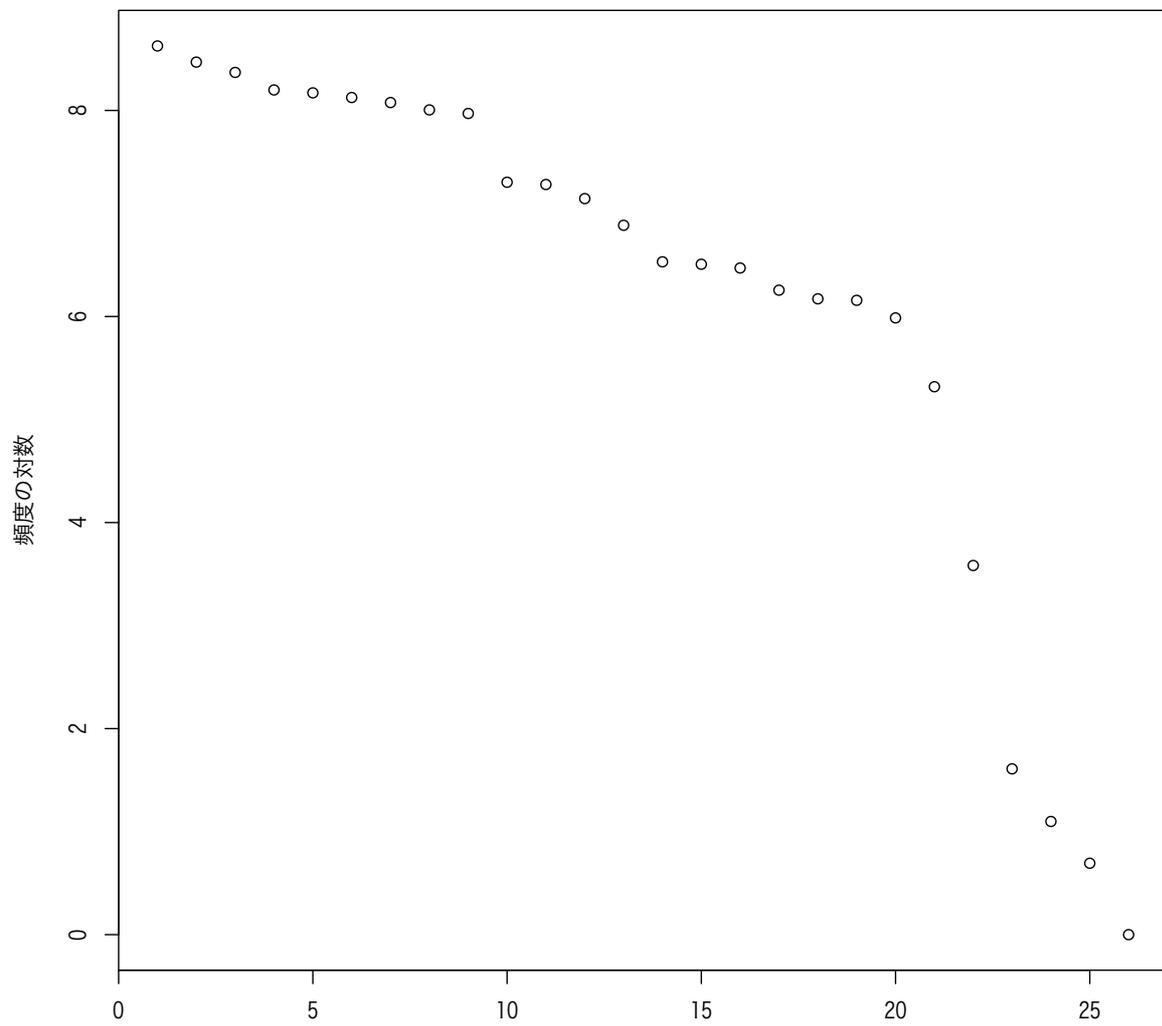
k. 助詞



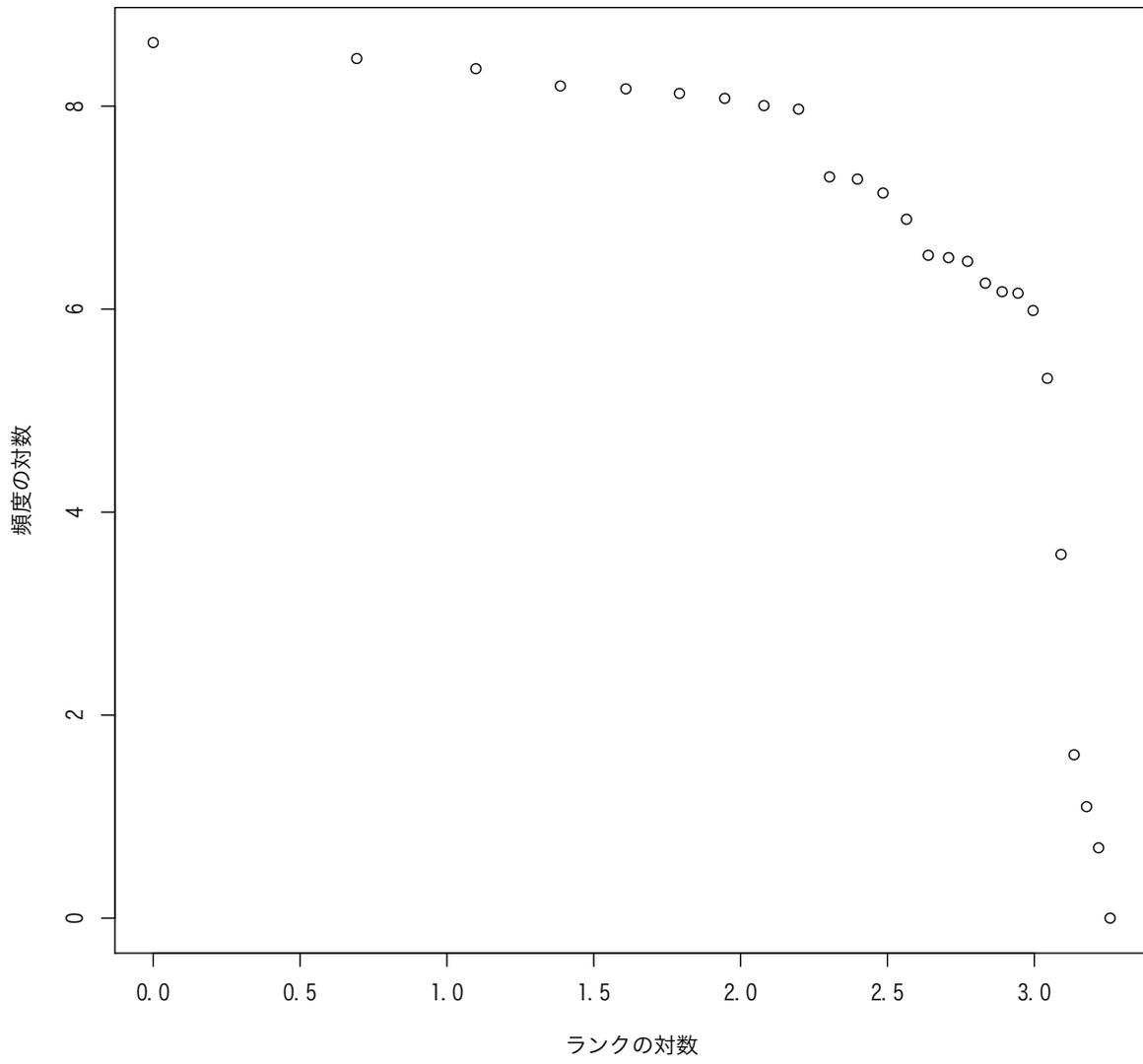
# 1. 助詞



m. 助動詞

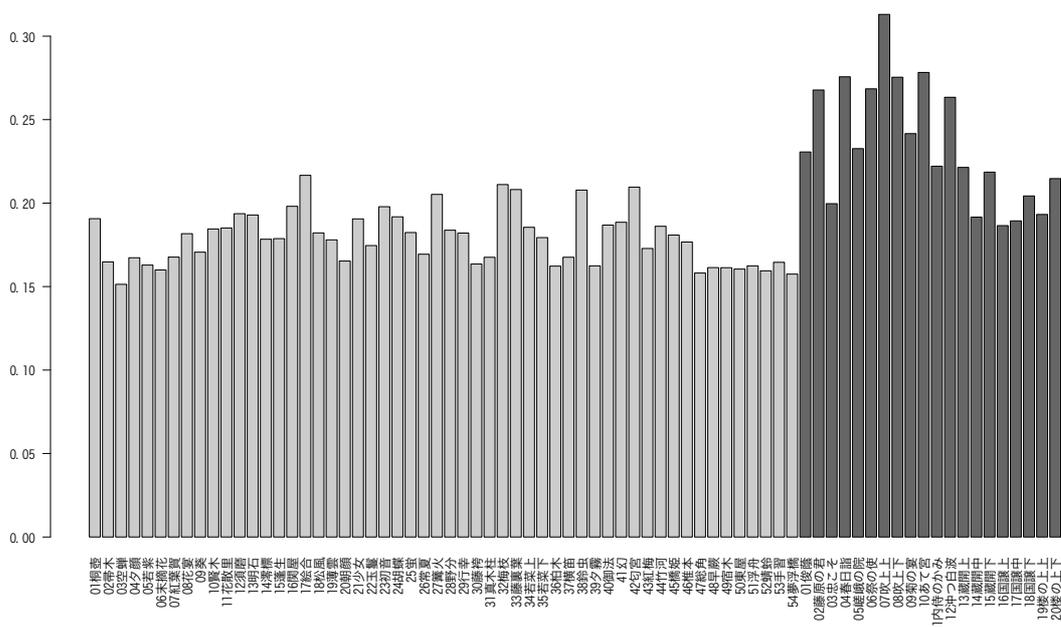


n. 助動詞

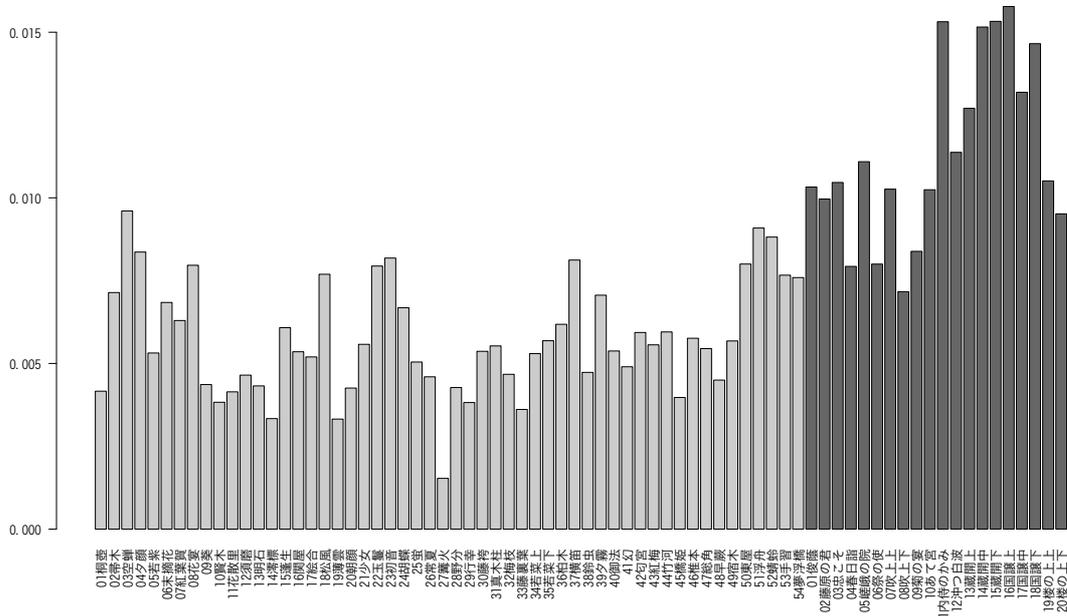


付録4 『源氏物語』および『宇津保物語』の各品詞の比率

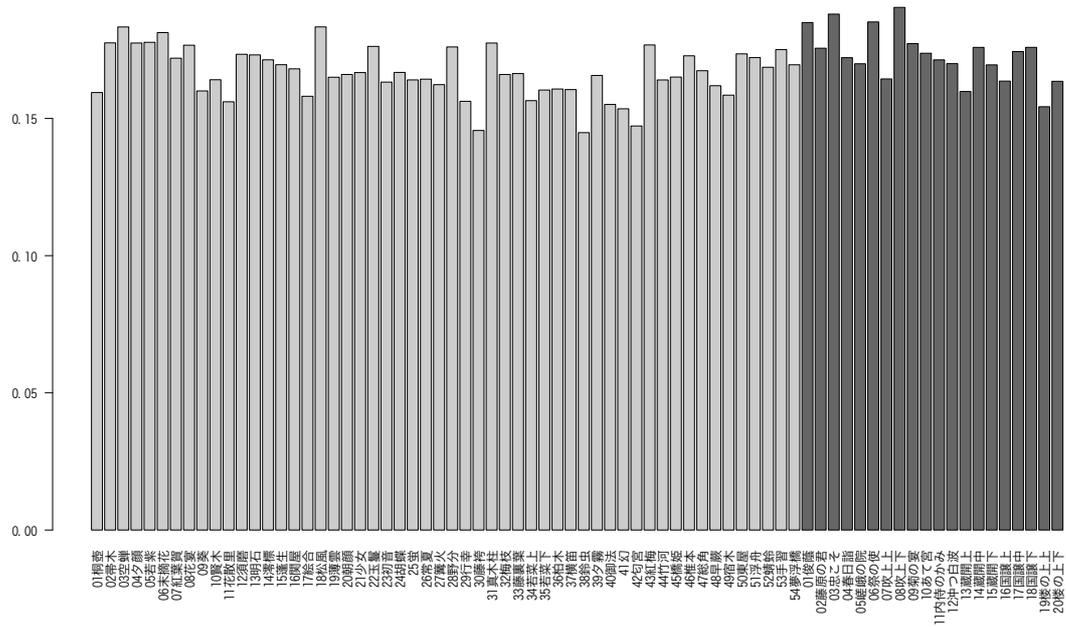
a. 名詞



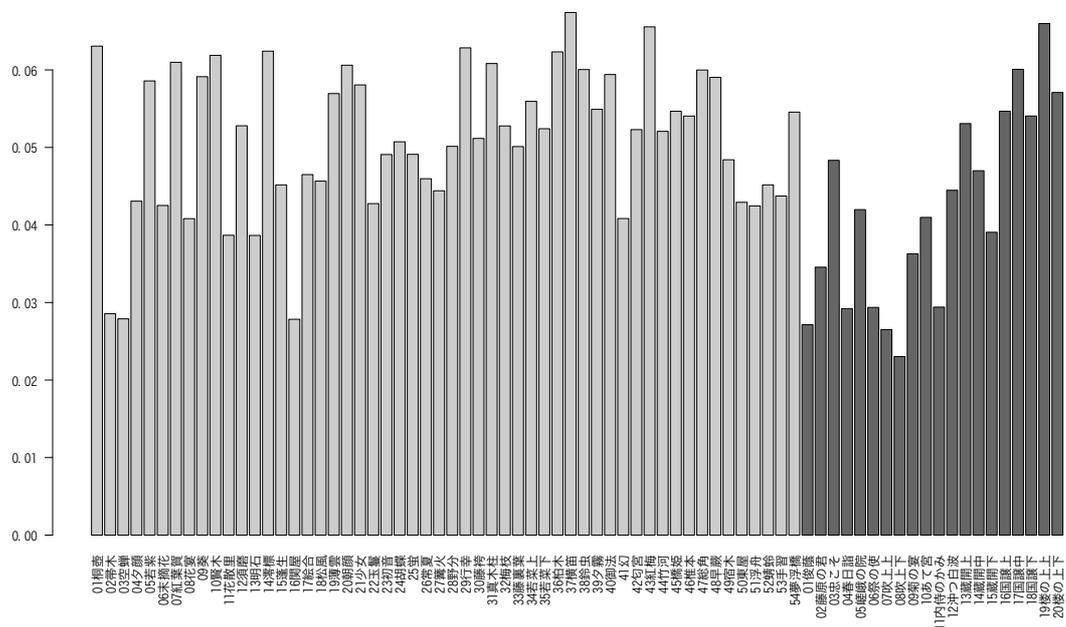
b. 代名詞



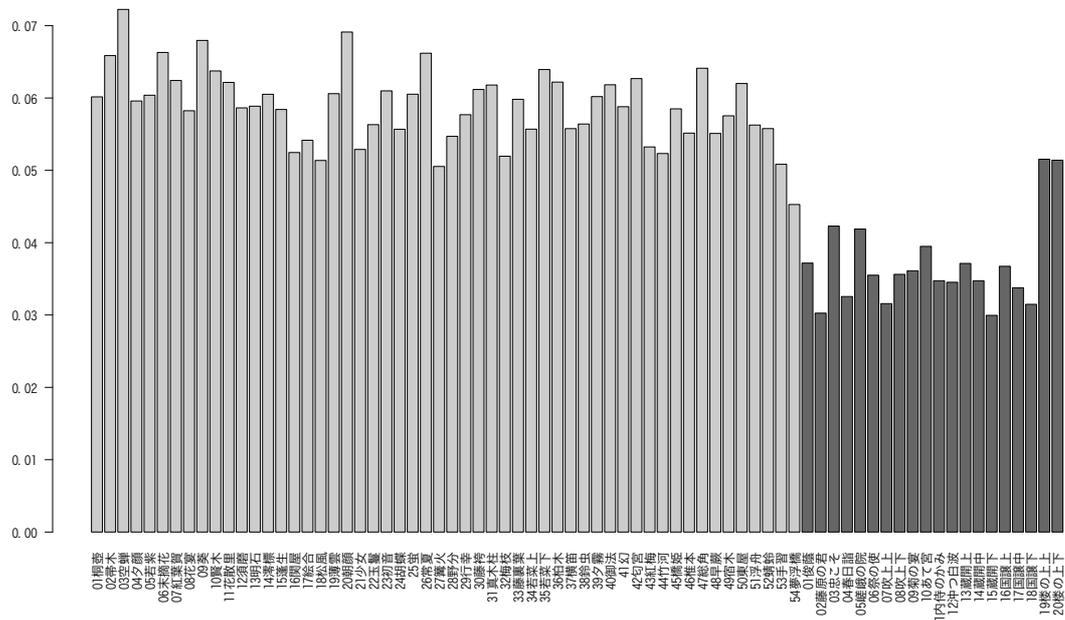
c. 動詞



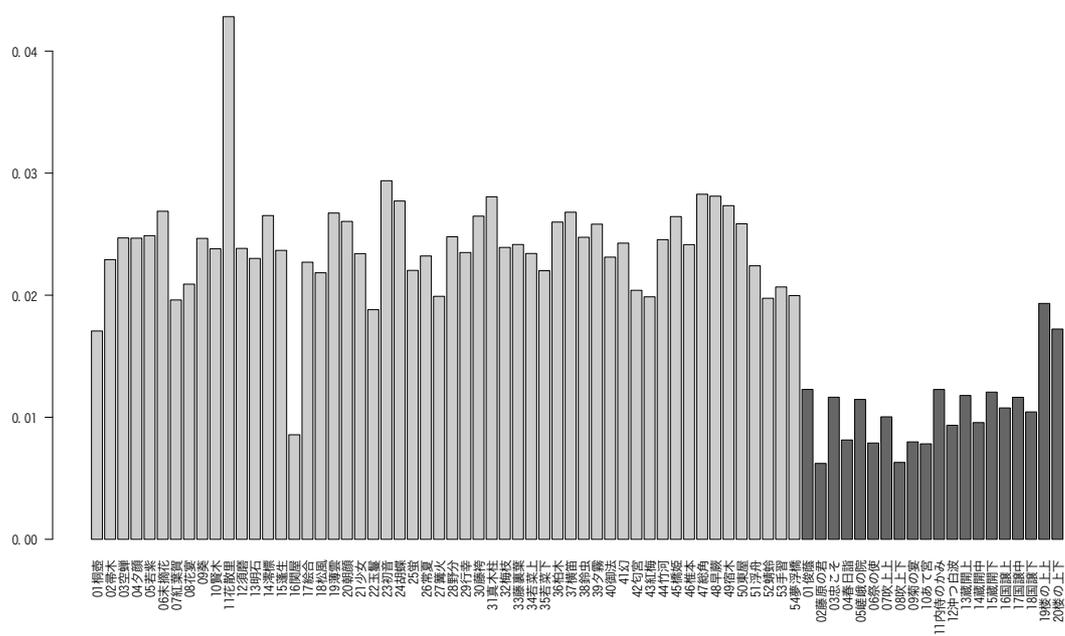
d. 補助動詞



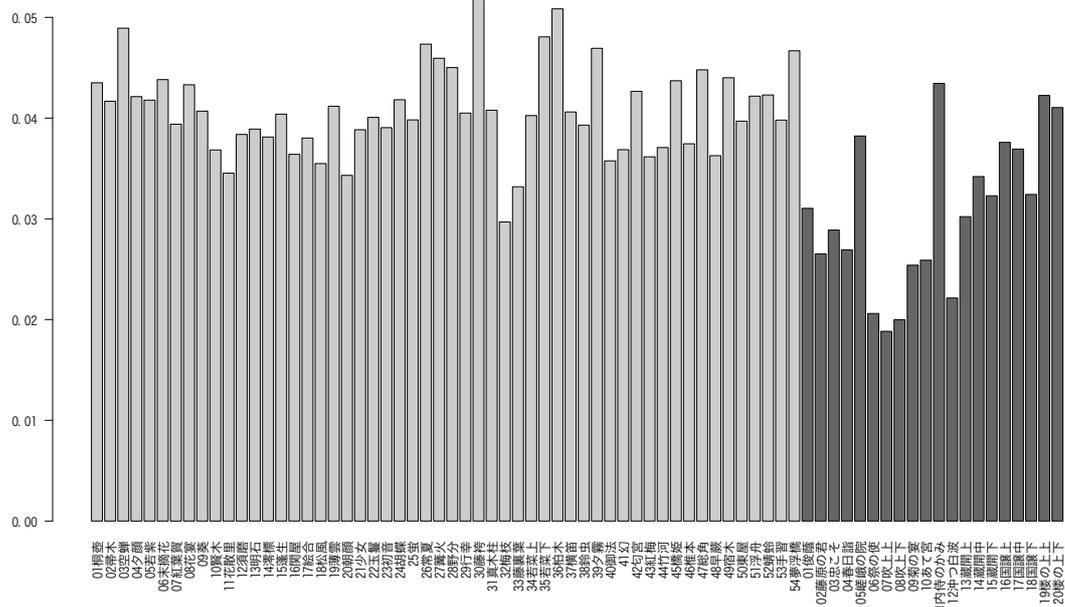
e. 形容詞



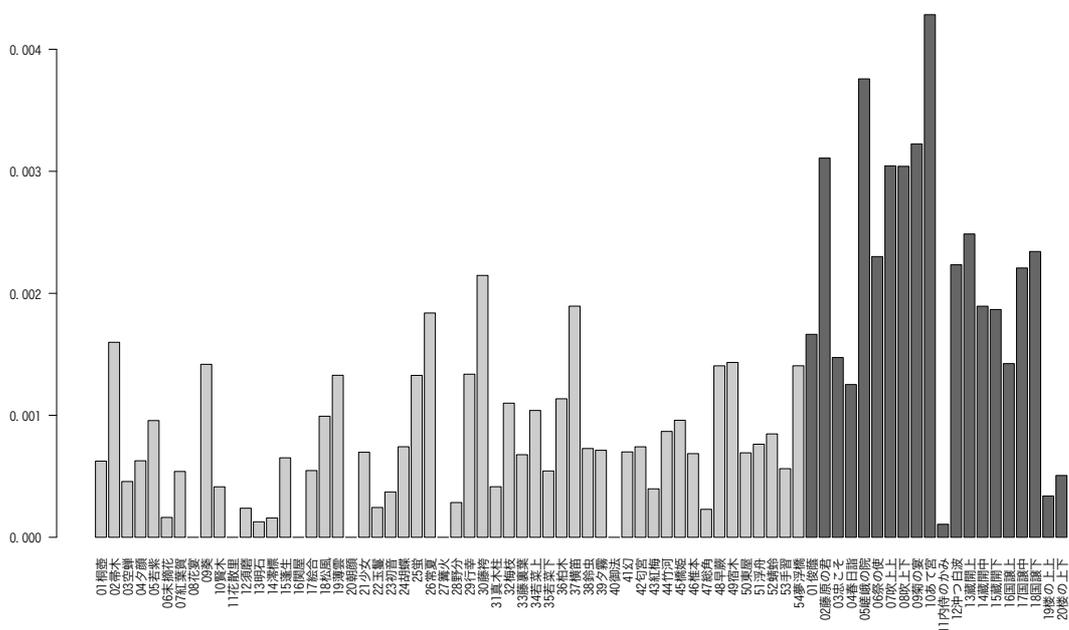
f. 形容動詞



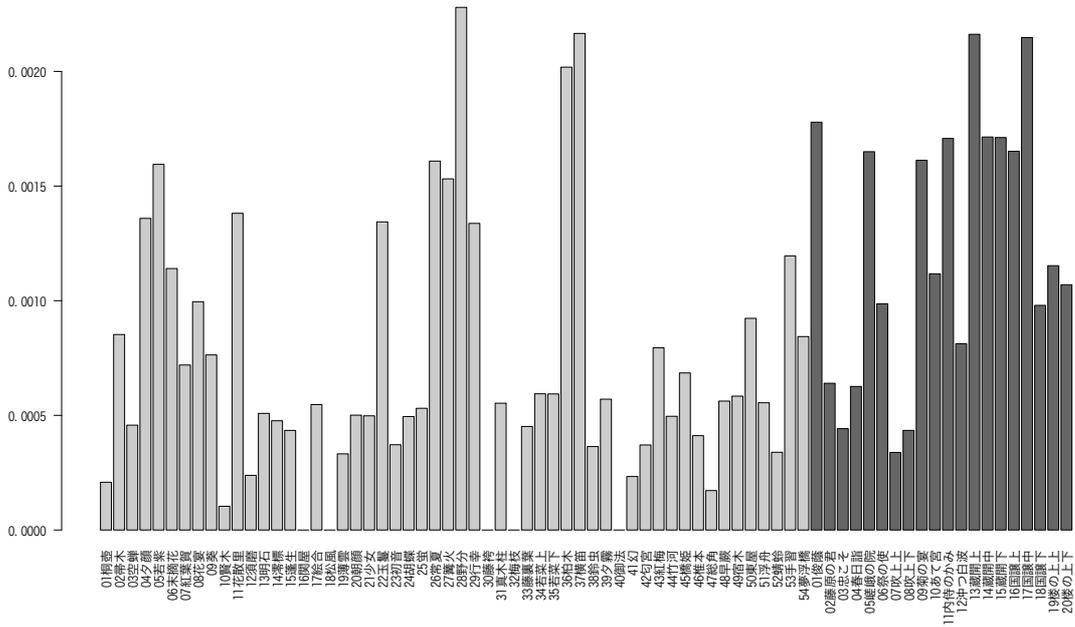
g. 副詞



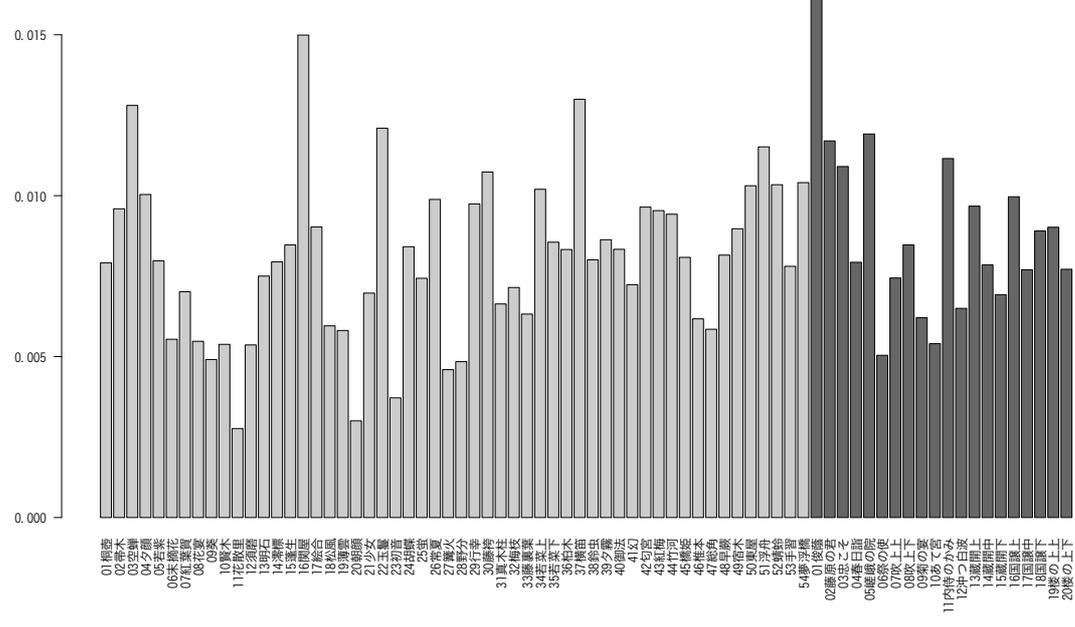
h. 接続詞



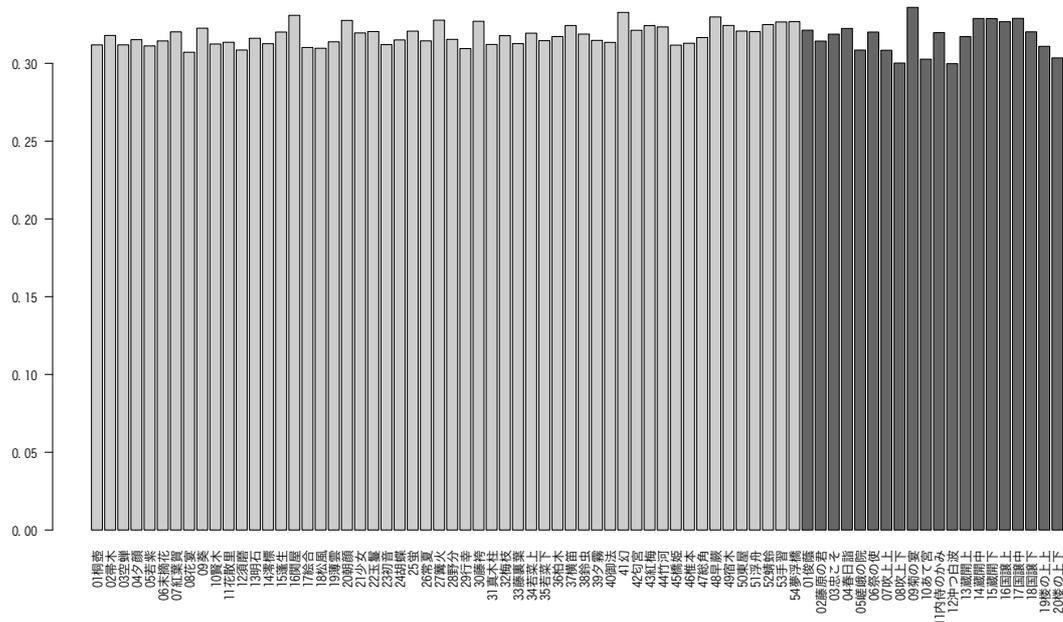
i. 感動詞



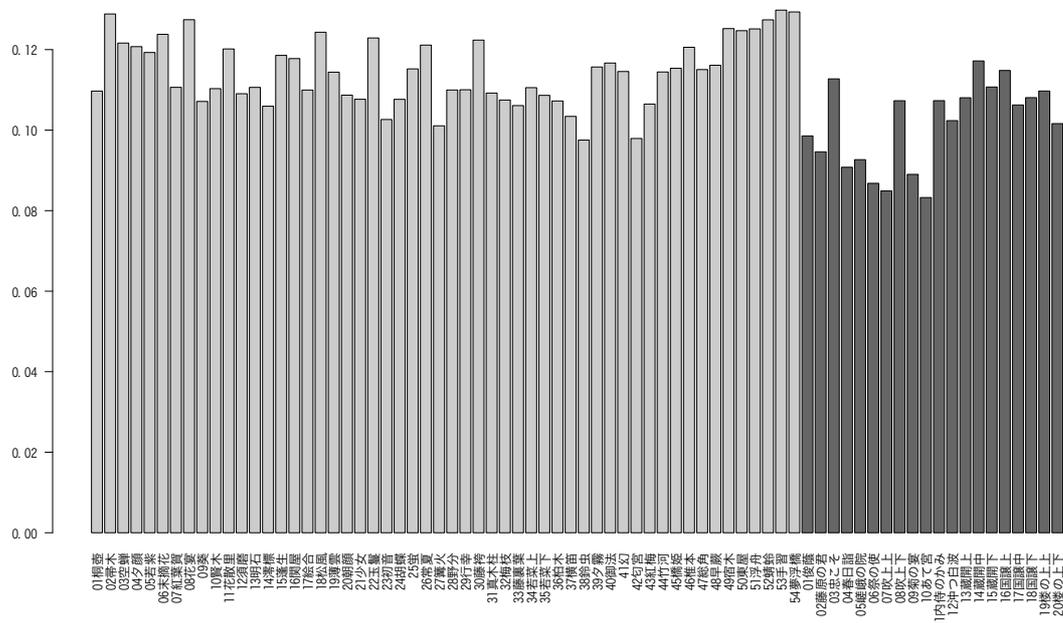
j. 連体詞



# k. 助詞



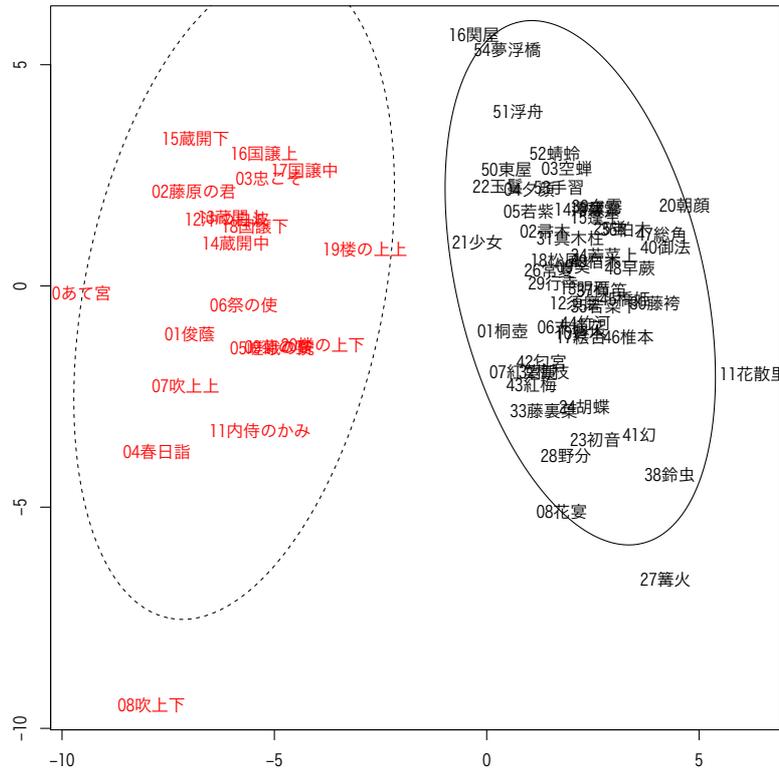
# l. 助動詞



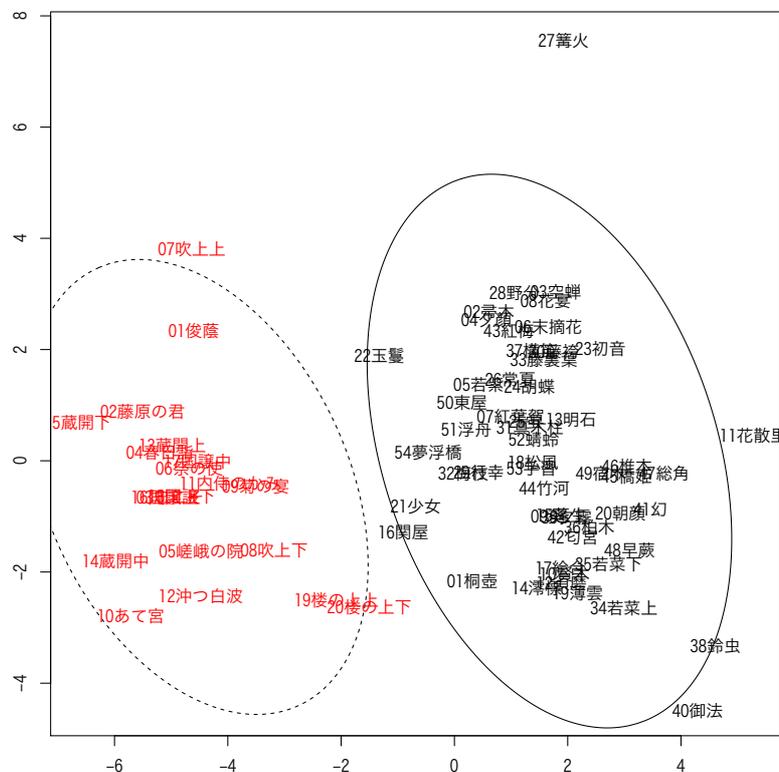
付録5 『源氏物語』 および 『宇津保物語』 における語の頻度についての主成分分析の結果

a. 名詞

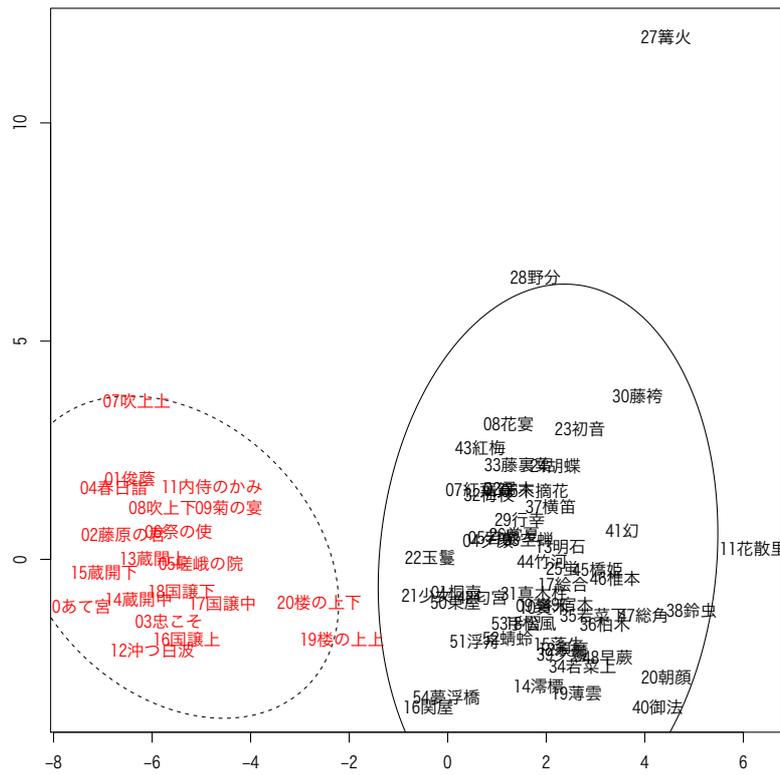
出現頻度上位 100 語



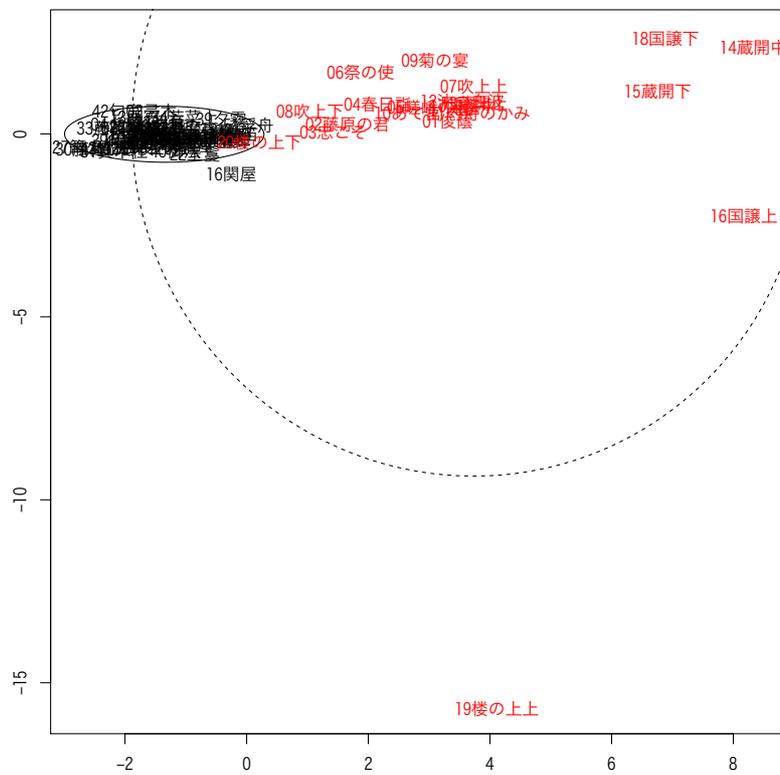
出現頻度上位 50 語



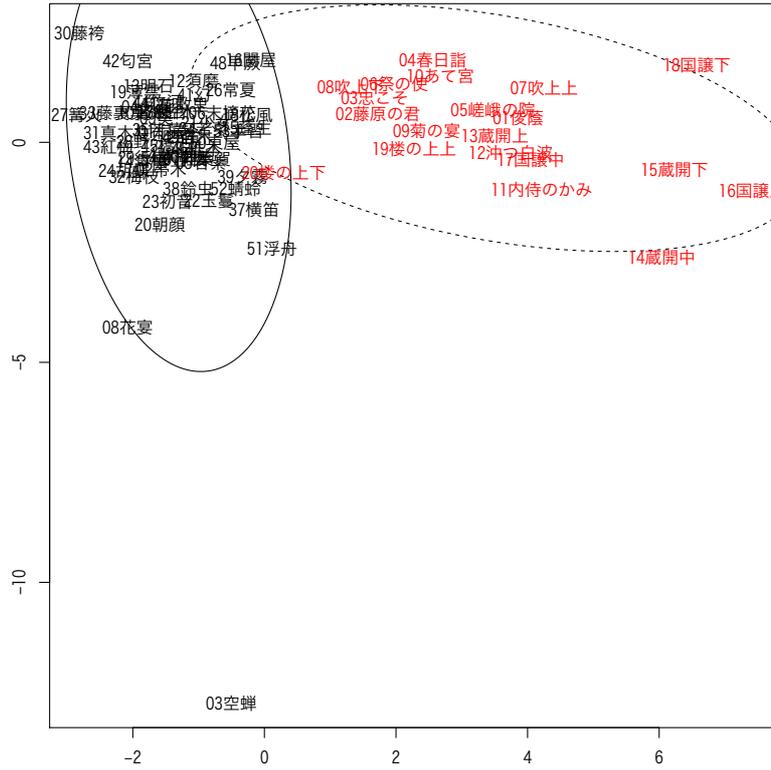
出現頻度上位 202 語



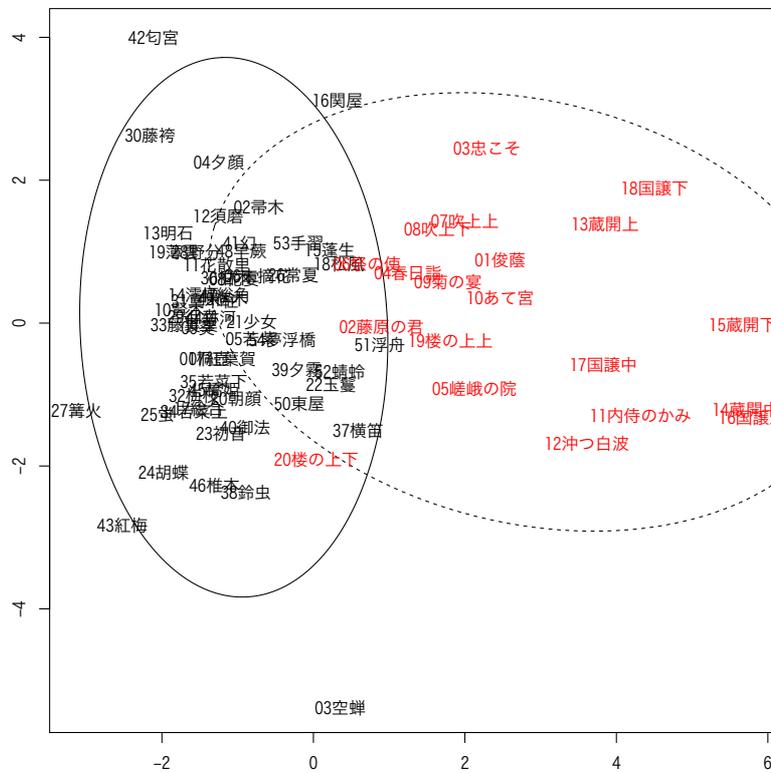
b. 代名詞  
全語彙



出現頻度上位 42 語

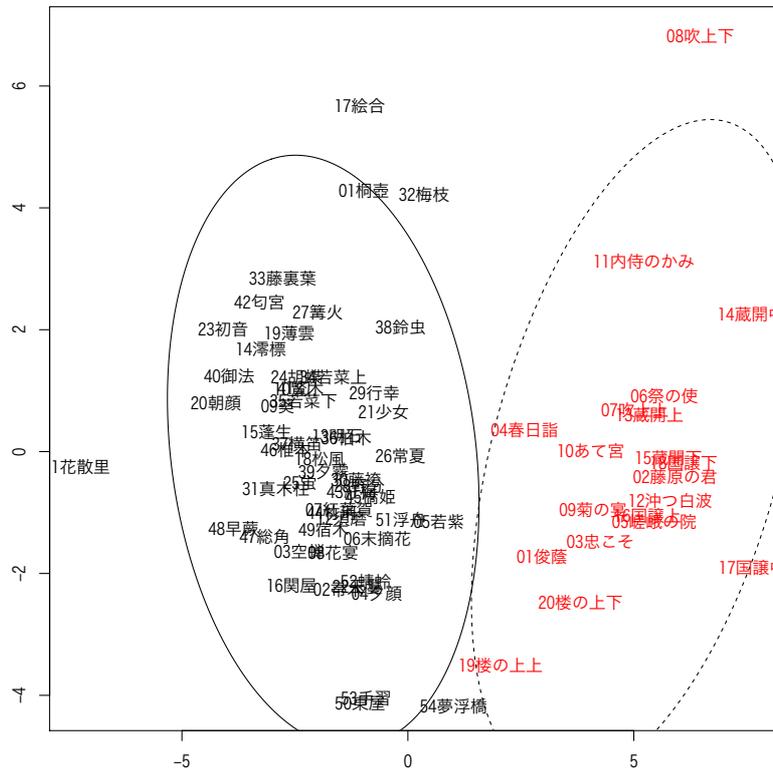


出現頻度上位 20 語

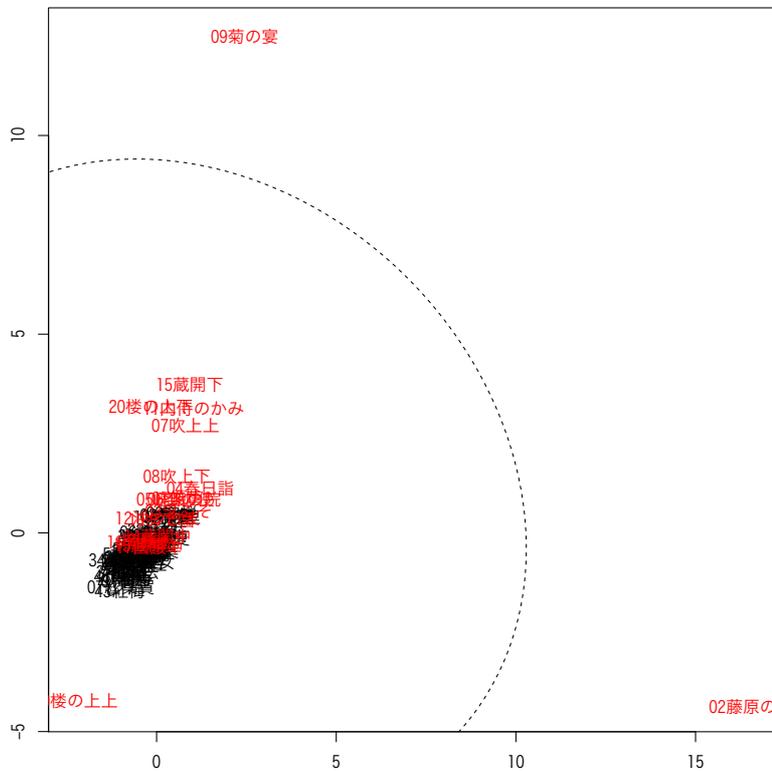




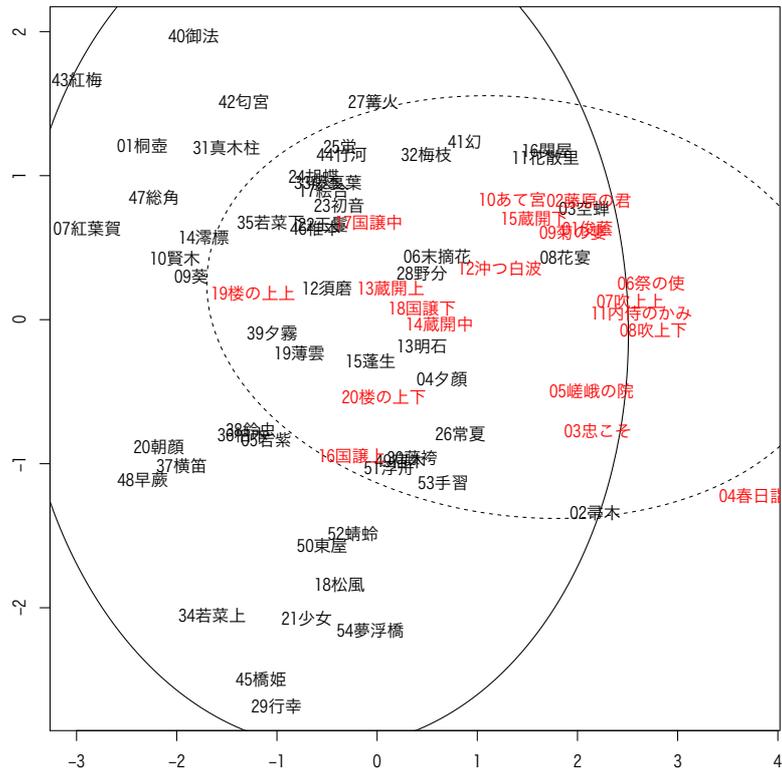
出現頻度上位 200 語



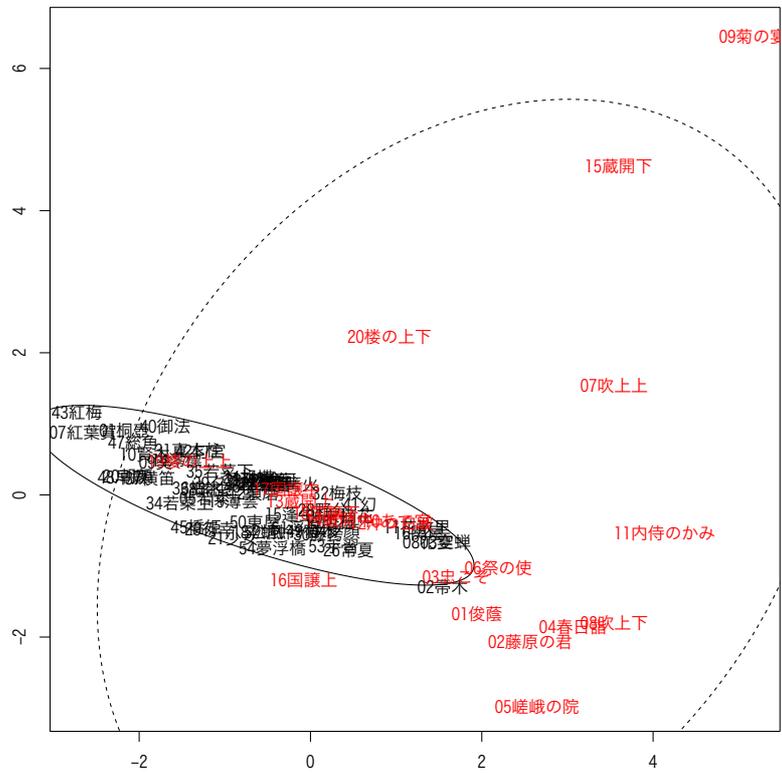
d. 補助動詞  
全語彙



出現頻度上位 14 語

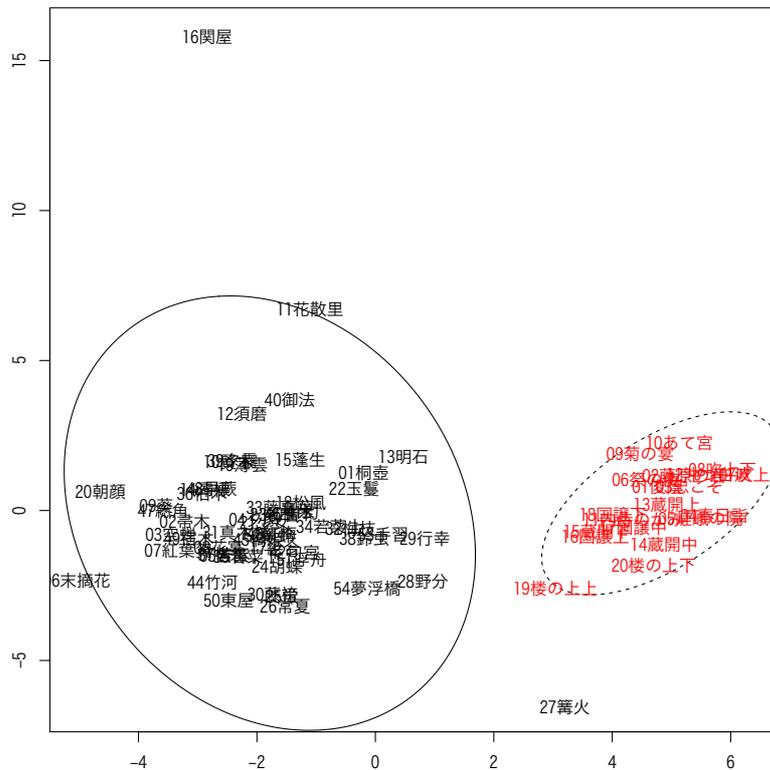


出現頻度上位 7 語

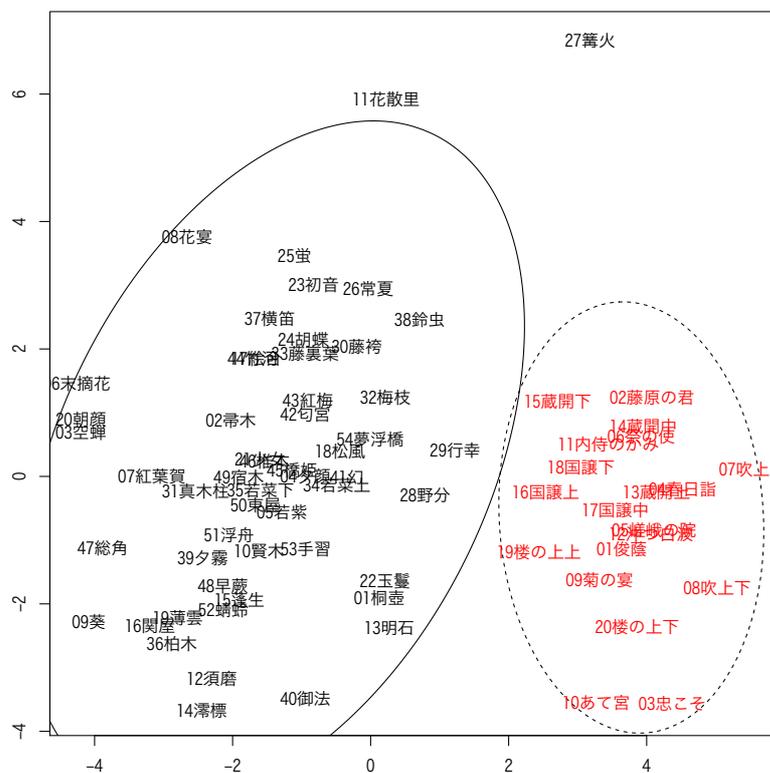


e. 形容詞

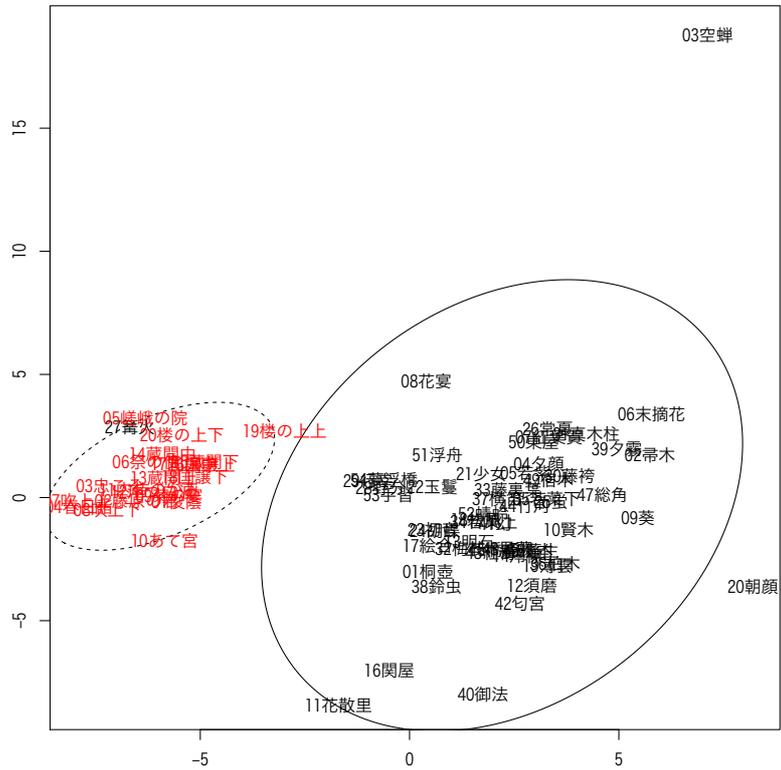
出現頻度上位 101 語



出現頻度上位 50 語

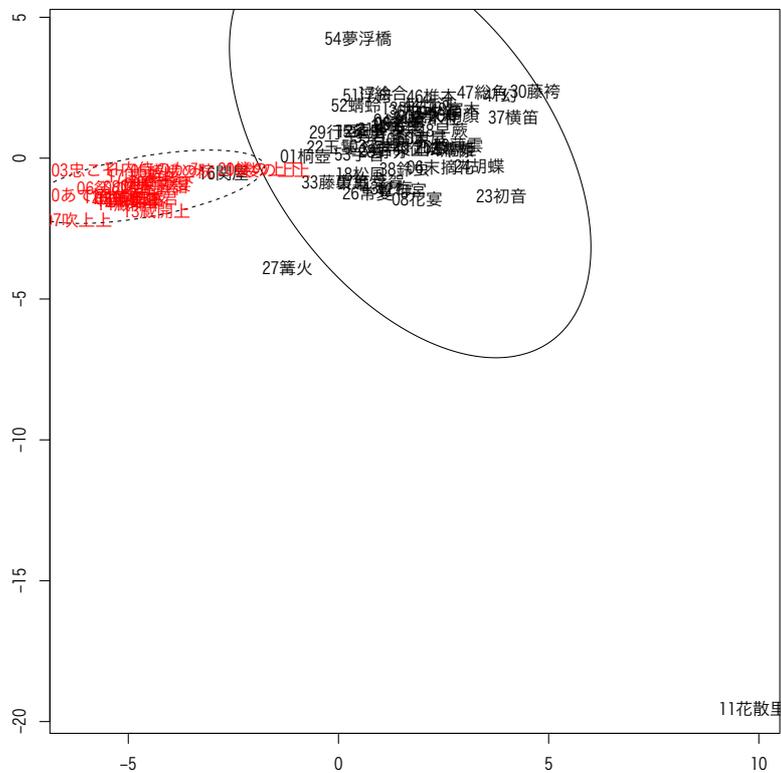


出現頻度上位 207 語

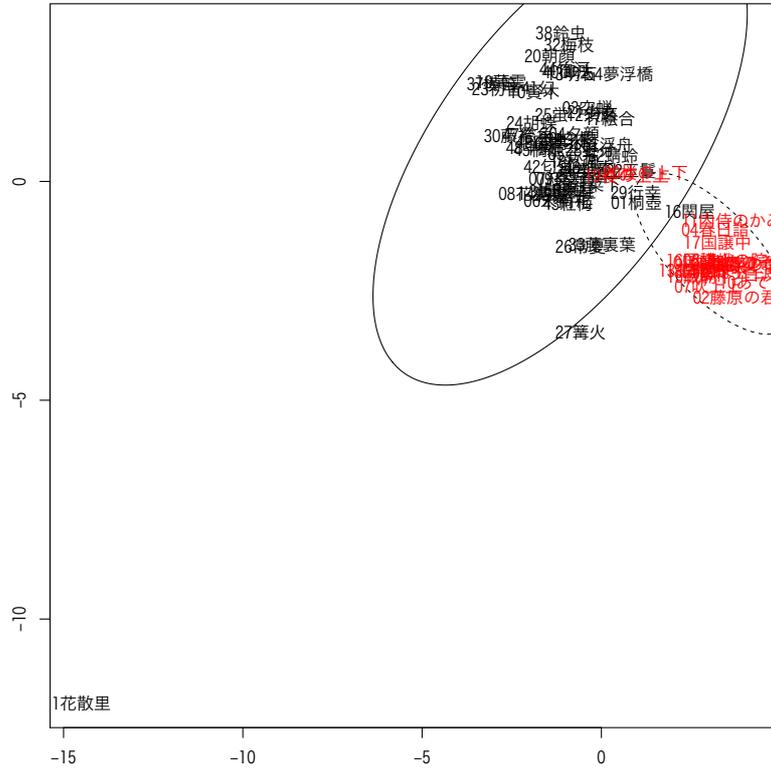


f. 形容動詞

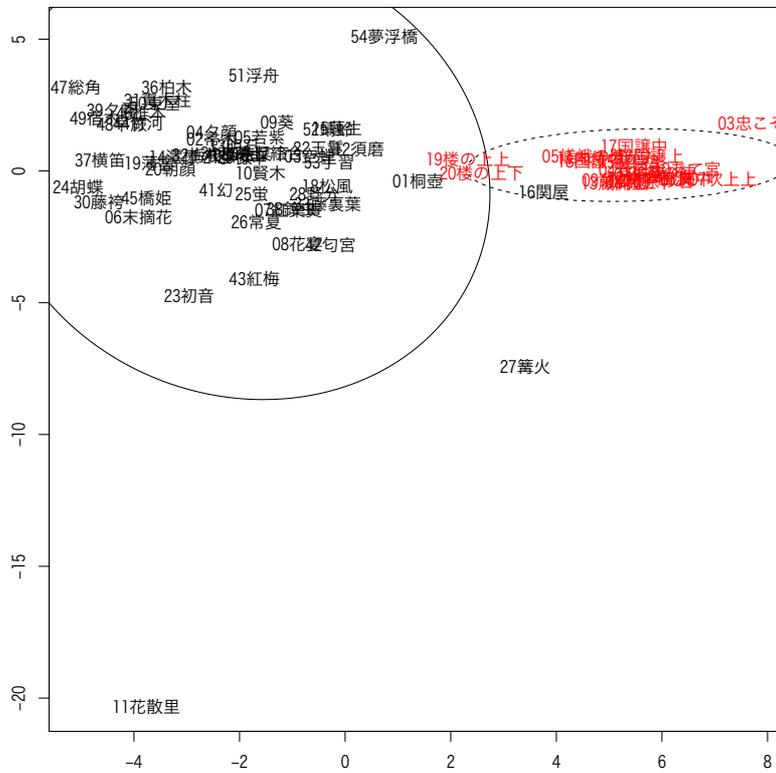
出現頻度上位 102 語



出現頻度上位 50 語

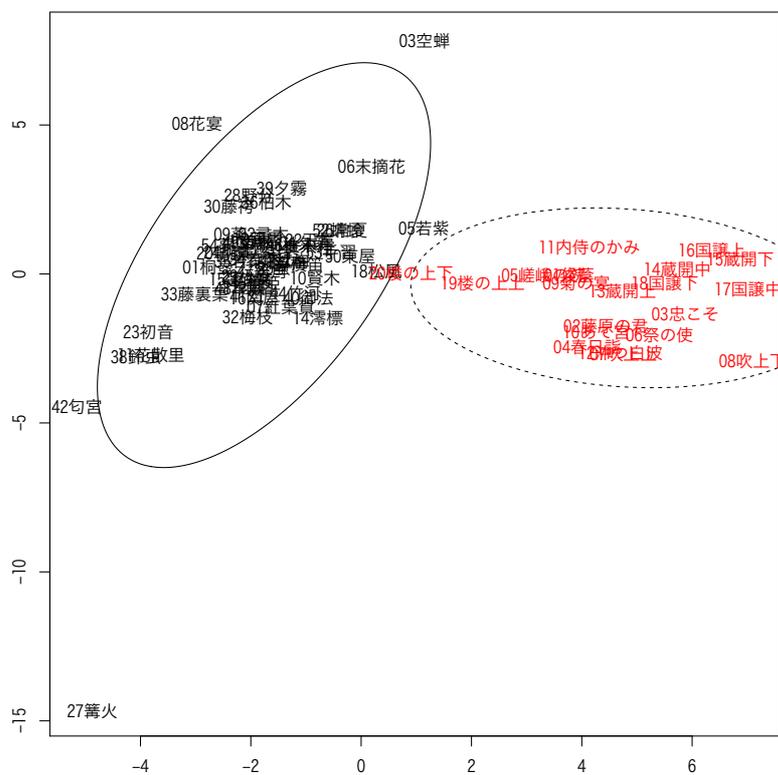


出現頻度上位 204 語

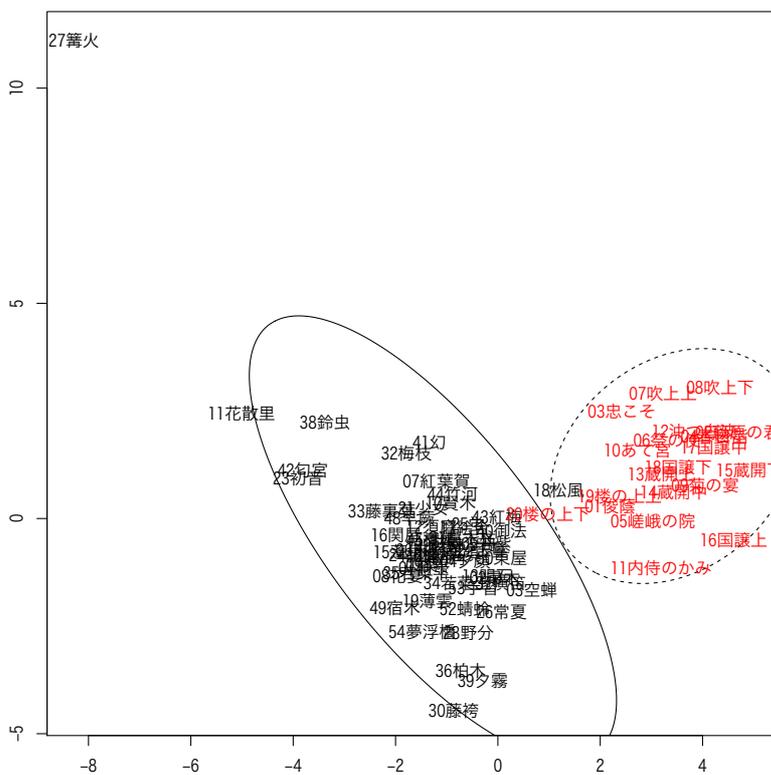


g. 副詞

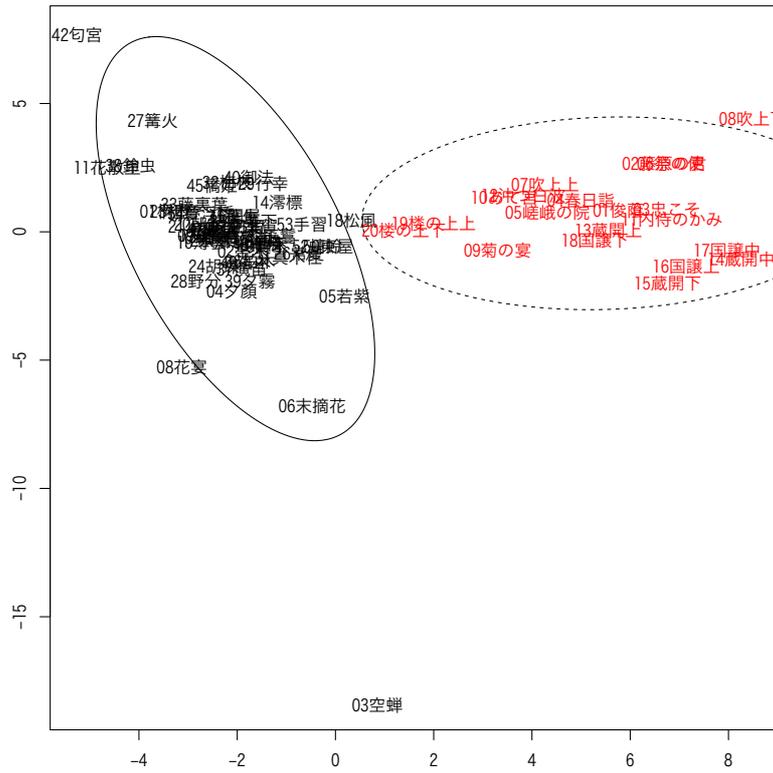
出現頻度上位 100 語



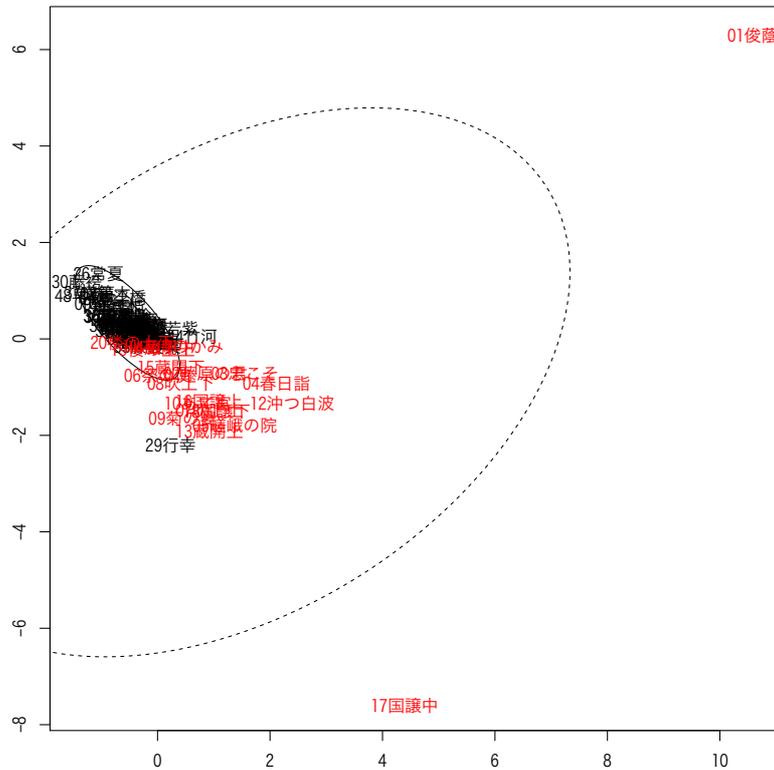
出現頻度上位 50 語



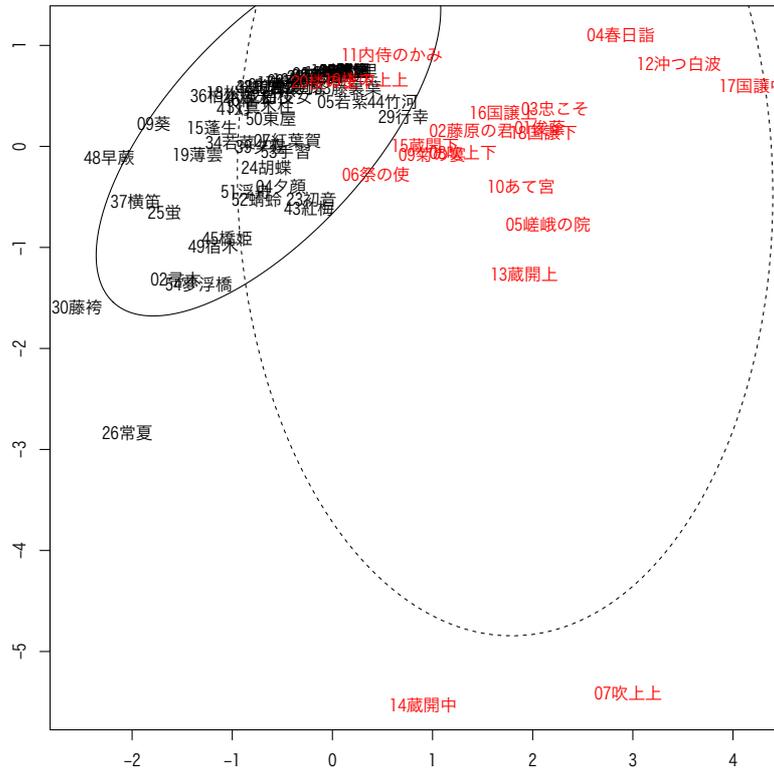
出現頻度上位 196 語



h. 接続詞  
全語彙

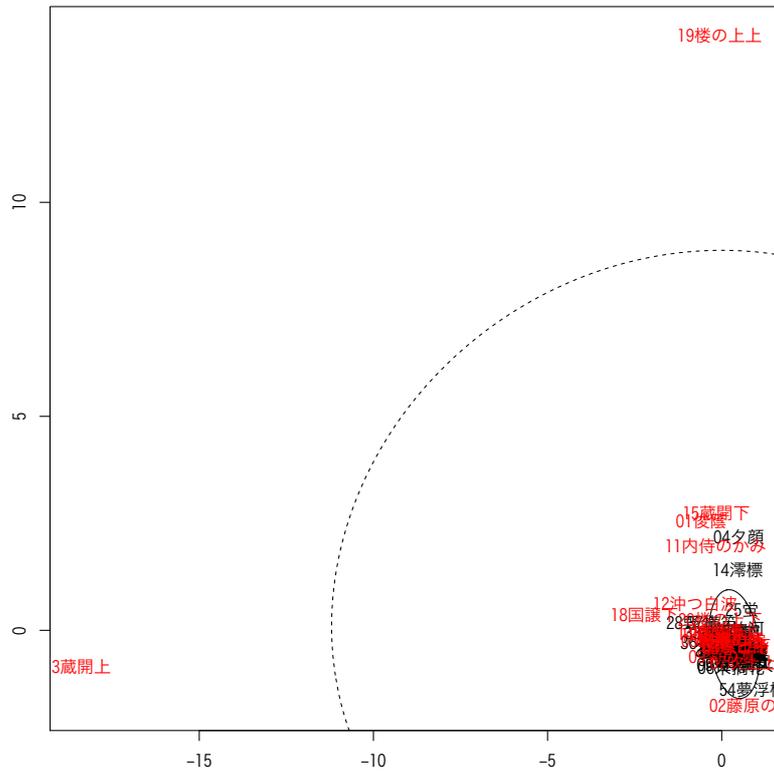


出現頻度上位 7 語

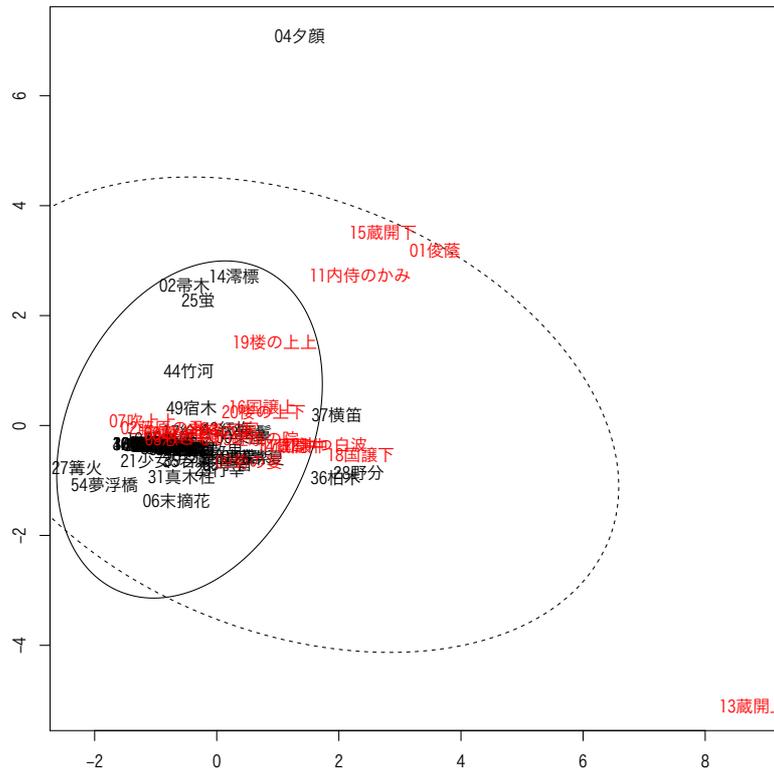


i. 感動詞

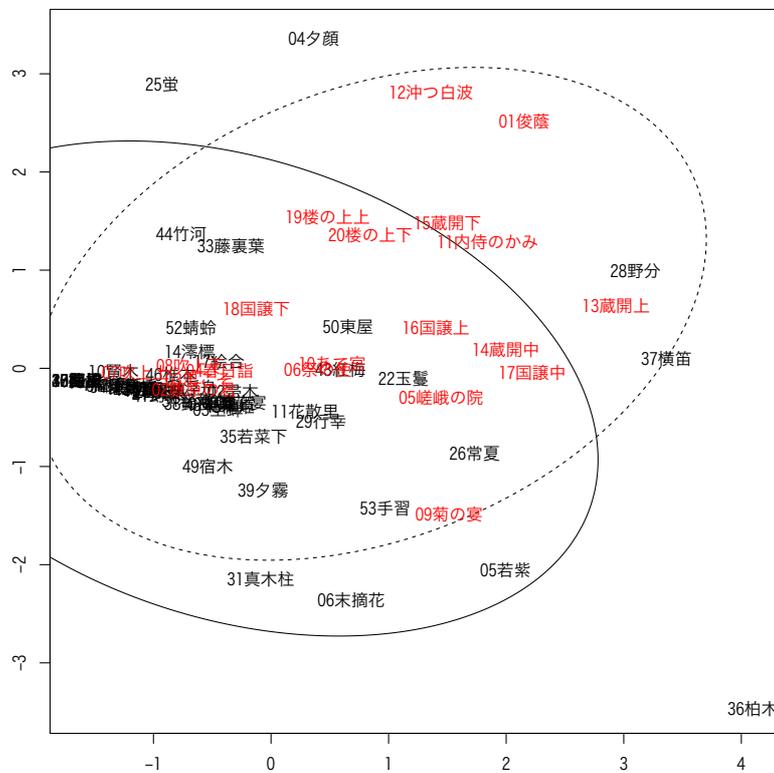
全語彙



出現頻度上位 15 語

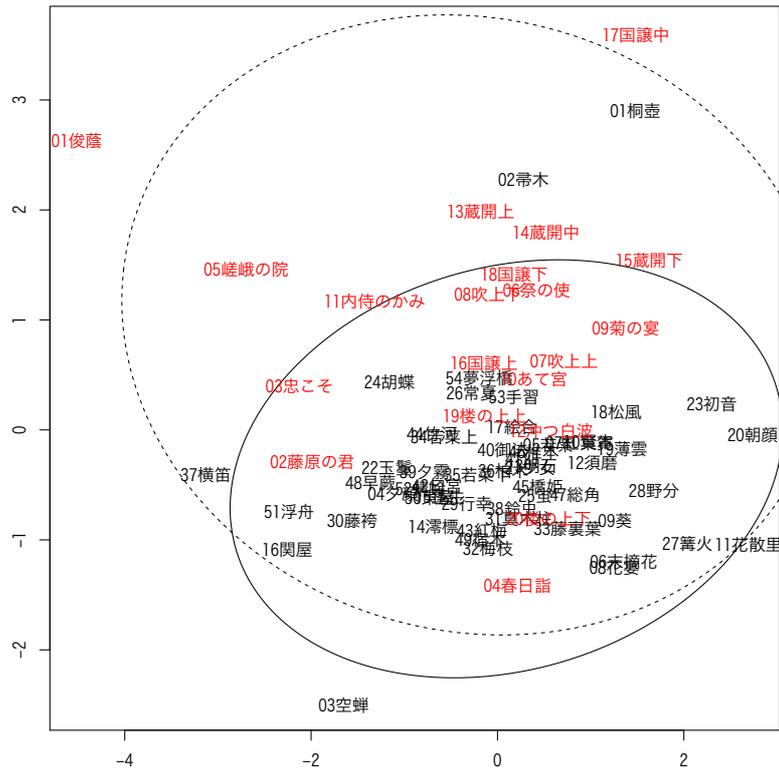


出現頻度上位 6 語



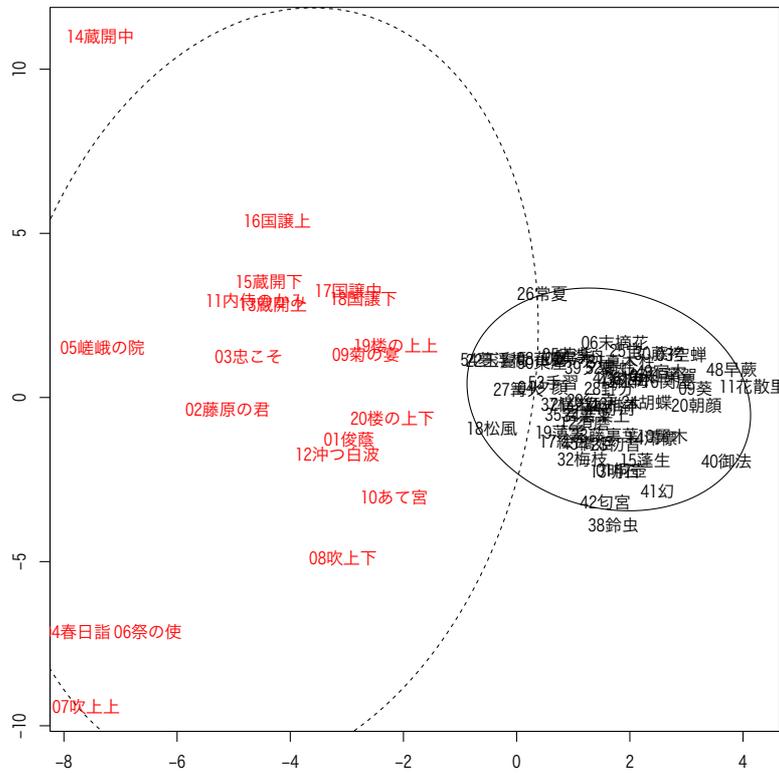


出現頻度上位 7 語

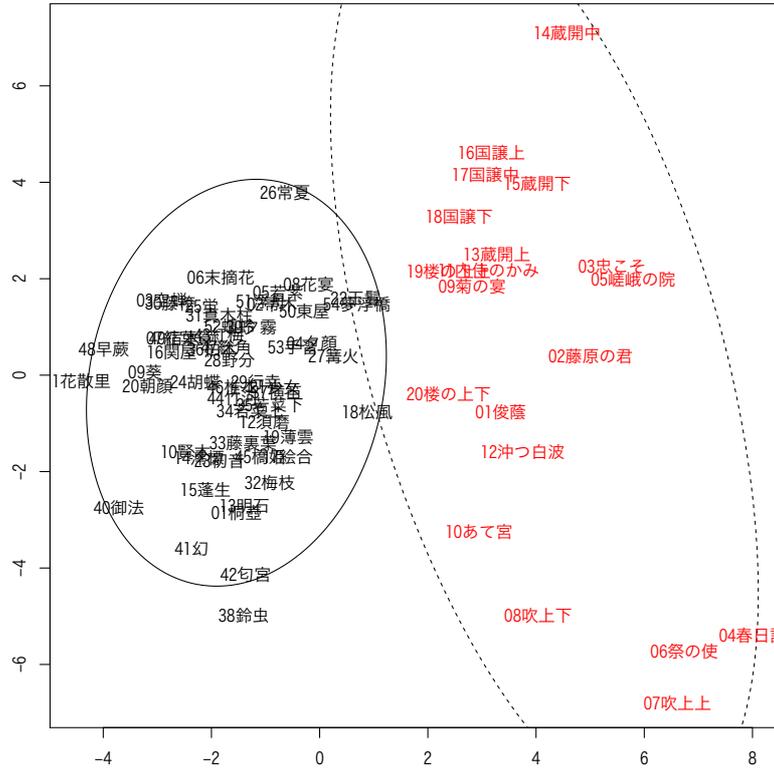


k. 助詞

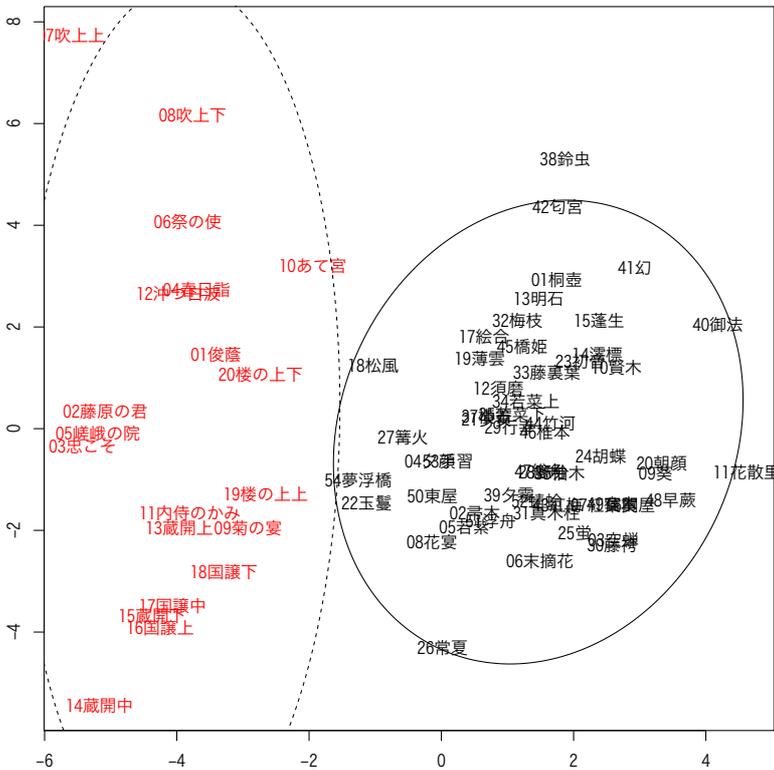
全語彙



出現頻度上位 66 語

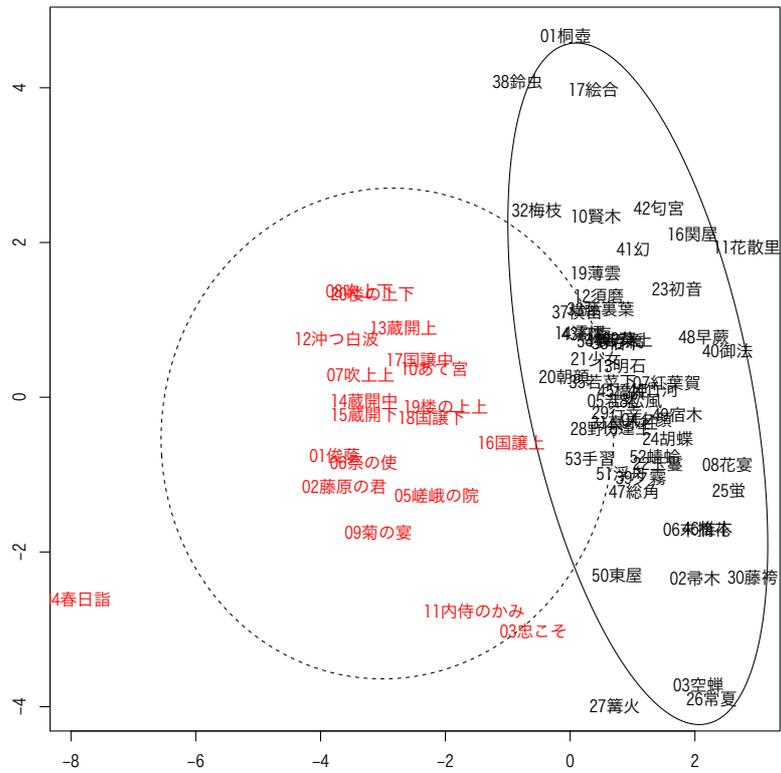


出現頻度上位 55 語

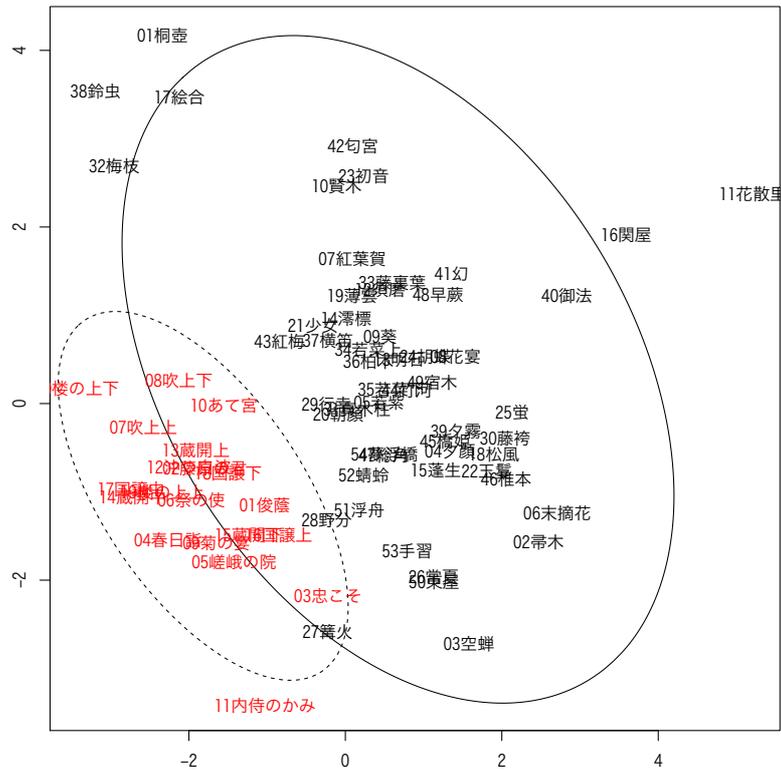




出現頻度上位 29 語



出現頻度上位 16 語



付録6 『源氏物語』と『宇津保物語』の語の長さの集計結果

a. 名詞

	源氏物語		宇津保物語		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	2952	0.0078	2270	0.0092	5222	0.0084
2	25126	0.0667	19361	0.0782	44487	0.0713
3	15140	0.0402	11613	0.0469	26753	0.0429
4	11724	0.0311	10736	0.0434	22460	0.0360
5	5081	0.0135	5365	0.0217	10446	0.0167
6	3167	0.0084	2925	0.0118	6092	0.0098
7	1269	0.0034	1538	0.0062	2807	0.0045
8	613	0.0016	841	0.0034	1454	0.0023
9	339	0.0009	408	0.0016	747	0.0012
10	164	0.0004	296	0.0012	460	0.0007
11	40	0.0001	77	0.0003	117	0.0002
12	42	0.0001	76	0.0003	118	0.0002
13	10	0.0000	16	0.0001	26	0.0000
14	7	0.0000	7	0.0000	14	0.0000
15	0	0.0000	7	0.0000	7	0.0000
16	1	0.0000	4	0.0000	5	0.0000
17	2	0.0000	2	0.0000	4	0.0000
19	0	0.0000	1	0.0000	1	0.0000

b. 代名詞

	源氏物語		宇津保物語		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	110	0.000292	90	0.000363	200	0.000320
2	1410	0.003745	2279	0.009203	3689	0.005911
3	632	0.001679	584	0.002358	1216	0.001948
4	91	0.000242	30	0.000121	121	0.000194
5	10	0.000027	0	0.000000	10	0.000016
6	0	0.000000	1	0.000004	1	0.000002
8	1	0.000003	0	0.000000	1	0.000002

c. 動詞

	源氏物語		宇津保物語		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	3738	0.0099	3625	0.0146	7363	0.0118
2	14405	0.0383	12946	0.0523	27351	0.0438
3	19270	0.0512	14016	0.0566	33286	0.0533
4	11067	0.0294	6412	0.0259	17479	0.0280
5	8156	0.0217	3539	0.0143	11695	0.0187
6	3873	0.0103	1445	0.0058	5318	0.0085
7	1677	0.0045	360	0.0015	2037	0.0033
8	456	0.0012	98	0.0004	554	0.0009
9	166	0.0004	42	0.0002	208	0.0003
10	76	0.0002	10	0.0000	86	0.0001
11	7	0.0000	2	0.0000	9	0.0000
12	2	0.0000	1	0.0000	3	0.0000
13	1	0.0000	0	0.0000	1	0.0000
14	0	0.0000	1	0.0000	1	0.0000

d. 補助動詞

	源氏物語		宇津保物語		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
2	65	0.0002	16	0.0001	81	0.0001
3	17290	0.0459	10103	0.0408	27393	0.0439
4	284	0.0008	183	0.0007	467	0.0007
5	1437	0.0038	750	0.0030	2187	0.0035
6	17	0.0000	2	0.0000	19	0.0000

e. 形容詞

	源氏物語		宇津保物語		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	0	0.0000	3	0.0000	3	0.0000
2	1847	0.0049	1399	0.0056	3246	0.0052
3	4128	0.0110	2355	0.0095	6483	0.0104
4	6262	0.0166	2782	0.0112	9044	0.0145
5	4783	0.0127	1690	0.0068	6473	0.0104
6	3403	0.0090	714	0.0029	4117	0.0066
7	1326	0.0035	196	0.0008	1522	0.0024
8	406	0.0011	54	0.0002	460	0.0007
9	71	0.0002	15	0.0001	86	0.0001
10	10	0.0000	0	0.0000	10	0.0000
11	4	0.0000	0	0.0000	4	0.0000
12	2	0.0000	0	0.0000	2	0.0000

f. 形容動詞

	源氏物語		宇津保物語		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	0	0.0000	1	0.0000	1	0.0000
2	40	0.0001	7	0.0000	47	0.0001
3	1210	0.0032	545	0.0022	1755	0.0028
4	2387	0.0063	845	0.0034	3232	0.0052
5	2782	0.0074	892	0.0036	3674	0.0059
6	1642	0.0044	383	0.0015	2025	0.0032
7	714	0.0019	125	0.0005	839	0.0013
8	195	0.0005	25	0.0001	220	0.0004
9	68	0.0002	5	0.0000	73	0.0001
10	16	0.0000	3	0.0000	19	0.0000
11	2	0.0000	0	0.0000	2	0.0000
13	1	0.0000	0	0.0000	1	0.0000

g. 副詞

	源氏物語		宇津保物語		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	658	0.0017	426	0.0017	1084	0.0017
2	9037	0.0240	4745	0.0192	13782	0.0221
3	3696	0.0098	2018	0.0081	5714	0.0092
4	1387	0.0037	642	0.0026	2029	0.0033
5	725	0.0019	270	0.0011	995	0.0016
6	48	0.0001	13	0.0001	61	0.0001
7	10	0.0000	11	0.0000	21	0.0000
8	36	0.0001	14	0.0001	50	0.0001
9	3	0.0000	0	0.0000	3	0.0000
10	1	0.0000	3	0.0000	4	0.0000

h. 接続詞

	源氏物語		宇津保物語		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
2	245	0.00065	80	0.00032	325	0.00052
3	43	0.00011	386	0.00156	429	0.00069
4	2	0.00001	13	0.00005	15	0.00002
5	0	0.00000	1	0.00000	1	0.00000

i. 感動詞

	源氏物語		宇津保物語		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	3	0.000008	3	0.000012	6	0.000010
2	213	0.000566	261	0.001054	474	0.000759
3	44	0.000117	71	0.000287	115	0.000184
4	0	0.000000	6	0.000024	6	0.000010
5	0	0.000000	1	0.000004	1	0.000002
6	0	0.000000	1	0.000004	1	0.000002

j. 連体詞

	源氏物語		宇津保物語		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
2	3082	0.008186	2229	0.009001	5311	0.008510
3	23	0.000061	45	0.000182	68	0.000109
4	1	0.000003	10	0.000040	11	0.000018
5	0	0.000000	4	0.000016	4	0.000006
6	0	0.000000	1	0.000004	1	0.000002

k. 助詞

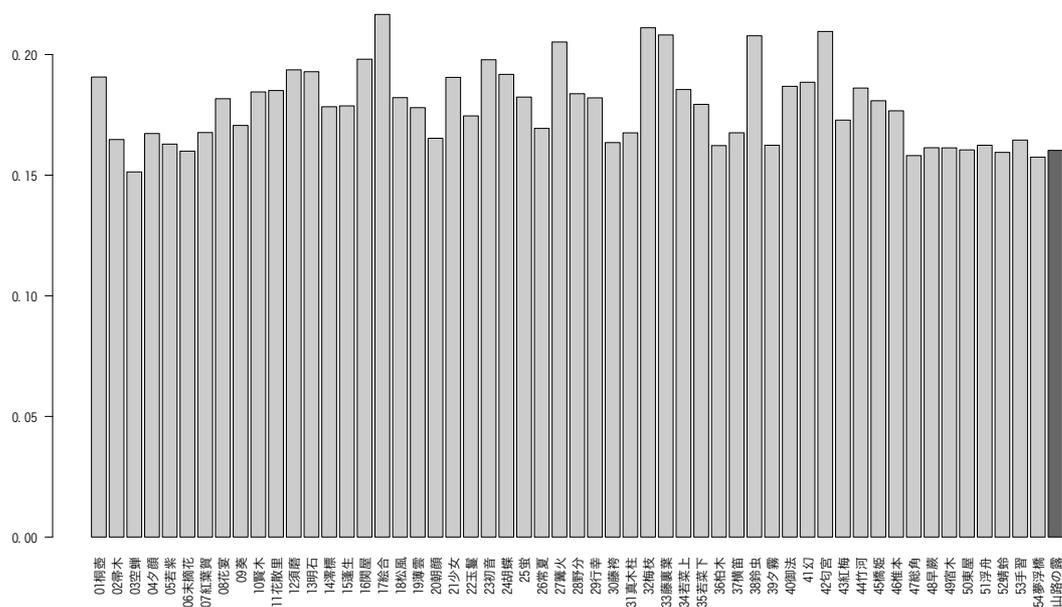
	源氏物語		宇津保物語		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	103577	0.275122	68158	0.275234	171735	0.275167
2	13973	0.037115	9791	0.039538	23764	0.038076
3	1201	0.003190	843	0.003404	2044	0.003275
4	185	0.000491	91	0.000367	276	0.000442
5	0	0.000000	1	0.000004	1	0.000002
6	0	0.000000	4	0.000016	4	0.000006
10	0	0.000000	1	0.000004	1	0.000002

l. 助動詞

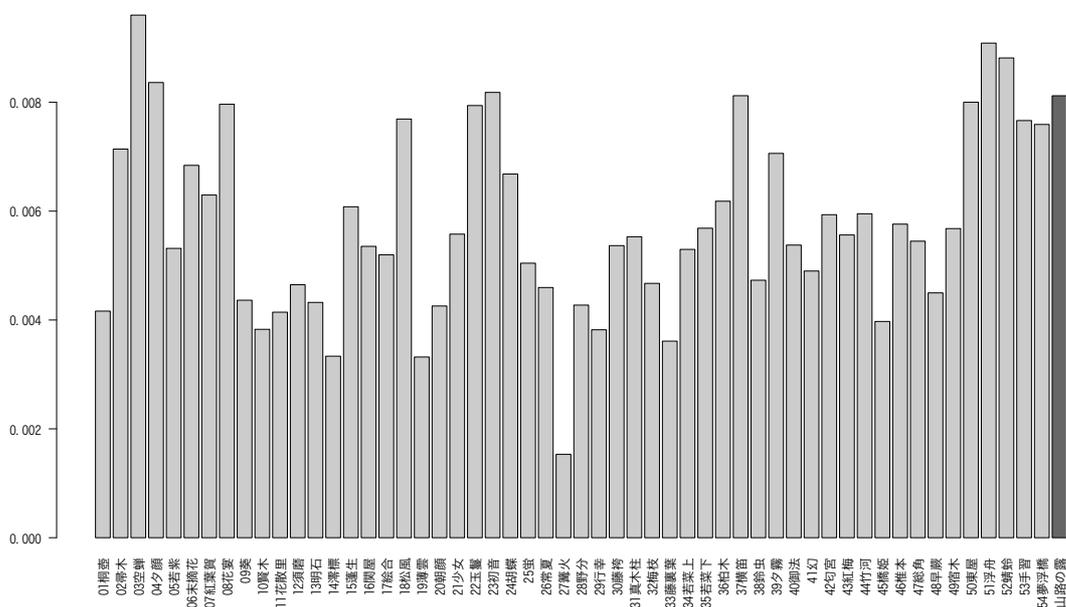
	源氏物語		宇津保物語		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	22209	0.058992	13781	0.055650	35990	0.057666
2	20124	0.053454	11090	0.044783	31214	0.050013
3	1032	0.002741	552	0.002229	1584	0.002538
4	215	0.000571	103	0.000416	318	0.000510
5	38	0.000101	20	0.000081	58	0.000093
7	0	0.000000	1	0.000004	1	0.000002

付録7 『源氏物語』と『山路の露』の各品詞の比率

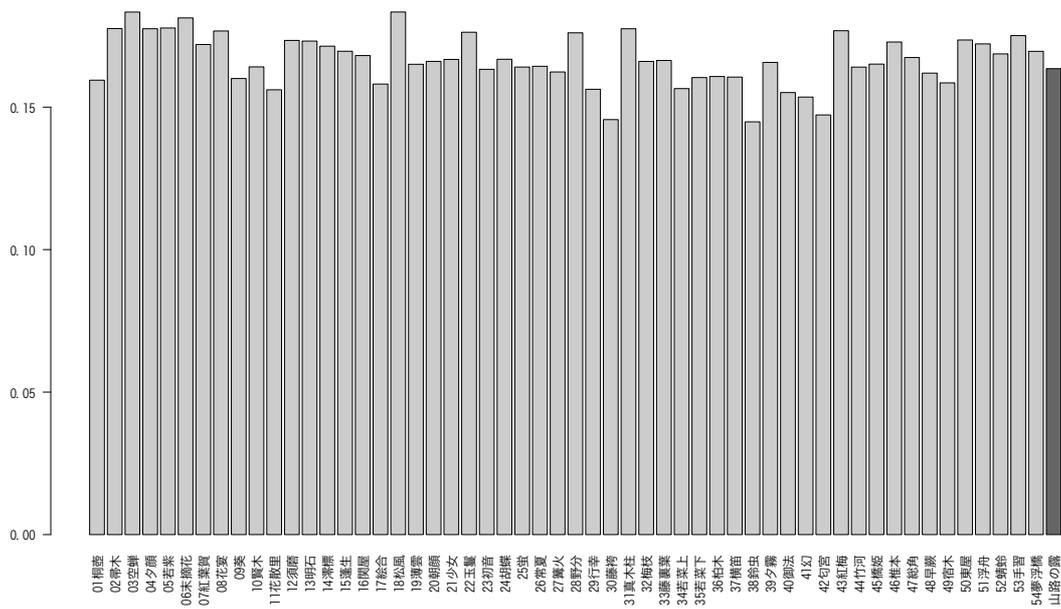
a. 名詞



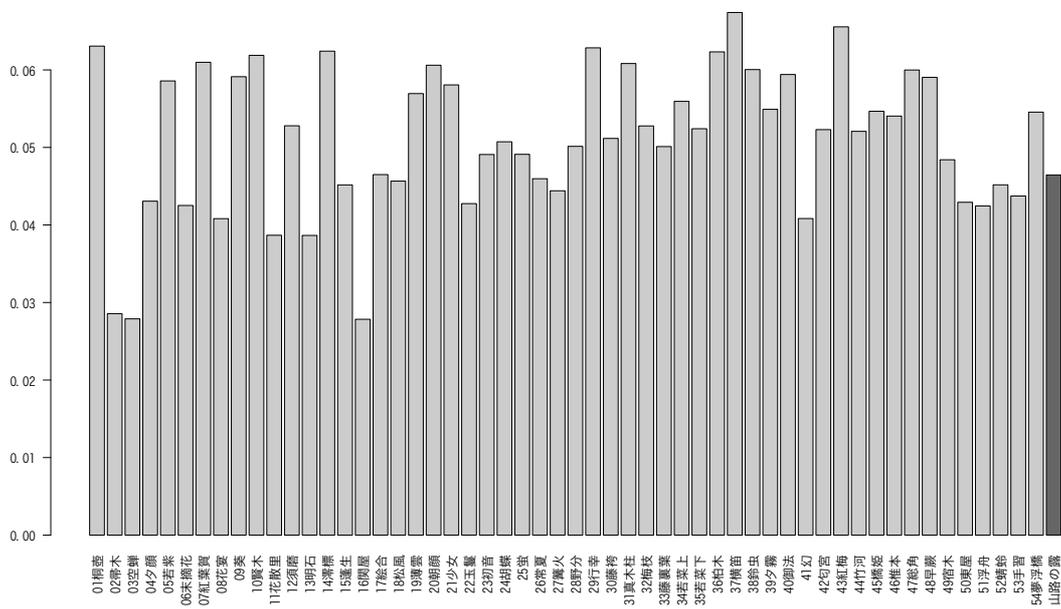
b. 代名詞



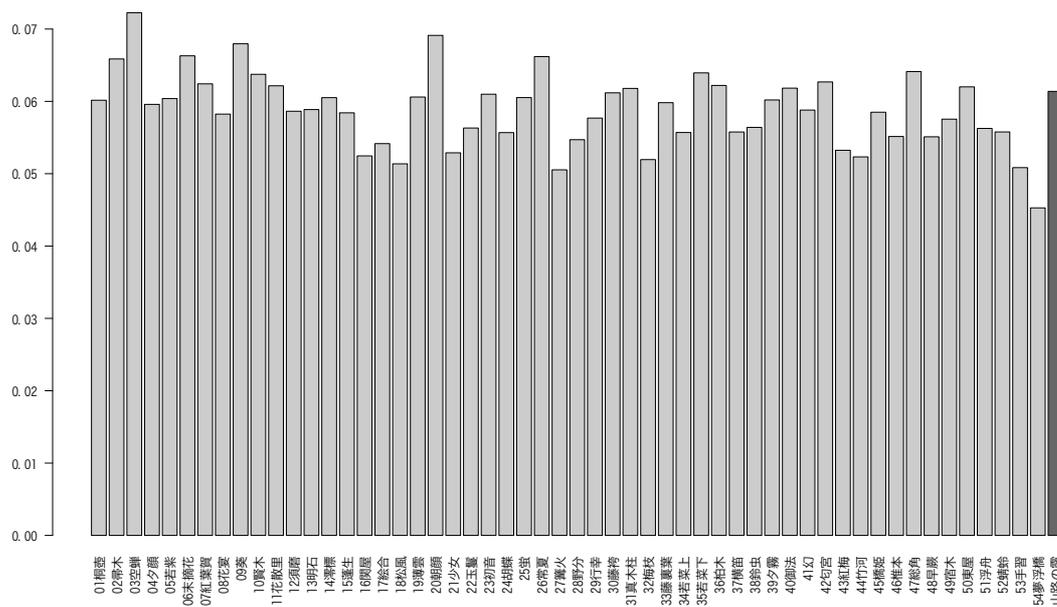
c. 動詞



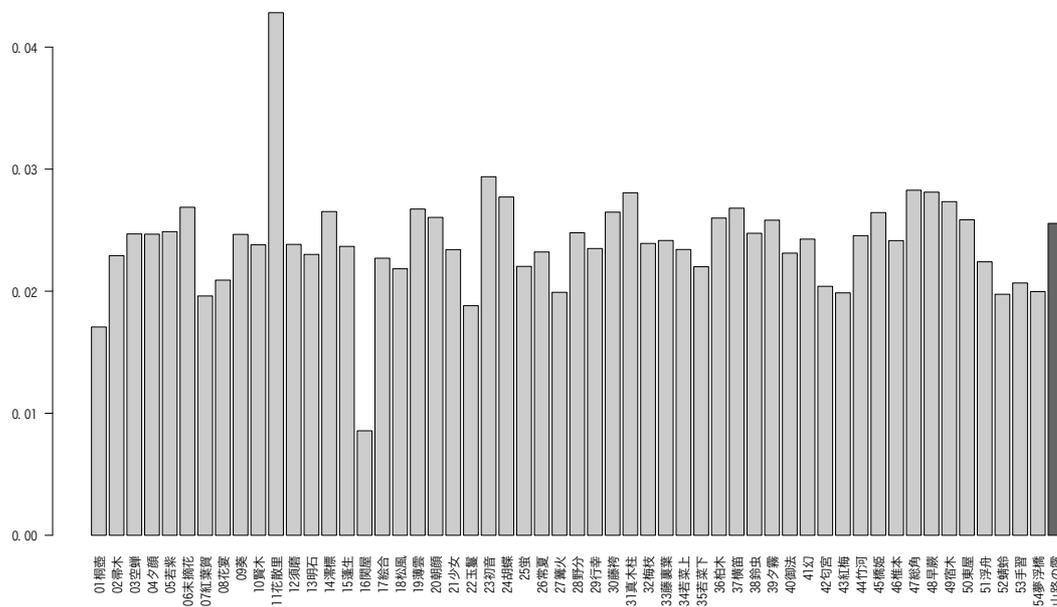
d. 補助動詞



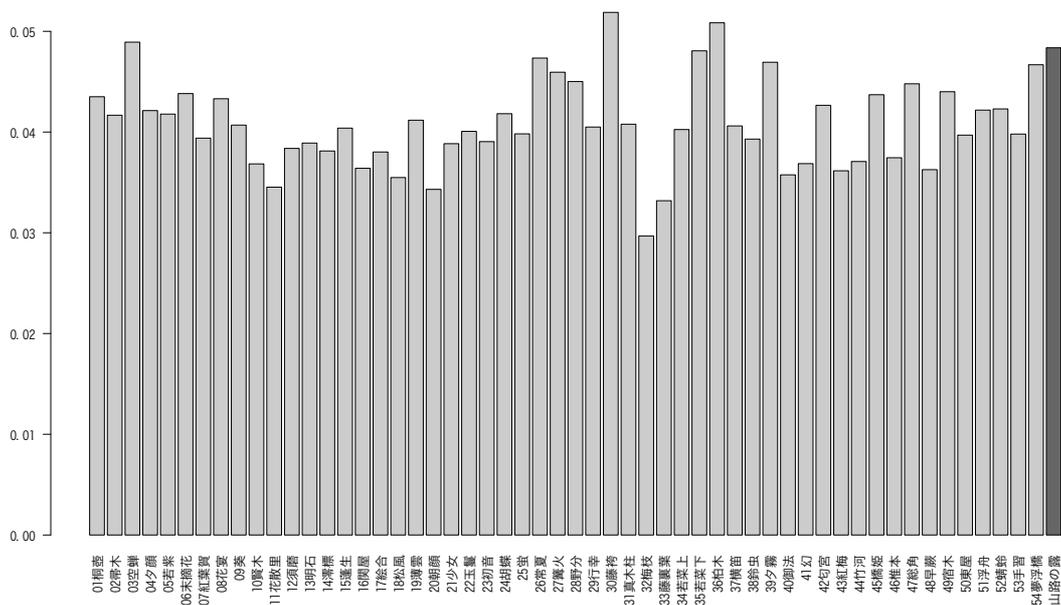
### e. 形容詞



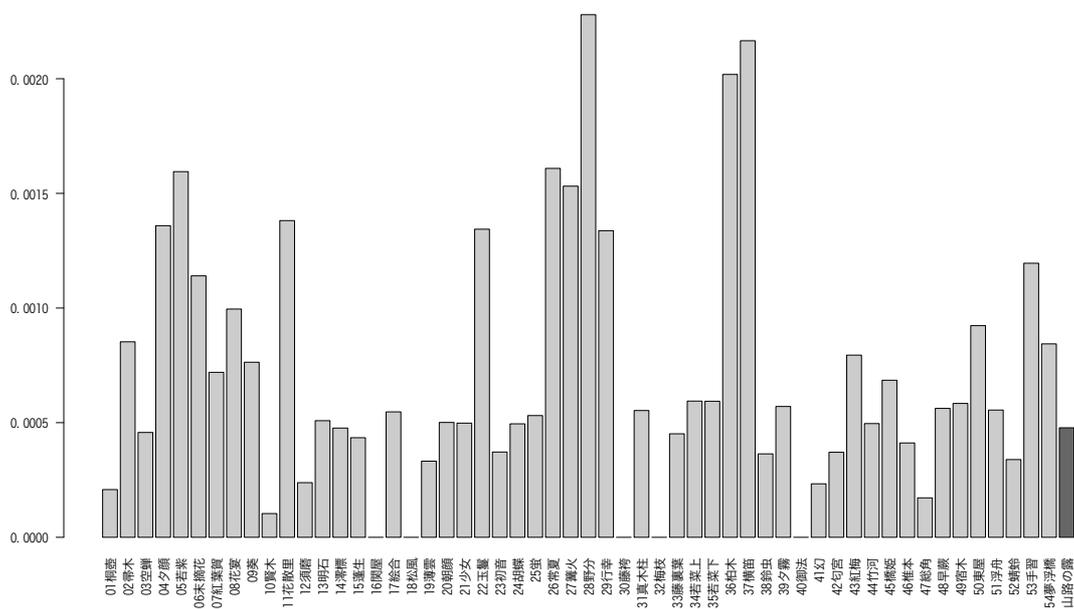
### f. 形容動詞



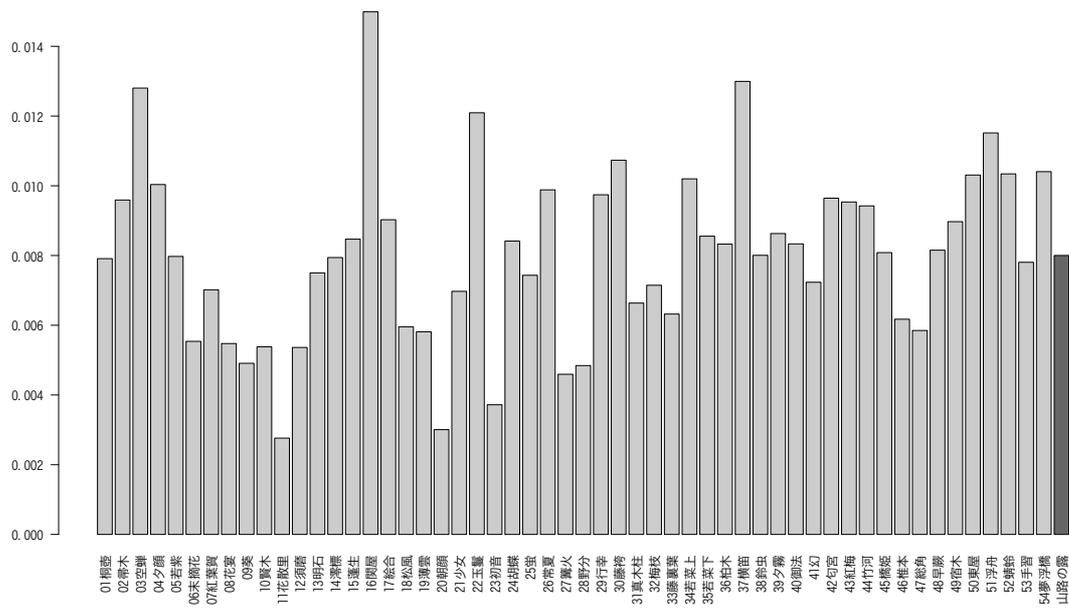
## g. 副詞



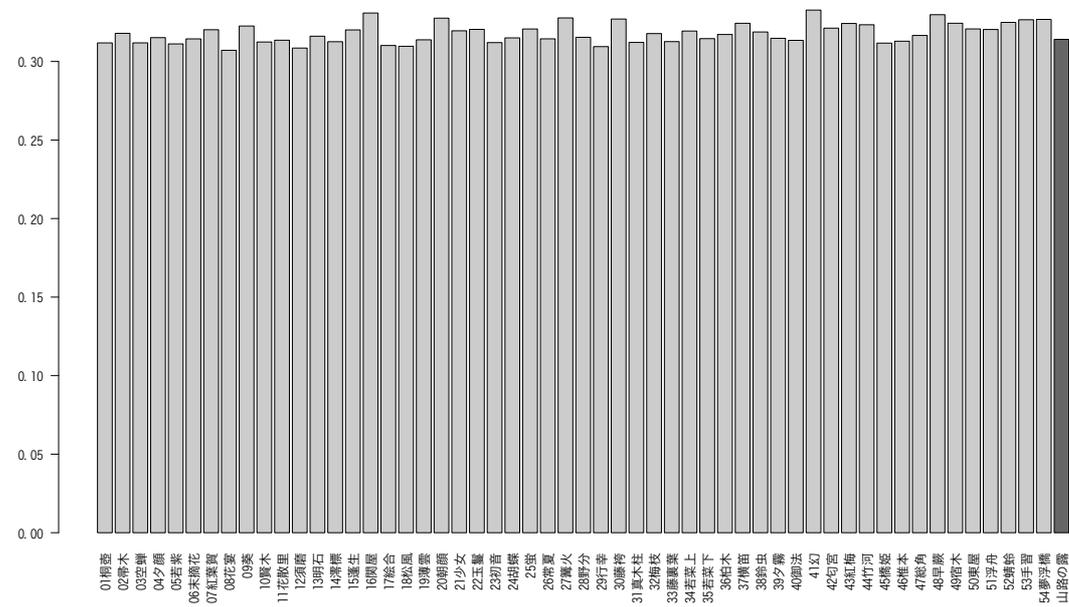
## h. 接続詞



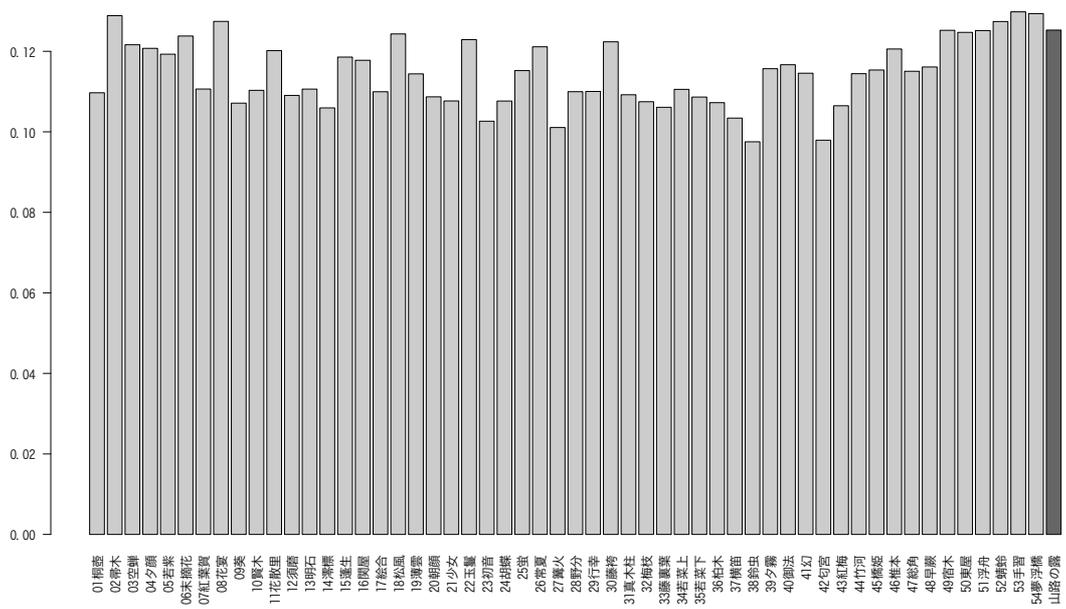
j. 連体詞



k. 助詞

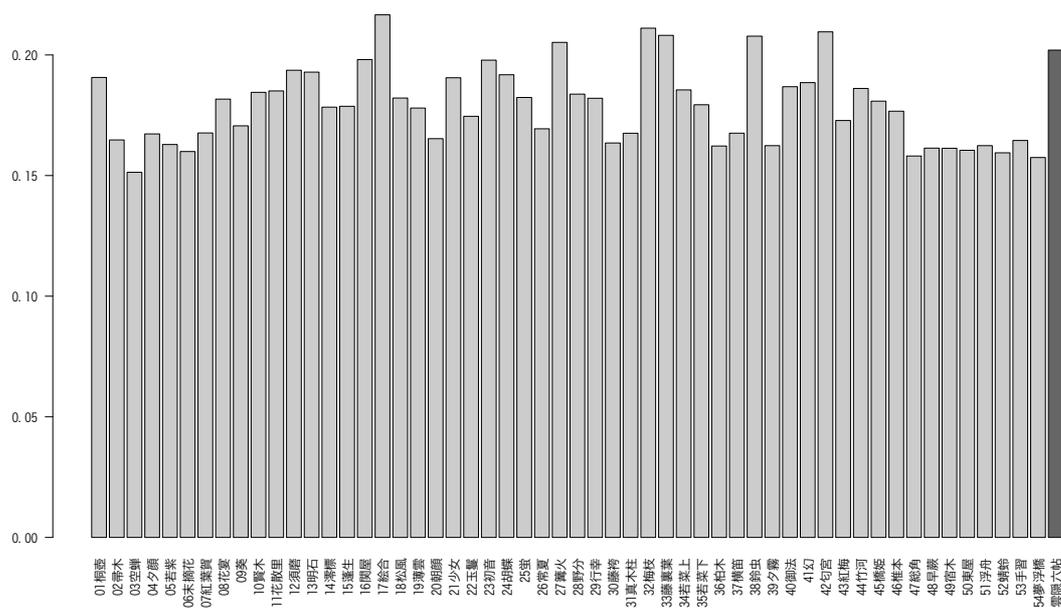


# 1. 助動詞

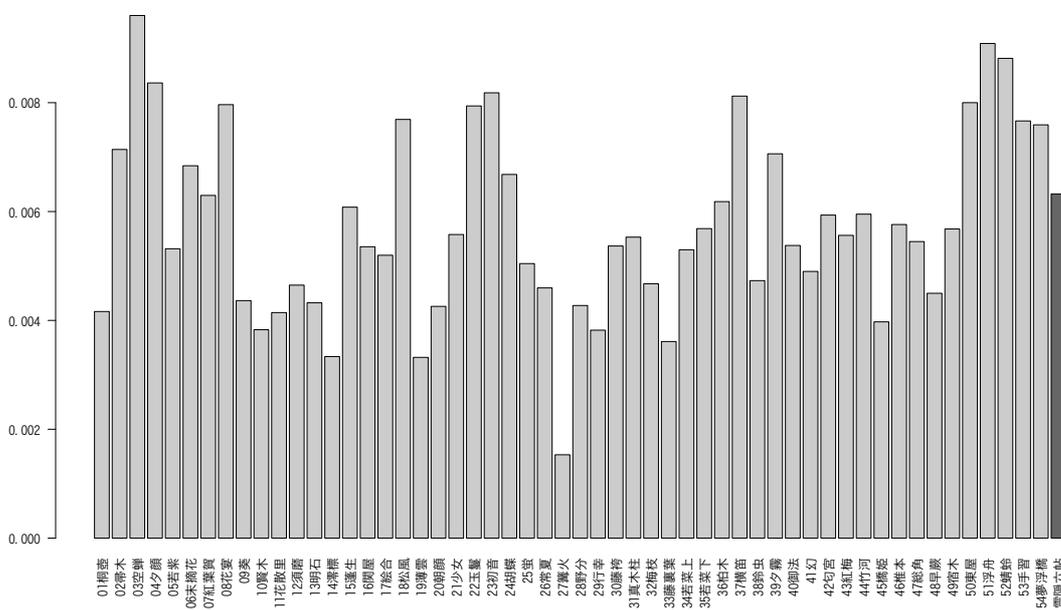


付録 8 『源氏物語』と『雲隠六帖』の各品詞の比率

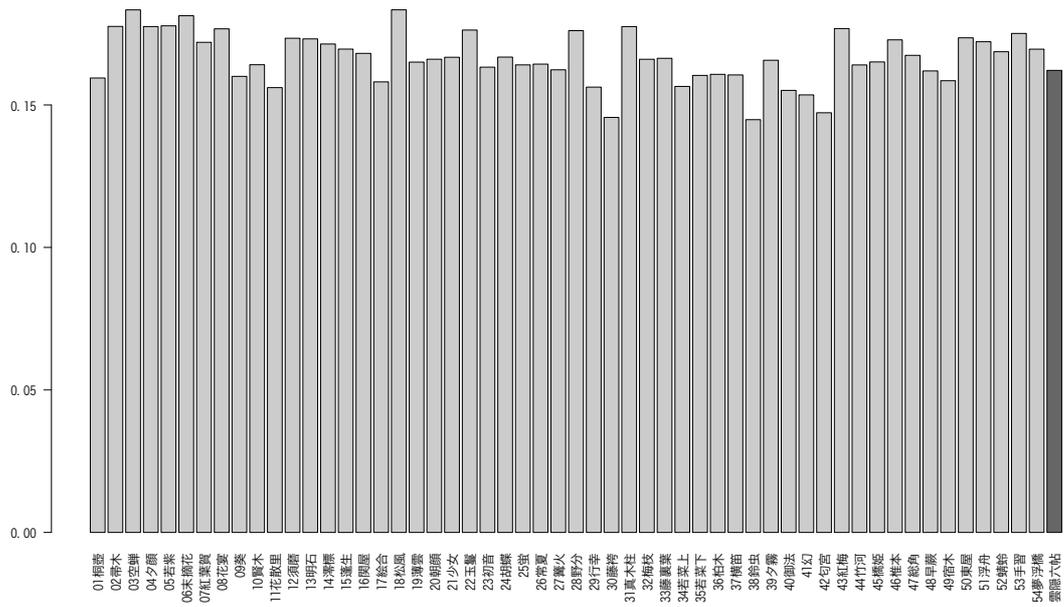
a. 名詞



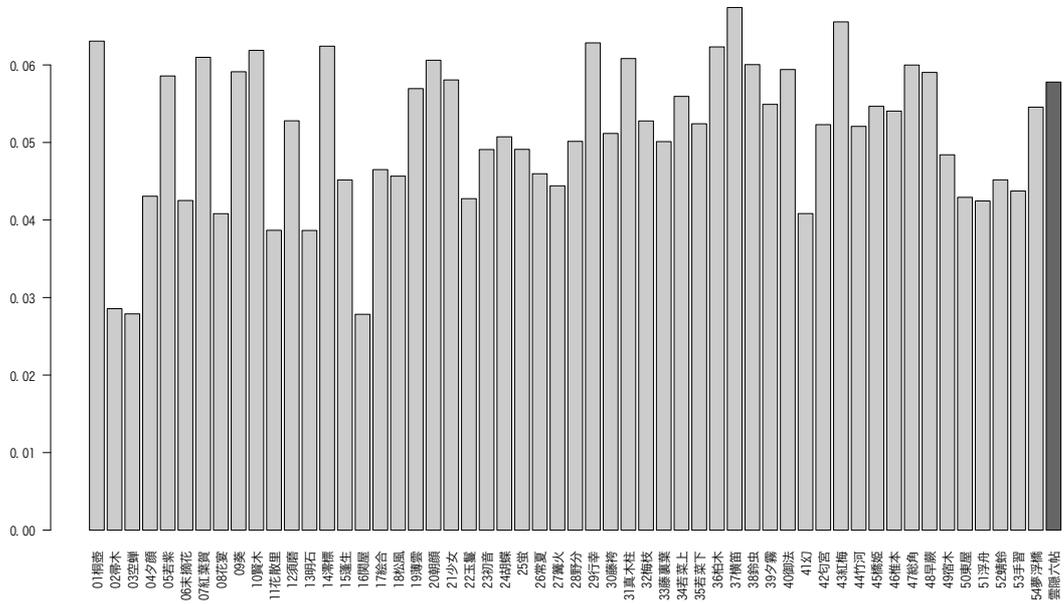
b. 代名詞



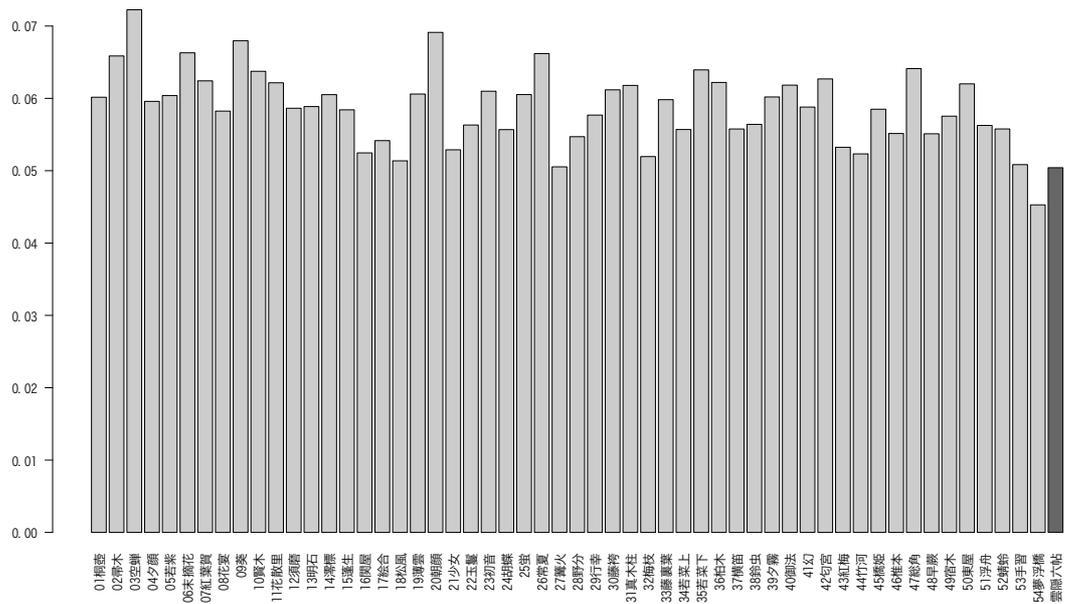
### c. 動詞



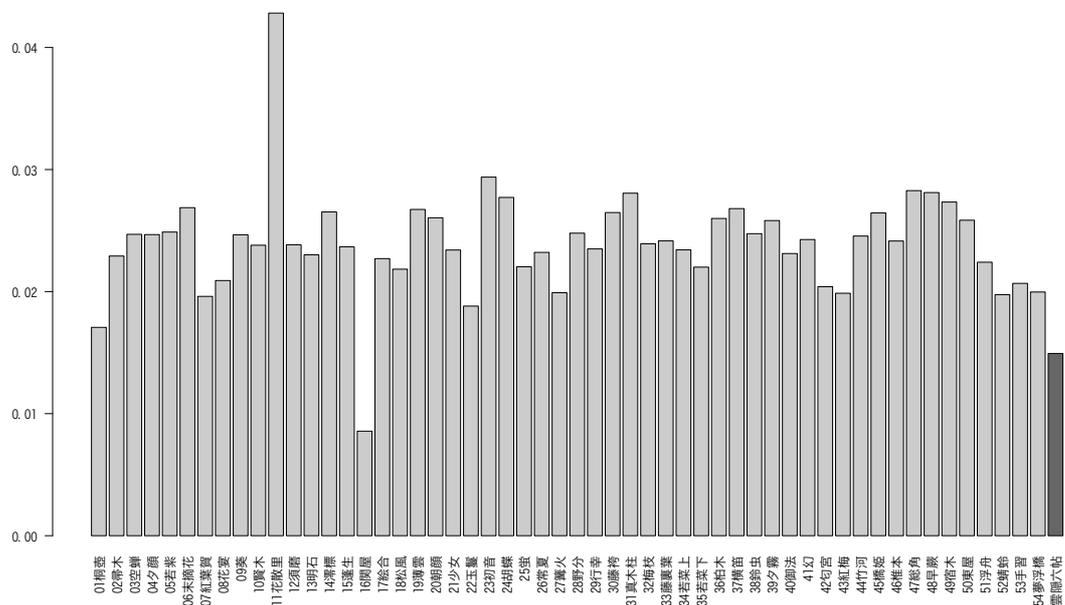
### d. 補助動詞



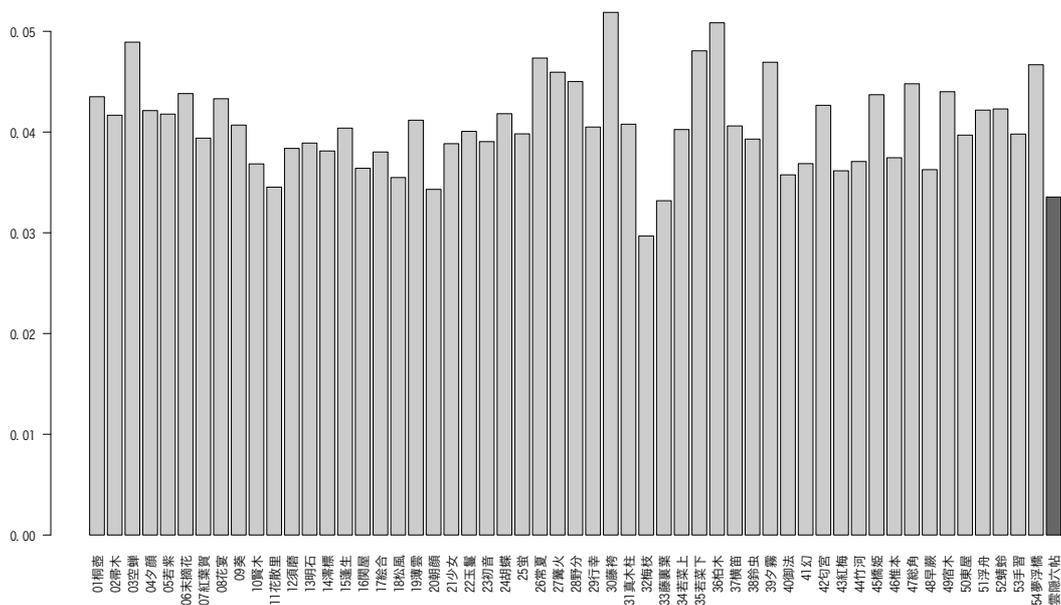
e. 形容詞



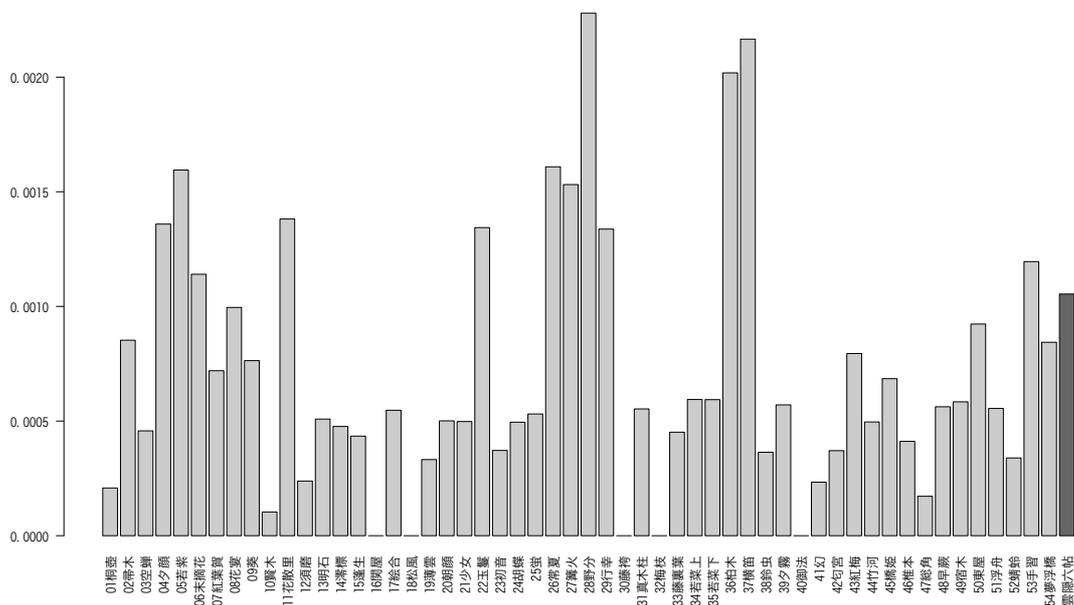
f. 形容動詞



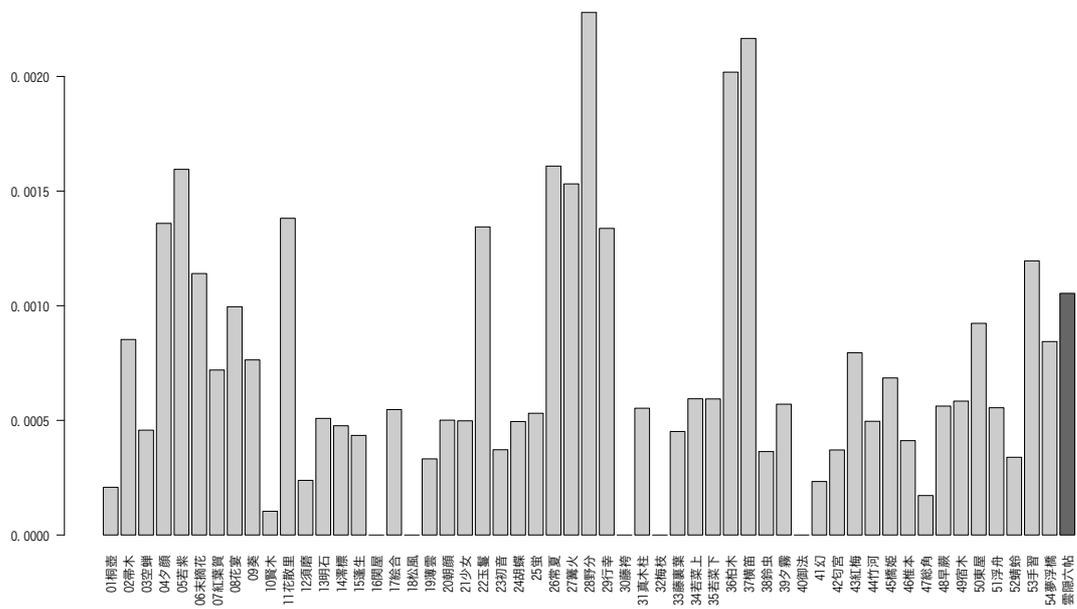
## g. 副詞



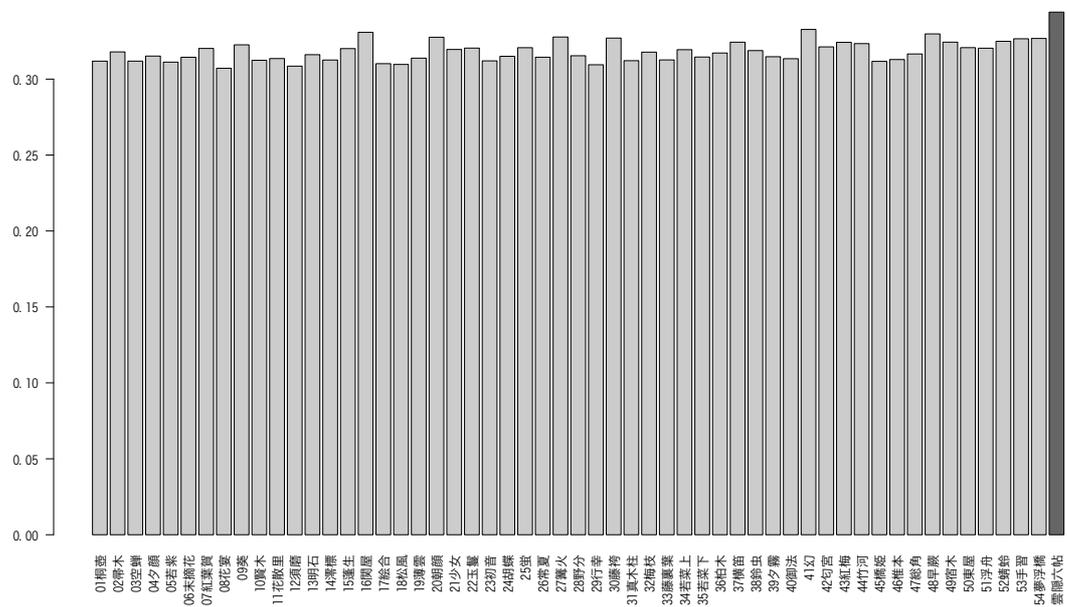
## h. 感動詞



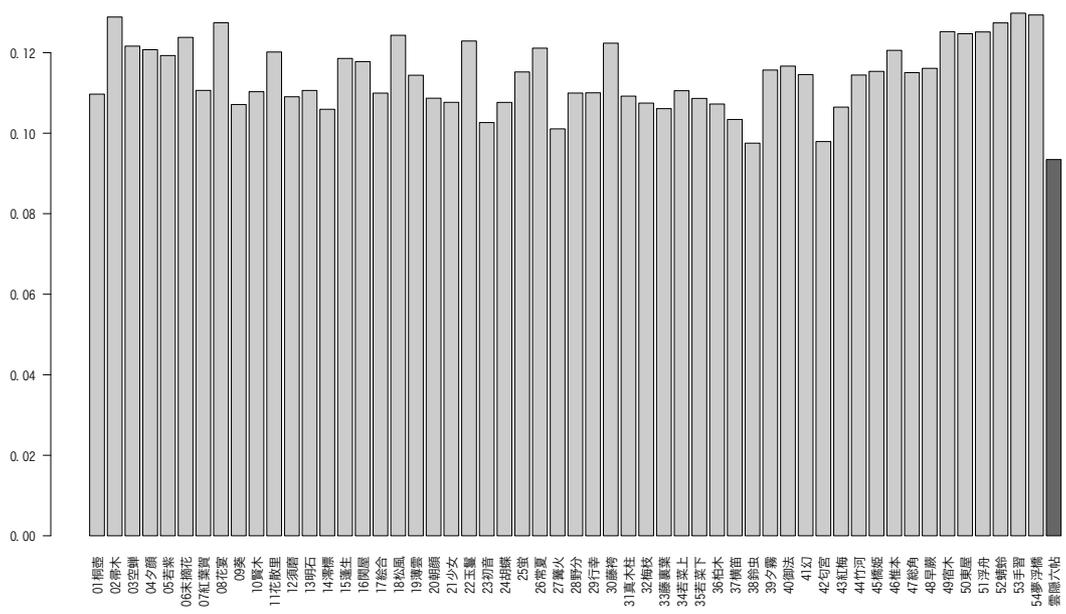
j. 連体詞



k. 助詞

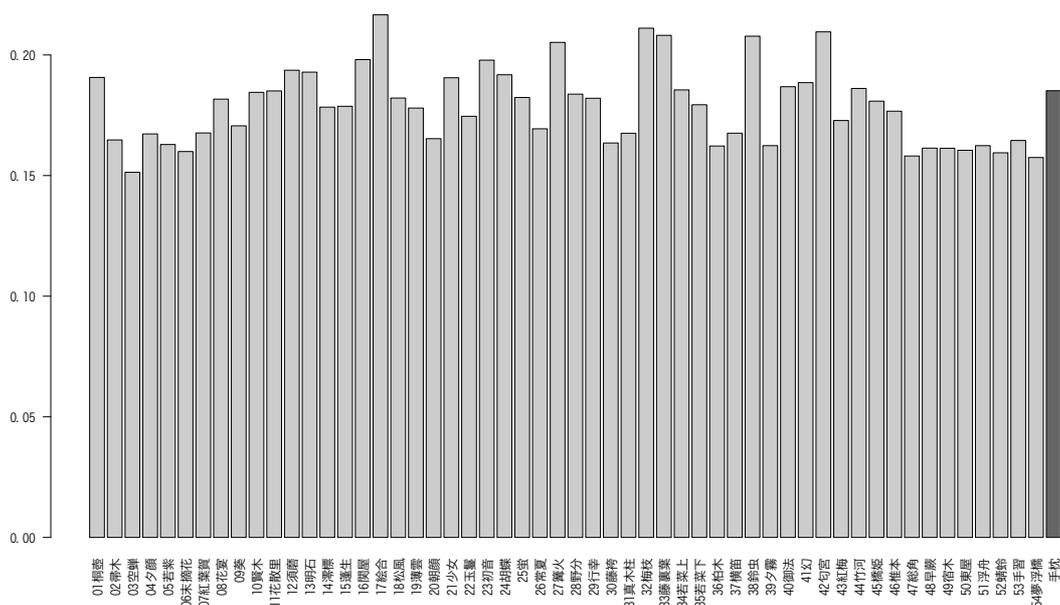


# 1. 助動詞

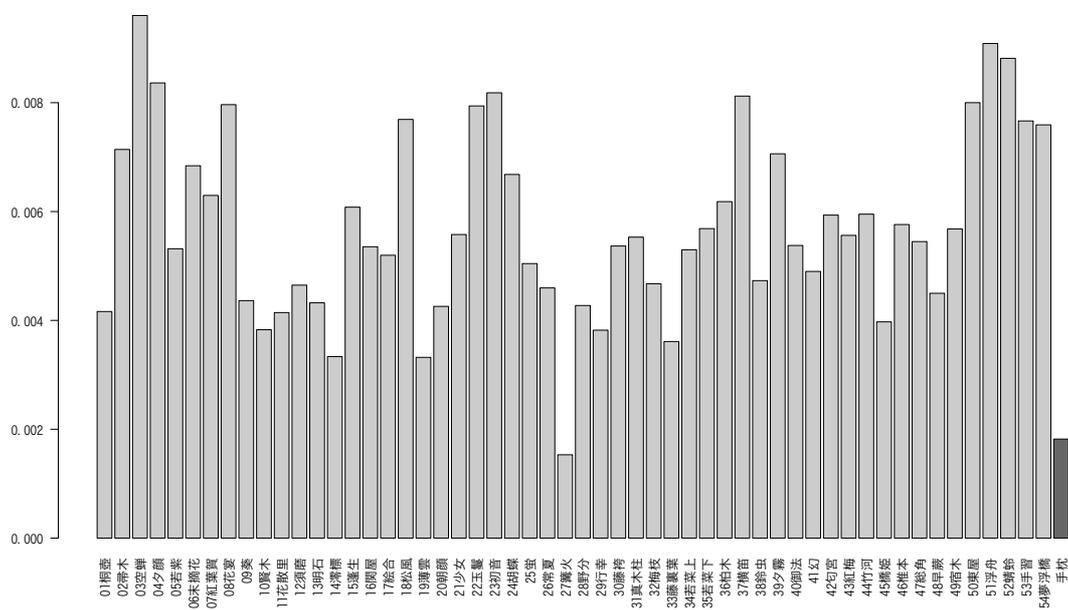


付録9 『源氏物語』と『手枕』の各品詞の比率

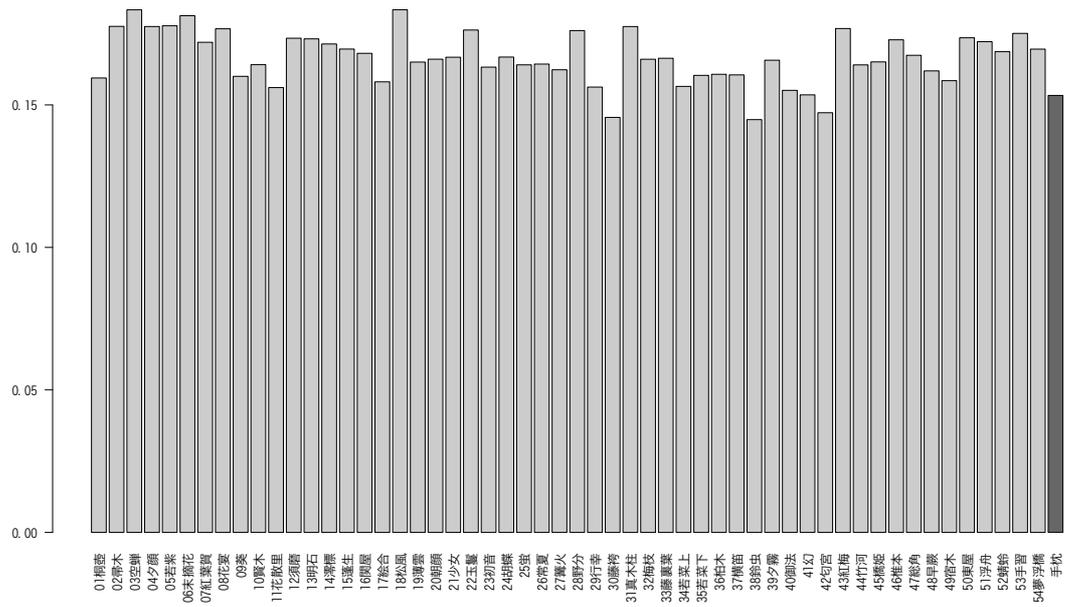
a. 名詞



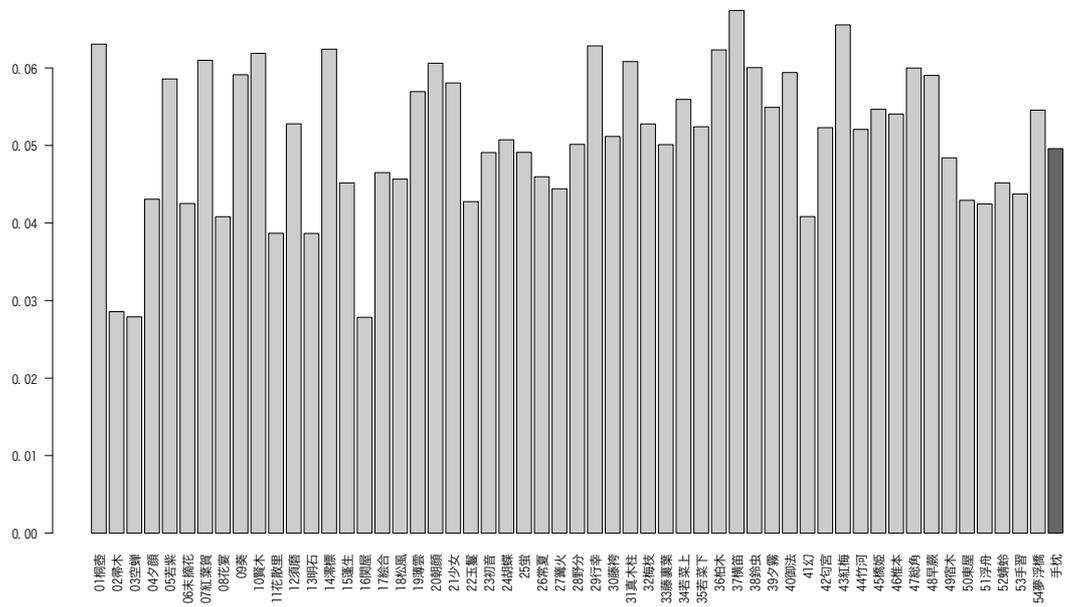
b. 代名詞



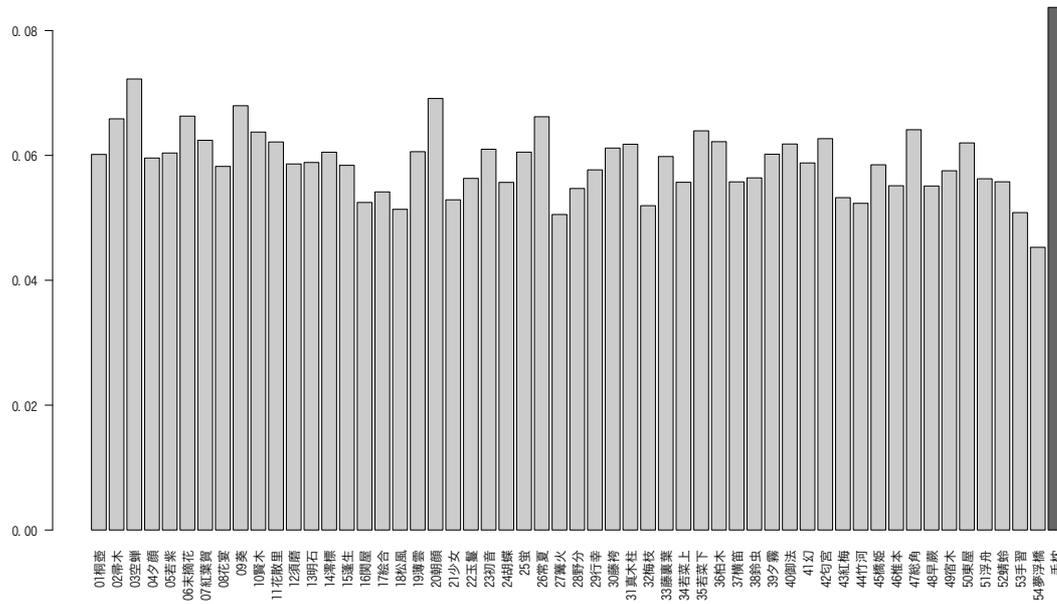
### c. 動詞



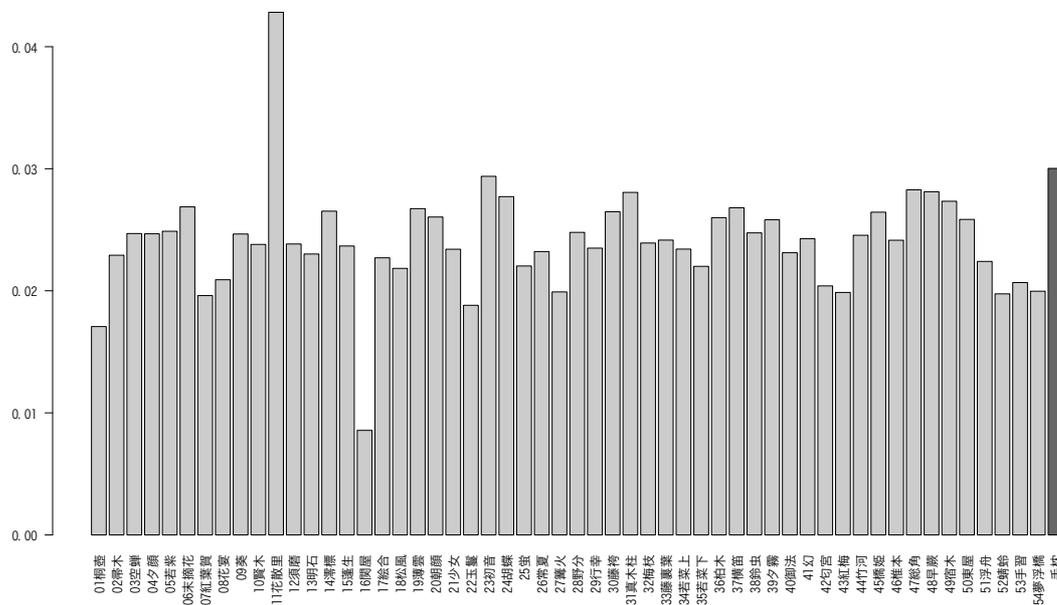
### d. 補助動詞



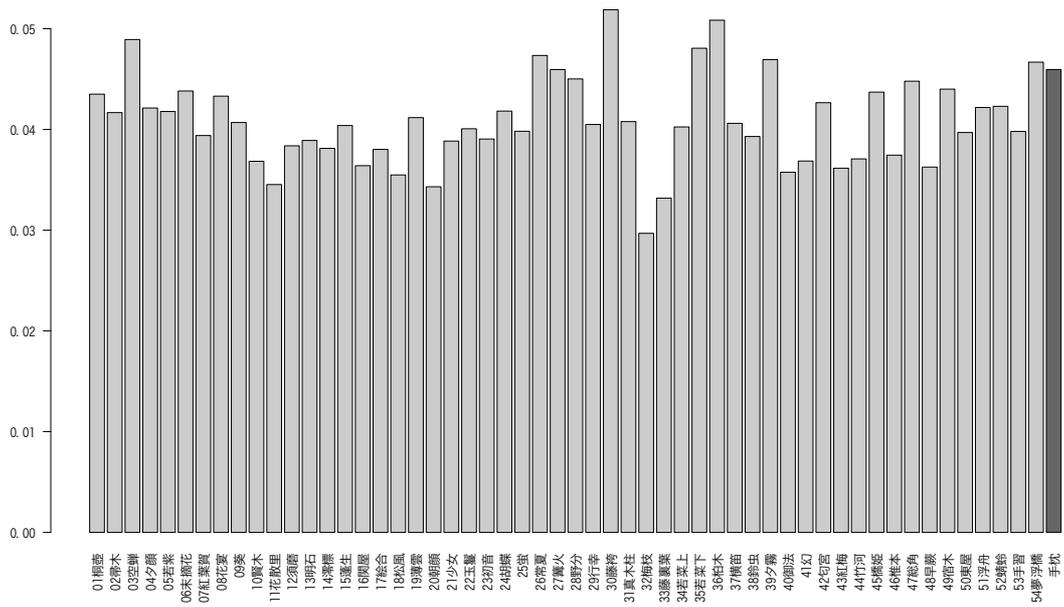
### e. 形容詞



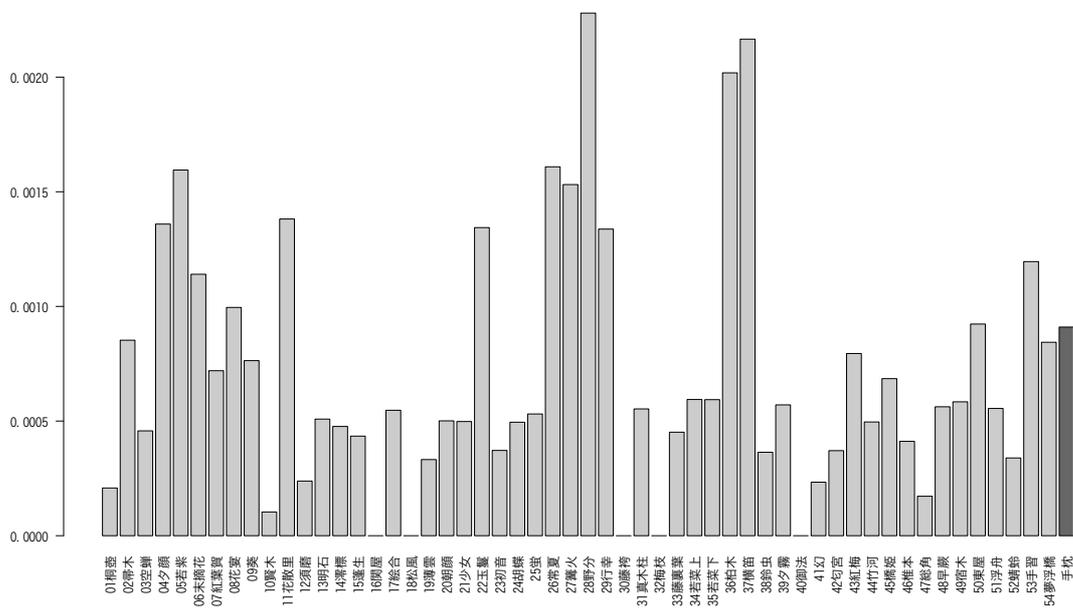
### f. 形容動詞



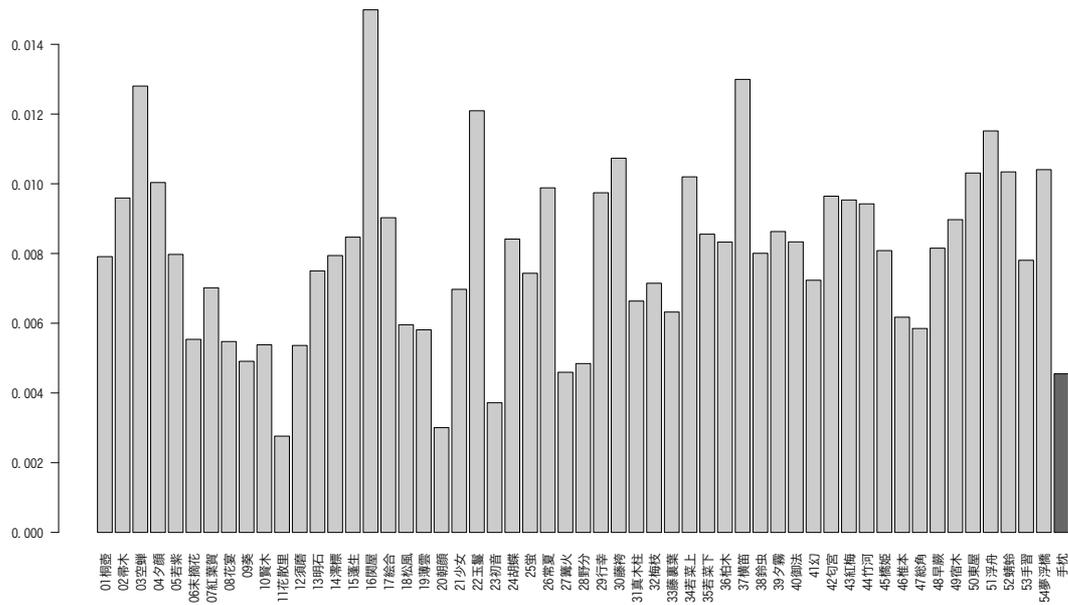
## g. 副詞



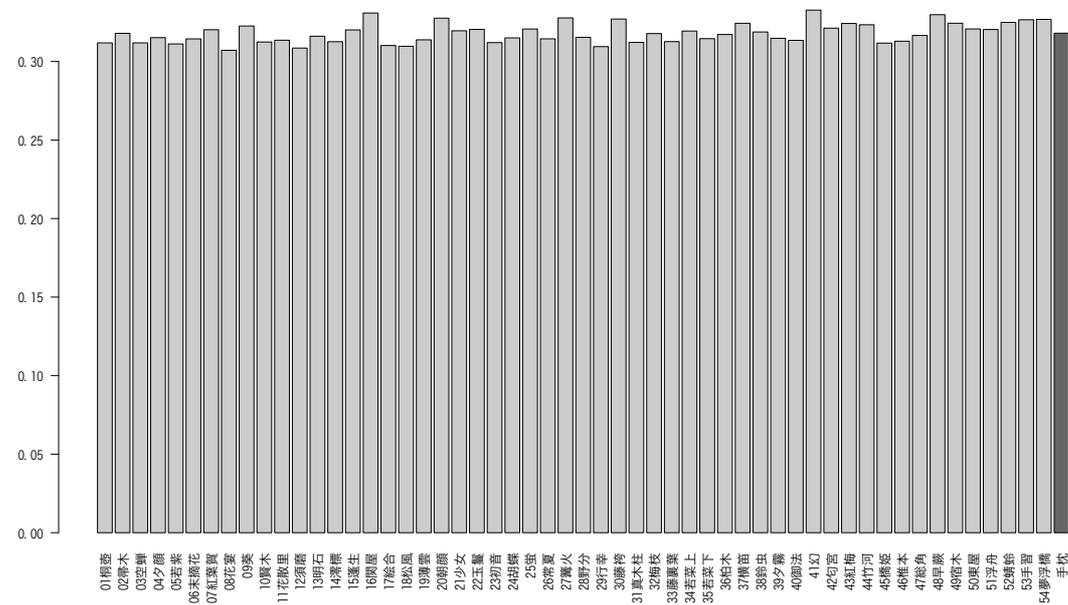
## h. 感動詞



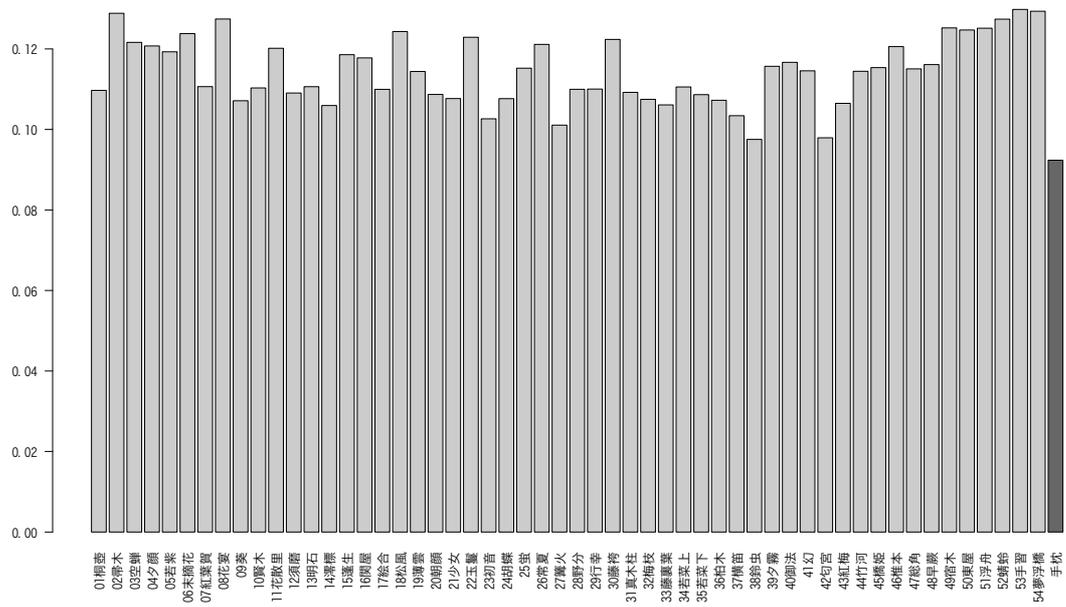
j. 連体詞



k. 助詞



# 1. 助動詞



付録 10 『源氏物語』と『山路の露』の語の頻度に対する主成分分析の因子負荷量

a. 名詞

	PC1	PC2		PC1	PC2		PC1	PC2
チュウジヤウ	0.239	-0.116	アリサマ	0.027	0.144	フミ	-0.056	-0.023
コト.2	0.202	-0.108	ココロバヘ	0.019	0.148	ヨシ	-0.056	0.002
オト	0.199	-0.114	ランナギミ	0.017	-0.131	ヲリ	-0.065	0.112
ケシキ	0.191	0.017	ミコ	0.014	0.152	ヲリヲリ	-0.066	0.046
オマヘ	0.18	0.091	オンゾ	0.014	0.033	ヒ.1	-0.066	-0.013
ツイデ	0.169	-0.027	ミヤ	0.01	0.167	ワザ	-0.069	0.137
ネ	0.158	-0.056	ヒトビト	0.009	0.115	ノチ	-0.069	0.082
ソラ	0.156	0.024	サマ	0.008	0.052	ココロザシ	-0.071	0.127
ホド	0.133	0.012	ヤウ	0.003	-0.021	カホ	-0.075	-0.006
イロ	0.133	0.152	チギリ	0.002	-0.089	コロ	-0.076	-0.052
ヒメギミ	0.121	-0.077	トシ	0.001	0.068	トシゴロ	-0.078	-0.064
カゼ	0.117	-0.045	カタチ	-0.001	0.03	ヒトリ	-0.08	0.048
ハナ	0.116	0.132	ウコン	-0.001	-0.163	アマギミ	-0.083	-0.044
アタリ	0.114	-0.066	ダイシヤウ	-0.002	0.097	コノヨ	-0.086	0.17
ケハヒ	0.111	0.069	ソデ	-0.006	0.132	ヨノナカ	-0.093	0.143
コエ	0.11	-0.008	レイ	-0.013	0.098	メノト	-0.102	-0.032
スヂ	0.104	-0.01	キン	-0.013	0.157	トノ	-0.124	-0.155
セウソコ	0.096	-0.126	ムスメ	-0.013	-0.074	ナミダ	-0.125	0.085
カタ	0.09	0.001	アハレ	-0.017	-0.017	クルマ	-0.13	-0.146
メ	0.089	-0.068	ナニゴト	-0.017	0.215	ヨ	-0.131	0.113
ココロ	0.084	-0.089	モノガタリ	-0.024	0.078	モノ.2	-0.131	-0.178
ニホヒ	0.082	0.149	ウシロミ	-0.027	0.099	イノチ	-0.133	0.033
ツキ	0.077	-0.026	モノ	-0.029	-0.15	ユメ	-0.134	-0.048
キミ	0.076	-0.049	トシツキ	-0.031	-0.045	ココチ	-0.137	0.031
オトド	0.064	0.069	カギリ	-0.034	0.157	コ	-0.141	-0.195
オヤ	0.06	-0.115	ヒト	-0.036	-0.124	ココロノウチ	-0.148	0.038
オボエ	0.056	0.048	トコロ.1	-0.038	-0.056	ムカシ	-0.158	-0.069
ウチ.2	0.053	0.047	ナカ	-0.045	0.031	コト	-0.159	0.031
ウチ	0.049	-0.042	モト	-0.046	0.029	タメ	-0.162	-0.027
カヘリ	0.047	0.127	ワタリ	-0.046	-0.07	ツミ	-0.168	-0.023
ランナ	0.045	-0.215	ホトケ	-0.051	0.14	スクセ	-0.183	-0.138
キハ	0.035	0.007	ツカヒ	-0.055	0.072	ミ	-0.186	0.079
ニヨウバウ	0.033	0.188	トキ	-0.056	0.044	ミチ	-0.223	-0.13
ナ	0.028	0.096						

b. 代名詞

	PC1	PC2		PC1	PC2
タレ	0.118	-0.148	コチ	0.003	-0.218
イツカタ	0.109	0.119	コレラ	-0.004	0.101
オノレ	0.105	-0.204	タレタレ	-0.008	-0.037
イツチ	0.084	-0.019	マウト	-0.047	-0.086
イツコ	0.063	-0.09	イツレ	-0.049	-0.106
ココ	0.06	-0.419	コレ	-0.074	0.106
ナニガシラ	0.057	0.033	イツラ	-0.076	-0.337
ソレ	0.055	-0.064	カシコ	-0.081	-0.4
ア	0.047	-0.241	コナタ	-0.101	0.223
カナタ	0.045	0.243	ワレ	-0.181	-0.131
カレ	0.041	0.222	アナタ	-0.198	0.079
ワ	0.037	-0.106	ソコ	-0.248	-0.112
ナレ	0.033	0.135	ソナタ	-0.293	0.091
ナニガシ	0.028	-0.139	マロ	-0.324	0.018
ナ	0.028	-0.087	イツク	-0.328	0.037
オノ	0.025	-0.119	コ	-0.332	-0.033
ソ	0.008	-0.178	タ	-0.421	-0.07
			アレ	-0.424	0.015

c. 動詞

	PC1	PC2		PC1	PC2		PC1	PC2
イフ	0.211	-0.164	オハス	0.077	0.005	ツカウマツル	-0.03	0.054
ク	0.168	0.002	オモヒミダル	0.072	-0.081	マキル	-0.047	-0.026
オモヒイツ	0.164	0.072	ミル	0.069	0.019	アク	-0.055	0.051
タツ	0.143	-0.098	ヤム	0.069	-0.087	フル	-0.055	0.078
オモフ	0.137	-0.222	ウラム	0.069	-0.162	ハジム	-0.057	0.06
カタル	0.132	-0.142	ヨル	0.066	-0.102	ナル	-0.063	0.009
ワスル	0.131	0.169	フス	0.064	-0.064	マキル.1	-0.063	-0.098
カタラフ	0.124	0.024	ノタマフ	0.063	-0.233	カク	-0.075	-0.038
トフ	0.121	-0.017	キル	0.06	-0.035	ツク	-0.077	-0.078
オボユ	0.118	-0.128	イヅ	0.055	-0.051	オボス	-0.078	0.149
スグス	0.115	0.249	イル	0.05	-0.013	マカツ	-0.08	0.023
オモヒヤル	0.115	0.076	タガフ	0.05	-0.064	シム	-0.088	0.008
シノブ	0.113	-0.033	ナラフ	0.044	-0.022	ソフ	-0.091	0.176
オモヒシル	0.112	0.051	フ	0.043	0.215	モノス	-0.098	-0.131
マドフ	0.11	-0.054	オシハカル	0.04	-0.057	オモヒヨル	-0.098	-0.123
ウス	0.109	0.019	ウケタマハル	0.04	-0.083	キコユ	-0.103	-0.14
タユ	0.108	0.119	イデク	0.039	-0.078	オク	-0.107	-0.097
ナク	0.108	-0.069	ナグサム	0.038	0.006	オボシシル	-0.108	0.05
ウ	0.106	-0.031	ミュ	0.035	0.015	スグ	-0.11	-0.034
ハベリ	0.106	-0.128	ユルス	0.033	-0.013	ハナル	-0.126	-0.111
タノム	0.098	0.055	ナゲク	0.029	-0.082	スグル	-0.132	0.13
イング	0.097	0.016	マカス	0.02	0.029	ゴランズ	-0.138	0.016
オクル	0.097	0.063	トマル	0.019	0.107	ミス	-0.138	-0.171
ウチナク	0.096	0.108	ニル	0.017	-0.049	モテナス	-0.142	0.015
キク	0.094	-0.156	タヅヌ	0.007	-0.043	ワタル	-0.145	0.124
カヘル	0.09	-0.059	ココチス	0.003	-0.118	メス	-0.146	-0.13
ナス	0.09	-0.064	アリ	-0.005	-0.105	カナフ	-0.161	-0.035
マウス	0.089	-0.134	トル	-0.009	-0.055	マサル	-0.161	0.065
カハル	0.087	0.257	オハシマス	-0.012	-0.024	ウチトク	-0.161	-0.105
シル	0.084	-0.083	タテマツル	-0.013	-0.039	サブラフ	-0.163	-0.004
オボシイツ	0.082	0.238	ヘダツ	-0.015	0.013	キコシメス	-0.169	-0.042
シタガフ	0.079	0.151	ミダル	-0.015	0.003	オトル	-0.205	-0.05
ス	0.079	-0.068	ミシル	-0.023	-0.034	ツクス	-0.225	-0.035
ナガム	0.077	0.065	キコユ.1	-0.025	0.042			

d. 補助動詞

	PC1	PC2
ハベリ	0.189	-0.554
タウブ	0.043	-0.524
キコエサス	-0.183	-0.638
マウス	-0.223	-0.083
タテマツル	-0.507	0.049
タマフ	-0.536	0.023
キコユ	-0.578	-0.051

e. 形容詞

	PC1	PC2		PC1	PC2		PC1	PC2
カナシ	0.248	-0.071	ナヤマシ	0.067	0.082	イタシ	-0.03	-0.104
カヒナシ	0.224	0.105	ココロウシ	0.063	-0.033	ワヅラハシ	-0.037	0.097
シタシ	0.206	0.061	ハカバカシ	0.063	-0.133	ワリナシ	-0.045	-0.066
ウシ	0.181	0.052	タノモシ	0.061	-0.093	イトホシ	-0.045	-0.089
カタジケナシ	0.172	-0.048	イワケナシ	0.056	-0.075	シロシ	-0.047	-0.037
ツラシ	0.163	0.061	アサマシ	0.055	0.005	ヲサナシ	-0.049	-0.067
オホシ	0.163	0.134	ウラメシ	0.053	-0.075	ミグルシ	-0.054	-0.08
イフカヒナシ	0.138	0.189	コヨナシ	0.053	0.024	シルシ	-0.056	0.148
アイナシ	0.137	0.212	ハカナシ	0.052	-0.019	メヤスシ	-0.061	-0.048
ユユシ	0.135	-0.122	ウレシ	0.052	-0.124	ココロヅキナシ	-0.063	-0.033
カギリナシ	0.135	-0.12	ハヅカシ	0.044	-0.035	ウルハシ	-0.064	-0.064
ココロボソシ	0.134	-0.121	タフトシ	0.042	-0.038	クハシ	-0.065	-0.064
クヤシ	0.125	-0.065	オソロシ	0.042	-0.135	ムツカシ	-0.069	-0.049
メザマシ	0.124	0.092	オナジ	0.037	0.027	オボツカナシ	-0.073	-0.03
ウシロメタシ	0.121	0.022	ナマメカシ	0.025	-0.005	ココロヤスシ	-0.078	-0.071
コヒシ	0.119	-0.098	ヤンゴトナシ	0.021	-0.117	コトゴトシ	-0.081	-0.002
アヂキナシ	0.116	-0.133	サウザウシ	0.021	-0.083	ココロモトナシ	-0.082	-0.085
イカメシ	0.116	-0.127	アサシ	0.02	0.122	チヒサシ	-0.089	-0.022
ムツマシ	0.116	0.264	ラウタシ	0.019	0.074	フカシ	-0.091	-0.085
シゲシ	0.115	0.064	ヨロシ	0.016	-0.124	ワカシ	-0.101	-0.111
アリガタシ	0.108	0.02	カシコシ	0.016	-0.094	ケチカシ	-0.101	-0.021
ココログルシ	0.099	-0.159	ナガシ	-0.003	-0.049	ハシタナシ	-0.106	-0.023
イミジ	0.097	-0.152	ウツクシ	-0.004	-0.078	イママカシ	-0.111	-0.007
メデタシ	0.093	-0.103	ツレナシ	-0.012	-0.048	オドロオドロシ	-0.119	-0.034
オモシ	0.092	-0.113	ユカシ	-0.015	-0.095	ツツマシ	-0.119	0.126
トホシ	0.092	-0.112	ココロニクシ	-0.017	-0.058	クルシ	-0.124	-0.056
トコロセシ	0.082	0.045	スクナシ	-0.02	0.166	ヲカシ	-0.14	0.053
ヒサシ	0.081	-0.103	タカシ	-0.023	-0.092	トシ	-0.148	-0.017
ウシロヤスシ	0.081	-0.078	カタハライタシ	-0.028	-0.126	アヤシ	-0.149	-0.094
クチラシ	0.08	-0.151	ネタシ	-0.028	0.156	ナツカシ	-0.158	0.232
チカシ	0.075	-0.028	ナサケナシ	-0.028	-0.046	ニクシ	-0.186	-0.005
ナシ	0.069	0.161	アシ	-0.028	-0.076	オモシロシ	-0.193	0.053
タグヒナシ	0.068	-0.086	カタシ	-0.029	-0.093	ヨシ	-0.218	-0.026
メヅラシ	0.068	0.264						

f. 形容動詞

	PC1	PC2		PC1	PC2		PC1	PC2
ホノカナリ	0.126	0.138	マメヤカナリ	0.048	-0.096	ヒトズクナナリ	0.018	-0.084
アヤニクナリ	0.111	0.012	ワヅカナリ	0.048	0.118	サカリナリ	0.016	-0.112
サマザマナリ	0.105	0.133	アダナリ	0.047	0.078	イカナリ	0.013	0.186
タシカナリ	0.098	0.197	キヨラナリ	0.047	-0.012	オホドカナリ	0.013	-0.064
カスカナリ	0.097	0.141	コマヤカナリ	0.046	0.031	ココチヨゲナリ	0.009	-0.033
イマサラナリ	0.092	0.098	イトホシゲナリ	0.046	0.014	スクヨカナリ	0.007	0.005
キヨゲナリ	0.089	0.076	ヒタブルナリ	0.046	0.126	オモフサマナリ	0.002	-0.089
ナノメナリ	0.088	0.18	ノドヤカナリ	0.046	-0.089	オホカタナリ	0.002	0
ウチツケナリ	0.086	0.212	タヒラカナリ	0.046	0.113	セチナリ	0.002	-0.074
ニハカナリ	0.086	0.09	ノドカナリ	0.044	0.017	ケザヤカナリ	-0.003	-0.029
ココロボソゲナリ	0.082	0.154	ネンゴロナリ	0.042	0.045	タマサカナリ	-0.007	-0.04
イタヅラナリ	0.077	0.089	イカサマナリ	0.041	0.109	オロカナリ	-0.01	-0.039
メヅラカナリ	0.075	0.089	カタホナリ	0.039	0.037	ウツクシゲナリ	-0.012	-0.134
スズロナリ	0.073	0.124	ナカナカナリ	0.039	0.039	カウヤウナリ	-0.016	-0.039
ココロヒトツナリ	0.071	0.207	ヒトワラヘナリ	0.038	0.052	オボロゲナリ	-0.028	-0.03
ハルカナリ	0.071	0.015	ハヅカシゲナリ	0.038	0.021	オモフヤウナリ	-0.036	-0.071
カリソメナリ	0.07	0.067	アハレゲナリ	0.035	0.102	ナダラカナリ	-0.046	-0.1
コトズクナナリ	0.07	0.116	アザヤカナリ	0.033	0.033	コトナリ	-0.094	-0.131
コトザマナリ	0.069	0.093	ココログルシゲナリ	0.033	0.125	サヤウナリ	-0.141	0.14
イカヤウナリ	0.064	-0.092	オイラカナリ	0.032	-0.006	アハレナリ	-0.147	0.104
コトサラナリ	0.062	0.08	オモハズナリ	0.032	0.07	シヅカナリ	-0.167	-0.085
アナガチナリ	0.061	-0.15	コマカナリ	0.03	-0.093	ハナヤカナリ	-0.189	-0.133
オモヒノホカナリ	0.059	0.13	サヤカナリ	0.028	-0.115	アテナリ	-0.21	0.061
ケナリ	0.057	0.055	ヲカシゲナリ	0.027	-0.119	エンナリ	-0.218	0.116
ナヤマシゲナリ	0.055	0.036	カタハナリ	0.026	-0.066	カヤウナリ	-0.219	0.065
アサハカナリ	0.053	-0.117	アラハナリ	0.025	-0.046	コトワリナリ	-0.228	0.158
ムゲナリ	0.052	0.176	ココロコトナリ	0.025	-0.164	サスガナリ	-0.231	0.131
ココロノドカナリ	0.051	0.039	ツレヅレナリ	0.024	-0.073	ワカヤカナリ	-0.241	0.023
シメヤカナリ	0.051	-0.008	マホナリ	0.024	-0.006	シノビヤカナリ	-0.248	0.116
ココロツクシナリ	0.05	0.123	モノアハレナリ	0.023	-0.07	カリナリ	-0.254	0.069
シラズガホナリ	0.048	-0.007	サマコトナリ	0.022	0.018	クルシゲナリ	-0.26	0.116
タダナリ	0.048	0.009	トリドリナリ	0.022	-0.126	ラウタゲナリ	-0.268	0.126
ココロヨリホカナリ	0.048	0.16	ココロゴコロナリ	0.021	-0.13	オホキナリ	-0.283	0.063

## g. 副詞

	PC1	PC2		PC1	PC2		PC1	PC2
マダ	0.177	-0.181	ヨトモニ	0.062	0.074	ヨモスガラ	0.002	0.004
ウタテ	0.17	0.033	ミチスガラ	0.062	0.034	イササカ	-0.001	0.048
カラウジテ	0.16	-0.155	ヤガテ	0.061	-0.099	ホノボノ	-0.003	-0.037
サテ	0.159	-0.188	トザマカウザマニ	0.06	0.06	イヨイヨ	-0.005	-0.07
シヒテ	0.156	-0.052	ツユ	0.058	-0.042	タチマチニ	-0.006	0.083
ナゾ	0.154	-0.188	カウテ	0.057	-0.167	ツギツギニ.1	-0.006	0.028
ヤヲラ	0.154	-0.247	ヨシ	0.056	0.096	ツヒニ	-0.007	0.168
イカガ	0.146	0.091	ホロホロト	0.052	0.119	サシアタリテ	-0.009	0.109
トカウ	0.142	-0.176	ヨヒトヨ	0.05	0.064	ツレツレト	-0.014	-0.09
フト	0.134	-0.226	ヨモ	0.049	-0.017	トリワキテ	-0.017	0.135
ツネニ	0.13	0.092	カネテ	0.048	-0.137	ママニ	-0.018	0
ハタ	0.129	0.014	ハルハルト	0.047	-0.131	マサニ	-0.032	0.074
カウ	0.128	-0.051	セメテ	0.046	0.036	カタミニ	-0.032	0.038
タエテ	0.123	-0.131	ココラ	0.046	-0.048	マシテ	-0.032	-0.022
トミニ	0.115	0.105	アタラ	0.045	0.032	マヅ	-0.047	-0.162
サテモ	0.113	0.029	テツカラ	0.045	-0.088	ナベテ	-0.05	-0.198
タビタビ	0.113	-0.049	ツト	0.041	0.077	サト	-0.054	-0.016
サナガラ	0.112	-0.048	マダキニ	0.039	0.114	アマタ	-0.055	0.073
イカデ	0.111	0.113	オノガジシ	0.039	0.066	ソコラ	-0.077	0.012
カクテ	0.104	-0.019	ヒタスラ	0.039	-0.031	ヤヤ	-0.078	0.079
トカク	0.101	0.136	カナラズ	0.038	0.168	スコシ	-0.118	-0.051
エ	0.096	-0.073	カク	0.036	0.204	イトド	-0.13	0.023
オノヅカラ	0.093	0.172	マイテ	0.033	0.022	ココロヅカラ	-0.132	-0.12
マタ	0.091	0.098	カツガツ	0.028	0.093	コトサラ	-0.136	-0.12
サラニ	0.088	0.124	タダ	0.028	0.026	オシナベテ	-0.145	-0.169
ナド	0.085	0.09	ナニクレト	0.028	0.026	ゲニ	-0.169	0.133
イト	0.085	0.004	ツクヅクト	0.026	-0.077	ヤウヤウ	-0.174	-0.071
ナホ	0.072	0.009	カヘリテ	0.022	0.137	モロトモニ	-0.199	-0.035
ココロミニ	0.071	0.027	ヒトヘニ	0.01	0.002	ワザト	-0.209	-0.079
モシ	0.07	-0.031	カツ	0.006	0.05	カケテ	-0.217	-0.02
マコトニ	0.069	0.132	オノオノ	0.005	0.038	シバシバ	-0.217	-0.02
クチグチ	0.068	0.03	ヒタミチニ	0.003	0.046	ヲサヲサ	-0.223	0.042
シカ	0.068	0.123	ナカナカ	0.003	0.048	ヨニ	-0.259	-0.092
スベテ	0.064	0.074						

## f. 助詞

	PC1	PC2		PC1	PC2
ト	0.343	-0.073	シ	0.032	0.295
バ	0.324	0.007	ナム.1	0.006	0.022
ヤ	0.233	-0.021	カハ	-0.005	0.042
デ	0.217	-0.114	モノカハ	-0.013	0.067
コソ	0.206	-0.059	モノユエ	-0.017	0.097
カナ	0.177	0.132	カモ	-0.018	-0.019
テ	0.148	-0.308	ドモ	-0.025	0.034
ヨ	0.144	0.188	サヘ	-0.03	0.257
ナ.1	0.14	0.016	カラ	-0.035	-0.015
トモ	0.135	0.148	ナ	-0.036	-0.106
バヤ	0.132	-0.012	ガナ	-0.052	0.072
ソ	0.128	0.117	ガ	-0.057	0.026
ド	0.126	0.006	ナガラ	-0.079	-0.084
ナ.2	0.12	0.144	ノミ	-0.081	0.169
モノカ	0.117	-0.108	ナド	-0.086	0.109
ナンド	0.111	0.129	シテ	-0.087	0.097
モノカラ	0.11	0.029	バカリ	-0.094	0.064
カシ	0.1	0.211	ダニ	-0.097	0.12
モノノ	0.089	0.095	ヨリ	-0.101	0.143
ヘ	0.085	0.022	ニシカナ	-0.124	0.035
モノヲ	0.069	0.207	テシカナ	-0.14	0.034
カ	0.062	-0.073	モ	-0.147	0.287
ガ.1	0.062	-0.107	ニ	-0.153	-0.257
ヤハ	0.053	0.094	ツツ	-0.167	0.237
ゾ	0.052	0.256	マデ	-0.174	-0.138
ナム	0.045	-0.103	ヅツ	-0.19	-0.126
シテ.1	0.043	-0.083	ヲ	-0.201	-0.055
ハ	0.036	0.104	ノ	-0.297	-0.015

## g. 助動詞

	PC1	PC2
リ	0.292	-0.152
サス	0.158	-0.347
マジ	0.155	0.285
ス	0.129	-0.3
マシ	0.109	0.196
ナリ	0.081	0.237
ラシ	0.073	-0.044
メリ	0.068	0.174
マス	0.061	0.121
ゴトシ	0.061	-0.024
ラル	0.006	0.17
シム	-0.051	-0.032
タリ	-0.066	0.33
ズ	-0.073	0.294
マホシ	-0.085	-0.133
ム	-0.087	0.329
ツ	-0.108	0.251
ジ	-0.108	0.185
ベシ	-0.126	-0.048
ル	-0.127	-0.162
ケム	-0.197	-0.121
ケリ	-0.223	-0.022
ラム	-0.23	0.09
ヌ	-0.286	-0.029
メル	-0.344	-0.031
ラルル	-0.344	-0.031
ムズ	-0.365	-0.012
キ	-0.371	-0.201

付録 11 『源氏物語』と『雲隠六帖』の語の頻度についての主成分分析の因子負荷量

a. 名詞

	PC1	PC2		PC1	PC2		PC1	PC2
ミチ	0.214	0.137	ヲリヲリ	0.061	-0.049	ヲンナギミ	-0.035	0.124
ミ	0.191	-0.045	ヨシ	0.061	0.018	キハ	-0.036	-0.022
スクセ	0.175	0.151	ナカ	0.057	-0.019	オトド	-0.039	-0.074
ツミ	0.17	0.043	ツカヒ	0.057	-0.057	カヘリ	-0.044	-0.124
コト	0.165	-0.004	ワカギミ	0.054	-0.012	オボエ	-0.045	-0.052
ムカシ	0.163	0.045	ウシロミ	0.05	-0.087	ウチ	-0.046	0.032
タメ	0.16	0.05	トコロ.1	0.04	0.064	ウチ.2	-0.052	-0.043
ヨ	0.157	-0.122	キン	0.039	-0.163	ココロ	-0.053	0.04
ココロノウチ	0.145	-0.023	フミ	0.036	0.049	ニホヒ	-0.069	-0.159
ユメ	0.142	0.028	ナニゴト	0.036	-0.194	オヤ	-0.073	0.122
ナミダ	0.127	-0.073	ワタリ	0.032	0.095	ヲンナ	-0.076	0.217
コノヨ	0.12	-0.162	レイ	0.029	-0.091	ツキ	-0.078	0
コ	0.118	0.21	モノガタリ	0.028	-0.085	キミ	-0.085	0.057
ココチ	0.117	0.006	カタチ	0.024	-0.012	メ	-0.089	0.058
イノチ	0.116	-0.018	トシ	0.02	-0.072	ハナ	-0.09	-0.15
ヨノナカ	0.115	-0.132	ミコ	0.017	-0.152	ケハヒ	-0.102	-0.088
クルマ	0.106	0.143	ダイシヤウ	0.017	-0.092	スヂ	-0.104	0.004
ヒトリ	0.099	-0.03	ソデ	0.014	-0.147	コエ	-0.105	-0.03
ココロザシ	0.099	-0.112	アハレ	0.011	-0.013	セウソコ	-0.107	0.1
モノ.2	0.098	0.21	ヒト	0.007	0.149	イロ	-0.107	-0.171
トノ	0.093	0.167	モノ	0.003	0.158	カゼ	-0.113	0.026
ホトケ	0.091	-0.126	ミヤ	0.001	-0.158	カタ	-0.118	-0.011
メノト	0.09	0.062	ムスメ	-0.001	0.098	アタリ	-0.118	0.037
ワザ	0.08	-0.109	ヤウ	-0.003	0.039	ヒメギミ	-0.132	0.067
トキ	0.079	-0.027	ヒトビト	-0.004	-0.113	ソラ	-0.137	-0.072
カホ	0.072	0.035	ニヨウバウ	-0.005	-0.187	ホド	-0.138	-0.033
ヲリ	0.071	-0.098	ココロバへ	-0.009	-0.141	ネ	-0.159	0.026
トシゴロ	0.07	0.075	チギリ	-0.014	0.083	オマへ	-0.164	-0.12
カギリ	0.069	-0.166	ナ	-0.018	-0.086	ツイデ	-0.168	0.009
コロ	0.067	0.034	アリサマ	-0.022	-0.145	ケシキ	-0.195	-0.043
ノチ	0.067	-0.077	サマ	-0.024	-0.053	コト.2	-0.2	0.063
ヒ.1	0.067	0.021	オンゾ	-0.025	-0.023	オト	-0.212	0.083
アマギミ	0.064	0.071	ウコン	-0.033	0.177	チュウジャウ	-0.244	0.085
モト	0.063	-0.021						

b. 代名詞

	PC1	PC2		PC1	PC2
タ	0.431	-0.005	ワレワレ	-0.01	-0.002
アレ	0.427	-0.033	アシコモト	-0.015	-0.029
コ	0.327	0.045	ナニガシ	-0.019	0.068
イツク	0.323	0.013	ナニガシクレガシ	-0.019	0.109
マロ	0.321	0.023	オノ	-0.02	0.119
ソナタ	0.282	-0.141	ワ	-0.024	0.149
ソコ	0.257	-0.011	アシコ	-0.029	-0.441
アナタ	0.193	-0.11	オノラ	-0.029	-0.441
ワレ	0.179	0.086	オノレラ	-0.029	-0.441
イツラ	0.095	0.127	ナ	-0.029	0.111
カシコ	0.088	0.205	ナレ	-0.034	-0.046
コナタ	0.079	-0.167	ア	-0.036	0.104
イツレ	0.062	0.073	ココ	-0.038	0.222
マウト	0.054	0.057	イツチ	-0.041	0.044
コレ	0.052	-0.024	カレ	-0.054	-0.106
オレ	0.017	0.004	カ	-0.057	-0.041
コチ	0.008	0.072	イツコ	-0.058	0.107
コレラ	0.002	-0.014	カナタ	-0.064	-0.086
ソ	0.001	0.045	ナニガシラ	-0.065	-0.076
ソレラ	-0.001	0.064	ソレ	-0.065	0.027
キンヂラ	-0.007	0.048	オノレ	-0.101	0.135
マシ	-0.007	0.048	タレ	-0.112	0.076
タレタレ	-0.008	-0.248	イツカタ	-0.117	-0.095

c. 動詞

	PC1	PC2		PC1	PC2		PC1	PC2
ツクス	0.233	0.044	ミシル	0.019	0.031	フス	-0.079	0.063
オトル	0.203	0.059	ヘダツ	0.015	-0.017	キク	-0.08	0.162
キコシメス	0.171	0.05	ミダル	0.014	-0.002	ヤム	-0.081	0.083
マサル	0.167	-0.052	タヅス	0.006	0.054	シタガフ	-0.082	-0.151
ウチトク	0.165	0.113	タテマツル	0.005	0.039	イソグ	-0.083	-0.028
カナフ	0.163	0.037	ココチス	0.003	0.111	ナス	-0.085	0.064
サブラフ	0.158	0.008	トル	-0.003	0.054	ウラム	-0.087	0.164
ワタル	0.157	-0.104	オハシマス	-0.003	0.019	ヨル	-0.088	0.107
モテナス	0.152	-0.001	アリ	-0.006	0.097	ス	-0.091	0.06
メス	0.14	0.137	トマル	-0.013	-0.114	カヘル	-0.094	0.056
ミス	0.135	0.179	ナグサム	-0.017	-0.011	ナク	-0.095	0.066
ハナル	0.128	0.119	フ	-0.022	-0.203	シル	-0.096	0.073
スグル	0.128	-0.123	マカス	-0.029	-0.038	シノブ	-0.096	0.043
オボシシル	0.127	-0.053	ニル	-0.031	0.048	マウス	-0.096	0.124
ゴランズ	0.124	-0.015	ナゲク	-0.035	0.08	ハベリ	-0.103	0.137
キコユ	0.115	0.143	オシハカル	-0.037	0.051	オクル	-0.103	-0.083
オク	0.111	0.097	ウケタマハル	-0.039	0.086	オモヒヤル	-0.106	-0.097
スグ	0.111	0.033	オドロク	-0.04	0.064	スグス	-0.106	-0.245
オモヒヨル	0.109	0.125	ナラフ	-0.045	0.022	タノム	-0.107	-0.072
ソフ	0.109	-0.154	タガフ	-0.048	0.059	ウス	-0.109	-0.03
モノス	0.092	0.138	ユルス	-0.049	0.001	タユ	-0.111	-0.136
オボス	0.086	-0.139	イル	-0.05	0.018	オモヒシル	-0.112	-0.072
ナル	0.08	-0.016	イデク	-0.05	0.08	ウ	-0.114	0.021
シム	0.077	-0.01	イヅ	-0.051	0.054	オボユ	-0.115	0.126
マカヅ	0.075	-0.023	ミュ	-0.054	-0.024	トフ	-0.116	0.026
カク	0.063	0.038	キル	-0.056	0.053	カタラフ	-0.12	-0.012
ハジム	0.057	-0.064	ミル	-0.063	-0.009	カタル	-0.126	0.146
マキル	0.056	0.032	ノタマフ	-0.066	0.238	ワスル	-0.137	-0.18
フル	0.055	-0.08	カハル	-0.067	-0.256	オモフ	-0.14	0.224
アク	0.051	-0.057	オハス	-0.068	0	オモヒイヅ	-0.153	-0.065
マキル.1	0.05	0.103	ナガム	-0.071	-0.073	タツ	-0.155	0.085
ツク	0.042	0.069	オボシイヅ	-0.076	-0.239	ク	-0.179	-0.023
キコユ.1	0.029	-0.03	オモヒミダル	-0.078	0.08	イフ	-0.22	0.156
ツカウマツル	0.023	-0.059						

d. 補助動詞

	PC1	PC2
ハベリ	0.208	-0.543
タウブ	0.053	-0.515
キコエサス	-0.186	-0.643
マウス	-0.241	-0.092
タテマツル	-0.503	0.094
キコユ	-0.545	-0.097
タマフ	-0.557	0.013

f. 形容詞

	PC1	PC2		PC1	PC2		PC1	PC2
カナシ	0.247	-0.091	クチャシ	0.062	-0.164	カタハライタシ	-0.039	-0.13
カヒナシ	0.236	0.081	タグヒナシ	0.06	-0.085	イタシ	-0.04	-0.111
シタシ	0.208	0.041	イワケナシ	0.056	-0.073	シロシ	-0.051	-0.043
ウシ	0.19	0.021	ココロウシ	0.053	-0.047	シルシ	-0.052	0.143
オホシ	0.18	0.132	ハカバカシ	0.049	-0.131	ヲサナシ	-0.052	-0.074
ツラシ	0.169	0.034	ハカナシ	0.048	-0.014	ワリナシ	-0.053	-0.076
カタジケナシ	0.168	-0.063	ウラメシ	0.048	-0.076	イトホシ	-0.054	-0.103
アイナシ	0.144	0.198	オナジ	0.047	0.038	ウルハシ	-0.062	-0.046
イフカヒナシ	0.141	0.171	ココロシ	0.047	0.022	メヤスシ	-0.064	-0.036
ムツマシ	0.136	0.258	アサマシ	0.046	-0.028	ミグルシ	-0.066	-0.081
メザマシ	0.126	0.068	タフトシ	0.043	-0.034	ココロヅキナシ	-0.072	-0.048
クヤシ	0.124	-0.072	ウレシ	0.042	-0.131	ムツカシ	-0.075	-0.043
ココロボソシ	0.122	-0.129	ハヅカシ	0.037	-0.055	クハシ	-0.076	-0.06
カギリナシ	0.121	-0.124	アサシ	0.037	0.122	ココロヤスシ	-0.081	-0.064
ユユシ	0.119	-0.139	オソロシ	0.029	-0.142	フカシ	-0.083	-0.066
ウシロメタシ	0.119	0.009	ラウタシ	0.024	0.054	コトゴトシ	-0.085	0.008
シゲシ	0.118	0.054	サウザウシ	0.017	-0.084	ココロモトナシ	-0.089	-0.076
イカメシ	0.114	-0.124	ナマメカシ	0.017	-0.005	オボツカナシ	-0.09	-0.028
アリガタシ	0.112	0.014	カシコシ	0.015	-0.09	チヒサシ	-0.091	-0.031
コヒシ	0.103	-0.106	ヤンゴトナシ	0.01	-0.119	ケチカシ	-0.103	-0.01
アヂキナシ	0.103	-0.136	ヨロシ	0.006	-0.122	ワカシ	-0.107	-0.101
トホシ	0.093	-0.086	ウツクシ	-0.007	-0.078	イマメカシ	-0.107	0.001
メヅラシ	0.086	0.261	スクナシ	-0.011	0.174	ハシタナシ	-0.11	-0.017
オモシ	0.084	-0.118	ネタシ	-0.015	0.159	ツツマシ	-0.118	0.135
トコロセシ	0.084	0.038	ナガシ	-0.016	-0.068	オドロオドロシ	-0.122	-0.026
メデタシ	0.083	-0.108	ユカシ	-0.018	-0.087	クルシ	-0.135	-0.055
ココログルシ	0.081	-0.161	ツレナシ	-0.02	-0.063	ヲカシ	-0.136	0.059
ウシロヤスシ	0.079	-0.078	タカシ	-0.022	-0.086	ナツカシ	-0.14	0.247
ナシ	0.078	0.153	ココロニクシ	-0.026	-0.056	トシ	-0.141	0.004
ナヤマシ	0.074	0.071	カタシ	-0.033	-0.086	アヤシ	-0.162	-0.093
ヒサシ	0.072	-0.109	ナサケナシ	-0.033	-0.051	オモシロシ	-0.184	0.073
イミジ	0.071	-0.177	ワヅラハシ	-0.036	0.09	ニクシ	-0.186	0
タノモシ	0.066	-0.083	アシ	-0.037	-0.074	ヨシ	-0.217	-0.005
チカシ	0.063	-0.04						

g. 形容動詞

	PC1	PC2		PC1	PC2		PC1	PC2
オホキナリ	0.285	-0.054	ヒトズクナリ	-0.016	0.092	アカラサマナリ	-0.046	-0.13
ラウタゲナリ	0.266	-0.12	サカリナリ	-0.017	0.117	オモヒノホカナリ	-0.046	-0.111
クルシゲナリ	0.262	-0.119	モノアハレナリ	-0.018	0.083	タダナリ	-0.047	-0.009
カリナリ	0.252	-0.05	ヲカシゲナリ	-0.023	0.136	ココロヨリホカナリ	-0.047	-0.172
シノビヤカナリ	0.25	-0.109	ココロゴコロナリ	-0.024	0.128	ワヅカナリ	-0.048	-0.131
ワカヤカナリ	0.245	-0.005	ツレヅレナリ	-0.025	0.072	コマヤカナリ	-0.049	-0.047
サスガナリ	0.242	-0.098	アラハナリ	-0.026	0.049	ムゲナリ	-0.051	-0.2
コトワリナリ	0.241	-0.147	ココロコトナリ	-0.028	0.165	アサハカナリ	-0.053	0.121
カヤウナリ	0.221	-0.065	オモハズナリ	-0.028	-0.076	キヨラナリ	-0.053	-0.012
エンナリ	0.22	-0.104	アザヤカナリ	-0.028	-0.034	ナヤマシゲナリ	-0.054	-0.051
アテナリ	0.214	-0.048	カタハナリ	-0.028	0.067	ケナリ	-0.055	-0.054
ハナヤカナリ	0.186	0.134	アハレゲナリ	-0.03	-0.096	コトサラナリ	-0.06	-0.074
シヅカナリ	0.169	0.102	サヤカナリ	-0.03	0.115	コトズクナナリ	-0.063	-0.113
アハレナリ	0.16	-0.09	トリドリナリ	-0.03	0.112	ココロヒトツナリ	-0.064	-0.212
サヤウナリ	0.144	-0.133	イカサマナリ	-0.031	-0.09	アナガチナリ	-0.065	0.145
コトナリ	0.09	0.126	コマカナリ	-0.032	0.093	イカヤウナリ	-0.066	0.088
ナダラカナリ	0.04	0.085	オイラカナリ	-0.033	-0.003	コトザマナリ	-0.066	-0.104
オモフヤウナリ	0.034	0.058	ココログルシゲナリ	-0.034	-0.156	メヅラカナリ	-0.067	-0.071
オボロゲナリ	0.026	0.01	カタホナリ	-0.037	-0.036	カリソメナリ	-0.068	-0.052
カウヤウナリ	0.011	0.025	タヒラカナリ	-0.037	-0.11	スズロナリ	-0.075	-0.136
ウツクシゲナリ	0.008	0.121	ヒトワラヘナリ	-0.038	-0.068	ハルカナリ	-0.077	-0.029
オロカナリ	0.008	0.023	ノドカナリ	-0.038	-0.016	ウチツケナリ	-0.077	-0.198
タマサカナリ	0.006	0.039	シラズガホナリ	-0.038	0.04	イタヅラナリ	-0.079	-0.086
ケザヤカナリ	0.006	0.039	ナカナカナリ	-0.039	-0.038	キヨゲナリ	-0.082	-0.061
イカナリ	0.003	-0.161	シメヤカナリ	-0.039	0.041	ナノメナリ	-0.083	-0.184
セチナリ	-0.003	0.07	ノドヤカナリ	-0.039	0.11	ニハカナリ	-0.084	-0.097
オホカタナリ	-0.003	-0.009	マメヤカナリ	-0.04	0.126	イマサラナリ	-0.085	-0.094
スクヨカナリ	-0.006	-0.009	ハヅカシゲナリ	-0.04	-0.015	ココロボンゲナリ	-0.087	-0.179
オモフサマナリ	-0.009	0.088	イトホシゲナリ	-0.041	-0.003	カスカナリ	-0.092	-0.122
サマコトナリ	-0.01	0.017	ココロゾクシナリ	-0.042	-0.114	タシカナリ	-0.094	-0.198
マホナリ	-0.01	0.042	ネンゴロナリ	-0.043	-0.049	サマザマナリ	-0.104	-0.132
ココチヨゲナリ	-0.011	0.021	ココロノドカナリ	-0.045	-0.032	アヤニクナリ	-0.108	0.012
オホドカナリ	-0.014	0.068	ヒタブルナリ	-0.045	-0.136	ホノカナリ	-0.118	-0.114

## h. 副詞

	PC1	PC2		PC1	PC2		PC1	PC2
ヲサラサ	0.248	0.027	ヨモスガラ	-0.003	-0.012	ココロミニ	-0.068	-0.024
ヨニ	0.247	0.113	ヒトヘニ	-0.007	0.003	ツユ	-0.071	0.015
シバシバ	0.24	0.089	ナカナカ	-0.012	-0.085	オノヅカラ	-0.071	-0.163
カケテ	0.238	0.087	カヘリテ	-0.013	-0.144	ヤガテ	-0.071	0.083
モロトモニ	0.216	0.101	カク	-0.015	-0.197	ナド	-0.074	-0.096
ゲニ	0.201	-0.073	イヨイヨ	-0.023	0.037	カウテ	-0.074	0.148
ワザト	0.198	0.101	ナニクレト	-0.024	-0.018	モシ	-0.077	0.012
ヤウヤウ	0.19	0.136	カナラズ	-0.025	-0.177	ナホ	-0.079	-0.032
イトド	0.14	-0.012	カツガツ	-0.025	-0.104	マタ	-0.08	-0.11
スコシ	0.121	0.076	ツクヅクト	-0.027	0.063	サラニ	-0.083	-0.145
オシナベテ	0.103	0.131	マイテ	-0.031	-0.02	トカク	-0.092	-0.147
コトサラ	0.094	0.079	タダ	-0.033	-0.063	サナガラ	-0.092	0.046
ヤヤ	0.088	-0.071	マダキニ	-0.033	-0.117	カクテ	-0.095	0.015
ソコラ	0.077	-0.008	セメテ	-0.035	-0.033	イカデ	-0.096	-0.125
アマタ	0.054	-0.081	ツト	-0.035	-0.076	サテモ	-0.103	-0.024
サト	0.052	0.018	オノガジシ	-0.035	-0.074	エ	-0.105	0.074
ママニ	0.048	0.036	ホロホロト	-0.044	-0.124	トミニ	-0.107	-0.114
マサニ	0.044	-0.063	アタラ	-0.045	-0.045	タビタビ	-0.113	0.047
カタミニ	0.039	-0.035	ヨヒトヨ	-0.046	-0.072	ツネニ	-0.116	-0.084
トリワキテ	0.028	-0.13	ヨシ	-0.047	-0.092	カウ	-0.123	0.052
マシテ	0.022	-0.01	ヨモ	-0.047	0.017	ハタ	-0.128	-0.025
サシアタリテ	0.022	-0.102	トザマカウザマニ	-0.049	-0.063	タエテ	-0.13	0.14
ツヒニ	0.021	-0.165	テヅカラ	-0.049	0.09	イカガ	-0.132	-0.102
マヅ	0.014	0.119	クテグチ	-0.053	-0.027	フト	-0.15	0.219
ナベテ	0.011	0.158	ココラ	-0.056	0.023	トカウ	-0.151	0.184
タチマチニ	0.01	-0.084	ハルバルト	-0.056	0.116	シヒテ	-0.157	0.059
ツギツギニ.1	0.003	-0.038	スベテ	-0.057	-0.072	ウタテ	-0.162	-0.035
ホノボノ	0.003	0.04	マコトニ	-0.058	-0.138	カラウジテ	-0.164	0.163
オノオノ	0.001	-0.038	ヨトモニ	-0.058	-0.073	ナゾ	-0.165	0.201
ツレヅレト	0	0.07	カネテ	-0.059	0.135	サテ	-0.167	0.193
ヒタミチニ	0	-0.049	シカ	-0.062	-0.13	ヤヲラ	-0.172	0.253
イササカ	-0.001	-0.06	ミチスガラ	-0.063	-0.047	マダ	-0.187	0.18
カツ	-0.003	-0.048	イト	-0.064	0.036			

i. 助詞

	PC1	PC2		PC1	PC2
バ	0.292	-0.165	ナ	-0.024	0.026
デ	0.245	-0.054	カラ	-0.036	0.016
ド	0.219	0.051	ナ.2	-0.046	-0.222
コソ	0.184	-0.111	ナンド	-0.047	-0.195
テ	0.148	-0.063	モノユエ	-0.055	-0.041
ヤ	0.142	-0.191	シテ	-0.058	0.061
ト	0.141	-0.337	ニシカナ	-0.06	0.122
カナ	0.139	-0.118	へ	-0.068	-0.214
モノカ	0.124	-0.041	テシカナ	-0.076	0.13
モノカラ	0.116	-0.037	ノミ	-0.076	0.03
ガ.1	0.106	0.03	サへ	-0.078	-0.038
ヨ	0.105	-0.099	ソ	-0.089	-0.267
ヤハ	0.1	0.04	ゾ	-0.09	-0.173
バヤ	0.098	-0.092	ヨリ	-0.098	0.041
モノノ	0.077	-0.045	ヅツ	-0.099	0.181
ナム	0.072	0.011	ガナ	-0.102	-0.035
トモ	0.056	-0.143	ツツ	-0.114	0.131
カシ	0.055	-0.091	バカリ	-0.117	0.014
ナド	0.052	0.172	ニ	-0.129	0.083
シテ.1	0.051	-0.011	ナガラ	-0.156	-0.058
ナ.1	0.039	-0.158	ヲ	-0.159	0.141
モノヲ	0.039	-0.067	ダニ	-0.164	-0.028
ナム.1	0.03	0.029	モ	-0.184	0.018
シ	0.014	-0.036	ドモ	-0.184	-0.143
カハ	0.012	0.023	ノ	-0.222	0.205
モノカハ	0.01	0.036	マデ	-0.241	-0.023
カモ	-0.002	0.027	コト	-0.267	-0.278
カ	-0.015	-0.115	スラ	-0.267	-0.278
ハ	-0.016	-0.063	ガ	-0.27	-0.273

h. 助動詞

	PC1	PC2
ム	0.345	0.003
タリ	0.34	-0.001
ズ	0.289	-0.038
マジ	0.273	0.209
ツ	0.266	0
ナリ	0.235	0.055
ジ	0.206	-0.12
メリ	0.19	0.135
マシ	0.184	0.179
ラル	0.157	-0.084
マス	0.119	0.099
ラム	0.117	-0.262
ムズ	0.05	-0.148
ヌ	0.022	-0.353
ベシ	-0.006	-0.215
シム	-0.018	-0.05
ケリ	-0.031	-0.362
ラシ	-0.039	0.071
ゴトシ	-0.067	0.028
ケム	-0.09	-0.172
ル	-0.134	-0.236
マホシ	-0.136	0.107
リ	-0.145	0.359
キ	-0.189	-0.423
ス	-0.299	0.159
サス	-0.34	0.198

付録 12 『源氏物語』と『手枕』の語の頻度についての主成分分析の因子負荷量

a. 名詞

	PC1	PC2		PC1	PC2		PC1	PC2
ミチ	0.245	-0.047	ナカ	0.038	0.024	ココロバへ	-0.05	0.135
スクセ	0.206	-0.035	ムスメ	0.038	-0.092	キミ	-0.053	-0.095
コ	0.181	-0.125	ツカヒ	0.036	0.068	ナ	-0.054	0.071
ツミ	0.174	0.025	ウコン	0.033	-0.191	オボエ	-0.056	0.038
モノ <sub>2</sub>	0.174	-0.151	ヲリ	0.027	0.134	アリサマ	-0.059	0.144
タメ	0.165	0.041	トシツキ	0.024	0.03	メ	-0.061	-0.105
ミ	0.165	0.1	モト	0.018	0.03	ウチ <sub>2</sub>	-0.064	0.036
ムカシ	0.161	0.041	ワザ	0.018	0.145	セウソコ	-0.068	-0.084
コト	0.154	0.072	ヲリヲリ	0.018	0.106	オトド	-0.071	0.04
トノ	0.151	-0.093	ランナ	0.015	-0.22	ココロ	-0.073	-0.047
クルマ	0.15	-0.036	チギリ	0.012	-0.057	ニヨウバウ	-0.079	0.161
ユメ	0.144	-0.006	モノガタリ	0.012	0.085	カヘリ	-0.083	0.106
ココロノウチ	0.131	0.074	ヤウ	0.01	-0.053	カタ	-0.084	-0.055
イノチ	0.115	0.076	ウシロミ	0.009	0.103	アタリ	-0.085	-0.077
メノト	0.115	-0.025	アハレ	0.008	0.05	ツキ	-0.086	-0.015
ココチ	0.115	0.044	レイ	-0.001	0.076	コエ	-0.094	-0.02
ナミダ	0.096	0.126	カタチ	-0.001	-0.004	スヂ	-0.097	-0.059
アマギミ	0.091	-0.058	カギリ	-0.005	0.185	ヒメギミ	-0.098	-0.131
カホ	0.09	-0.034	ココロザシ	-0.006	0.128	カゼ	-0.106	-0.067
ヨ	0.089	0.206	ランナギミ	-0.006	-0.047	ホド	-0.108	0.047
コロ	0.083	0.012	キン	-0.02	0.166	アソビ	-0.113	0.154
ヒト	0.08	-0.154	ダイシヤウ	-0.02	0.084	ニホヒ	-0.114	0.11
ヒトリ	0.075	0.027	トシ	-0.02	0.058	ケハヒ	-0.119	0.057
ヒ <sub>1</sub>	0.074	0.009	オヤ	-0.023	-0.156	ハナ	-0.144	0.081
トシゴロ	0.073	0.009	キハ	-0.024	0.017	ネ	-0.145	-0.084
ワタリ	0.072	-0.099	オンゾ	-0.032	0.046	ツイデ	-0.148	-0.088
トコロ <sub>1</sub>	0.071	-0.07	ウチ	-0.038	-0.048	ソラ	-0.158	0.034
ヨノナカ	0.068	0.173	ナニゴト	-0.039	0.19	オト	-0.167	-0.17
モノ	0.067	-0.14	サマ	-0.042	0.05	コト <sub>2</sub>	-0.173	-0.126
ヨシ	0.064	-0.021	ミコ	-0.046	0.14	イロ	-0.175	0.103
フミ	0.062	-0.04	ソデ	-0.047	0.144	ケシキ	-0.189	-0.03
トキ	0.051	0.037	ミヤ	-0.048	0.152	オマヘ	-0.194	0.025
ノチ	0.044	0.081	ヒトビト	-0.049	0.135	チュウジヤウ	-0.203	-0.179
コノヨ	0.042	0.17						

b. 代名詞

	PC1	PC2		PC1	PC2
タレ	0.107	-0.068	ナニガシ	0.011	-0.065
イツカタ	0.105	0.099	ワレワレ	0.006	0.002
オノレ	0.094	-0.133	タレタレ	0	0.249
イツチ	0.08	-0.046	コレラ	-0.003	0.012
ソレ	0.057	-0.026	ソレラ	-0.003	-0.062
カナタ	0.056	0.083	ソ	-0.006	-0.044
ナニガシラ	0.053	0.08	コチ	-0.008	-0.072
カ	0.053	0.042	オレ	-0.016	-0.005
イツコ	0.048	-0.109	コレ	-0.06	0.031
カレ	0.043	0.104	イツレ	-0.06	-0.073
ア	0.036	-0.101	マウト	-0.062	-0.057
ナレ	0.032	0.044	カシコ	-0.081	-0.206
ココ	0.031	-0.213	コナタ	-0.087	0.16
ナ	0.021	-0.114	イツラ	-0.096	-0.127
アシコ	0.019	0.443	ワレ	-0.178	-0.086
オノラ	0.019	0.443	アナタ	-0.196	0.104
オノレラ	0.019	0.443	ソコ	-0.257	0.012
オノ	0.015	-0.122	ソナタ	-0.284	0.134
キンヂラ	0.014	-0.049	マロ	-0.32	-0.029
マシ	0.014	-0.049	コ	-0.33	-0.053
ワ	0.014	-0.152	イツク	-0.34	-0.012
ナニガシクレガシ	0.012	-0.11	アレ	-0.424	0.025
アシコモト	0.012	0.029	タ	-0.427	-0.003

c. 動詞

	PC1	PC2		PC1	PC2		PC1	PC2
イフ	0.21	-0.163	イソグ	0.076	0.014	ツカウマツル	-0.033	0.058
ク	0.171	0.018	カハル	0.074	0.239	アク	-0.041	0.069
タツ	0.156	-0.059	オハス	0.071	-0.018	フル	-0.049	0.073
オモヒイツ	0.147	0.038	ミル	0.07	-0.018	ハジム	-0.05	0.055
ワスル	0.139	0.183	ナス	0.069	-0.082	マキル	-0.062	-0.045
オモフ	0.132	-0.235	イヅ	0.069	-0.017	マキル.1	-0.064	-0.114
カタラフ	0.127	-0.007	キク	0.069	-0.175	ツク	-0.065	-0.089
トフ	0.118	-0.039	ノタマフ	0.059	-0.24	オボス	-0.065	0.148
カタル	0.117	-0.161	イル	0.058	-0.003	マカヅ	-0.072	0.027
スグス	0.114	0.24	ナラフ	0.057	-0.01	カク	-0.075	-0.049
オモヒヤル	0.109	0.111	イデク	0.055	-0.055	ナル	-0.083	0.021
マドフ	0.109	-0.058	ミュ	0.055	0.02	シム	-0.085	0.001
ウス	0.107	0.043	キル	0.052	-0.069	オク	-0.097	-0.066
オボユ	0.106	-0.143	タガフ	0.049	-0.059	ソフ	-0.106	0.143
オモヒシル	0.105	0.089	ユルス	0.048	-0.009	モノス	-0.108	-0.139
オクル	0.104	0.098	ウケタマハル	0.034	-0.056	オモヒヨル	-0.114	-0.128
タユ	0.104	0.152	フ	0.033	0.175	キコユ	-0.116	-0.143
シノブ	0.104	-0.057	ナゲク	0.032	-0.094	ゴランズ	-0.121	0.034
ヤム	0.1	-0.074	ナグサム	0.032	0.033	オボシシル	-0.124	0.075
タノム	0.098	0.059	オシハカル	0.031	-0.067	ハナル	-0.131	-0.112
ス	0.096	-0.051	ニル	0.029	-0.046	スグ	-0.132	-0.023
ナク	0.096	-0.081	マカス	0.019	0.027	スグル	-0.137	0.106
フス	0.094	-0.047	トマル	0.018	0.104	メス	-0.139	-0.131
ハベリ	0.093	-0.14	トル	0.014	-0.045	ミス	-0.139	-0.17
カヘル	0.092	-0.059	オハシマス	-0.007	-0.029	モテナス	-0.143	0.009
マツ	0.091	0.031	ココチス	-0.008	-0.101	ワタル	-0.145	0.114
ヨル	0.089	-0.105	アリ	-0.008	-0.11	ウチトク	-0.156	-0.092
ナガム	0.086	0.079	タツス	-0.01	-0.063	カナフ	-0.159	-0.016
シル	0.085	-0.091	ミダル	-0.012	-0.008	サブラフ	-0.162	0.005
ウラム	0.083	-0.171	ヘダツ	-0.015	0.001	マサル	-0.167	0.048
オボシイツ	0.082	0.228	タテマツル	-0.018	-0.059	キコシメス	-0.177	-0.05
シタガフ	0.081	0.129	ミシル	-0.02	-0.037	オトル	-0.204	-0.058
マウス	0.081	-0.145	キコユ.1	-0.028	0.014	ツクス	-0.235	-0.036
オモヒミダル	0.077	-0.091						

d. 補助動詞

	PC1	PC2
ハベリ	0.21	0.522
タウブ	0.061	0.549
キコエサス	-0.112	0.646
マウス	-0.222	0.044
タテマツル	-0.513	-0.009
タマフ	-0.543	0.042
キコユ	-0.577	0.073

e. 形容詞

	PC1	PC2		PC1	PC2		PC1	PC2
カナシ	0.208	0.034	ウレシ	0.075	-0.099	アシ	-0.032	-0.071
カタジケナシ	0.198	-0.006	タグヒナシ	0.075	-0.043	シロシ	-0.035	-0.037
ココログルシ	0.181	-0.123	アサシ	0.073	0.047	メヅラシ	-0.04	0.279
タヘガタシ	0.18	-0.047	ヨロシ	0.072	-0.108	ヲサナシ	-0.041	-0.075
ココロボソシ	0.177	-0.075	ユカシ	0.071	-0.101	ココロヤスシ	-0.042	-0.089
クヤシ	0.166	-0.03	イフカヒナシ	0.069	0.222	ミグルシ	-0.053	-0.079
カギリナシ	0.165	-0.059	ナシ	0.066	0.139	ウルハシ	-0.053	-0.071
トホシ	0.161	-0.086	アイナシ	0.066	0.24	メヤスシ	-0.055	-0.055
ウシ	0.159	0.121	ココロウシ	0.065	0	ココロモトナシ	-0.059	-0.099
アチキナシ	0.153	-0.081	チカシ	0.065	-0.001	ネタシ	-0.063	0.126
メデタシ	0.147	-0.083	ヤンゴトナシ	0.06	-0.096	ワヅラハシ	-0.063	0.078
イミジ	0.142	-0.119	アサマシ	0.056	0.021	ケチカシ	-0.064	-0.059
ユユシ	0.141	-0.054	トコロセシ	0.054	0.079	イマメカシ	-0.066	-0.05
クチヲシ	0.136	-0.123	ウラメシ	0.053	-0.036	ハシタナシ	-0.067	-0.075
カヒナシ	0.134	0.206	メザマシ	0.05	0.153	クハシ	-0.07	-0.074
シタシ	0.127	0.157	ウツクシ	0.05	-0.075	フカシ	-0.071	-0.109
アリガタシ	0.126	0.03	オソロシ	0.049	-0.091	スクナシ	-0.076	0.143
ヒサシ	0.12	-0.067	シゲシ	0.047	0.128	ムツカシ	-0.077	-0.056
ココロニクシ	0.118	-0.086	イタシ	0.043	-0.112	チヒサシ	-0.079	-0.042
ナマメカシ	0.116	-0.046	サウザウシ	0.035	-0.059	ワカシ	-0.082	-0.115
イカメシ	0.112	-0.062	ヨヨナシ	0.032	0.04	オボツカナシ	-0.083	-0.069
ツラシ	0.111	0.135	オナジ	0.028	0.039	コトゴトシ	-0.084	-0.034
ウシロメタシ	0.11	0.076	カシコシ	0.028	-0.069	シルシ	-0.091	0.111
タノモシ	0.106	-0.072	タフトシ	0.025	-0.006	クルシ	-0.092	-0.105
コヒシ	0.106	-0.039	フリナシ	0.007	-0.081	オドロオドロシ	-0.104	-0.074
イワケナシ	0.106	-0.056	ムツマシ	0.004	0.291	ツツマシ	-0.129	0.047
ハカナシ	0.1	-0.021	ナヤマシ	0.002	0.12	アヤシ	-0.133	-0.136
ナガシ	0.091	-0.076	ツレナシ	-0.002	-0.042	ニクシ	-0.139	-0.086
オモシ	0.091	-0.058	イトホシ	-0.002	-0.095	ヲカシ	-0.14	0.013
カタハライタシ	0.09	-0.13	ナサケナシ	-0.012	-0.046	トシ	-0.14	-0.07
ハヅカシ	0.089	-0.023	タカシ	-0.014	-0.079	ナツカシ	-0.151	0.116
ハカバカシ	0.087	-0.095	カタシ	-0.018	-0.083	オモシロシ	-0.181	-0.028
オホシ	0.085	0.209	ラウタシ	-0.019	0.096	ヨシ	-0.205	-0.095
ウシロヤスシ	0.078	-0.033	ココロヅキナシ	-0.02	-0.064			

f. 形容動詞

	PC1	PC2		PC1	PC2		PC1	PC2
アヤニクナリ	0.12	-0.156	ケナリ	0.051	-0.012	ココチヨゲナリ	0.013	-0.076
ニハカナリ	0.107	-0.231	オモリカナリ	0.05	-0.188	ヲカシゲナリ	0.012	0.078
ホノカナリ	0.106	0.103	タダナリ	0.05	-0.01	オホドカナリ	0.009	0.072
イマサラナリ	0.104	-0.142	ツレヅレナリ	0.05	-0.201	ウツクシゲナリ	0.009	-0.092
イタヅラナリ	0.098	-0.214	ナカナカナリ	0.048	0.021	ヒトズクナナリ	0.009	0.03
ナノメナリ	0.096	-0.098	オモヒノホカナリ	0.045	0.001	サマコトナリ	0.008	0.061
カリソメナリ	0.095	-0.252	ココロコトナリ	0.045	-0.072	マホナリ	0.006	0.101
ウチツケナリ	0.094	-0.017	ココロノドカナリ	0.043	0.02	オホカタナリ	0.002	0.07
サマザマナリ	0.089	0.134	シラズガホナリ	0.042	-0.013	オモフサマナリ	0.001	0.02
タシカナリ	0.087	0.037	ワヅカナリ	0.041	0.05	オボロゲナリ	0	-0.098
カスカナリ	0.086	0	タヒラカナリ	0.038	0.029	タマサカナリ	-0.003	-0.023
ココロボンゲナリ	0.08	-0.015	イトホシゲナリ	0.038	0.024	イカナリ	-0.007	0.027
シメヤカナリ	0.079	-0.278	ヒタブルナリ	0.038	0.063	カウヤウナリ	-0.013	-0.004
アナガチナリ	0.071	-0.038	ココロヨリホカナリ	0.036	0.125	オロカナリ	-0.014	0.058
ノドヤカナリ	0.069	-0.21	ヒトワラヘナリ	0.035	0.054	ケザヤカナリ	-0.015	0.161
スズロナリ	0.069	0.047	ネンゴロナリ	0.035	0.144	オモフヤウナリ	-0.034	0.043
キヨゲナリ	0.068	0.128	カタホナリ	0.03	0.071	ナダラカナリ	-0.045	0.027
ココロツクシナリ	0.068	-0.155	アラハナリ	0.03	0.036	アハレナリ	-0.089	-0.27
ハルカナリ	0.068	0.019	オイラカナリ	0.03	0.011	コトナリ	-0.097	0.024
イカヤウナリ	0.068	-0.042	コマカナリ	0.028	0.022	アテナリ	-0.118	-0.251
ムゲナリ	0.067	-0.068	ココログルシゲナリ	0.028	0.047	サヤウナリ	-0.153	0.051
コトザマナリ	0.067	0.043	サヤカナリ	0.026	0.035	シヅカナリ	-0.168	-0.052
ノドカナリ	0.063	-0.16	ハヅカシゲナリ	0.026	0.138	ハナヤカナリ	-0.193	0.004
メヅラカナリ	0.062	0.024	オモハズナリ	0.024	0.02	カヤウナリ	-0.229	0.021
マメヤカナリ	0.061	-0.1	トリドリナリ	0.023	0.075	エンナリ	-0.23	0.059
コマヤカナリ	0.06	-0.032	アザヤカナリ	0.023	0.079	コトワリナリ	-0.237	-0.109
キヨラナリ	0.06	0	セチナリ	0.022	-0.055	サスガナリ	-0.245	-0.01
コトズクナナリ	0.059	0.042	イカサマナリ	0.021	0.157	シノビヤカナリ	-0.248	-0.035
ココロヒトツナリ	0.058	0.138	ココロゴコロナリ	0.021	0.014	ワカヤカナリ	-0.251	0.01
カタハナリ	0.057	-0.155	サカリナリ	0.019	-0.042	カリナリ	-0.256	-0.113
コトサラナリ	0.057	0.049	アハレゲナリ	0.019	0.15	クルシゲナリ	-0.265	-0.026
アサハカナリ	0.053	-0.024	モノアハレナリ	0.018	0.045	ラウタゲナリ	-0.27	-0.055
ナヤマシゲナリ	0.052	0.041	スクヨカナリ	0.014	0.038	オホキナリ	-0.286	-0.047

## g. 副詞

	PC1	PC2		PC1	PC2		PC1	PC2
ヨニ	0.251	0.117	ヒタミチニ	0.005	-0.061	クチグチ	-0.059	-0.034
シバシバ	0.213	0.088	カツ	0.002	-0.06	マタ	-0.06	-0.124
カケテ	0.208	0.089	ヒトヘニ	-0.003	0	マイテ	-0.065	0.008
ワザト	0.203	0.105	ツクヅクト	-0.003	0.039	ヨトモニ	-0.067	-0.066
モロトモニ	0.203	0.09	カヘリテ	-0.004	-0.148	ココロミニ	-0.07	-0.018
ヲサヲサ	0.197	0.039	カナラズ	-0.017	-0.185	ヨモ	-0.086	0.053
ゲニ	0.181	-0.084	カツガツ	-0.02	-0.107	タエダエ	-0.087	0.056
ヤウヤウ	0.163	0.134	イヨイヨ	-0.02	0.064	サラニ	-0.091	-0.138
オシナベテ	0.14	0.135	カク	-0.021	-0.194	イト	-0.092	0.043
コトサラ	0.123	0.097	ハルバルト	-0.024	0.088	カクテ	-0.098	0.001
ヤヤ	0.094	-0.088	タダ	-0.025	-0.05	ナド	-0.103	-0.069
ソコラ	0.091	-0.033	ナニクレト	-0.026	-0.022	タビタビ	-0.104	0.039
スコシ	0.086	0.096	オノガジシ	-0.027	-0.084	サテモ	-0.107	-0.018
イトド	0.086	0.024	セメテ	-0.028	-0.053	イカデ	-0.108	-0.118
アマタ	0.075	-0.094	マダキニ	-0.035	-0.112	オノヅカラ	-0.11	-0.126
マシテ	0.063	-0.038	ツト	-0.035	-0.076	フト	-0.118	0.192
ママニ	0.058	0.004	ヤガテ	-0.035	0.046	トカク	-0.122	-0.1
マヅ	0.058	0.117	カネテ	-0.036	0.115	タエテ	-0.124	0.137
アクマデ	0.056	0.121	トザマカウザマニ	-0.036	-0.079	ハタ	-0.128	-0.03
サト	0.055	0.01	テヅカラ	-0.04	0.088	エ	-0.131	0.105
ナベテ	0.052	0.149	ヨヒトヨ	-0.04	-0.081	トミニ	-0.134	-0.083
マサニ	0.046	-0.074	ツユ	-0.042	-0.007	サナガラ	-0.139	0.088
カタミニ	0.045	-0.047	アタラ	-0.042	-0.046	ツネニ	-0.145	-0.063
トリワキテ	0.03	-0.142	カウテ	-0.043	0.122	イカガ	-0.147	-0.091
ツレヅレト	0.028	0.04	ホロホロト	-0.043	-0.123	サテ	-0.151	0.177
サシアタリテ	0.022	-0.109	マコトニ	-0.043	-0.158	ウタテ	-0.152	-0.038
イササカ	0.019	-0.083	スベテ	-0.046	-0.085	カウ	-0.152	0.086
オノオノ	0.018	-0.055	モシ	-0.049	-0.015	カラウジテ	-0.155	0.157
ヨモスガラ	0.013	-0.032	ミチスガラ	-0.05	-0.057	ナゾ	-0.162	0.202
ホノボノ	0.013	0.03	ヨシ	-0.054	-0.084	トカウ	-0.174	0.198
ツギツギニ.1	0.011	-0.038	ナホ	-0.057	-0.028	ヤヲラ	-0.176	0.254
タチマチニ	0.01	-0.08	シカ	-0.058	-0.127	シヒテ	-0.177	0.078
ナカナカ	0.008	-0.085	ココラ	-0.059	0.025	マダ	-0.192	0.181
ツヒニ	0.008	-0.166						

## h. 助詞

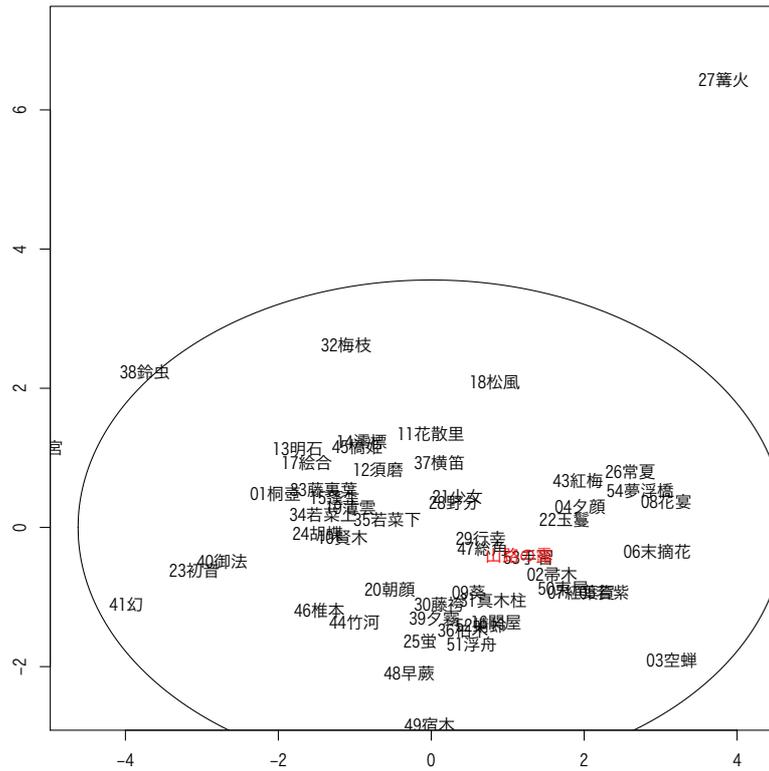
	PC1	PC2		PC1	PC2
ト	0.334	0.044	ゾ	0.03	-0.311
バ	0.298	-0.074	ナム.1	0.02	0.014
コソ	0.243	0.084	ドモ	-0.002	0.07
ヤ	0.223	-0.046	モノカハ	-0.004	-0.059
デ	0.206	0.048	ナ	-0.005	0.153
カナ	0.185	-0.13	カモ	-0.015	0.02
ナ.1	0.148	-0.004	モノユエ	-0.016	-0.074
ヨ	0.137	-0.161	ナド	-0.04	-0.039
ソ	0.13	-0.087	カラ	-0.04	-0.021
へ	0.129	0.007	ヨリ	-0.044	-0.057
ド	0.124	-0.093	ガ	-0.05	-0.014
カシ	0.12	-0.171	ナガラ	-0.057	0.139
ナ.2	0.118	-0.118	ダニ	-0.069	-0.029
ガ.1	0.114	0.162	シテ	-0.084	-0.048
カ	0.11	0.13	テシカナ	-0.095	0.039
モノカ	0.107	0.048	ニシカナ	-0.095	0.017
テ	0.104	0.18	ニ	-0.099	0.255
バヤ	0.103	-0.009	サヘ	-0.114	-0.286
ナンド	0.103	-0.102	ガナ	-0.116	-0.165
トモ	0.101	-0.135	バカリ	-0.136	-0.087
モノノ	0.096	-0.054	ヅツ	-0.142	0.189
モノカラ	0.081	-0.059	ノミ	-0.155	-0.22
モノヲ	0.068	-0.222	マデ	-0.155	0.19
シテ.1	0.065	0.106	ツ	-0.159	-0.128
ナム	0.062	0.155	ヲ	-0.159	0.144
カハ	0.052	0.081	モ	-0.195	-0.245
ハ	0.048	-0.067	ツツ	-0.214	-0.173
ヤハ	0.045	-0.059	ノ	-0.282	0.029
シ	0.041	-0.269			

i. 助動詞

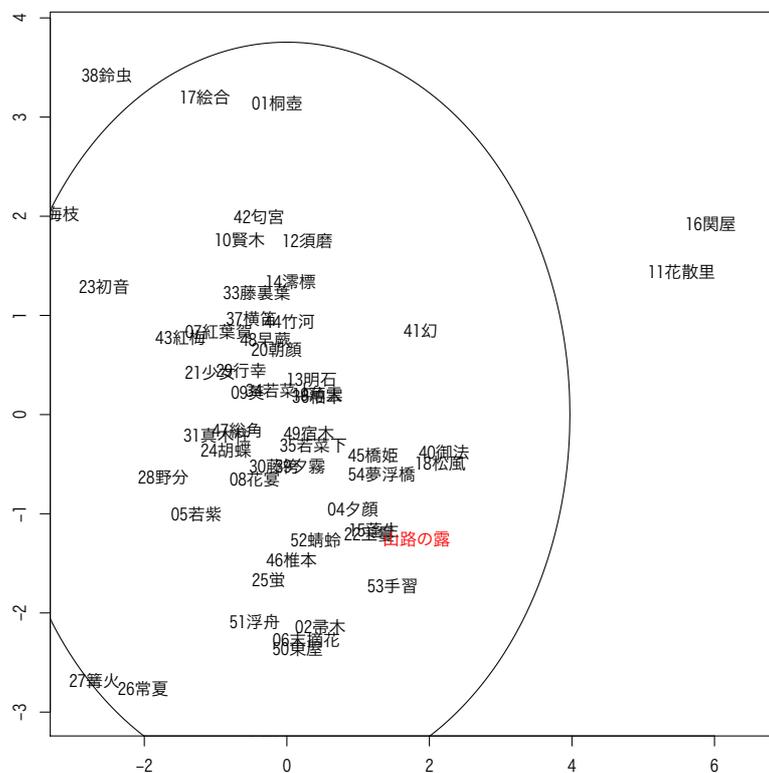
	PC1	PC2
タリ	0.325	-0.166
マジ	0.322	0.053
ム	0.272	-0.174
メリ	0.261	0.035
ツ	0.243	-0.127
マシ	0.241	0.065
ナリ	0.228	-0.061
ジ	0.176	-0.201
ラル	0.132	-0.149
マス	0.131	0.025
ズ	0.107	-0.183
リ	0.105	0.385
ムズ	0	-0.158
シム	-0.005	-0.031
ラシ	-0.008	0.086
マホシ	-0.018	0.168
ベシ	-0.021	-0.167
ケム	-0.064	-0.1
ラム	-0.085	-0.282
ケリ	-0.105	-0.304
ゴトシ	-0.127	0.035
ス	-0.137	0.296
ヌ	-0.239	-0.314
サス	-0.243	0.33
ラルル	-0.246	-0.026
キ	-0.267	-0.284
ル	-0.293	-0.138

付録 13 『源氏物語』に対する主成分分析を用いた『山路の露』の主成分得点の予測

a. 助詞 出現頻度上位 15 語

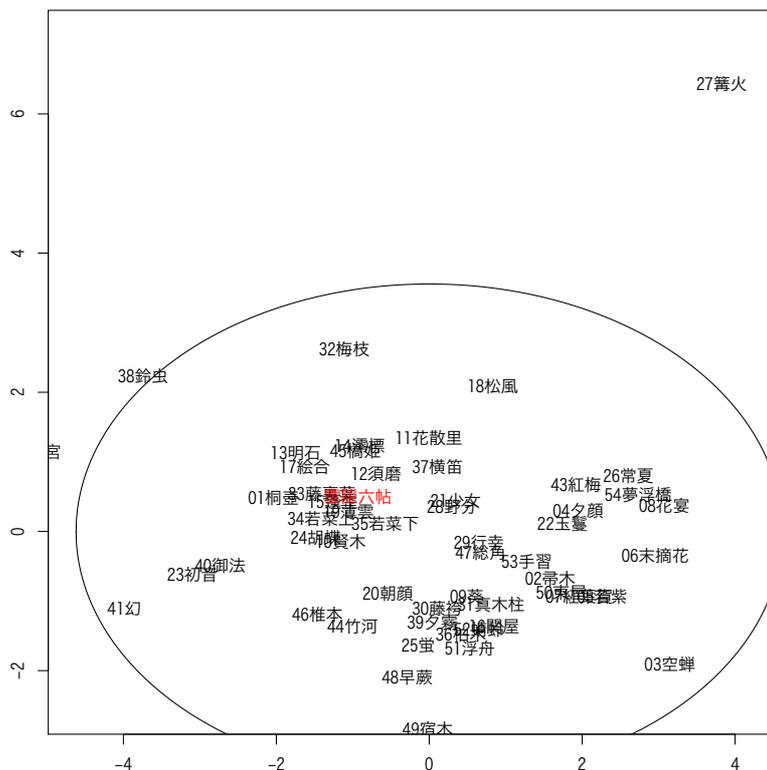


b. 助動詞 出現頻度上位 12 語

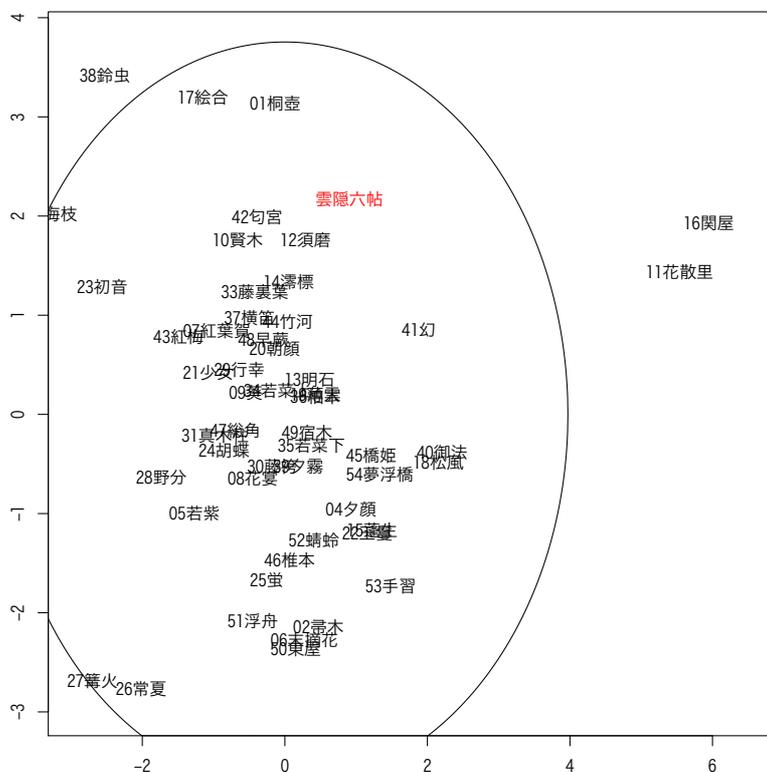


付録 14 『源氏物語』に対する主成分分析を用いた『雲隠六帖』の主成分得点の予測

a. 助詞 出現頻度上位 15 語



b. 助動詞 出現頻度上位 12 語





付録 16 『源氏物語』と『山路の露』の語の長さの集計結果

a. 名詞

	源氏物語		山路の露		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	2952	0.007841	60	0.007165	3012	0.007826
2	25126	0.066740	558	0.066635	25684	0.066738
3	15140	0.040215	351	0.041915	15491	0.040252
4	11724	0.031141	220	0.026272	11944	0.031035
5	5081	0.013496	76	0.009076	5157	0.013400
6	3167	0.008412	49	0.005851	3216	0.008357
7	1269	0.003371	16	0.001911	1285	0.003339
8	613	0.001628	9	0.001075	622	0.001616
9	339	0.000900	1	0.000119	340	0.000883
10	164	0.000436	2	0.000239	166	0.000431
11	40	0.000106	0	0.000000	40	0.000104
12	42	0.000112	0	0.000000	42	0.000109
13	10	0.000027	0	0.000000	10	0.000026
14	7	0.000019	0	0.000000	7	0.000018
16	1	0.000003	0	0.000000	1	0.000003
17	2	0.000005	0	0.000000	2	0.000005

b. 代名詞

	源氏物語		山路の露		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	110	0.000292	2	0.000239	112	0.000291
2	1410	0.003745	45	0.005374	1455	0.003781
3	632	0.001679	21	0.002508	653	0.001697
4	91	0.000242	0	0.000000	91	0.000236
5	10	0.000027	0	0.000000	10	0.000026
8	1	0.000003	0	0.000000	1	0.000003

c. 動詞

	源氏物語		山路の露		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	3738	0.009929	45	0.005374	3783	0.009830
2	14405	0.038263	367	0.043826	14772	0.038384
3	19270	0.051185	391	0.046692	19661	0.051087
4	11067	0.029396	249	0.029735	11316	0.029404
5	8156	0.021664	223	0.026630	8379	0.021772
6	3873	0.010288	76	0.009076	3949	0.010261
7	1677	0.004454	14	0.001672	1691	0.004394
8	456	0.001211	4	0.000478	460	0.001195
9	166	0.000441	0	0.000000	166	0.000431
10	76	0.000202	0	0.000000	76	0.000197
11	7	0.000019	0	0.000000	7	0.000018
12	2	0.000005	0	0.000000	2	0.000005
13	1	0.000003	0	0.000000	1	0.000003

d. 補助動詞

	源氏物語		山路の露		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
2	65	0.00017	0	0.00000	65	0.00017
3	17290	0.04593	348	0.04156	17638	0.04583
4	284	0.00075	0	0.00000	284	0.00074
5	1437	0.00382	41	0.00490	1478	0.00384
6	17	0.00005	0	0.00000	17	0.00004

e. 形容詞

	源氏物語		山路の露		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
2	1847	0.00491	67	0.00800	1914	0.00497
3	4128	0.01096	153	0.01827	4281	0.01112
4	6262	0.01663	137	0.01636	6399	0.01663
5	4783	0.01270	86	0.01027	4869	0.01265
6	3403	0.00904	53	0.00633	3456	0.00898
7	1326	0.00352	14	0.00167	1340	0.00348
8	406	0.00108	1	0.00012	407	0.00106
9	71	0.00019	2	0.00024	73	0.00019
10	10	0.00003	1	0.00012	11	0.00003
11	4	0.00001	0	0.00000	4	0.00001
12	2	0.00001	0	0.00000	2	0.00001

f. 形容動詞

	源氏物語		山路の露		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
2	40	0.000106	0	0.000000	40	0.000104
3	1210	0.003214	1	0.000119	1211	0.003147
4	2387	0.006340	45	0.005374	2432	0.006319
5	2782	0.007390	69	0.008240	2851	0.007408
6	1642	0.004361	67	0.008001	1709	0.004441
7	714	0.001897	18	0.002150	732	0.001902
8	195	0.000518	12	0.001433	207	0.000538
9	68	0.000181	2	0.000239	70	0.000182
10	16	0.000042	0	0.000000	16	0.000042
11	2	0.000005	0	0.000000	2	0.000005
13	1	0.000003	0	0.000000	1	0.000003

## g. 副詞

	源氏物語		山路の露		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	658	0.00175	2	0.00024	660	0.00171
2	9037	0.02400	232	0.02770	9269	0.02408
3	3696	0.00982	112	0.01337	3808	0.00989
4	1387	0.00368	35	0.00418	1422	0.00369
5	725	0.00193	19	0.00227	744	0.00193
6	48	0.00013	2	0.00024	50	0.00013
7	10	0.00003	0	0.00000	10	0.00003
8	36	0.00010	3	0.00036	39	0.00010
9	3	0.00001	0	0.00000	3	0.00001
10	1	0.00000	0	0.00000	1	0.00000

## h. 感動詞

	源氏物語		山路の露		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	3	0.00001	0	0.00000	3	0.00001
2	213	0.00057	1	0.00012	214	0.00056
3	44	0.00012	3	0.00036	47	0.00012

## i. 連体詞

	源氏物語		山路の露		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
2	3082	0.008186	67	0.008001	3149	0.008182
3	23	0.000061	0	0.000000	23	0.000060
4	1	0.000003	0	0.000000	1	0.000003

j. 助詞

	源氏物語		山路の露		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	103577	0.2751	2233	0.2667	105810	0.2749
2	13973	0.0371	358	0.0428	14331	0.0372
3	1201	0.0032	35	0.0042	1236	0.0032
4	185	0.0005	4	0.0005	189	0.0005

k. 助動詞

	源氏物語		山路の露		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	22209	0.0590	626	0.0748	22835	0.0593
2	20124	0.0535	409	0.0488	20533	0.0534
3	1032	0.0027	14	0.0017	1046	0.0027
4	215	0.0006	0	0.0000	215	0.0006
5	38	0.0001	0	0.0000	38	0.0001

付録 17 『源氏物語』と『雲隠六帖』の語の長さの集計結果

a. 名詞

	源氏物語		雲隠六帖		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	2952	0.007841	62	0.010891	3014	0.007887
2	25126	0.066740	390	0.068505	25516	0.066766
3	15140	0.040215	326	0.057263	15466	0.040469
4	11724	0.031141	173	0.030388	11897	0.031130
5	5081	0.013496	81	0.014228	5162	0.013507
6	3167	0.008412	58	0.010188	3225	0.008439
7	1269	0.003371	35	0.006148	1304	0.003412
8	613	0.001628	9	0.001581	622	0.001628
9	339	0.000900	7	0.001230	346	0.000905
10	164	0.000436	3	0.000527	167	0.000437
11	40	0.000106	3	0.000527	43	0.000113
12	42	0.000112	2	0.000351	44	0.000115
13	10	0.000027	1	0.000176	11	0.000029
14	7	0.000019	0	0.000000	7	0.000018
16	1	0.000003	0	0.000000	1	0.000003
17	2	0.000005	0	0.000000	2	0.000005

b. 代名詞

	源氏物語		雲隠六帖		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	110	0.000292	0	0.000000	110	0.000288
2	1410	0.003745	26	0.004567	1436	0.003757
3	632	0.001679	9	0.001581	641	0.001677
4	91	0.000242	1	0.000176	92	0.000241
5	10	0.000027	0	0.000000	10	0.000026
8	1	0.000003	0	0.000000	1	0.000003

c. 動詞

	源氏物語		雲隱六帖		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	3738	0.009929	25	0.004391	3763	0.009846
2	14405	0.038263	246	0.043211	14651	0.038336
3	19270	0.051185	325	0.057088	19595	0.051273
4	11067	0.029396	135	0.023713	11202	0.029312
5	8156	0.021664	122	0.021430	8278	0.021661
6	3873	0.010288	50	0.008783	3923	0.010265
7	1677	0.004454	16	0.002810	1693	0.004430
8	456	0.001211	3	0.000527	459	0.001201
9	166	0.000441	1	0.000176	167	0.000437
10	76	0.000202	0	0.000000	76	0.000199
11	7	0.000019	0	0.000000	7	0.000018
12	2	0.000005	0	0.000000	2	0.000005
13	1	0.000003	0	0.000000	1	0.000003

d. 補助動詞

	源氏物語		雲隱六帖		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
2	65	0.00017	0	0.00000	65	0.00017
3	17290	0.04593	286	0.05024	17576	0.04599
4	284	0.00075	0	0.00000	284	0.00074
5	1437	0.00382	43	0.00755	1480	0.00387
6	17	0.00005	0	0.00000	17	0.00004

e. 形容詞

	源氏物語		雲隱六帖		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
2	1847	0.00491	38	0.00667	1885	0.00493
3	4128	0.01096	106	0.01862	4234	0.01108
4	6262	0.01663	83	0.01458	6345	0.01660
5	4783	0.01270	32	0.00562	4815	0.01260
6	3403	0.00904	20	0.00351	3423	0.00896
7	1326	0.00352	8	0.00141	1334	0.00349
8	406	0.00108	0	0.00000	406	0.00106
9	71	0.00019	0	0.00000	71	0.00019
10	10	0.00003	0	0.00000	10	0.00003
11	4	0.00001	0	0.00000	4	0.00001
12	2	0.00001	0	0.00000	2	0.00001

f. 形容動詞

	源氏物語		雲隱六帖		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
2	40	0.000106	0	0.000000	40	0.000105
3	1210	0.003214	4	0.000703	1214	0.003177
4	2387	0.006340	18	0.003162	2405	0.006293
5	2782	0.007390	23	0.004040	2805	0.007340
6	1642	0.004361	25	0.004391	1667	0.004362
7	714	0.001897	9	0.001581	723	0.001892
8	195	0.000518	5	0.000878	200	0.000523
9	68	0.000181	1	0.000176	69	0.000181
10	16	0.000042	0	0.000000	16	0.000042
11	2	0.000005	0	0.000000	2	0.000005
13	1	0.000003	0	0.000000	1	0.000003

## g. 副詞

	源氏物語		雲隱六帖		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	658	0.001747787	1	0.000175654	659	0.001724368
2	9037	0.024004186	90	0.015808888	9127	0.023882105
3	3696	0.009817359	60	0.010539259	3756	0.009828113
4	1387	0.003684166	28	0.004918321	1415	0.00370255
5	725	0.001925754	10	0.001756543	735	0.001923233
6	48	0.000127498	0	0	48	0.000125599
7	10	2.66E-05	1	0.000175654	11	2.88E-05
8	36	9.56E-05	1	0.000175654	37	9.68E-05
9	3	7.97E-06	0	0	3	7.85E-06
10	1	2.66E-06	0	0	1	2.62E-06

## h. 感動詞

	源氏物語		雲隱六帖		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	3	0.0000	0	0.0000	3	0.0000
2	213	0.0006	4	0.0007	217	0.0006
3	44	0.0001	2	0.0004	46	0.0001

## i. 連体詞

	源氏物語		雲隱六帖		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
2	3082	0.008186	46	0.008080	3128	0.008185
3	23	0.000061	0	0.000000	23	0.000060
4	1	0.000003	0	0.000000	1	0.000003

## j. 助詞

	源氏物語		雲隱六帖		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	103577	0.2751	1754	0.3081	105331	0.2756
2	13973	0.0371	176	0.0309	14149	0.0370
3	1201	0.0032	29	0.0051	1230	0.0032
4	185	0.0005	0	0.0000	185	0.0005

k. 助動詞

	源氏物語		雲隱六帖		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	22209	0.0590	331	0.0581	22540	0.0590
2	20124	0.0535	195	0.0343	20319	0.0532
3	1032	0.0027	6	0.0011	1038	0.0027
4	215	0.0006	0	0.0000	215	0.0006
5	38	0.0001	0	0.0000	38	0.0001

付録 18 『源氏物語』と『手枕』の語の長さの集計結果

a. 名詞

	源氏物語		手枕		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	2952	0.007841	19	0.008644	2971	0.007846
2	25126	0.066740	162	0.073703	25288	0.066780
3	15140	0.040215	80	0.036397	15220	0.040193
4	11724	0.031141	99	0.045041	11823	0.031222
5	5081	0.013496	31	0.014104	5112	0.013500
6	3167	0.008412	11	0.005005	3178	0.008392
7	1269	0.003371	2	0.000910	1271	0.003356
8	613	0.001628	1	0.000455	614	0.001621
9	339	0.000900	1	0.000455	340	0.000898
10	164	0.000436	0	0.000000	164	0.000433
11	40	0.000106	0	0.000000	40	0.000106
12	42	0.000112	1	0.000455	43	0.000114
13	10	0.000027	0	0.000000	10	0.000026
14	7	0.000019	0	0.000000	7	0.000018
16	1	0.000003	0	0.000000	1	0.000003
17	2	0.000005	0	0.000000	2	0.000005

b. 代名詞

	源氏物語		手枕		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	110	0.000292183	0	0	110	0.000290487
2	1410	0.003745259	3	0.001364877	1413	0.003731442
3	632	0.001678726	1	0.000454959	633	0.001671623
4	91	0.000241715	0	0	91	0.000240312
5	10	2.66E-05	0	0	10	2.64E-05
8	1	2.66E-06	0	0	1	2.64E-06

c. 動詞

	源氏物語		手枕		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	3738	0.009929	13	0.005914	3751	0.009906
2	14405	0.038263	72	0.032757	14477	0.038231
3	19270	0.051185	76	0.034577	19346	0.051089
4	11067	0.029396	62	0.028207	11129	0.029389
5	8156	0.021664	61	0.027753	8217	0.021699
6	3873	0.010288	33	0.015014	3906	0.010315
7	1677	0.004454	15	0.006824	1692	0.004468
8	456	0.001211	3	0.001365	459	0.001212
9	166	0.000441	1	0.000455	167	0.000441
10	76	0.000202	0	0.000000	76	0.000201
11	7	0.000019	1	0.000455	8	0.000021
12	2	0.000005	0	0.000000	2	0.000005
13	1	0.000003	0	0.000000	1	0.000003

d. 補助動詞

	源氏物語		手枕		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
2	65	0.000	0	0.000	65	0.000
3	17290	0.046	98	0.045	17388	0.046
4	284	0.001	0	0.000	284	0.001
5	1437	0.004	11	0.005	1448	0.004
6	17	0.000	0	0.000	17	0.000

e. 形容詞

	源氏物語		手枕		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
2	1847	0.004906	18	0.008189	1865	0.004925
3	4128	0.010965	43	0.019563	4171	0.011015
4	6262	0.016633	44	0.020018	6306	0.016653
5	4783	0.012705	42	0.019108	4825	0.012742
6	3403	0.009039	27	0.012284	3430	0.009058
7	1326	0.003522	7	0.003185	1333	0.003520
8	406	0.001078	3	0.001365	409	0.001080
9	71	0.000189	0	0.000000	71	0.000187
10	10	0.000027	0	0.000000	10	0.000026
11	4	0.000011	0	0.000000	4	0.000011
12	2	0.000005	0	0.000000	2	0.000005

f. 形容動詞

	源氏物語		手枕		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
2	40	0.000106	0	0.000000	40	0.000106
3	1210	0.003214	0	0.000000	1210	0.003195
4	2387	0.006340	11	0.005005	2398	0.006333
5	2782	0.007390	26	0.011829	2808	0.007415
6	1642	0.004361	24	0.010919	1666	0.004400
7	714	0.001897	3	0.001365	717	0.001893
8	195	0.000518	2	0.000910	197	0.000520
9	68	0.000181	0	0.000000	68	0.000180
10	16	0.000042	0	0.000000	16	0.000042
11	2	0.000005	0	0.000000	2	0.000005
13	1	0.000003	0	0.000000	1	0.000003

## g. 副詞

	源氏物語		手枕		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	658	0.001748	7	0.003185	665	0.001756
2	9037	0.024004	52	0.023658	9089	0.024002
3	3696	0.009817	29	0.013194	3725	0.009837
4	1387	0.003684	9	0.004095	1396	0.003687
5	725	0.001926	4	0.001820	729	0.001925
6	48	0.000127	0	0.000000	48	0.000127
7	10	0.000027	0	0.000000	10	0.000026
8	36	0.000096	0	0.000000	36	0.000095
9	3	0.000008	0	0.000000	3	0.000008
10	1	0.000003	0	0.000000	1	0.000003

## h. 感動詞

	源氏物語		手枕		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	3	0.000008	0	0.000000	3	0.000008
2	213	0.000566	1	0.000455	214	0.000565
3	44	0.000117	1	0.000455	45	0.000119

## i. 連体詞

	源氏物語		手枕		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
2	3082	0.008186	10	0.004550	3092	0.008165
3	23	0.000061	0	0.000000	23	0.000061
4	1	0.000003	0	0.000000	1	0.000003

## j. 助詞

	源氏物語		手枕		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	103577	0.2751	606	0.2757	104183	0.2751
2	13973	0.0371	83	0.0378	14056	0.0371
3	1201	0.0032	9	0.0041	1210	0.0032
4	185	0.0005	1	0.0005	186	0.0005

## k. 助動詞

	源氏物語		手枕		合計	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	22209	0.0590	136	0.0619	22345	0.0590
2	20124	0.0535	64	0.0291	20188	0.0533
3	1032	0.0027	3	0.0014	1035	0.0027
4	215	0.0006	0	0.0000	215	0.0006
5	38	0.0001	0	0.0000	38	0.0001

付録 19 『源氏物語』の語の長さの集計結果

a. 名詞

	他 41 卷		匂宮三帖		宇治十帖	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	2071	0.008225	110	0.008284	771	0.006920
2	16681	0.066250	817	0.061530	7628	0.068467
3	10437	0.041452	495	0.037280	4208	0.037770
4	8164	0.032424	511	0.038485	3049	0.027367
5	3595	0.014278	242	0.018226	1244	0.011166
6	2267	0.009004	155	0.011673	745	0.006687
7	904	0.003590	84	0.006326	281	0.002522
8	429	0.001704	38	0.002862	146	0.001310
9	262	0.001041	17	0.001280	60	0.000539
10	111	0.000441	27	0.002033	26	0.000233
11	28	0.000111	1	0.000075	11	0.000099
12	28	0.000111	4	0.000301	10	0.000090
13	8	0.000032	0	0.000000	2	0.000018
14	5	0.000020	0	0.000000	2	0.000018
16	1	0.000004	0	0.000000	0	0.000000
17	1	0.000004	0	0.000000	1	0.000009

b. 代名詞

	他 41 卷		匂宮三帖		宇治十帖	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	76	0.000302	3	0.000226	31	0.000278
2	849	0.003372	45	0.003389	516	0.004631
3	423	0.001680	22	0.001657	187	0.001678
4	57	0.000226	7	0.000527	27	0.000242
5	6	0.000024	1	0.000075	3	0.000027
8	1	0.000004	0	0.000000	0	0.000000

c. 動詞

	他 41 卷		句宮三帖		宇治十帖	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	2437	0.009679	128	0.009640	1173	0.010529
2	9379	0.037250	456	0.034343	4570	0.041019
3	12899	0.051230	688	0.051815	5683	0.051009
4	7520	0.029867	387	0.029146	3160	0.028363
5	5464	0.021701	281	0.021163	2411	0.021641
6	2647	0.010513	134	0.010092	1092	0.009802
7	1119	0.004444	70	0.005272	488	0.004380
8	326	0.001295	9	0.000678	121	0.001086
9	109	0.000433	8	0.000603	49	0.000440
10	56	0.000222	3	0.000226	17	0.000153
11	6	0.000024	0	0.000000	1	0.000009
12	1	0.000004	1	0.000075	0	0.000000
13	0	0.000000	0	0.000000	1	0.000009

d. 補助動詞

	他 41 卷		句宮三帖		宇治十帖	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
2	48	0.00019	1	0.00008	16	0.00014
3	11776	0.04677	653	0.04918	4861	0.04363
4	181	0.00072	4	0.00030	99	0.00089
5	962	0.00382	57	0.00429	418	0.00375
6	13	0.00005	0	0.00000	4	0.00004

e. 形容詞

	他 41 卷		句宮三帖		宇治十帖	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
2	1279	0.005080	70	0.005272	498	0.004470
3	2823	0.011212	128	0.009640	1177	0.010564
4	4237	0.016828	190	0.014309	1835	0.016471
5	3207	0.012737	161	0.012125	1415	0.012701
6	2308	0.009166	119	0.008962	976	0.008760
7	940	0.003733	45	0.003389	341	0.003061
8	281	0.001116	11	0.000828	114	0.001023
9	51	0.000203	1	0.000075	19	0.000171
10	7	0.000028	0	0.000000	3	0.000027
11	3	0.000012	0	0.000000	1	0.000009
12	2	0.000008	0	0.000000	0	0.000000

f. 形容動詞

	他 41 卷		句宮三帖		宇治十帖	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
2	29	0.000115	0	0	11	0.00010
3	807	0.003205	48	0.003615	355	0.00319
4	1582	0.006283	64	0.004820	741	0.00665
5	1888	0.007498	96	0.007230	798	0.00716
6	1120	0.004448	59	0.004443	463	0.00416
7	422	0.001676	29	0.002184	263	0.00236
8	121	0.000481	3	0.000226	71	0.00064
9	42	0.000167	3	0.000226	23	0.00021
10	9	0.000036	1	0.000075	6	0.00005
11	1	0.000004	0	0	1	0.00001
13	1	0.000004	0	0	0	0

## g. 副詞

	他 41 卷		句宮三帖		宇治十帖	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	457	0.00182	14	0.00105	187	0.00168
2	6035	0.02397	284	0.02139	2718	0.02440
3	2445	0.00971	127	0.00956	1124	0.01009
4	918	0.00365	47	0.00354	422	0.00379
5	493	0.00196	28	0.00211	204	0.00183
6	36	0.00014	2	0.00015	10	0.00009
7	6	0.00002	0	0.00000	4	0.00004
8	22	0.00009	1	0.00008	13	0.00012
9	3	0.00001	0	0.00000	0	0.00000
10	1	0.00000	0	0.00000	0	0.00000

## h. 接続詞

	他 41 卷		句宮三帖		宇治十帖	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
2	159	0.000631	7	0.000527	79	0.000709
3	29	0.000115	2	0.000151	12	0.000108
4	1	0.000004	1	0.000075	0	0.000000

## i. 感動詞

	他 41 卷		句宮三帖		宇治十帖	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	3	0.00001	0	0.00000	0	0.00000
2	151	0.00060	5	0.00038	57	0.00051
3	31	0.00012	2	0.00015	11	0.00010

## j. 連体詞

	他 41 卷		句宮三帖		宇治十帖	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
2	1995	0.00792	124	0.00934	963	0.00864
3	11	0.00004	1	0.00008	11	0.00010
4	0	0.00000	1	0.00008	0	0.00000

## k. 助詞

	他 41 卷		句宮三帖		宇治十帖	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	69169	0.2747	3750	0.2824	30658	0.2752
2	9011	0.0358	483	0.0364	4479	0.0402
3	834	0.0033	28	0.0021	339	0.0030
4	126	0.0005	5	0.0004	54	0.0005

## l. 助動詞

	他 41 卷		句宮三帖		宇治十帖	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
1	14517	0.05766	743	0.05596	6949	0.06237
2	13104	0.05204	667	0.05023	6353	0.05702
3	648	0.00257	32	0.00241	352	0.00316
4	131	0.00052	11	0.00083	73	0.00066
5	31	0.00012	2	0.00015	5	0.00004

付録 20 『源氏物語』と『宇津保物語』における特徴語<sup>1</sup>

a. 名詞

	源氏物語	宇津保物語	P値		源氏物語	宇津保物語	P値
サマ	1348	138	1.60E-177	ニヨウゴノキミ	15	126	7.02E-25
コト	4496	2145	2.80E-114	ヒトツ	43	173	8.96E-24
アリスアマ	694	47	2.08E-103	ナカヨリ	0	83	1.11E-22
ダイシヤウ	137	579	3.31E-79	ワザ	318	87	1.19E-22
ココロ	1483	508	7.39E-75	ヲリヲリ	141	9	2.72E-22
ナカタダ	0	263	2.71E-69	アマギミ	113	0	3.52E-22
ケハヒ	355	6	2.11E-63	ココロノウチ	139	9	6.30E-22
ケシキ	644	139	4.68E-56	ヤマ	75	214	9.11E-22
ホド	1571	655	3.83E-55	ミンブキヤウ	1	81	1.75E-21
ヨ	965	313	3.49E-53	ミ	630	271	2.51E-21
ヒト	3463	1919	9.76E-53	サガノキン	1	79	5.77E-21
アテミヤ	0	178	2.68E-47	カンノオトド	0	75	1.33E-20
フチツボ	12	197	1.57E-44	ヒトビト	696	317	1.66E-20
ウヘ	66	287	1.20E-40	ゲンサイシヤウ	0	74	2.42E-20
ノ	11	164	1.10E-36	キン	32	136	1.19E-19
カタ	874	344	5.51E-35	アタリ	166	25	2.04E-19
チュウナゴン	49	230	2.09E-34	ヒヤウエ	0	68	8.82E-19
オトド	311	575	3.72E-30	アハレ	101	2	9.48E-19
イヌミヤ	0	111	6.02E-30	テ	35	137	9.84E-19
トキ	187	402	9.76E-28	キハ	99	2	2.23E-18
シロガネ	6	116	2.30E-27	モト	98	226	7.65E-18
コ	138	329	1.57E-26	イチノミヤ	3	69	4.35E-17
ココロバヘ	198	22	2.88E-26	トシカゲ	1	64	4.58E-17
キタノカタ	80	242	6.56E-26	ヒダリノオトド	4	71	5.37E-17
オボエ	150	7	5.35E-25	ユキマサ	0	60	1.07E-16

<sup>1</sup> 特徴語の抽出にはカイ二乗検定の P 値を利用した。

b. 代名詞

	源氏物語	宇津保物語	P値		源氏物語	宇津保物語	P値
ソコ	24	168	6.06E-18	イツラ	15	9	0.084687208
コナタ	182	95	7.93E-15	ナ	3	0	0.158465118
ワレ	301	222	2.18E-12	オノラ	1	6	0.248021783
イツカタ	52	7	5.03E-12	オノレ	26	46	0.282628456
ソレ	204	450	8.33E-11	イツレ	58	63	0.312960865
ナニガシ	32	2	4.57E-09	タレタレ	3	9	0.33146008
ソ	10	69	7.46E-08	ナレ	2	0	0.361092241
ワ	53	18	1.18E-07	イツチ	6	13	0.436567551
ココ	250	484	1.49E-07	カレラ	0	2	0.606456644
コ	27	3	5.01E-07	キンヂ	0	2	0.606456644
コレ	367	647	1.16E-06	クソ	0	2	0.606456644
カシコ	125	99	0.000105731	オノ	4	3	0.709437835
カナタ	37	18	0.0004426	ア	3	2	0.752872693
アナタ	69	49	0.000859431	イツク	31	44	0.855770099
ナンヂ	0	16	0.001242526	アレ	4	7	0.88681578
タレ	127	111	0.001249708	アシコモト	1	0	0.888064997
イツコ	39	22	0.001439553	オノレラ	1	0	0.888064997
コレラ	2	20	0.002644269	オレ	1	0	0.888064997
ナニガシラ	8	0	0.003736973	カ	1	0	0.888064997
タ	13	4	0.010964667	キンヂラ	1	0	0.888064997
カレ	89	160	0.020632663	ナニガシクレガシ	1	0	0.888064997
ソレラ	1	12	0.021662063	マシ	1	0	0.888064997
ソナタ	31	22	0.031937257	ワレワレ	1	0	0.888064997
マウト	4	0	0.072343801	コチ	4	4	0.967243684
アシコ	1	9	0.073122797	アレラ	0	1	1

c. 動詞

	源氏物語	宇津保物語	P値		源氏物語	宇津保物語	P値
ス	1665	2026	3.30E-75	オモホス	75	174	3.24E-21
タテマツル	251	593	1.28E-70	ツカウマツル	194	301	1.91E-20
ハベリ	460	789	2.21E-61	クフ	12	81	9.56E-20
ノタマフ	1124	1438	4.28E-61	オボシイヅ	176	18	2.15E-18
オボス	1838	583	7.12E-61	ヌ	53	134	4.38E-18
タマフ	57	281	9.84E-58	スム	74	159	6.13E-18
ヒク	56	221	1.27E-40	ソフ	311	75	8.02E-17
オホス	34	184	7.41E-40	マウデク	7	62	1.37E-16
モテナス	316	16	1.66E-39	オモヒヨル	114	5	1.97E-15
ココチス	492	82	5.32E-37	オシハカル	95	0	2.56E-15
マウス	201	388	1.35E-36	マウノボル	19	77	3.65E-15
イル	277	463	5.37E-35	ミユ	889	372	4.09E-15
モノス	525	709	7.74E-35	オボユ	673	258	4.34E-15
マキル	660	821	9.98E-33	アリ	3686	2998	6.66E-15
タマハル	34	160	1.10E-32	カキツク	17	73	7.01E-15
キコユ	1339	1398	3.97E-31	イダス	33	95	1.06E-14
タツ	198	353	7.60E-30	ツカマツル	10	60	2.48E-14
アソバス	6	97	2.28E-28	ナス	80	149	3.62E-14
ウケタマハル	83	203	6.77E-26	ハジム	89	158	5.49E-14
オモホユ	27	125	1.33E-25	タガフ	142	18	1.16E-13
ツク	142	262	1.25E-23	オモヒイヅ	243	58	1.39E-13
スグス	258	35	6.46E-23	マカヅ	129	196	2.89E-13
ウチトク	151	3	5.82E-22	オモヒシル	131	16	6.16E-13
スウ	27	112	8.43E-22	テウズ	10	55	8.33E-13
トル	116	223	1.80E-21	シノブ	217	50	9.32E-13

d. 補助動詞

	源氏物語	宇津保物語	P値
キコユ	1427	152	4.78E-113
タマフ	14368	8992	6.12E-48
キコエサス	145	14	9.21E-13
タウブ	5	17	0.000157759
オハシマス	0	6	0.004773686
タブ	0	5	0.012472331
タテマツル	1395	726	0.044024624
ハベリ	2021	1078	0.070774703
サブラフ	0	3	0.090058351
マウス	53	41	0.16937697
タイマツル	0	2	0.254747058
タマフヒ	0	2	0.254747058
ハンベリ	0	2	0.254747058
マス	0	2	0.254747058
オハシマサフ	0	1	0.775381904
キコユ.1	0	1	0.775381904
タウベ	0	1	0.775381904
タマハス	0	1	0.775381904
タマヒ	0	1	0.775381904
タマヘ	0	1	0.775381904
ツカマツル	0	1	0.775381904
ハヘリ	0	1	0.775381904
マダス	0	1	0.775381904
マツル	0	1	0.775381904
マキル	0	1	0.775381904
モチタマフ	0	1	0.775381904

e. 形容詞

	源氏物語	宇津保物語	P値		源氏物語	宇津保物語	P値
ヨシ	482	514	1.13E-55	コトモナシ	8	23	1.13E-07
オモシロシ	142	219	2.11E-39	ココロヤスシ	163	21	1.48E-07
カシコシ	74	150	3.58E-35	ハシタナシ	104	7	1.79E-07
ハヤシ	42	106	1.97E-29	コトゴトシ	114	10	3.42E-07
ナシ	1338	880	6.38E-29	オソロシ	106	90	4.11E-07
オナジ	294	291	6.85E-28	ヒロシ	30	40	5.67E-07
ヒサシ	106	148	3.90E-24	ヤスシ	14	27	6.29E-07
カギリナシ	166	187	1.24E-22	アラシ	5	18	7.89E-07
ココログルシ	288	17	1.16E-19	ウシ	194	32	8.05E-07
チヒサシ	53	91	6.70E-19	オソシ	9	22	9.13E-07
シロシ	78	111	8.57E-19	アシ	91	79	1.16E-06
タカシ	86	113	2.18E-17	ココロヅキナシ	65	1	1.41E-06
イタシ	362	43	1.66E-16	ハカバカシ	102	9	1.57E-06
ナツカシ	196	7	9.60E-16	イトホシ	339	78	2.42E-06
ヒトシ	15	44	5.68E-14	トシ	77	69	2.59E-06
クチヲシ	286	36	1.20E-12	アイナシ	101	10	4.37E-06
ニナシ	31	56	1.34E-12	トコロセシ	88	7	4.56E-06
メテタシ	211	172	1.86E-11	イワケナシ	57	1	7.86E-06
アヤシ	508	322	1.19E-09	シタシ	62	2	8.10E-06
オホシ	550	343	1.36E-09	ツツマシ	113	14	9.49E-06
ハカナシ	293	49	1.51E-09	オボツカナシ	130	97	1.06E-05
イカメシ	76	80	2.33E-09	イマメカシ	79	6	1.16E-05
ワリナシ	161	17	1.11E-08	オドロオドロシ	69	4	1.41E-05
ウラメシ	81	0	1.40E-08	アサシ	94	10	1.69E-05
ワビシ	43	53	4.14E-08	フタツナシ	4	14	1.98E-05

f. 形容動詞

	源氏物語	宇津保物語	P値		源氏物語	宇津保物語	P値
キヨラナリ	92	159	1.60E-49	エンナリ	52	0	0.000106209
オホキナリ	25	79	1.80E-35	トリドリナリ	49	0	0.000175211
オホイナリ	1	40	8.71E-28	ケザヤカナリ	45	0	0.000342314
イタヅラナリ	29	65	1.27E-24	マホナリ	45	0	0.000342314
セチナリ	48	75	6.28E-22	サカサマナリ	4	9	0.000427591
イカナリ	615	338	1.68E-18	ウツクシゲナリ	65	41	0.000468318
フサナリ	0	23	7.18E-17	スミヤカナリ	0	5	0.000507982
サスガナリ	279	14	1.68E-14	アカラカナリ	1	6	0.000665056
イササカナリ	14	33	2.59E-13	ネンゴロナリ	47	1	0.000750062
ココロシヅカナリ	1	15	3.37E-10	コトワリナリ	151	22	0.000782578
オモフヤウナリ	33	41	3.69E-10	ウチツケナリ	40	0	0.000794216
アカラサマナリ	18	28	9.39E-09	ヒタブルナリ	39	0	0.000940471
タヒラカナリ	19	28	2.16E-08	シヅカナリ	66	40	0.001078678
ミソカナリ	2	13	6.05E-08	サマコトナリ	44	1	0.001236722
アナガチナリ	111	2	6.14E-08	コトゴトナリ	4	8	0.001636327
フヨウナリ	6	17	6.53E-08	オホドカナリ	41	1	0.002042045
ユタカナリ	5	15	3.09E-07	マメヤカナリ	103	54	0.002341414
コマヤカナリ	99	2	4.32E-07	カウヤウナリ	33	0	0.002608733
キヨゲナリ	64	49	1.63E-06	ヒトワラヘナリ	43	2	0.003982178
ノドヤカナリ	74	1	8.69E-06	カリソメナリ	30	0	0.004365557
ラウタゲナリ	98	5	9.92E-06	ワカヤカナリ	42	2	0.004690244
タダナリ	31	29	1.55E-05	ナダラカナリ	36	1	0.004727958
フピンナリ	8	14	3.46E-05	ナカナカナリ	58	5	0.004855035
モノアハレナリ	56	0	5.46E-05	オホキヤカナリ	4	7	0.005968073
メヅラカナリ	64	43	0.000102837	カウザクナリ	4	7	0.005968073

## g. 副詞

	源氏物語	宇津保物語	P値		源氏物語	宇津保物語	P値
サテ	67	186	1.55E-39	マコトニ	150	33	4.93E-06
ナカナカ	233	8	5.13E-24	イサ	3	17	5.46E-06
スナハチ	2	55	1.52E-22	ヤヲラ	53	3	9.72E-06
イトド	338	43	2.67E-21	ハナハダ	3	15	3.49E-05
カクテ	154	190	2.52E-16	ヲサヲサ	84	14	4.69E-05
イカデ	187	216	2.56E-16	ココバク	0	10	5.18E-05
オノヅカラ	203	24	6.95E-14	イカガ	253	193	6.50E-05
カク	1054	772	7.54E-14	カラウジテ	27	38	6.77E-05
タビタビ	38	78	1.34E-13	カウカウ	4	15	0.000111995
スコシ	482	128	3.36E-12	シカ	66	67	0.000126687
イト	4224	1876	2.13E-11	ナベテ	63	9	0.000160799
ヤウヤウ	135	15	5.77E-10	オノオノ	59	8	0.000193229
ナド	48	75	7.22E-10	マダ	229	172	0.00029927
サテモ	33	61	7.31E-10	ワキテ	6	16	0.000346801
ワザト	104	7	9.24E-10	ヤヤ	26	0	0.00050676
マシテ	284	70	9.83E-09	オノガジシ	24	0	0.000887189
ソコバク	1	18	1.07E-07	ナテフ	0	7	0.001089207
モロトモニ	49	67	1.56E-07	マニマニ	0	7	0.001089207
カウ	290	79	2.09E-07	ワイテ	0	7	0.001089207
ナテフ	1	17	2.86E-07	エ	659	419	0.001270847
イヨイヨ	104	14	4.56E-07	アマタ	197	145	0.001734016
イマダ	2	18	5.23E-07	スベテ	82	71	0.002019797
サラニ	238	197	1.33E-06	カヘリテ	36	4	0.002138923
ゲニ	458	156	3.39E-06	マヅ	172	128	0.002507918
ヨヒトヨ	14	30	4.54E-06	イクラ	0	6	0.003050574

## h. 助詞

	源氏物語	宇津保物語	P値		源氏物語	宇津保物語	P値
モ	12096	4973	3.68E-192	カ	503	433	4.87E-05
ガ	2	231	3.09E-76	ナ	91	102	0.000258025
ド	2431	903	4.98E-51	ナドテ	0	10	0.000354061
シテ	128	323	2.25E-43	バ	5506	3901	0.000416869
ナド	3849	1712	2.37E-43	カナ	670	541	0.000465138
ナム	1802	1711	6.23E-28	カシ	587	308	0.00127707
ハ	9001	6893	1.43E-22	ヤハ	157	150	0.001305522
ヨリ	1346	1252	8.33E-19	ノ	14307	9781	0.002995091
ニ	18331	13221	7.46E-18	ヤ	1994	1442	0.007123804
ヨ	206	34	9.68E-16	バヤ	86	34	0.013975698
コソ	1869	1608	2.57E-15	テシガナ	0	5	0.021597378
ヲ	9608	5574	3.23E-15	テシカナ	26	32	0.023195729
ヘ	93	147	1.45E-11	ガ	472	362	0.032309705
トモ	251	292	2.82E-11	ダニ	586	335	0.040339055
ツツ	14	54	5.20E-11	モノノ	14	2	0.048815902
ドモ	90	140	8.62E-11	ナドカハ	0	4	0.050861296
サヘ	324	104	9.18E-11	カハ	173	89	0.065437011
シ	378	135	6.83E-10	ソ	92	81	0.067224619
ナガラ	419	160	3.37E-09	モノカハ	3	7	0.102392224
テ	16054	11287	1.54E-08	カ	0	3	0.122696696
モノカラ	139	32	3.03E-08	ガテラ	0	3	0.122696696
ナンド	6	31	1.10E-07	シモ	0	3	0.122696696
ツツ	799	384	3.53E-07	ハバ	0	3	0.122696696
ノミ	738	355	1.07E-06	モノヲ	163	125	0.224047398
バカリ	593	501	4.45E-05	ゾ	1699	1068	0.229451294

i. 助動詞

	源氏物語	宇津保物語	P値		源氏物語	宇津保物語	P値
ケリ	3637	1202	6.72E-73	ナリ	3536	2199	0.021636985
キ	2997	2547	1.71E-47	ラシ	5	9	0.065200607
ゴトシ	36	157	4.14E-37	ニ	0	3	0.09586132
ベシ	2895	1163	2.62E-29	マシ	398	204	0.130295907
ツ	1485	1218	5.03E-19	ズ	5576	3365	0.143399982
ス	1267	1049	2.72E-17	マホシ	204	102	0.211924896
ル	1453	571	1.90E-16	ケラシ	0	2	0.264646689
シム	3	47	2.08E-16	ゴトクナリ	0	2	0.264646689
ム	4766	3262	3.03E-13	マス	2	0	0.726581642
リ	3380	1614	2.57E-12	ゲンサイシヤウ	0	1	0.786584114
マジ	472	149	2.56E-11	サシム	0	1	0.786584114
ムズ	1	22	1.91E-08	タル	0	1	0.786584114
ラル	646	523	2.91E-08	テ	0	1	0.786584114
ケム	479	184	1.05E-06	ヌ	0	1	0.786584114
タリ	4312	2269	1.53E-05	ム	0	1	0.786584114
サス	686	503	0.000122653	メ	0	1	0.786584114
ラム	670	472	0.002110357	リ	0	1	0.786584114
ジ	521	363	0.011543823	ンズ	0	1	0.786584114
ヌ	3219	1759	0.015987093	メリ	978	578	0.880869576

付録 21 『源氏物語』と『山路の露』における特徴語

a. 名詞

	源氏物語	山路の露	P値
ヲノ	7	8	3.28E-40
トコロ	1	5	2.51E-37
ヤマヂ	9	8	2.63E-35
アマギミ	113	19	5.96E-23
ハシツカタ	4	4	3.42E-17
ウツツ	19	7	5.56E-17
ハハギミ	73	13	1.01E-16
ユメ	138	18	1.90E-16
イクヘ	0	2	1.70E-13
カヨヒヂ	0	2	1.70E-13
ハセマウデ	0	2	1.70E-13
ヤマビト	3	3	4.00E-12
ウコン	101	12	5.30E-10
ユクカタ	10	4	8.03E-10
サシスギビト	1	2	2.93E-09
ユメウツツ	1	2	2.93E-09
ヒカリ	84	10	1.98E-08
ノドケサ	2	2	4.00E-07
アハレ	101	10	7.97E-07
ケブリ	39	6	9.75E-07
ダイシヤウドノ	69	8	1.23E-06
アラヌサマ	9	3	3.19E-06
ウサ	20	4	1.08E-05
サマ	1348	51	1.43E-05
オモカゲ	33	5	1.48E-05
ソデ	127	10	3.69E-05
オク	23	4	4.76E-05
ナラヒ	12	3	5.00E-05
ツレナサ	4	2	5.76E-05
ミヤコ	40	5	0.000127123
ウマ	5	2	0.000242676
メノマヘ	15	3	0.000316746
ツキ	126	9	0.000362335
ハジメ	65	6	0.000544571

b. 代名詞

	源氏物語	山路の露	P値		源氏物語	山路の露	P値
イツク	31	6	1.42E-05	ア	3	0	1
ココ	250	2	0.053482932	タレタレ	3	0	1
ワレ	301	13	0.23429277	ナ	3	0	1
コレ	367	15	0.271365013	タ	13	0	1
イツレ	58	0	0.344515697	アレ	4	0	1
ワ	53	0	0.38588854	オノ	4	0	1
イツカタ	52	0	0.394857357	コチ	4	0	1
コ	27	2	0.470778896	マウト	4	0	1
イツコ	39	0	0.538538856	オノレ	26	1	1
ソレ	204	8	0.581011114	カナタ	37	1	1
ナニガシ	32	0	0.644438929	アシコ	1	0	1
アナタ	69	1	0.692197713	アシコモト	1	0	1
カシコ	125	5	0.710643971	オノラ	1	0	1
マロ	38	2	0.755922522	オノレラ	1	0	1
ソコ	24	0	0.805021305	オレ	1	0	1
タレ	127	3	0.869417616	カ	1	0	1
カレ	89	2	0.916674807	キンチラ	1	0	1
コレラ	2	0	1	ソレラ	1	0	1
ナレ	2	0	1	ナニガシクレガシ	1	0	1
ナニガシラ	8	0	1	マシ	1	0	1
イツラ	15	0	1	ワレワレ	1	0	1
イツチ	6	0	1	コナタ	182	6	1
ソナタ	31	1	1	ソ	10	0	1

c. 動詞

	源氏物語	山路の露	P値
ソヘ	0	3	2.01E-22
トリイダス	1	3	6.15E-17
アヒムカフ	0	2	9.52E-13
トヂメハツ	0	2	9.52E-13
マボリキル	0	2	9.52E-13
ウチタユ	4	3	7.55E-10
マヨフ	10	4	3.08E-09
イヒイル	1	2	9.33E-09
オボシムスポホル	1	2	9.33E-09
ワケイツ	1	2	9.33E-09
タタク	5	3	1.17E-08
オモヒナゲク	39	7	1.71E-08
ウチナク	75	9	3.89E-07
カタリイツ	9	3	7.20E-06
ヨロコビオモフ	3	2	1.59E-05
キザリイツ	21	4	3.94E-05
アヒミル	34	5	4.69E-05
ヤツス	22	4	6.27E-05
イヒチラス	4	2	0.000104491
オモガハリス	4	2	0.000104491
フシマロブ	4	2	0.000104491
カカル	37	5	0.000116149
ワク	71	7	0.000146739
オモヒシル	131	10	0.000148722
ナガラフ	55	6	0.00019407
イソグ	114	9	0.000237562
タメラフ	26	4	0.000296458
ヨリキル	26	4	0.000296458
マギラハス	59	6	0.000404689
カキオク	5	2	0.000405666
ナガメイル	5	2	0.000405666

d. 補助動詞

	源氏物語	山路の露	P値
キコエサス	145	7	0.039213796
タマフ	14368	270	0.046874198
キコユ	1427	37	0.129734789
タテマツル	1395	34	0.282603049
マウス	53	0	0.591737288
ハベリ	2021	41	1
タウブ	5	0	1

e. 形容詞

	源氏物語	山路の露	P値		源氏物語	山路の露	P値
コチタシ	23	6	1.34E-09	ノガレガタシ	9	2	0.01102577
ウシ	194	16	5.08E-07	ウトウトシ	23	3	0.011474641
カヒナシ	120	12	5.49E-07	アサマシ	201	10	0.027336744
セムカタナシ	8	3	4.82E-06	ウチオキガタシ	1	1	0.030329129
ナニトナシ	22	4	0.000118528	カヒガヒシ	1	1	0.030329129
カナシ	283	17	0.000140304	ナガシ	96	6	0.032598259
イトドシ	36	5	0.000168259	イタシ	362	2	0.042056002
アトハカナシ	4	2	0.000175748	ヲサナシ	102	6	0.046687138
イフヨシナシ	5	2	0.000635732	ヲカシ	536	5	0.049356594
アヘナシ	29	4	0.001229951	モノサワガシ	32	3	0.051429513
アナツリナシ	0	1	0.001305642	モノガナシ	14	2	0.055130233
オモヒサマシガタ	0	1	0.001305642	イトホシ	339	2	0.05630781
キコエサセムカタ	0	1	0.001305642	ナマメカシ	82	5	0.066550662
クチオモシ	0	1	0.001305642	ココロエガタシ	15	2	0.068188208
ナマココロギタナ	0	1	0.001305642	ツツマシ	113	6	0.081542642
ミガタシ	0	1	0.001305642	ワカシ	241	1	0.084768059
ヤムナシ	0	1	0.001305642	カギリナシ	166	0	0.088641985
ハシタナシ.2	6	2	0.001680189	ココロヤスシ	163	0	0.092519322
オボツカナシ	130	9	0.002123733	シミフカシ	2	1	0.092831536
ノコリナシ	18	3	0.002898106	セキトメガタシ	2	1	0.092831536
アリガタシ	121	8	0.006368765	タエマナシ	2	1	0.092831536
アウナシ	8	2	0.006648642	ナマニクシ	2	1	0.092831536
ヤマフカシ	8	2	0.006648642	ネチケガマシ	2	1	0.092831536
イミジ	690	27	0.008369184	モノキヨシ	2	1	0.092831536
オホシ	550	3	0.00924635	ヨシナシ	2	1	0.092831536

f. 形容動詞

	源氏物語	山路の露	P値		源氏物語	山路の露	P値
サダカナリ	14	4	1.25E-06	アナガチナリ	111	0	0.189967453
ササヤカナリ	13	3	0.000382639	マメヤカナリ	103	5	0.195283186
イカナリ	615	27	0.001444156	イヤメナリ	4	1	0.251696594
アヤシザマナリ	0	1	0.001487038	ウトマシゲナリ	4	1	0.251696594
カクレナゲナリ	0	1	0.001487038	カレガレナリ	4	1	0.251696594
キカマホシゲナリ	0	1	0.001487038	モノウゲナリ	4	1	0.251696594
スグナリ	0	1	0.001487038	ヲカシゲナリ	111	5	0.25623393
ヒトナミナミナリ	8	2	0.007466489	キヨラナリ	92	0	0.25752151
アハレナリ	797	30	0.011414483	サスガナリ	279	10	0.25933353
メヅラカナリ	64	5	0.019231534	アヤニクナリ	27	2	0.303202635
マホナリ	45	4	0.023757534	カスカナリ	27	2	0.303202635
シメヤカナリ	47	4	0.029754919	オロカナリ	80	0	0.314235486
ココロシヅカナリ	1	1	0.032510784	サヤウナリ	141	1	0.317174595
コトワリナリ	151	8	0.041144658	キスクナリ	5	1	0.325277399
カヤウナリ	200	0	0.050130889	シラズガホナリ	29	2	0.346888798
オモヒノホカナリ	54	4	0.057819598	ネザメガチナリ	6	1	0.393853409
タノモシゲナリ	14	2	0.059430893	シヅカナリ	66	0	0.400131195
ウレヘガホナリ	2	1	0.097500934	ウツクシゲナリ	65	0	0.40729587
ココロモトナゲナ	2	1	0.097500934	ツレヅレナリ	65	0	0.40729587
ユキアラレガチナ	2	1	0.097500934	ココロコトナリ	62	0	0.429765784
コトナリ	402	4	0.099982939	ナノメナリ	34	2	0.456385389
アダナリ	18	2	0.121438649	ケウラナリ	7	1	0.457316789
イカサマナリ	19	2	0.13942126	ホノカナリ	138	5	0.500051707
サマコトナリ	44	3	0.167835625	ノドカナリ	69	3	0.508405338
シラヌカホナリ	3	1	0.17436453	スズロナリ	50	0	0.537102974

g. 副詞

	源氏物語	山路の露	P値		源氏物語	山路の露	P値
イマダ	2	3	1.35E-11	イカガ	253	10	0.258701644
ヒタスラ	6	4	6.00E-11	サラニ	238	3	0.283771909
ナホ	818	41	2.70E-05	サダメテ	4	1	0.287074359
タダ	626	33	5.96E-05	シメジメト	4	1	0.287074359
イト	4224	74	0.000104706	ユラユラト	4	1	0.287074359
エ	659	2	0.000323263	ヨヨト	4	1	0.287074359
タガヒニ	0	1	0.00249186	カク	1054	22	0.344564755
トリワケ	0	1	0.00249186	シカ	66	0	0.358548495
ナメニ	0	1	0.00249186	モノヲリゴトニ	5	1	0.364893654
ヨスガラ	0	1	0.00249186	ヨニ	63	0	0.379583736
ママニ	246	14	0.005791031	ツネニ	115	1	0.395137975
サテモ	33	4	0.007164212	マタ	438	8	0.395957793
イトド	338	16	0.024892227	ツクツクト	29	2	0.411976135
イカデ	187	10	0.038992041	トザマカウザマニ	29	2	0.411976135
タマタマ	1	1	0.042897378	コマゴマト	6	1	0.436562484
ナド	48	4	0.05312905	ママ	6	1	0.436562484
クチグチニ	2	1	0.118705183	ハタ	157	2	0.440427345
コトナシビニ	2	1	0.118705183	カクテ	154	2	0.459354757
サシクミニ	2	1	0.118705183	ヤヲラ	53	0	0.461669897
トモニ	2	1	0.118705183	ワザト	104	1	0.471517443
カウ	290	12	0.152535585	コリズマニ	7	1	0.502326396
マツ	172	8	0.158965083	ソノママニ	7	1	0.502326396
イヨイヨ	104	0	0.182098524	タチカヘリ	7	1	0.502326396
ヒトステニ	3	1	0.203831622	マダ	229	8	0.529329511
ヲサラサ	84	0	0.257880965	ウタテ	130	5	0.54938706

## h. 助詞

	源氏物語	山路の露	P値		源氏物語	山路の露	P値
ドモ	90	27	8.29E-53	モノカラ	139	1	0.378653234
へ	93	13	7.52E-12	サへ	324	10	0.381032936
モノユエ	4	2	0.000113874	ナ	65	3	0.385357548
ダニ	586	27	0.000200372	ヤ	1994	38	0.423571534
ド	2431	28	0.000620022	ハ	9001	208	0.477671224
カ	503	23	0.00074801	マデ	507	14	0.486615989
ツツ	799	32	0.00106892	カシ	587	10	0.50882498
ヲ	9608	167	0.001924202	カハ	173	2	0.51023462
ナガラ	419	17	0.018420938	ヨリ	1346	33	0.594487775
バ	5506	147	0.019105565	ヤハ	157	2	0.615278848
デ	576	4	0.022190719	ナム	40	0	0.694678874
コソ	1869	56	0.025404985	テ	16054	348	0.810375971
ゾ	1699	26	0.076708901	モ	12096	263	0.884447515
ナム	1802	28	0.078213863	ガナ	28	0	0.894253919
トモ	251	10	0.096678468	シ	378	9	0.94979032
カナ	670	8	0.106617038	カモ	1	0	1
ト	10673	258	0.120313534	モノカハ	3	0	1
ノミ	738	23	0.12383104	テシカナ	26	1	1
シテ	128	0	0.169728094	バヤ	86	2	1
ナド	3849	74	0.27065277	ナ	43	1	1
モノヲ	163	1	0.275061241	ガ	2	0	1
ソ	92	0	0.287875461	ツツ	14	0	1
ナ	91	0	0.292309683	モノノ	14	0	1
バカリ	593	17	0.343521884	カラ	18	0	1
ノ	14307	298	0.345680593	ナンド	6	0	1
ニ	18331	385	0.354772295	ニシカナ	13	0	1
ヨ	206	7	0.363876757	シテ	23	0	1
ガ	472	7	0.377052698	モノカ	7	0	1

i. 助動詞

	源氏物語	山路の露	P値
ラルル	0	2	1.16E-11
キ	2997	129	1.50E-11
リ	3380	52	0.000982485
メル	0	1	0.001650274
マホシ	204	12	0.003788069
ス	1267	18	0.029091984
ムズ	1	1	0.034383403
ナリ	3536	69	0.082193808
ケム	479	18	0.082470001
マジ	472	5	0.08309341
ラル	646	9	0.126359299
ツ	1485	45	0.140803321
ベシ	2895	58	0.172773152
ジ	521	8	0.257308664
ヌ	3219	86	0.346102497
メリ	978	19	0.408060271
サス	686	13	0.463221326
ケリ	3637	81	0.511418717
ル	1453	38	0.665076485
ゴトシ	36	0	0.703760071
ラム	670	18	0.732987542
タリ	4312	107	0.774772239
ム	4766	117	0.853925218
ズ	5576	133	0.958406606
シム	3	0	1
マシ	398	10	1
マス	2	0	1
ラシ	5	0	1

付録 22 『源氏物語』と『雲隠六帖』における特徴語

a. 名詞

	源氏物語	雲隠六帖	P値		源氏物語	雲隠六帖	P値
フチツボ	12	7	1.24E-27	ヲンナニノミヤ	5	3	1.33E-10
サンテウノウヘ	0	3	1.58E-27	タメシ	59	8	2.42E-09
クニユヅリ	1	3	8.85E-21	ヲシヘ	14	4	7.30E-09
サガノキソ	1	3	8.85E-21	アト.1	2	2	3.72E-08
ユメ	138	16	1.55E-15	マボロシ	2	2	3.72E-08
オホキミ	0	2	1.59E-15	ヤマ.1	9	3	3.54E-07
マコトノミチ	0	2	1.59E-15	ヤマトノカミ	9	3	3.54E-07
マノアタリ	0	2	1.59E-15	シラツユ	3	2	1.15E-06
ウチノミカド	3	3	5.25E-14	セウシヤウ	3	2	1.15E-06
ヒトノヨ	3	3	5.25E-14	センヅ.1	3	2	1.15E-06
ハラ	30	7	1.21E-13	ツキゴト	3	2	1.15E-06
クラキ	56	9	1.86E-12	ミヤノキミ	3	2	1.15E-06
レイゼイキソ	4	3	4.60E-12	オモカゲ	33	5	1.59E-06
ウヘ	46	8	6.00E-12	キサキ	34	5	2.40E-06
ムカシ	348	24	8.05E-12	ヨ	965	37	2.41E-06
ウチノオトド	17	5	1.39E-11	オコナヒビト	4	2	1.16E-05
ホトケ	92	11	3.62E-11	クサ	13	3	1.89E-05
サンノミヤ	18	5	4.62E-11	コノヨ	124	9	3.37E-05
ニノミヤ	11	4	1.21E-10	イタダキ	5	2	6.06E-05
イチノミコ	1	2	1.27E-10	キヅキ	5	2	6.06E-05
ウツツザマ	1	2	1.27E-10	ヤマノミカド	5	2	6.06E-05
カイ	1	2	1.27E-10	ムラサキノウヘ	15	3	7.16E-05
トラヒトツ	1	2	1.27E-10	クモ	16	3	0.000125716
ココロノソコ	5	3	1.33E-10	ココロ	1483	46	0.000133803
サトリ	5	3	1.33E-10				

b. 代名詞

	源氏物語	雲隠六帖	P値		源氏物語	雲隠六帖	P値
イツチ	6	2	9.12E-05	ソナタ	31	0	1
イツク	31	3	0.006330185	コ	27	0	1
コレ	367	10	0.105505762	オノレ	26	0	1
ソレ	204	1	0.310729115	ア	3	0	1
コナタ	182	1	0.393652048	タレタレ	3	0	1
ワレ	301	7	0.414271447	ナ	3	0	1
カレ	89	0	0.434495914	イツカタ	52	1	1
イツレ	58	2	0.558170999	ソ	10	0	1
アナタ	69	0	0.565556781	コレラ	2	0	1
ワ	53	0	0.709701337	ナレ	2	0	1
カシコ	125	1	0.723180205	アシコ	1	0	1
タレ	127	3	0.740426051	アシコモト	1	0	1
ココ	250	3	0.798126476	オノラ	1	0	1
ソコ	24	1	0.862681042	オノレラ	1	0	1
イツコ	39	0	0.883251673	オレ	1	0	1
カナタ	37	0	0.913356993	カ	1	0	1
ナニガシ	32	0	0.996509487	キンチラ	1	0	1
アレ	4	0	1	ソレラ	1	0	1
オノ	4	0	1	ナニガシクレガシ	1	0	1
コチ	4	0	1	マシ	1	0	1
マウト	4	0	1	ワレワレ	1	0	1
タ	13	0	1	マロ	38	1	1
イツラ	15	0	1	ナニガシラ	8	0	1

c. 動詞

	源氏物語	雲隠六帖	P値		源氏物語	雲隠六帖	P値
サトル	3	7	1.35E-63	キザス	0	1	4.76E-05
ノタマハス	0	4	4.09E-47	コシラヘモトム	0	1	4.76E-05
ヲカス	4	4	1.21E-23	コゾル	0	1	4.76E-05
シメス	2	3	9.53E-20	サワギモトム	0	1	4.76E-05
オキマサル	0	2	2.96E-18	シバウツ	0	1	4.76E-05
モトム	36	8	4.32E-18	スゴシハツ	0	1	4.76E-05
オハス	668	35	1.08E-14	ステラク	0	1	4.76E-05
アガル	4	3	3.09E-14	タツネミソナハス	0	1	4.76E-05
イデハナル	1	2	1.86E-12	タヨル	0	1	4.76E-05
オモヒトル	7	3	4.40E-10	ツナギトドム	0	1	4.76E-05
ウク.1	17	4	5.12E-09	トケヤル	0	1	4.76E-05
ソル	3	2	8.88E-08	トドメラク	0	1	4.76E-05
タマル	3	2	8.88E-08	トリトム	0	1	4.76E-05
アカシクラス	21	4	1.45E-07	ナゾラフ	0	1	4.76E-05
ノガル	22	4	2.86E-07	ナビクツカウマツ	0	1	4.76E-05
オコナフ	39	5	1.06E-06	ニフジヤウス	0	1	4.76E-05
オハシマス	441	19	3.42E-06	ハカナム	0	1	4.76E-05
ツク	142	9	1.63E-05	ハラス	0	1	4.76E-05
マウス	201	11	1.84E-05	ハラヒサマス	0	1	4.76E-05
アヒス	0	1	4.76E-05	ヒヂマサル	0	1	4.76E-05
アヤシム	0	1	4.76E-05	ヒルガヘス	0	1	4.76E-05
イトヒノガル	0	1	4.76E-05	フミシル	0	1	4.76E-05
ウチスゴス	0	1	4.76E-05	ホダス	0	1	4.76E-05
ウマレク	0	1	4.76E-05	ミガキアラハス	0	1	4.76E-05
エイズ	0	1	4.76E-05	ミソナハス	0	1	4.76E-05
オチタギル	0	1	4.76E-05	ムスビトム	0	1	4.76E-05
オヒソフ	0	1	4.76E-05	メシシタガフ	0	1	4.76E-05
オボシコシラフ	0	1	4.76E-05	メシツカウマツル	0	1	4.76E-05
オモヒウンズ	0	1	4.76E-05	モダヘオボス	0	1	4.76E-05
カイナラス	0	1	4.76E-05	モテキコユ	0	1	4.76E-05
カケオボス	0	1	4.76E-05	モトツク	0	1	4.76E-05
カケハツス	0	1	4.76E-05	モトメウ	0	1	4.76E-05
カナシム	0	1	4.76E-05	ラウジハツ	0	1	4.76E-05
カヘリユク	0	1	4.76E-05	ヲシイダシ	0	1	4.76E-05
キキワブ	0	1	4.76E-05	ヲトロフ	0	1	4.76E-05

d. 補助動詞

	源氏物語	雲隠六帖	P値
ハベリ	2021	10	1.93E-05
キコユ	1427	4	3.35E-05
タテマツル	1395	42	0.00017217
タマフ	14368	271	0.000746426
キコエサス	145	1	0.544899076
タウブ	5	0	1
マウス	53	1	1

e. 形容詞

	源氏物語	雲隠六帖	P値		源氏物語	雲隠六帖	P値
オボシ	17	4	3.05E-10	アキタシ	2	1	0.017370358
アサシ	94	7	3.50E-06	タヤスシ	2	1	0.017370358
ワスレガタシ	31	4	4.03E-06	イミジ	690	2	0.029813977
アクナシ	0	1	1.38E-05	ナシ	1338	26	0.042506981
アヤカリヤスシ	0	1	1.38E-05	タノミナシ	3	1	0.045139876
イソガハシ	0	1	1.38E-05	ミスグシガタシ	3	1	0.045139876
ウチアカシ	0	1	1.38E-05	ヘダテナシ	25	2	0.046978906
ウヘナシ	0	1	1.38E-05	ホイナシ	27	2	0.060839884
ココロスズシ	0	1	1.38E-05	ヲサナシ	102	4	0.061744597
タウトシ	0	1	1.38E-05	タノモシ	66	3	0.081081837
ネタマシ	0	1	1.38E-05	アダアダシ	4	1	0.081664827
ハシタナシ.1	0	1	1.38E-05	ムナシ	31	2	0.093266717
ヨロコバシ	0	1	1.38E-05	アヤシ	508	2	0.110788387
ハヤシ	42	4	0.00012429	カヒナシ	120	4	0.122618239
コチタシ	23	3	0.000146382	イタハシ	5	1	0.12281076
オトナシ	25	3	0.000298929	ミエニクシ	5	1	0.12281076
トホシ	78	5	0.000729468	カナシ	283	7	0.138573694
イハムカタナシ	31	3	0.001549819	ミニクシ	6	1	0.165830063
アリガタシ	121	6	0.002049088	ヲカシ	536	3	0.191277671
ミステガタシ	13	2	0.002558337	フサハシ	7	1	0.209076548
イロナシ	1	1	0.002756943	ココロウシ	191	0	0.210673179
サメガタシ	1	1	0.002756943	ナツカシ	196	5	0.219690977
オナジ	294	10	0.003723304	コヨナシ	185	0	0.221938568
フカシ	402	12	0.005827556	ツラシ	198	5	0.228074487
イツトナシ	16	2	0.007508467	ココログルシ	288	1	0.249967135

f. 形容動詞

	源氏物語	雲隠六帖	P値		源氏物語	雲隠六帖	P値
スセウナリ	0	2	9.33E-28	カヤウナリ	200	0	0.311437249
ケナリ	26	4	8.26E-10	アエカナリ	17	1	0.413209483
ソゾロナリ	0	1	3.14E-07	ツツマシゲナリ	17	1	0.413209483
ココロスゴゲナリ	1	1	0.000387558	アカラサマナリ	18	1	0.438790373
サマザマナリ	154	6	0.000849186	サヤウナリ	141	0	0.473602616
アナヅラハシゲナ	2	1	0.004490122	アナガチナリ	111	0	0.59687816
マレマレナリ	2	1	0.004490122	ココロボソゲナリ	26	1	0.616759758
オモフサマナリ	21	2	0.005126101	アヤニクナリ	27	1	0.636122512
ラウタゲナリ	98	4	0.008079304	カスカナリ	27	1	0.636122512
カリナリ	24	2	0.009996635	マメヤカナリ	103	0	0.636901269
アシヲソラナリ	4	1	0.034462612	イタヅラナリ	29	1	0.673234002
オボロナリ	4	1	0.034462612	ハナヤカナリ	95	0	0.680788014
サカサマナリ	4	1	0.034462612	カリソメナリ	30	1	0.691031529
ココロフカゲナリ	6	1	0.086503452	アハレナリ	797	9	0.69753232
シノビシノビナリ	6	1	0.086503452	コトナリ	402	5	0.704213078
ワタクシザマナリ	6	1	0.086503452	カウヤウナリ	33	1	0.741657175
イカナリ	615	10	0.110717832	オロカナリ	80	0	0.775796342
キヤウザクナリ	7	1	0.116586884	アテナリ	79	0	0.782825167
トリドリナリ	49	2	0.133150414	ノドヤカナリ	74	0	0.819489119
ハルカナリ	54	2	0.171102364	ノドカナリ	69	0	0.858922304
ナツカシゲナリ	9	1	0.179446525	シヅカナリ	66	0	0.884064131
サスガナリ	279	0	0.18484041	ウツクシゲナリ	65	0	0.892711848
ハヅカシゲナリ	65	2	0.262110938	シノビヤカナリ	65	0	0.892711848
ササヤカナリ	13	1	0.302435292	ツレヅレナリ	65	0	0.892711848
ナカゾラナリ	13	1	0.302435292	キヨゲナリ	64	0	0.901499286
				メヅラカナリ	64	0	0.901499286

## g. 副詞

	源氏物語	雲隠六帖	P値		源氏物語	雲隠六帖	P値
イマダ	2	4	1.45E-37	イツモ	4	1	0.071925661
トリワキ	5	3	7.31E-15	カウカウ	4	1	0.071925661
タトヒ	4	2	9.56E-08	マシテ	284	0	0.108118516
オノレオノレニ	0	1	7.97E-06	イササカ	76	3	0.110622767
トコトバニ	0	1	7.97E-06	イカガ	253	0	0.137991298
ヒトシホ	0	1	7.97E-06	ヒタスラ	6	1	0.150602595
モクネント	0	1	7.97E-06	ツヒニ	84	3	0.153998509
ユクユク	0	1	7.97E-06	ヤガテ	135	4	0.155756684
カクテ	154	8	6.17E-05	スコシ	482	2	0.157120757
コトサラ	11	2	0.000648697	コリズマニ	7	1	0.191721907
タダ	626	17	0.001293826	オノヅカラ	203	0	0.206711055
サナガラ	13	2	0.001821043	マタ	438	2	0.212591927
マイテ	34	3	0.00198392	クチグチ	8	1	0.232476785
ツキヅキニ	1	1	0.00207175	ナド	48	2	0.245481291
モノゴトニ	1	1	0.00207175	マヅ	172	0	0.268066043
イト	4224	34	0.005410733	カウ	290	1	0.274885044
セメテ	42	3	0.007519437	カク	1054	9	0.330980242
カツ	17	2	0.00760352	ナゾ	12	1	0.383834536
イトド	338	10	0.008614068	サラニ	238	1	0.407687371
モロトモニ	49	3	0.017334733	ツネニ	115	0	0.446047697
エ	659	1	0.018446412	カタミニ	66	2	0.450531391
ゲニ	458	0	0.028898868	サテ	67	2	0.461899572
オシナベテ	24	2	0.033145922	サト	15	1	0.482639808
イカデ	187	6	0.035731648	トカウ	15	1	0.482639808
マコトニ	150	5	0.052273367	アマタ	197	4	0.486411963

## h. 助詞

	源氏物語	雲隠六帖	P値		源氏物語	雲隠六帖	P値
ガ	2	6	1.97E-51	コソ	1869	25	0.357662872
ナド	3849	26	3.22E-06	ナ	43	2	0.35839476
ド	2431	11	6.22E-06	バカリ	593	13	0.375103132
ゾ	1699	52	8.33E-06	ヲ	9608	146	0.375305008
マデ	507	21	3.22E-05	ナ	91	3	0.418799723
へ	93	7	0.000101813	カハ	173	1	0.43263236
コト	0	1	0.000120868	カナ	670	8	0.459419207
スラ	0	1	0.000120868	ノミ	738	9	0.460873883
バ	5506	54	0.000132916	モノヲ	163	1	0.478780369
ドモ	90	6	0.001339434	ヤ	1994	37	0.499957425
ト	10673	216	0.001356803	カラ	18	1	0.7235748
ナム	1802	13	0.003127306	カシ	587	8	0.724037387
ナガラ	419	14	0.012541893	ナム	40	0	0.856309319
ソ	92	5	0.017746383	ヨリ	1346	23	0.92177621
デ	576	2	0.024136741	サへ	324	6	0.935097542
ガ	472	2	0.060561302	ニシカナ	13	0	1
テ	16054	235	0.072994185	ツツ	14	0	1
ノ	14307	260	0.080343447	モノノ	14	0	1
ツツ	799	7	0.123959289	バヤ	86	1	1
ガナ	28	2	0.140166388	ナ	65	1	1
カ	503	13	0.14188918	ヨ	206	3	1
ヤハ	157	0	0.198164488	シ	378	6	1
モノカラ	139	0	0.241177728	シテ	23	0	1
ナンド	6	1	0.244855882	カモ	1	0	1
モ	12096	214	0.248787972	モノカハ	3	0	1
ハ	9001	161	0.26320456	トモ	251	4	1
シテ	128	0	0.272700076	モノカ	7	0	1
ニ	18331	318	0.277071849	モノユエ	4	0	1
ダニ	586	13	0.353004471	テシカナ	26	0	1

i. 助動詞

	源氏物語	雲隠六帖	P値
キ	2997	78	4.15E-12
タリ	4312	12	6.20E-09
ケリ	3637	76	1.33E-06
メリ	978	2	0.005854369
ズ	5576	84	0.045790963
ゴトシ	36	2	0.121079299
マジ	472	2	0.174121537
ム	4766	48	0.183662848
リ	3380	33	0.213253502
ベシ	2895	28	0.238633719
ヌ	3219	32	0.265363165
ナリ	3536	36	0.295758032
ラル	646	11	0.351805626
マホシ	204	4	0.526603281
ツ	1485	15	0.535672681
ス	1267	18	0.600498286
ジ	521	5	0.736375708
サス	686	9	0.964638328
マス	2	0	1
ラシ	5	0	1
シム	3	0	1
マシ	398	5	1
ル	1453	18	1
ラム	670	8	1
ケム	479	6	1
ムズ	1	0	1

付録 23 『源氏物語』と『手枕』における特徴語

a. 名詞

	源氏物語	手枕	P値		源氏物語	手枕	P値
ゼンバウ	1	2	7.84E-28	ヲンナギミ	118	4	0.001450454
ハルノヨ	1	2	7.84E-28	カシヅキグサ	3	1	0.002376741
タマノヲ	4	2	2.24E-14	サウジ	3	1	0.002376741
ハル	74	6	7.99E-13	シノブグサ	3	1	0.002376741
トブラヒ	62	5	1.69E-10	ナカラ	3	1	0.002376741
イリカタ	0	1	2.73E-10	ロクデウキヤウゴ	3	1	0.002376741
タマクラ	0	1	2.73E-10	ヲリフシ	31	2	0.003894095
ツネ	0	1	2.73E-10	トシゴロ	281	6	0.004757361
ナゲノフデツカヒ	0	1	2.73E-10	ヲリヲリ	141	4	0.005588979
ハルノヨノツキ	0	1	2.73E-10	シノブ	4	1	0.007304513
マレマレ	0	1	2.73E-10	ツクリザマ	4	1	0.007304513
ミカドガネ	0	1	2.73E-10	ツレナサ	4	1	0.007304513
ホド	1571	29	1.60E-09	フタトセ	4	1	0.007304513
ツキカゲ	23	3	4.42E-09	ワザ	318	6	0.012577891
アケガタ	9	2	3.37E-08	ユクスエ	39	2	0.012719951
ココロザシ	168	7	1.55E-07	コミヤ	40	2	0.014303668
アマグモ	1	1	1.04E-05	モヨホシ	5	1	0.015658401
ナミダガハ	1	1	1.04E-05	ユルサレ	5	1	0.015658401
ミマサリ	1	1	1.04E-05	ヨツ	5	1	0.015658401
ココロマドヒ	19	2	0.000131103	ソラ	173	4	0.020392493
ミヤストコロ	52	3	0.000193599	カギリアルミチ	6	1	0.027260219
ハルノヒ	2	1	0.000379276	ツキヒ	6	1	0.027260219
ハレマ	2	1	0.000379276	ヒトリゴト	6	1	0.027260219
ムカヒバラ	2	1	0.000379276	コト	114	3	0.035279335
ヨソ	57	3	0.000435054	カタミ	52	2	0.04216293

b. 代名詞

	源氏物語	手枕	P値		源氏物語	手枕	P値
ワレ	301	2	0.157294824	コ	27	0	1
カシコ	125	1	0.546195627	カレ	89	0	1
ア	3	0	1	マロ	38	0	1
タレタレ	3	0	1	ナニガシ	32	0	1
ナ	3	0	1	イツク	31	0	1
ナニガシラ	8	0	1	ソナタ	31	0	1
タ	13	0	1	コレラ	2	0	1
アレ	4	0	1	ナレ	2	0	1
オノ	4	0	1	ワ	53	0	1
コチ	4	0	1	イツチ	6	0	1
マウト	4	0	1	アシコ	1	0	1
ソコ	24	0	1	アシコモト	1	0	1
アナタ	69	0	1	オノラ	1	0	1
イツコ	39	0	1	オノレラ	1	0	1
コナタ	182	0	1	オレ	1	0	1
イツラ	15	0	1	カ	1	0	1
ソ	10	0	1	キンチラ	1	0	1
タレ	127	0	1	ソレラ	1	0	1
ソレ	204	0	1	ナニガシクレガシ	1	0	1
ココ	250	0	1	マシ	1	0	1
コレ	367	1	1	ワレワレ	1	0	1
カナタ	37	0	1	イツカタ	52	0	1
イツレ	58	0	1	オノレ	26	0	1

c. 動詞

	源氏物語	手枕	P値		源氏物語	手枕	P値
ウチマジリユク	0	1	1.09E-11	カハリユク	1	1	2.01E-06
オモホシカハス	0	1	1.09E-11	キコエオモムク	1	1	2.01E-06
オモホシメス	0	1	1.09E-11	ササメキサワグ	1	1	2.01E-06
カサナリユク	0	1	1.09E-11	サシヘダツ	1	1	2.01E-06
カヨヒアリク	0	1	1.09E-11	タノミカハス	1	1	2.01E-06
キキラク	0	1	1.09E-11	ノコシトドム	1	1	2.01E-06
クチハテ	0	1	1.09E-11	ヒキカツク	1	1	2.01E-06
ココロヨセツカウマツル	0	1	1.09E-11	フリクラス	1	1	2.01E-06
コヒシヌ	0	1	1.09E-11	ミダレソム	1	1	2.01E-06
ジシ	0	1	1.09E-11	ミチビキイル	1	1	2.01E-06
シノビヨル	0	1	1.09E-11	ヤリナス	1	1	2.01E-06
タチサハグ	0	1	1.09E-11	オホシタツ	20	2	5.13E-05
ユキカクル	0	1	1.09E-11	アカシクラス	21	2	7.96E-05
ヲシカカル	0	1	1.09E-11	アワツ	2	1	0.000123945
オボシトル	7	2	2.97E-11	オモホシオキツ	2	1	0.000123945
カスム	30	3	2.73E-08	オモホシトル	2	1	0.000123945
オボシシム	11	2	5.02E-08	サシシゾク	2	1	0.000123945
ウチヤツス	1	1	2.01E-06	ザレアリク	2	1	0.000123945
ウエワタス	1	1	2.01E-06	ソソノカシタツ	2	1	0.000123945
オボシメシイヅ	1	1	2.01E-06	チギリナグサム	2	1	0.000123945
オボシメシナゲク	1	1	2.01E-06	ツム	2	1	0.000123945
オモホシタユタフ	1	1	2.01E-06	ハレユク	2	1	0.000123945
オヨズケモテオハス	1	1	2.01E-06	ヒヅ	2	1	0.000123945
カカツラヒイル	1	1	2.01E-06	ミジロク	2	1	0.000123945
カキクル	1	1	2.01E-06	ムスビオク	2	1	0.000123945
カキナガス	1	1	2.01E-06	ユルグ	2	1	0.000123945

d. 補助動詞

	源氏物語	手枕	P値
キコエサス	145	4	0.003232051
キコユ	1427	5	0.357967498
タマフ	14368	83	0.690516332
ハベリ	2021	10	0.791715926
タテマツル	1395	7	0.902998615
タウブ	5	0	1
マウス	53	0	1

e. 形容詞

	源氏物語	手枕	P値		源氏物語	手枕	P値
ハシタナシ	6	2	1.85E-08	ケウトシ	6	1	0.063496384
イサギヨシ	0	1	4.91E-08	カタハライタシ	98	3	0.064396373
ウチマケガタシ	0	1	4.91E-08	コブカシ	8	1	0.115019673
ハシタナシ	0	1	4.91E-08	スガスガシ	8	1	0.115019673
ヨルベナシ	0	1	4.91E-08	アリガタシ	121	3	0.138424868
ハシチカシ	21	3	1.82E-07	ノガレガタシ	9	1	0.142531614
ココロニクシ	70	5	6.23E-07	ナツカシ	196	4	0.14273935
イタシ	9	2	2.41E-06	ナダカシ	10	1	0.170437834
ナメメカシ	82	5	6.44E-06	アヤシ	508	1	0.183906233
ウチオキガタシ	1	1	0.000148992	ココロアサシ	11	1	0.198367018
ケシキバマシ	1	1	0.000148992	ユエユエシ	11	1	0.198367018
アサシ	94	4	0.002463539	ヨシ	482	1	0.209629552
カガヤカシ	3	1	0.009567674	カナシ	283	0	0.227293062
コグラシ	3	1	0.009567674	タツキナシ	13	1	0.253350002
タユシ	3	1	0.009567674	ナシ	1338	15	0.288952462
ニナシ	31	2	0.017527221	ワカシ	241	0	0.28922707
フタツナシ	4	1	0.022791122	トホシ	78	2	0.294317391
カタジケナシ	132	4	0.022890081	フカシ	402	1	0.314706074
イトドシ	36	2	0.03234561	オホシ	550	2	0.333156027
カゴトガマシ	5	1	0.041205196	ヲカシ	536	2	0.355261351
スズロハシ	5	1	0.041205196	カクレナシ	17	1	0.356677954
ムモレイタシ	5	1	0.041205196	アハツケシ	18	1	0.380875161
モノトホシ	5	1	0.041205196	ユカシ	91	2	0.395258308
ヲシゲナシ	5	1	0.041205196	コヨナシ	185	0	0.405261718
ナガシ	96	3	0.059262084	メヅラシ	169	0	0.448367133

f. 形容動詞

	源氏物語	手枕	P値		源氏物語	手枕	P値
エンナル	0	1	6.00E-09	ホノカナリ	138	0	0.614326532
アハレナリ	797	16	3.00E-05	ナノメナリ	34	1	0.621534717
アテナリ	79	4	0.000160395	イカナリ	615	3	0.634080279
ケウトゲナリ	2	1	0.001113572	スクヨカナリ	35	1	0.636536138
ノドヤカナリ	74	3	0.008661427	カタハナリ	38	1	0.679605547
ニハカナリ	102	3	0.043697561	ウチツケナリ	40	1	0.706818868
シメヤカナリ	47	2	0.052721366	オボロゲナリ	40	1	0.706818868
ヒトナミナミナリ	8	1	0.086877482	サスガナリ	279	1	0.707169266
ノドカナリ	69	2	0.165260543	ヲカシゲナリ	111	0	0.733116757
ヒヤヤカナリ	14	1	0.23235486	ムゲナリ	46	1	0.78213242
オモリカナリ	18	1	0.325598826	アラハナリ	48	1	0.80535642
コマヤカナリ	99	2	0.363257148	セチナリ	48	1	0.80535642
マメヤカナリ	103	2	0.390681187	ハナヤカナリ	95	0	0.820087044
コトナリ	402	1	0.395253513	イマサラナリ	57	1	0.900175504
ココロヅクシナリ	22	1	0.410855759	ナカナカナリ	58	1	0.909845882
カヤウナリ	200	0	0.424687251	オロカナリ	80	0	0.917257735
アヤニクナリ	27	1	0.506179626	コマカナリ	79	0	0.924397944
イタヅラナリ	29	1	0.541123656	ココロコトナリ	62	1	0.947020651
サマザマナリ	154	0	0.556261436	ウツクシゲナリ	65	1	0.973431837
カリソメナリ	30	1	0.557971467	シノビヤカナリ	65	1	0.973431837
サヤウナリ	141	0	0.602834052	ツレヅレナリ	65	1	0.973431837

## g. 副詞

	源氏物語	手枕	P値
アクマデ	8	2	1.32E-08
カウ	290	9	1.53E-06
ヒトスヂニ	3	1	0.002995157
イトド	338	6	0.024817712
ヤヲラ	53	2	0.052597448
タエダエ	8	1	0.065028438
マタ	438	0	0.160372438
サナガラ	13	1	0.17004473
トカク	80	2	0.177558196
カク	1054	3	0.189428099
ヲサヲサ	84	2	0.199854326
トカウ	15	1	0.213759193
ナホ	818	2	0.213788208
エ	659	7	0.271239709
オノヅカラ	203	3	0.301893199
マシテ	284	0	0.320708751
ママニ	246	0	0.3847134
マダ	229	3	0.403533622
ヨモ	25	1	0.413482813
スコシ	482	5	0.429811024
アマタ	197	0	0.491907357
マイテ	34	1	0.560190177
マヅ	172	0	0.561381234
ココラ	38	1	0.616813753
マコトニ	150	0	0.633839224
イト	4224	25	0.685005966
ヤガテ	135	0	0.690939128
ウタテ	130	0	0.711624392
ナド	48	1	0.740284569
カナラズ	116	0	0.774689444

## h. 助詞

	源氏物語	手枕	P値		源氏物語	手枕	P値
ツツ	799	20	1.01E-11	へ	93	0	0.956492268
ツ	0	1	7.79E-11	ソ	92	0	0.962608008
モ	12096	101	0.000190085	ナ	91	0	0.968791661
ノミ	738	11	0.003001116	ドモ	90	0	0.975044549
コソ	1869	2	0.010323666	トモ	251	2	0.979456443
ト	10673	46	0.036101103	ナム	1802	10	0.994917514
ノ	14307	101	0.048958701	カモ	1	0	1
サへ	324	5	0.059851022	モノカハ	3	0	1
バカリ	593	7	0.104184438	モノカ	7	0	1
ヨリ	1346	3	0.118455584	テシカナ	26	0	1
ガ	472	0	0.173829945	ナ	43	0	1
ド	2431	9	0.209022643	ニシカナ	13	0	1
ヤ	1994	7	0.221777912	モノカラ	139	1	1
カナ	670	1	0.222174729	ヨ	206	1	1
カシ	587	1	0.297682138	デ	576	3	1
ニ	18331	97	0.317252431	ナガラ	419	2	1
ヲ	9608	49	0.358974604	ナム	40	0	1
テ	16054	102	0.391581757	モノユエ	4	0	1
ナド	3849	18	0.395217774	バヤ	86	1	1
カ	503	1	0.402070128	カラ	18	0	1
ガナ	28	1	0.417571507	シテ	128	1	1
バ	5506	28	0.510786952	ヅツ	14	0	1
カハ	173	0	0.613452729	モノノ	14	0	1
ダニ	586	2	0.618985274	ナンド	6	0	1
シ	378	1	0.635264982	ナ	65	0	1
モノヲ	163	0	0.645159135	ヤハ	157	1	1
ゾ	1699	8	0.650786713	シテ	23	0	1
マデ	507	4	0.755734357	ガ	2	0	1
ハ	9001	51	0.879281579				

i. 助動詞

	源氏物語	手枕	P値
ラルル	0	1	2.97E-13
ヌ	3219	29	0.000301866
ル	1453	15	0.002605603
ズ	5576	40	0.004529084
リ	3380	5	0.007312371
タリ	4312	9	0.0130955
サス	686	8	0.015734873
ラム	670	7	0.05496813
メリ	978	1	0.148573929
ベシ	2895	8	0.161766569
ツ	1485	3	0.187610515
ナリ	3536	11	0.203568011
マジ	472	0	0.250437491
ゴトシ	36	1	0.426035666
ジ	521	1	0.551714951
ケム	479	1	0.624918598
ム	4766	24	0.767117022
ラル	646	2	0.770074738
マシ	398	1	0.796533431
ス	1267	5	0.869610852
ケリ	3637	16	0.914844608
マス	2	0	1
キ	2997	14	1
ラシ	5	0	1
ムズ	1	0	1
シム	3	0	1
マホシ	204	1	1